

# 西原大塚遺跡第174①地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

埼玉県志木市教育委員会





遺跡全景（南東より）



調査区全景



# は じ め に

志木市教育委員会  
教育長 尾崎 健市

ここに刊行する『西原大塚遺跡第174①地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、平成23年度に受託事業として、教育委員会が発掘調査を実施した成果をまとめたものです。

西原大塚遺跡については、今までの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時代にわたる複合遺跡であることが判明しています。

特に、縄文時代中期の住居跡が180軒以上、また弥生時代後期から古墳時代の住居跡が590軒以上も見つかっており、それぞれの時代の拠点的集落であったことがわかっています。

さて、今回報告する第174①地点の調査内容ですが、縄文時代中期の住居跡10軒、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡4軒などが見つかりました。

特に、縄文時代の第174号住居跡は、その構造もさることながら、遺物出土状態や土層堆積状況と相俟って、住居の建替や拡張など、当時の人々の具体的な活動を知るための良好な資料を呈示しています。また、今回の調査範囲は縄文時代に営まれた集落の居住域と墓域の境目に位置していたことが判明し、当時のムラの様子を知る上で重要な手掛かりを得ることができました。

このような貴重な成果が得られ、志木市の歴史にまた新たな1ページを追加することができました。今後もこうした新発見が、郷土の歴史研究に、ひいては幅広い学術研究に役立てられることを切に願うものです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた土木工事主体者並びに土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げる次第です。

## 例　　言

1. 本書は、平成23年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する西原大塚遺跡第174①地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宅地造成工事に伴う記録保存のための発掘調査として、工事主体者である個人から委託を受け、志木市教育委員会が調査主体者として実施した。
3. 発掘作業・整理作業・報告書刊行作業について、有限会社アルケーリサーチ（取締役　藤波 啓容）に支援業務を委託した。
4. 本書の作成にあたり、尾形則敏・徳留彰紀が監修し、編集は藤波啓容・中村真理・松木綾子（有限会社アルケーリサーチ）が行った。執筆は下記のとおりに行った。

尾形則敏 第1章第1節

徳留彰紀 第1章第2節、第2章第1節、第4章第1節

松原賢治・伊庭彰一 第2章第2節

松木綾子 第3章、第4章第2節

5. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。

### 6. 調査組織

調　　査　　主　　体　　者	志木市教育委員会
教　　育　　長	白砂正明（平成20年4月～平成24年6月） 尾崎健市（平成24年7月～）
教　　育　　政　　策　　部　　長	丸山秀幸（平成24年4月～平成24年6月）
教　　育　　政　　策　　部　　次　　長	丸山秀幸（平成23年4月～平成24年3月） 菊原龍治（平成24年6月～）
生　　涯　　学　　習　　課　　長	土岐隆一（平成21年4月～平成24年3月） 谷口敬（平成24年4月～）
生　　涯　　学　　習　　課　　副　　課　　長	松井俊之（平成24年4月～）
生　　涯　　学　　習　　課　　主　　幹	松井俊之（平成23年1月～平成24年3月）
生　　涯　　学　　習　　課　　主　　査	尾形則敏（平成21年4月～） 武井香代子（平成24年4月～）
"	松永真知子（平成18年4月～） 武井香代子（平成22年4月～平成24年3月）
生　　涯　　学　　習　　課　　主　　任	徳留彰紀（平成22年4月～）
"	大久保聰（平成24年4月～）
生　　涯　　学　　習　　課　　主　　事　　補	神山健吉・井上國夫・高橋長次・高橋豊・ 内田正子・深瀬克・上野守嘉

### 7. 発掘作業及び整理作業・報告書刊行作業参加者

#### ○発掘作業

調　　査　　担　　当　　者　　尾　　形　　則　　敏　・　徳　　留　　彰　　紀

調　　査　　員　　藤　　波　　啓　　容　・　伊　　庭　　彰　　一　・　松　　原　　賢　　治

作業員 本山直子・松本雄三・中島良太・本山真一・須賀きみ子・細田昭彦・中山弘人・野村雅美・結城真・宮本和野・清水広幸・藤代聖一・富沢由・内木小夜子・松澤匡・万場博・高森裕一・岩下啓祐・柏原康晴・酒井真之

○整理作業・報告書刊行作業

監修 尾形則敏・徳留彰紀

編集 藤波啓容・中村真理・松木綾子

作業員 岩澤朋子・大賀秀実・加藤夏姫・小林佐恵子・田中歩・  
田村久美子・中村いわね・中村智美・沼田厚子・長谷川大輔・本望礼子・松本和延・  
三上加奈子

8. 発掘作業及び整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。  
記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立埋蔵文化財センター・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

赤塚次郎・五十嵐睦・石川日出志・今福利恵・江原順・加藤秀之・川畠隼人・  
隈本健介・小出輝雄・齊藤純・齊藤欣延・佐野隆・斯波治・渡谷寛子・鈴木  
一郎・照林敏郎・時枝努・野沢均・橋本真紀夫・早坂廣人・堀善之・前田秀則・  
松本富雄・柳井章宏・山本典幸・山本龍・和田晋治・綿田弘実・渡辺邦仁

9. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種通知については下記のとおりである。

○埋蔵文化財発掘調査の通知について／平成23年9月30日付 志生文第325号

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）／平成23年11月8日付け 教生文第5-810号

○埋蔵物の文化財認定について／平成24年2月27日付け 教生文第7-290号

## 凡例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1:10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第2図 1:2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成15年8月発行  
株式会社ゼンリン

2. 採図版の縮尺は、それぞれに明記した。

3. 遺構・採図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。

4. 遺構・採図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個別にドットマークを  
換えて表示した。番号は遺物・採図版中の遺物番号と一致する。遺物番号に不連続部分があるが、添  
付ディスク内のデータベースにのみ掲載している遺物に割り振られている。

5. 遺構の略記号は、以下のとおりである。

J = 繩文時代住居跡 Y = 弥生時代後期末葉～古墳時代前期の住居跡 D = 土坑 P = ピット

6. 本文中の記述「打製石斧系」や「剥片石器系」といった記載は、大まかな石材を表している。これによつ  
て「剥片」などの器種がどの種類の石器生産に関わるものであるかを区別する役割をもたせている。  
これらの細かな石材に関しては表「出土石器一覧」を参照されたい。

---

# 目 次

---

はじめに

例 言

凡 例

目 次

挿図目次

表 目 次

第1章 遺跡の立地と環境.....	1
第1節 市域の地形と遺跡.....	1
(1) 地理的環境と遺跡分布 .....	1
(2) 歴史的環境 .....	3
第2節 遺跡の概要.....	8
第2章 発掘調査の概要.....	12
第1節 調査に至る経緯.....	12
第2節 調査の方法と経過.....	13
第3章 検出された遺構と遺物.....	16
第1節 繩文時代.....	16
(1) 概 要 .....	17
(2) 住居跡 .....	17
(3) 土 坑 .....	118
(4) 炉 跡 .....	141
(5) ピット .....	143
第2節 弥生時代後期から古墳時代前期.....	184
(1) 概 要 .....	184
(2) 住居跡 .....	185
第3節 遺構外出土遺物.....	204
(1) 繩文時代遺物 .....	204
(2) 弥生時代後期から古墳時代前期遺物 .....	204
(3) 時期不明遺物 .....	204
第4章 調査のまとめ.....	213
第1節 繩文時代中期の住居跡について.....	213
第2節 174号住居跡の遺物出土状態について .....	215
参考文献.....	217
付編 西原大塚遺跡 174 ①地点 174 号住居跡出土骨の同定.....	221
報告書抄録	

---

## 挿図目次

---

第 1 図	市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)	2
第 2 図	西原大塚遺跡の調査地点 (1 / 5,000)	9
第 3 図	確認調査時の遺構分布 (1 / 500)	12
第 4 図	調査区位置図 (1 / 500)	12
第 5 図	遺構分布図 (1 / 300)	15
第 6 図	縄文時代遺構分布図 (1 / 300)	16
第 7 図	90 号住居跡 (1 / 60)	18
第 8 図	90 号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)	18
第 9 図	90 号住居跡土器出土状態 (1 / 60)	18
第 10 図	90 号住居跡石器出土状態 (1 / 60)	18
第 11 図	90 号住居跡出土遺物 1 (1 / 3)	19
第 12 図	90 号住居跡出土遺物 2 (1 / 3)	20
第 13 図	174 号住居跡 1 (1 / 60)	21
第 14 図	174 号住居跡 2 (1 / 60)	22
第 15 図	174 号住居跡 3 (1 / 60)	23
第 16 図	174 号住居跡 4 (1 / 60)	24
第 17 図	174 号住居跡炉 (1 / 30)	25
第 18 図	174 号住居跡埋甕 (1 / 30)	27
第 19 図	174 号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)	28
第 20 図	174 号住居跡土器出土状態 1 (1 / 60)	29
第 21 図	174 号住居跡土器出土状態 2 (1 / 60)	30
第 22 図	174 号住居跡土器出土状態 3 (1 / 60)	31
第 23 図	174 号住居跡土器出土状態 4 (1 / 60)	32
第 24 図	174 号住居跡土器出土状態 5 (1 / 60)	33
第 25 図	174 号住居跡土製品出土状態 (1 / 60)	34
第 26 図	174 号住居跡石器出土状態 1 (1 / 60)	35
第 27 図	174 号住居跡石器出土状態 2 (1 / 60)	36
第 28 図	174 号住居跡変遷図 1 (1 / 120 • 1 / 60)	37
第 29 図	174 号住居跡変遷図 2 (1 / 120 • 1 / 60)	38
第 30 図	174 号住居跡出土土器 1 (1 / 3)	39
第 31 図	174 号住居跡出土土器 2 (1 / 3)	40
第 32 図	174 号住居跡出土土器 3 (1 / 3)	41
第 33 図	174 号住居跡出土土器 4 (1 / 4 • 1 / 3)	42
第 34 図	174 号住居跡出土土器 5 (1 / 4 • 1 / 3)	43
第 35 図	174 号住居跡出土土器 6 (1 / 4 • 1 / 3)	44
第 36 図	174 号住居跡出土土器 7 (1 / 3)	45
第 37 図	174 号住居跡出土土器 8 (1 / 3)	46
第 38 図	174 号住居跡出土土器 9 (1 / 4 • 1 / 3)	47
第 39 図	174 号住居跡出土土器 10 (1 / 4 • 1 / 3)	48
第 40 図	174 号住居跡出土土器 11 (1 / 3)	49

第 41 図	174 号住居跡出土土器 12 (1/4・1/3) .....	50
第 42 図	174 号住居跡出土土器 13 (1/3) .....	51
第 43 図	174 号住居跡出土土器 14 (1/4・1/3) .....	52
第 44 図	174 号住居跡出土土器 15 (1/4・1/3) .....	53
第 45 図	174 号住居跡出土土器 16 (1/3) .....	54
第 46 図	174 号住居跡出土土器 17 (1/4・1/3) .....	55
第 47 図	174 号住居跡出土土器 18 (1/4・1/3) .....	56
第 48 図	174 号住居跡出土土器 19 (1/3) .....	57
第 49 図	174 号住居跡出土土器 20 (1/4・1/3) .....	58
第 50 図	174 号住居跡出土土器 21 (1/4・1/3) .....	59
第 51 図	174 号住居跡出土土器 22 (1/4) .....	60
第 52 図	174 号住居跡出土土器 23 (1/4・1/3) .....	61
第 53 図	174 号住居跡出土土器 24 (1/4・1/3) .....	62
第 54 図	174 号住居跡出土土器 25 (1/3) .....	63
第 55 図	174 号住居跡出土土製品 (1/3) .....	64
第 56 図	174 号住居跡出土石器 1 (1/3・2/3) .....	65
第 57 図	174 号住居跡出土石器 2 (1/3) .....	66
第 58 図	174 号住居跡出土石器 3 (1/3) .....	67
第 59 図	174 号住居跡出土石器 4 (1/3) .....	68
第 60 図	174 号住居跡出土石器 5 (1/3) .....	69
第 61 図	175 号住居跡 (1/60) .....	70
第 62 図	176 号住居跡 1 (1/60) .....	71
第 63 図	176 号住居跡 2 (1/60) .....	72
第 64 図	176 号住居跡 3 (1/60) .....	73
第 65 図	176 号住居跡遺物出土状態 (1/60) .....	74
第 66 図	176 号住居跡土器出土状態 (1/60) .....	74
第 67 図	176 号住居跡石器出土状態 (1/60) .....	75
第 68 図	176 号住居跡変遷図 (1/120・1/60) .....	75
第 69 図	176 号住居跡出土遺物 (1/3・2/3) .....	76
第 70 図	177 号住居跡 1 (1/60) .....	78
第 71 図	177 号住居跡 2 (1/60) .....	79
第 72 図	177 号住居跡炉 (1/30) .....	81
第 73 図	177 号住居跡遺物出土状態 (1/60) .....	81
第 74 図	177 号住居跡土器出土状態 (1/60) .....	83
第 75 図	177 号住居跡石器出土状態 (1/60) .....	84
第 76 図	177 号住居跡出土遺物 1 (1/4・1/3) .....	85
第 77 図	177 号住居跡出土遺物 2 (1/4・1/3) .....	86
第 78 図	177 号住居跡出土遺物 3 (1/3・2/3) .....	87
第 79 図	178 号住居跡 1 (1/60) .....	88
第 80 図	178 号住居跡 2 (1/60) .....	89
第 81 図	178 号住居跡炉・P9 (埋甕?) (1/30) .....	91
第 82 図	178 号住居跡遺物出土状態 (1/60) .....	92
第 83 図	178 号住居跡土器出土状態 (1/60) .....	93

第 84 図	178 号住居跡石器出土状態 (1 / 60) .....	93
第 85 図	178 号住居跡変遷図 (1 / 60) .....	94
第 86 図	178 号住居跡出土遺物 1 (1 / 3) .....	94
第 87 図	178 号住居跡出土遺物 2 (1 / 4) .....	95
第 88 図	178 号住居跡出土遺物 3 (1 / 4 • 1 / 3) .....	96
第 89 図	178 号住居跡出土遺物 4 (1 / 4 • 1 / 3) .....	97
第 90 図	178 号住居跡出土遺物 5 (1 / 4 • 1 / 3 • 2 / 3) .....	98
第 91 図	179 号住居跡 1 (1 / 60) .....	99
第 92 図	179 号住居跡 2 (1 / 60) .....	100
第 93 図	179 号住居跡炉 (1 / 30) .....	101
第 94 図	179 号住居跡遺物出土状態 (1 / 60) .....	102
第 95 図	179 号住居跡土器出土状態 (1 / 60) .....	103
第 96 図	179 号住居跡石器出土状態 (1 / 60) .....	104
第 97 図	179 号住居跡出土遺物 1 (1 / 3) .....	104
第 98 図	179 号住居跡出土遺物 2 (1 / 3 • 2 / 3) .....	105
第 99 図	180 号住居跡 (1 / 60) .....	106
第 100 図	180 号住居跡炉 (P 4) (1 / 30) .....	107
第 101 図	180 号住居跡遺物出土状態 (1 / 60) .....	108
第 102 図	180 号住居跡土器出土状態 (1 / 60) .....	108
第 103 図	180 号住居跡石器出土状態 (1 / 60) .....	109
第 104 図	180 号住居跡出土遺物 1 (1 / 4 • 1 / 3) .....	109
第 105 図	180 号住居跡出土遺物 2 (1 / 4 • 1 / 3) .....	110
第 106 図	181 号住居跡 1 (1 / 60) .....	111
第 107 図	181 号住居跡 2 (1 / 60) .....	112
第 108 図	181 号住居跡遺物出土状態 (1 / 60) .....	113
第 109 図	181 号住居跡土器出土状態 (1 / 60) .....	113
第 110 図	181 号住居跡石器出土状態 (1 / 60) .....	114
第 111 図	181 号住居跡出土遺物 1 (1 / 3) .....	114
第 112 図	181 号住居跡出土遺物 2 (2 / 3 • 1 / 3) .....	115
第 113 図	182 号住居跡 1 (1 / 60) .....	116
第 114 図	182 号住居跡 2 (1 / 60) .....	117
第 115 図	182 号住居跡土器出土状態 (1 / 60) .....	118
第 116 図	182 号住居跡出土遺物 (1 / 3) .....	118
第 117 図	650 号土坑 (1 / 60) .....	119
第 118 図	650 号土坑出土遺物 (1 / 3) .....	119
第 119 図	651 号土坑 (1 / 60) .....	120
第 120 図	651 号土坑出土遺物 (1 / 3) .....	120
第 121 図	652 号土坑 (1 / 60) .....	120
第 122 図	652 号土坑出土遺物 (1 / 3) .....	120
第 123 図	654 号土坑 (1 / 60) .....	121
第 124 図	654 号土坑出土遺物 (1 / 3) .....	121
第 125 図	655 号土坑 (1 / 60) .....	122
第 126 図	655 号土坑出土遺物 (1 / 3) .....	122

第127图	656号土坑(1/60).....	122
第128图	656号土坑出土遗物(1/3).....	122
第129图	657号土坑(1/60).....	123
第130图	657号土坑出土遗物(1/3).....	123
第131图	659号土坑(1/60).....	124
第132图	659号土坑出土遗物(1/3·2/3).....	124
第133图	660·669号土坑(1/60).....	125
第134图	660号土坑出土遗物(1/3).....	125
第135图	669号土坑出土遗物(1/3).....	125
第136图	665号土坑(1/60).....	126
第137图	665号土坑出土遗物(1/3).....	126
第138图	667号土坑(1/60).....	127
第139图	667号土坑出土遗物(1/3).....	127
第140图	668号土坑(1/60).....	128
第141图	668号土坑出土遗物(1/3).....	128
第142图	670·671号土坑(1/60).....	129
第143图	670号土坑出土遗物(1/3).....	129
第144图	671号土坑出土遗物(1/3).....	129
第145图	672号土坑(1/60).....	130
第146图	672号土坑出土遗物(1/3).....	130
第147图	673号土坑(1/60).....	131
第148图	673号土坑出土遗物(1/3).....	131
第149图	674·693号土坑(1/60).....	132
第150图	674号土坑出土遗物(1/3).....	132
第151图	693号土坑出土遗物1(1/3).....	132
第152图	693号土坑出土遗物2(1/3).....	133
第153图	675号土坑(1/60).....	133
第154图	675号土坑出土遗物(1/3).....	133
第155图	676号土坑(1/60).....	134
第156图	676号土坑出土遗物(1/3).....	134
第157图	678号土坑(1/60).....	135
第158图	678号土坑出土遗物(1/3).....	135
第159图	680·681号土坑(1/60).....	135
第160图	680号土坑出土遗物(1/3).....	136
第161图	681号土坑出土遗物(1/3).....	136
第162图	682号土坑(1/60).....	137
第163图	682号土坑出土遗物(1/3).....	137
第164图	684号土坑(1/60).....	138
第165图	684号土坑出土遗物(1/3).....	138
第166图	686号土坑(1/60).....	138
第167图	686号土坑出土遗物(1/3).....	138
第168图	687号土坑(1/60).....	139
第169图	687号土坑出土遗物(1/3).....	139

第170 図	690号土坑（1／60）	140
第171 図	690号土坑出土遺物（1／3）	140
第172 図	691号土坑（1／60）	141
第173 図	691号土坑出土遺物（1／3）	141
第174 図	1号炉跡（1／30）	141
第175 図	2号炉跡（1／30）	142
第176 図	43号ピット（1／60）	143
第177 図	43号ピット出土遺物（1／3）	143
第178 図	55号ピット（1／60）	143
第179 図	55号ピット出土遺物（1／3）	143
第180 図	56・57号ピット（1／60）	144
第181 図	56・57号ピット出土遺物（1／3）	144
第182 図	69号ピット（1／60）	145
第183 図	69号ピット出土遺物（1／3）	145
第184 図	71号ピット（1／60）	145
第185 図	71号ピット出土遺物（1／3）	145
第186 図	87号ピット（1／60）	146
第187 図	87号ピット出土遺物（2／3）	146
第188 図	89号ピット（1／60）	146
第189 図	89号ピット出土遺物（1／3）	146
第190 図	98号ピット（1／60）	147
第191 図	98号ピット出土遺物（1／3）	147
第192 図	99号ピット（1／60）	147
第193 図	99号ピット出土遺物（1／3）	148
第194 図	102号ピット（1／60）	148
第195 図	102号ピット出土遺物（1／3）	148
第196 図	104・105号ピット（1／60）	149
第197 図	104号ピット出土遺物（1／3）	149
第198 図	105号ピット出土遺物（1／3）	149
第199 図	106号ピット（1／60）	149
第200 図	106号ピット出土遺物（1／3）	150
第201 図	109号ピット（1／60）	150
第202 図	109号ピット出土遺物（1／3）	150
第203 図	弥生時代後期から古墳時代前期遺構分布図（1／300）	184
第204 図	566号住居跡1（1／60）	185
第205 図	566号住居跡2（1／60）	186
第206 図	566号住居跡炉・貯蔵穴（1／30）	186
第207 図	566号住居跡遺物出土状態（1／60）	187
第208 図	566号住居跡出土土器1（1／4・1／3）	191
第209 図	566号住居跡出土土器2（1／4・1／3）	192
第210 図	567号住居跡1・遺物出土状態（1／60）	193
第211 図	567号住居跡2（1／60）	194
第212 図	567号住居跡炉・貯蔵穴（1／30）	194

第213 図	567号住居跡出土土器（1／3）	196
第214 図	568・569号住居跡（1／60）	197
第215 図	568・569号住居跡炉・遺物出土状態（1／60）	198
第216 図	568号住居跡出土土器（1／4・1／3）	201
第217 図	569号住居跡出土土器（1／3）	201
第218 図	遺構外出土遺物1（1／3）	204
第219 図	遺構外出土遺物2（1／3）	205
第220 図	遺構外出土遺物3（1／1・1／3）	206
第221 図	遺構外出土遺物4（1／2・1／3）	207
第222 図	遺構外出土遺物5（1／1・1／3）	208
第223 図	住居跡の層位的関係	214
第224 図	時期別住居跡・土器一覧	214
第225 図	174号住居跡セクション模式図	216

## 表 目 次

第 1 表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧	1
第 2 表	西原大塚遺跡発掘調査一覧	10
第 3 表	西原大塚遺跡発掘調査報告書一覧	11
第 4 表	西原大塚遺跡第174①地点発掘調査工程表	14
第 5 表	土坑一覧表	151
第 6 表	ピット一覧表（1）	151
第 7 表	ピット一覧表（2）	152
第 8 表	ピット一覧表（3）	153
第 9 表	90号住居跡出土土器一覧	153
第 10 表	174号住居跡出土土器一覧（1）	153
第 11 表	174号住居跡出土土器一覧（2）	154
第 12 表	174号住居跡出土土器一覧（3）	155
第 13 表	174号住居跡出土土器一覧（4）	156
第 14 表	174号住居跡出土土器一覧（5）	157
第 15 表	174号住居跡出土土器一覧（6）	158
第 16 表	174号住居跡出土土器一覧（7）	159
第 17 表	174号住居跡出土土器一覧（8）	160
第 18 表	174号住居跡出土土器一覧（9）	161
第 19 表	174号住居跡出土土器一覧（10）	162
第 20 表	174号住居跡出土土器一覧（11）	163
第 21 表	174号住居跡出土土器一覧（12）	164
第 22 表	174号住居跡出土土器一覧（13）	165
第 23 表	174号住居跡出土土器一覧（14）	166
第 24 表	174号住居跡出土土器一覧（15）	167
第 25 表	174号住居跡出土土器一覧（16）	168

第 26 表	176 号住居跡出土土器一覧	168
第 27 表	177 号住居跡出土土器一覧（1）	169
第 28 表	177 号住居跡出土土器一覧（2）	170
第 29 表	178 号住居跡出土土器一覧（1）	170
第 30 表	178 号住居跡出土土器一覧（2）	171
第 31 表	179 号住居跡出土土器一覧（1）	171
第 32 表	179 号住居跡出土土器一覧（2）	172
第 33 表	180 号住居跡出土土器一覧（1）	172
第 34 表	180 号住居跡出土土器一覧（2）	173
第 35 表	181 号住居跡出土土器一覧（1）	173
第 36 表	181 号住居跡出土土器一覧（2）	174
第 37 表	182 号住居跡出土土器一覧	174
第 38 表	土坑・ピット出土土器一覧（1）	174
第 39 表	土坑・ピット出土土器一覧（2）	175
第 40 表	土坑・ピット出土土器一覧（3）	176
第 41 表	土坑・ピット出土土器一覧（4）	177
第 42 表	出土土製品一覧（1）	177
第 43 表	出土土製品一覧（2）	178
第 44 表	出土石器一覧（1）	178
第 45 表	出土石器一覧（2）	179
第 46 表	出土石器一覧（3）	180
第 47 表	出土石器一覧（4）	181
第 48 表	出土石器一覧（5）	182
第 49 表	出土石器一覧（6）	183
第 50 表	566 号住居跡出土遺物一覧	202
第 51 表	567 号住居跡出土遺物一覧	202
第 52 表	568 号住居跡出土遺物一覧	203
第 53 表	569 号住居跡出土遺物一覧	203
第 54 表	遺構外出土縄文土器一覧（1）	209
第 55 表	遺構外出土縄文土器一覧（2）	210
第 56 表	遺構外出土土製品一覧	211
第 57 表	遺構外出土弥生時代後期から古墳時代前期遺物一覧	211
第 58 表	遺構外出土石器一覧（1）	211
第 59 表	遺構外出土石器一覧（2）	212
第 60 表	遺構外出土不明金属製品一覧	212



# 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 市域の地形と遺跡

### (1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりをもち、面積は 9.06 km<sup>2</sup>、人口約 7 万 2 千人の自然と文化の調和する都市である。

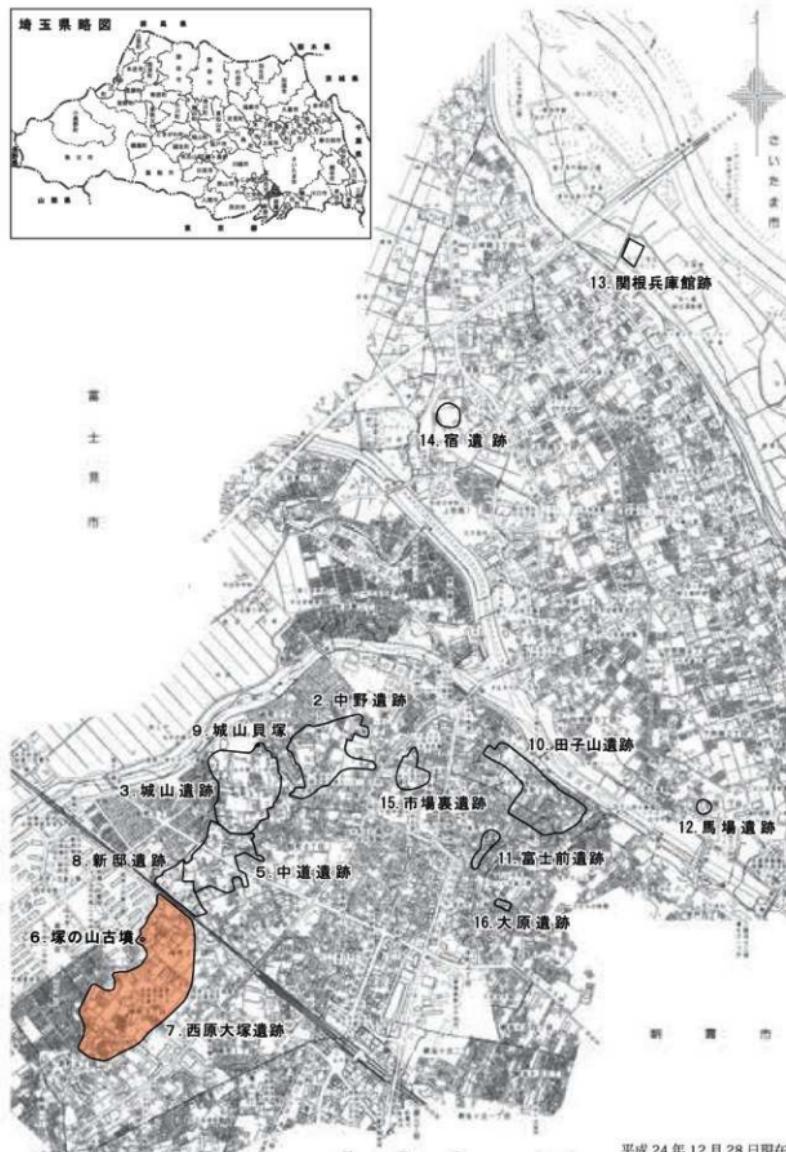
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武藏野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帶状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、

No	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	63,370 m <sup>2</sup>	畠・宅地	集落跡	旧石器、繩（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、繩文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	79,280 m <sup>2</sup>	畠・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、繩（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鍛冶遺跡等	石器、繩文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古錢等
5	中道	50,500 m <sup>2</sup>	畠・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、繩（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式土坑、溝跡、道路状遺構等	石器、繩文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古錢等
6	塙の山古墳	800 m <sup>2</sup>	林	古墳？	古墳？	古墳？	なし
7	西原大塚	163,930 m <sup>2</sup>	畠・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、繩（前～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、井戸跡、溝跡等	石器、繩文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古錢等
8	新邸	20,080 m <sup>2</sup>	畠・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	繩（早～中・近世、近代）	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝塚、繩文・弥生土器、土師器、陶磁器、古錢等
9	城山貝塚	900 m <sup>2</sup>	林	貝塚	繩（前）	斜面貝塚	石器、繩文土器、貝塚
10	田子山	65,000 m <sup>2</sup>	畠・宅地	集落跡・墓跡	繩（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈、平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形周溝墓、ローム掘削遺構、溝跡等	石器、貝塚、繩文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	7,100 m <sup>2</sup>	宅地	集落跡	弥（後）～古（前）	住居跡	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800 m <sup>2</sup>	畠	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 m <sup>2</sup>	グランド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 m <sup>2</sup>	田	館跡	中世	溝跡・井戸状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800 m <sup>2</sup>	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡・方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700 m <sup>2</sup>	宅地	不明	近世以降？	溝跡	なし
合計		481,860 m <sup>2</sup>					

平成 24 年 12 月 28 日 現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)

せきもりようごやかたあと  
関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した 12 遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた 14 遺跡である（第1図）。

## （2）歴史的環境

### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。中道遺跡では、昭和 62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のIV層上部・VI層・VII層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成 6（1994）年度には 2ヶ所、平成 7（1995）年度には 1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。

平成 11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第 49 地点からも立川ローム層の第IV層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約 60 点出土している。

平成 13（2001）年に発掘調査が実施された城山遺跡第 42 地点では、立川ローム層の第IV層上部と第VII層の 2ヶ所で石器集中地点が確認され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの挿入石器・剥片など 32 点が出土している。

平成 20・21（2009・2010）年度にかけては、城山遺跡第 62 地点の発掘調査が実施され、1ヶ所の石器ブロックが検出されている。

平成 22（2010）年 3月～5月にかけて発掘調査が実施された城山遺跡第 63 地点では、5ヶ所の試掘坑を設定し調査を実施したところ、立川ローム層の第VI層を中心とする 3ヶ所の石器集中地点が確認され、黒曜石の二次加工剥片・石核などが 20 点ほど出土している。

### 2. 繩文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期中葉から後葉の遺構が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

草創期では、平成 4（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第 16 地点から爪形文系土器 1 点、平成 6（1994）年に発掘調査が実施された城山遺跡第 21 地点から多縄文系土器 3 点、第 22 地点から爪形文系土器 1 点、平成 10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 51 地点から有茎尖頭器 1 点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、平成 18（2007）年に発掘調査が実施された中道遺跡第 65 地点で検出された早期末葉（条痕文系）の 10 号住居跡 1 軒があげられる。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。また、富士前・新邸・城山遺跡からは、撚糸文系土器が数点出土し、条痕文系土器は、中野・田子山遺跡では炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で黒浜式期、城山遺跡では諸磯式期の住居跡が検出されている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡や土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点（平成24年1月）で170軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が1軒確認されるのみである。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1ヶ所が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で検出された土坑1基があげられる。下層から称名寺I式期の土器、上層からII式の特徴をもつ土器が出土している。西原大塚遺跡第54地点でも2基の土坑が検出されている。

晚期では、中野・田子山遺跡から安行3C式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

### 3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、現時点において、前・中期の遺跡は検出されていないが、後期末葉から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が550軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高环が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見されている。この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土器をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

#### 4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に7世紀前半から中葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、7世紀前半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3.0×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で200軒を越え、次いで中野遺跡で約50軒、中道遺跡で約15軒、田子山遺跡で約10軒、新邸遺跡で1軒を数える。

住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整円形で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。

また、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点の調査を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられている。

#### 5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例で貴重な資料である。この住居跡からはその他、須恵器壺や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。最新では、平成20～21（2008～2009）年の城山遺跡第62地点の調査により、平安時代の住居跡から皇朝十二錢の一つである「富壽神寶」が2枚出土しており、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点から、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施

された第31地点の44号住居跡からは、腰帶の一部である銅製の丸鞘が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群の前内出製品と鳩山製品の須恵器环が1点ずつ出土し、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

## 6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。

城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『館村旧記』(註1)にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。最新では、『廻国雑記』(註2)に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点では、鋳造関連の遺構も検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。また平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧の鉢である鉄製品1点と鉄鎧1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、頭を北に向かって横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑が検出されている。その他、ピット列・土坑・溝跡などが検出されていることから、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する施設ではないかと考えられる。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑・掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山觀音寺大受院」関連遺構として、今後は体系的な究明が必要とされるであろう。

## 7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム探掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鎌などの無数の工具痕が観察され、探掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新郷遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となつた。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土している。

### 〔註〕

- 註1 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。
- 註2 『姫国雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）6月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

### 〔引用文献〕

- 神山健吉 1988 「姫国雑記」に現れる 大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察』『郷土志木』第7号  
2002 「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号

## 第2節 遺跡の概要

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町二～四丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西約1kmに位置している。北東～南西方に約700m、北西～南東方向に約150mの広がりをもち、遺跡面積163,930m<sup>2</sup>の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武藏野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で8mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、概ね平坦である。遺跡西側中央、台地から低地へうつる斜面に湧水点が確認されており、そこを中心にはれている。

昭和48年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施してきた。平成元年から平成19年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。また、近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。平成25年1月現在で、調査地点189、面積約53,000m<sup>2</sup>（遺跡全体の約3割）に対して確認調査・発掘調査を実施している（第2図）。本遺跡で実施された調査地点のうち、発掘調査報告書が刊行された調査地点の概要を第2表に、本遺跡の発掘調査に係る文献については、第3表に示した。以下に平成25年1月現在の検出された遺構・遺物の概要について示す。

旧石器時代では、石器集中地点が14カ所確認されている。これまでにナイフ形石器12点、尖頭器3点、錐状石器1点、搔器1点、石核8点、剥片149点、碎片349点、礫306点が出土している。第5号石器集中地点で安山岩製のナイフ形石器が立川ロームⅦ層上部から出土している他は、Ⅲ層～Ⅴ層上部からの出土が大半を占める。また、第8・10・11A・12号石器集中地点では礫群が検出されている。

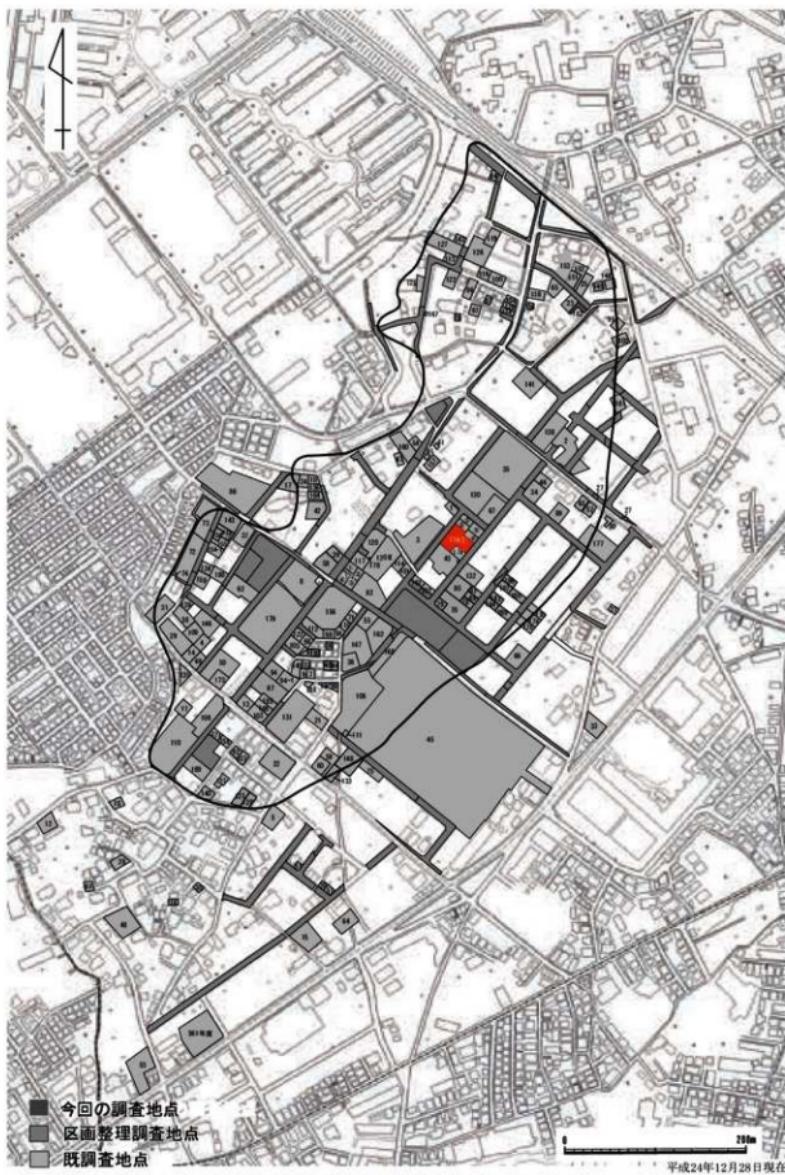
縄文時代草創期では、表面採集で長さ11.9cmの両面調整石器1点が確認されている。早期では、条痕文系土器を伴う炉穴15基が遺跡北西隅を中心に検出されている。前期では、黒浜式期の住居跡2軒、諸葛c式期の土坑1基が遺跡南西隅に分布している。中期では、遺構数が増大し、勝坂式期から加曾利E式期の住居跡181軒が環状集落を形成している。後期では、堀之内式期の住居跡1軒、加曾利B式期の住居跡1軒が遺跡南西隅に検出されている。晚期では、遺構外遺物として安行3式土器が遺跡北西隅で出土しているが、遺構は検出されていない。遺物では、50号住居跡出土の硬玉製大珠（文献No.23）、108号住居跡出土の顔面把手付土器（未報告）などが特筆される。

弥生時代では、前期から中期が空白期となり、後期から古墳時代前期では住居跡568軒、掘立柱建築遺構3棟、方形周溝墓34基が検出されており、大規模集落の様相を呈している。遺物では、122号住居跡出土のイヌ形土製品（文献No.23）、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓出土の鳥形土製品（文献No.15）などが注目される。

古墳時代では、中期が空白期となり、後期で住居跡10軒が検出されている。また、本遺跡内北東に塚の山古墳が所在するが、近接する道路部分の調査でも周溝が不検出であるため、詳細は不明である。

奈良・平安時代では、住居跡13軒が検出されている。本遺跡では、8世紀前葉に比定される154地点19号住居跡が最古の資料となる。

中近世では、地下式坑を含む土坑155基、井戸跡7基、配石遺構1基が検出されている（文献No.23）。以上、本遺跡は旧石器時代から近世に至るまでの複合遺跡であることが判明している。



第2図 西原大塚遺跡の調査地点 (1 / 5,000)

調査地点	面積 (a)	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	文献名 第3表文076
第1地点	112.50	昭和48年6月3日 ～12日	学术調査	縄文中期（住居跡5軒、土坑8基）、弥生後期～古墳前期（住居跡1軒）	No.1
第2地点	940.00	昭和55年7月20日 ～8月21日	学术調査	弥生後期～古墳前期（住居跡3軒）	No.2
第3地点	439.00	昭和58年8月23日	共同住宅	縄文中期（住居跡5軒、土坑2基）	No.3
第4地点	105.00	昭和62年1月5日 ～11日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡3軒）	No.4
第5地点	64.32	昭和62年11月18日 ～20日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡1軒）	No.5
第7地点	77.44	昭和63年1月20日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期（小穴穴状遺構1基）、時期不詳（土坑1基、調査1本）	No.7
第8地点	1,227.00	昭和63年3月16日 ～6月7日	個人住宅建設	縄文中期（住居跡1軒、土坑1基）、弥生後期～古墳前期（住居跡13軒、方形周溝1基、部屋跡建築遺構1棟）	No.6
第9地点	75.86	昭和63年3月18日 ～9月10日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡1軒）	
第10地点	80.54	昭和63年8月27日 ～10月4日	個人住宅建設	縄文中期（土坑4基、道場遺構1基）、弥生後期～古墳前期（住居跡1軒）	No.8
第11地点	220.84	平成元年5月16日 ～25日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（方形周溝1基）	No.9
第14地点	129.00	平成2年5月26日 ～6月11日	共同住宅	弥生後期～古墳前期（住居跡4軒）	No.10
第21地点	205.73	平成3年5月28日 ～29日	事務所併用住宅	弥生後期～古墳前期（方形周溝1基）	No.10
第32地点	60.11	平成6年4月7日 ～14日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡2軒）	No.9
第34地点	317.00	平成7年8月4日 ～9月1日	個人住宅建設	縄文中期（住居跡3軒、土坑6基）、弥生後期～古墳前期（住居跡3軒）、奈良・平安（住居跡1軒）	No.11
第36地点	248.05	平成8年10月15日 ～26日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡4軒）	No.13
第37地点	220.00	平成9年4月8日 ～6月5日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡7軒）、時期不詳（土坑4基）	No.14
第39地点	63.76	平成9年8月5日 ～28日	個人住宅建設	縄文中期（住居跡3軒）、弥生後期～古墳前期（住居跡1軒、方形周溝1基）	No.14
第43地点	779.60	平成12年1月11日 ～3月24日	農地転用	縄文中期（住居跡10軒、土坑22基）、弥生後期～古墳前期（住居跡9軒）、古墳（1軒）	No.16
第45地点	5,642.42	平成12年8月3日 ～12月24日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡72軒、方形周溝1基）、古墳後期（住居跡2軒）	No.15
第47地点	86.12	平成14年4月3日 ～4日	個人住宅建設	縄文中期（土坑1基）、弥生後期～古墳前期（調査1本）	No.17
第54地点	90.74	平成13年9月13日 ～14日	物販建設	縄文中期～後期（土坑7基）、弥生後期～古墳前期（方形周溝1基）	No.18
第65地点	115.93	平成14年7月25日 ～8月9日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡3軒）	No.19
第67地点	456.20	平成14年9月9日 ～11月29日	個人住宅建設	縄文中期（住居跡8軒、土坑8基）、弥生後期～古墳前期（住居跡8軒、部屋跡建築遺構1棟、土坑1基）	No.22
第108地点	684.60	平成21年2月23日 ～4月14日	川辺の橋を持つ複合施設建設	縄文中期（住居跡1軒）、弥生後期～古墳前期（住居跡15軒）	No.25
第110地点	500.00	平成17年2月7日 ～3月10日	集合住宅建設	石器群（石器集中2号所）。縄文中期（土坑1基、礫石1基）、弥生後期～古墳前期（住居跡7軒）	No.21
第111地点	80.00	平成17年1月17日 ～2月21日	消防車庫建設	古墳前期（住居跡1軒）	No.20
第113地点	119.75	平成17年2月4日 ～15日	個人住宅建設	縄文早期（印文1基）、近世以降（土坑16基）	No.26
第120-1地点	460.56	平成17年6月27日 ～7月7日	保育園建設	縄文中期（住居跡1軒、土坑62基）、弥生後期～古墳前期（住居跡4軒、方形周溝1基）	No.25
第120-2地点	596.55	平成18年5月30日 ～6月28日			
第124地点	1,500.02	平成17年12月19日 ～平成18年1月13日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡3軒）	No.26
第131地点	472.21	平成18年8月30日 ～9月20日	集合住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡2軒、方形周溝5基）	No.25
第137地点	100.00	平成18年11月9日 ～15日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡1軒）、時期不詳（ピット5本）	No.27
第138地点	20.00	平成19年2月5日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡1軒）、本邦1本	No.24
第154地点	120.02	平成20年3月17日 ～19日	分譲住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡1軒）、奈良・平安（住居跡1軒）、ピット1本）、平安以前（土坑1基）	No.24
第155地点	120.00	平成19年3月18日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡1軒）	No.27
区画整理	38,242.39	平成元年12月20日 ～平成19年1月12日	区画整理事業	住居跡（石器集中12号所）、縄文中期（住居跡2軒、土坑1基）、縄文中期（住居跡101軒、土坑233基、礫石13基）、縄文後期（住居跡2軒、土坑9基）、弥生後期～古墳前期（住居跡362軒、方形周溝22基）、古墳後期（住居跡8軒）、奈良・平安（住居跡7軒）、中近世（土坑155基、井戸跡6基）。	No.12 No.23 No.25 No.26
第169地点	90.00	平成22年10月4日 ～13日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期（住居跡1軒）、部屋跡建築遺構1棟）	No.29
第174①地点	627.54	平成23年10月19日 ～平成24年1月13日	宅地造成	縄文中期（住居跡10軒、伊勢2基、土坑44基）、弥生後期～古墳前期（住居跡4軒）	本報告

第2表 西原大塚遺跡発掘調査一覧

順位	書名	刊行年	シリーズ名	発刊者	執筆者
1	西原・大塚遺跡発掘調査報告	1975	志木市の文化財第4集	志木市教育委員会	井上綱一、浅谷静男、谷井一、喜、宮野和則 宮野和則、井上綱一、小久保徹
2	志木市近・縄文・古代資料編	1984	志木市史	志木市	宮野和則、井上綱一
3	西原大塚遺跡第3地点 中野遺跡第2地点 発掘調査報告書	1985	志木市遺跡調査会調査報告第1集	志木市遺跡調査会	佐々木保復、尾形剛敏
4	新部遺跡第2地点 西原大塚遺跡第4地点 発掘調査報告書	1987	志木市遺跡調査会調査報告第3集	志木市遺跡調査会	佐々木保復、尾形剛敏
5	志木市遺跡群Ⅰ	1989	志木市の文化財第13集	志木市教育委員会	佐々木保復、尾形剛敏
6	志木市遺跡群Ⅱ	1990	志木市の文化財第14集	志木市教育委員会	佐々木保復、尾形剛敏
7	西原大塚遺跡第7地点 新部遺跡第3地点 中野遺跡第7地点 中野遺跡第8地点 城山遺跡第6地点 発掘調査報告書	1991	志木市の文化財第15集	志木市教育委員会	佐々木保復、尾形剛敏
8	志木市遺跡群Ⅲ	1991	志木市の文化財第16集	志木市教育委員会	佐々木保復、尾形剛敏
9	志木市遺跡群Ⅳ	1996	志木市の文化財第23集	志木市教育委員会	佐々木保復、深井進子
10	城山遺跡第12地点 城山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第14地点 中野遺跡第11地点 中野遺跡第16地点 市場裏遺跡第1地点 田子山遺跡第10地点 中道遺跡第21地点 田子山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第21地点 市場裏遺跡第2地点 中道遺跡第26地点 発掘調査報告書	1996	志木市の文化財第24集	志木市教育委員会	佐々木保復、尾形剛敏
11	志木市遺跡群Ⅴ	1997	志木市の文化財第25集	志木市教育委員会	佐々木保復、尾形剛敏
12	西原大塚の遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査 概要	1998	—	志木市遺跡調査会	佐々木保復
13	志木市遺跡群Ⅸ	1999	志木市の文化財第27集	志木市教育委員会	尾形剛敏、深井進子
14	志木市遺跡群Ⅹ	2000	志木市の文化財第28集	志木市教育委員会	尾形剛敏、深井進子
15	西原大塚遺跡第45地点 発掘調査報告書	2000	志木市遺跡調査会調査報告第6集	志木市遺跡調査会 小松トーリ株式会社	佐々木保復、内野美津江、宮川幸生、上田實
16	志木市遺跡群Ⅺ	2001	志木市の文化財第30集	志木市教育委員会	尾形剛敏、佐々木保復、内野美津江
17	志木市遺跡群Ⅻ	2002	志木市の文化財第32集	志木市教育委員会	尾形剛敏、佐々木保復、深井進子
18	志木市遺跡群Ⅼ	2003	志木市の文化財第35集	志木市教育委員会	尾形剛敏、深井進子
19	志木市遺跡群Ⅽ	2004	志木市の文化財第36集	志木市教育委員会	尾形剛敏、深井進子、青木 翔
20	西原大塚遺跡第111地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第8集	志木市遺跡調査会	佐々木保復、内野美津江、宮川幸生
21	西原大塚遺跡第110地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第9集	志木市遺跡調査会	佐々木保復、内野美津江、宮川幸生
22	志木市遺跡群Ⅿ	2006	志木市の文化財第37集	志木市教育委員会	尾形剛敏、深井進子
23	西原大塚遺跡 1～Ⅹ 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書	2009	志木市遺跡調査会調査報告第13集	志木市遺跡調査会	佐々木保復、内野美津江、宮川幸生
24	西原大塚遺跡第138地点 西原大塚遺跡第154地点 理磁文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第14集	志木市遺跡調査会	尾形剛敏、深井進子、青木 翔
25	西原大塚遺跡第120地点 西原大塚遺跡第131地点 田子山遺跡第97地点 理磁文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第15集	志木市遺跡調査会	佐々木保復、内野美津江、宮川幸生
26	志木市遺跡群ⅰ	2008	志木市の文化財第39集	志木市教育委員会	尾形剛敏、深井進子、青木 翔
27	志木市遺跡群ⅲ	2009	志木市の文化財第41集	志木市教育委員会	尾形剛敏、深井進子、青木 翔
28	西原大塚遺跡第108地点 理磁文化財発掘調査報告書	2009	志木市の文化財第42集	志木市教育委員会	佐々木保復、尾形剛敏、坂口正嗣、齊田紀子他
29	西原大塚遺跡第169地点 理磁文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第47集	志木市教育委員会	尾形剛敏、德田和記
30	西原大塚遺跡第174①地点 理磁文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第55集	志木市教育委員会	尾形剛敏、松本純子

第3表 西原大塚遺跡発掘調査報告書一覧

## 第2章 発掘調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

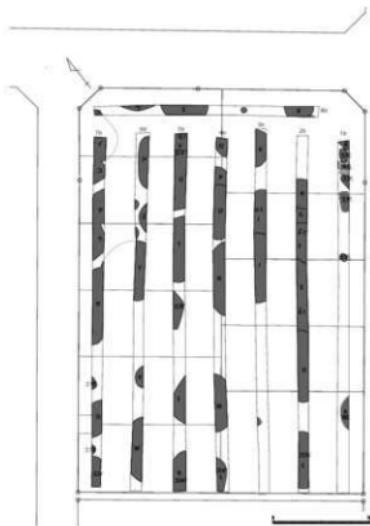
平成23年4月、土木工事主体者より志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ土木工事計画地内における埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。工事計画は志木市幸町3丁目7204-3の一部（面積627.54m<sup>2</sup>）に宅地造成工事を行うものである。

教育委員会は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード11228-09-007）に該当するため、概ね下記のとおりに回答した。

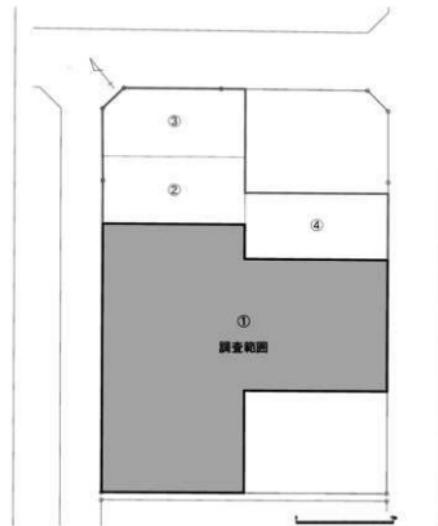
1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施した上で、当該地における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

2. 確認調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、保存措置を講ずること。また、現状保存及び盛土保存が不可能である場合については、記録保存（発掘調査）を実施する必要があること。

平成23年6月、教育委員会は、工事主体者である個人から確認調査依頼書を受理し、6月13日から15日にかけて確認調査を実施した。長軸7本、短軸1本、計8本のトレンチを設定し、バックホーで表土を剥ぎ、遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代中期の住居跡10軒、土坑3基を確認した。（第3図）。教育委員会は、直ちに土木工事主体者に確認調査の結果を報告し、同時に埋蔵文化財の保存措置を要請した。保存措置に関する協議を行った結果、敷地全域において十分な保護層が確保できないため、記録保存（発掘調査）として取り扱うこととした。これを受けた教育委員会は、平成23年9月29日付で関係書類を埼玉県教育委員会に提出した。



第3図 確認調査時の遺構分布（1／500）



第4図 調査区位置図（1／500）

平成 23 年 10 月 12 日、志木市埋蔵文化財保存事業取扱要綱に基づき、志木市（市長 長沼 明）と工事主体者との間で協議書を取り交わし、委託契約を締結した。調査主体者となる教育委員会は、発掘調査の実施にあたり、有限会社アルケーリサーチ（取締役 藤波 啓容）と委託契約を締結し、支援業務を委託した。

以上、教育委員会を調査主体に、平成 23 年 10 月 19 日より発掘調査を実施した。

## 第2節 調査の方法と経過

発掘調査は平成 23 年 10 月 19 日より開始し、平成 24 年 1 月 13 日を以って終了した。調査経過については、第 4 表にまとめ、以下に日付順に説明する。

平成 23 年

- 10月19日 碎石除去を開始し、防護ネットを設置する。
- 10月20日 調査区西側から表土の掘削を開始する。
- 10月21日 GPS 測量による基準点移動を行う。
- 10月24日 表土掘削と並行して遺構検出作業に入る。
- 10月25日 174J 周囲の歓を掘削し、プランを確認する。
- 10月26日 174J の掘り下げ、遺物の取り上げを開始する。
- 10月27日 南側残土置き場予定範囲の 37P ~ 39P、650D ~ 652D の調査を行う。
- 10月28日 566Y の調査を開始する。
- 11月 4 日 567Y の調査を開始する。566Y の断面写真撮影と実測を行う。
- 11月 7 日 566Y のベルトの掘削を行う。また、床面上から炭化材が検出され、焼失住居の可能性をうかがわせた。
- 11月 9 日 566Y の炭化材の取り上げを開始する。
- 11月16日 90J の調査を開始する。今回の調査で検出された部分は平成 13 年度に一部調査された住居の残りの部分である。また、566Y の遺構測量を行う。
- 11月17日 174J の壁出しを行う。
- 11月18日 174J の断面写真撮影、実測を行う。174J に接している 176J・178J・179J に関しても 174J の断面を延長して実測をする。また、567Y の全景写真撮影、90J の断面実測、完掘全景写真撮影を行う。
- 11月21日 177J の調査を開始する。また、567Y・90J の遺構測量を行う。
- 12月 2 日 174J の遺構測量と 176J の調査を開始する。
- 12月 5 日 179J の調査を開始する。引き続き、174J の遺構測量、176J・177J の調査を行う。
- 12月 6 日 179J・180J の掘り下げを開始する。並行して 177J の炉 2 の調査と全景写真撮影を行う。
- 12月 7 日 178J の調査と 175J の精査を開始する。176J の調査、177J の断面実測、179J・180J・181J の掘り下げを行う。

- 12月9日 土坑、ピットの調査を開始する。178J・179・180J・181Jの掘り下げ、176J・182Jのピットの調査を行う。
- 12月10日 176Jピットの調査・実測、179J・181J・182Jのピット調査、178J断面実測を行う。
- 12月13日 178J・179J・180J・181Jのピット調査、178J炉の調査を行う。
- 12月21日 前日に調査区の全面清掃をし、調査区航空写真撮影を行う。また、174J炉・566Y掘り方の調査を行う。
- 12月27日 568Yの調査を開始する。

	10月	11月	12月	1月
90J				
174J	10.25	11.16		
175J			12.5	
176J			12.2	
177J		11.21		
178J			12.7	
179J			12.5	
180J			12.5	
181J			12.5	
182J			12.8	
566Y	10.28			
567Y		11.4		
568Y				12.27
569Y				1.5
650D	10.27			
651D	10.27			
652D				12.27
653D			12.4	
654D			12.7	
655D			12.7	
656D			12.7	
657D			12.7	
658D			12.7	
659D			12.7	
660D			12.7	
661D			12.7	
662D			12.9	
663D			12.8	
664D			12.9	
665D			12.8	
666D			12.9	
667D			12.14	
668D			12.14	
669D			12.14	
670D			12.14	
671D			12.14	
672D			12.15	
673D			12.15	
674D			12.15	
675D			12.15	
676D			12.15	
677D			12.15	
678D			12.15	
679D			12.15	
680D			12.16	
681D			12.17	
682D			12.17	
683D			12.17	
684D			12.17	
685D			12.17	
686D			12.17	
687D			12.17	
688D			12.17	
689D			12.17	
690D			12.19	
691D				12.26
692D				1.5
693D			12.15	
1号炉跡			12.13	
2号炉跡				12.19

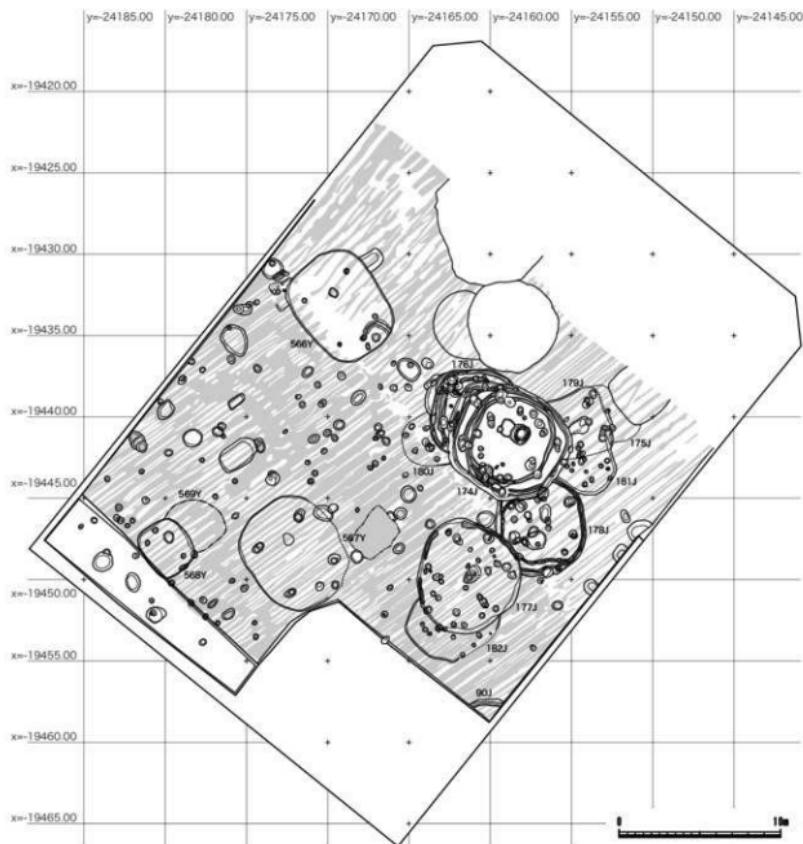
第4表 西原大塚遺跡第174①地点発掘調査工程表

平成24年

1月5日 568Y・569Yの完掘全景写真撮影を行う。また、引き続き土坑、ピットの調査を行う。

1月10日 568、569Y 挖り方調査と並行しながら調査区資材の撤去を開始する。

1月13日 調査区の埋戻し、防護ネット・調査区資材の撤去を行う。現場調査が完了する。



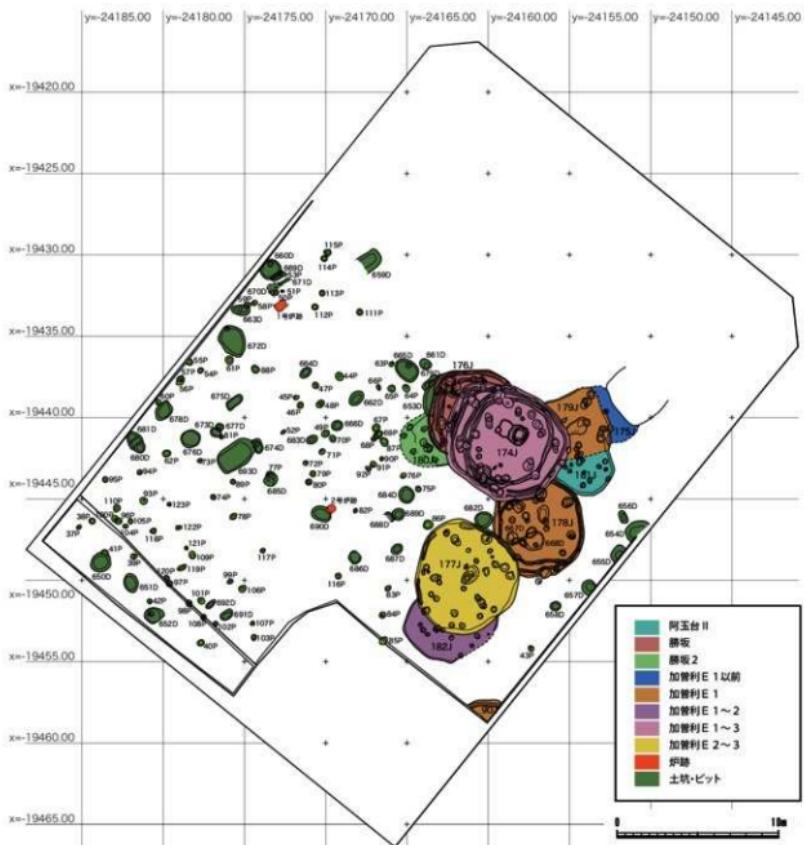
第5図 遺構分布図 (1 / 300)

# 第3章 検出された遺構と遺物

今回の調査地点は本遺跡のほぼ中央に所在するが、調査地点の現況は畠地として利用されており、度重なる耕作痕（トレッチャ）によって遺構の大部分は攪乱されていた。

検出された遺構は住居跡 14 軒、土坑 44 基、ピット 87 基、炉跡 2 基であり、縄文時代中期もしくは弥生時代後期から古墳時代前期に帰属する。出土遺物は縄文中期の勝坂式～加曾利 E 3 式土器が主体となり、縄文時代後期の称名寺式、堀之内式が僅かに数点確認されたほか、弥生土器、石器、土製品、礫がある。

## 第1節 縄文時代



第6図 縄文時代遺構分布図 (1 / 300)

## (1) 概要

繩文時代の遺構は住居跡 10 軒、土坑 44 基、ピット 87 基、炉跡 2 基が検出された。174 号住居跡、176 号住居跡、178 号住居跡に関しては拡張された可能性が高い。繩文時代の住居跡は環状集落を形成するもので、出土遺物から繩文時代中期の勝坂式後半期から加曾利 E 式期がピークと思われる。

住居の西側では土坑・ピットが多く検出された。遺物を伴わないものが多く時期決定は困難であったが、堆積覆土は繩文時代の住居に近似する。炉跡とした遺構は硬質面や関係するピットが確認されなかったため、単独の遺構として判断している。

出土位置が判明している土器・土製品は 5,903 点であり、うち五領ヶ台式 1 点、阿玉台式 252 点、勝坂式 525 点、曾利式 263 点、加曾利 E 式 2,554 点、連弧文 306 点、土製円盤 14 点、土器片錘 10 点、不明土製品 2 点、粘土塊 2 点である。石器総点数は 721 点、56,385.8g で、うち出土位置が判明している石器は 456 点・38,696.0g、判明していない石器は 265 点・17,689.8g である。器種の内訳は、石鏃 7 点、石鏃未製品 1 点、楔形石器 20 点、両極剥片 4 点、石錐 1 点、二次的剥離のある剥片 19 点（剥片石器系石材 6 点、打製石斧系石材 13 点）、不規則剥離のある剥片 15 点（剥片石器系石材 13 点、打製石斧系石材 2 点）、剥片 102 点（剥片石器系石材 66 点、打製石斧系石材 34 点、磨製石斧系石材 1 点、礫石器系石材 1 点）、調整剥片 99 点（剥片石器系石材 76 点、打製石斧系 21 点、磨製石斧系 1 点）、碎片 66 点（剥片石器系石材 24 点、打製石斧系石材 28 点、磨製石斧系石材 3 点、礫石器系石材 11 点）、石核 3 点（剥片石器系石材）、（ナイフ形石器 1 点：177J・旧石器時代遺物の混入）、打製石斧 147 点、横刃形石器 4 点、磨製石斧 8 点、磨石 14 点、敲石 119 点、砥石 3 点、石皿 12 点、輕石 3 点、凹石 4 点、線刻礫 1 点、片岩製石器 68 点である。石材の内訳は、黒曜石 196 点、チャート 26 点、頁岩 3 点、硬質頁岩 1 点、ガラス質黒色安山岩 2 点、ホルンフェルス 129 点、砂岩 221 点、片状砂岩 3 点、細粒凝灰岩 1 点、凝灰岩 25 点、綠色岩 2 点、安山岩 15 点、閃綠岩 16 点、ハンレイ岩 1 点、砂質片岩 16 点、綠泥片岩 43 点、結晶片岩 18 点である。

## (2) 住居跡

### 90 号住居跡

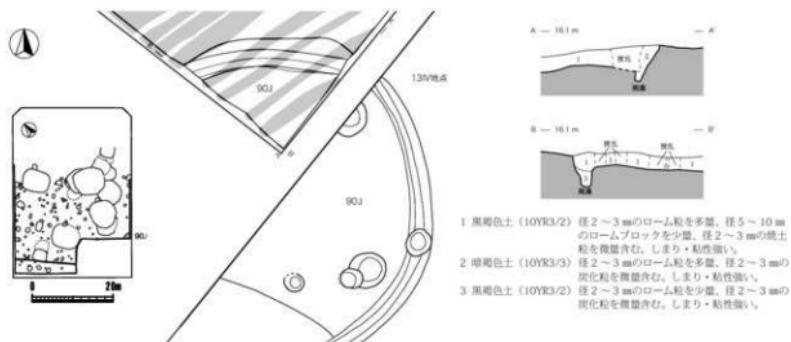
#### 遺構 (第 7 ~ 10 図)

[位置] X=-19458,Y=-24160。

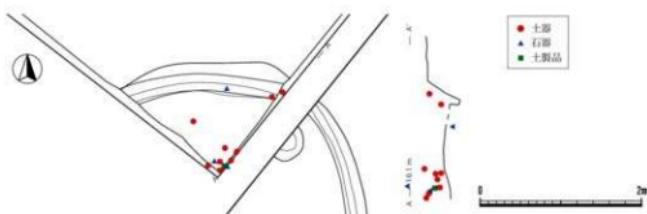
[住居構造] 今回の調査区では住居の一部が僅かに検出されるのみで明確な住居の構造は不明である。平面形：円形か？規模：不明。主軸方位：不明。壁高：27.6 ~ 42.5 cm を測り、70°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：耕作による攢乱が著しい。炉：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。

[覆土] 3 層。

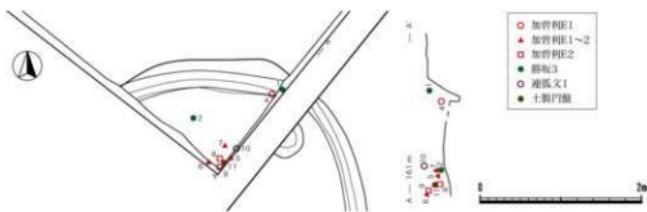
[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器・土製品は 21 点であり、うち勝坂式 2 点、加曾利 E 式 14 点、連弧文 1 点、土製円盤 1 点である。出土した石器の総点数は 4 点、1,215.3g で、器種の内訳は、調整剥片 1 点（剥片石器系石材）、打製石斧 2 点、石皿 1 点、石材の内訳は、黒曜石 1 点、ホルンフェルス 1 点、凝灰岩 1 点、安山岩 1 点である。



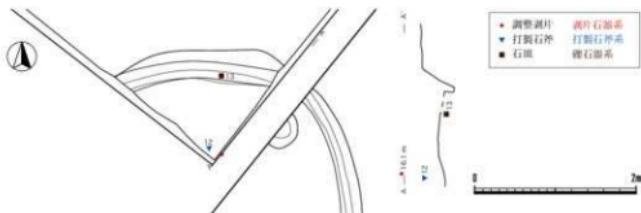
第7図 90号住居跡 (1 / 60)



第8図 90号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)



第9図 90号住居跡土器出土状態 (1 / 60)



第10図 90号住居跡石器出土状態 (1 / 60)



90号住居跡全景（南より）

90号住居跡セクション（北西より）

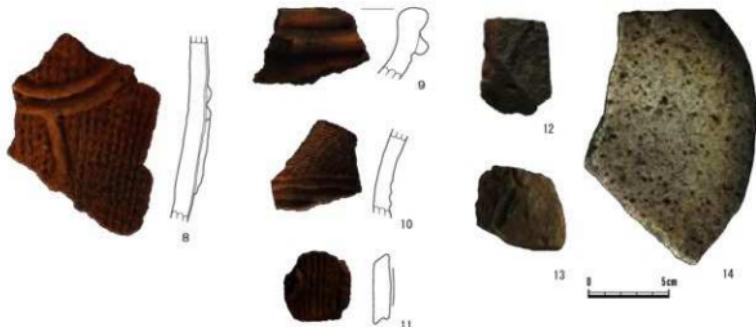


90号住居跡遺物出土状態（西より）

90号住居跡遺物出土状態（南より）



第11図 90号住居跡出土遺物1 (1/3)



第12図 90号住居跡出土遺物2 (1/3)

[時 期] 加曾利E1式期。

**遺 物** (第11・12図、第9・42・44表)

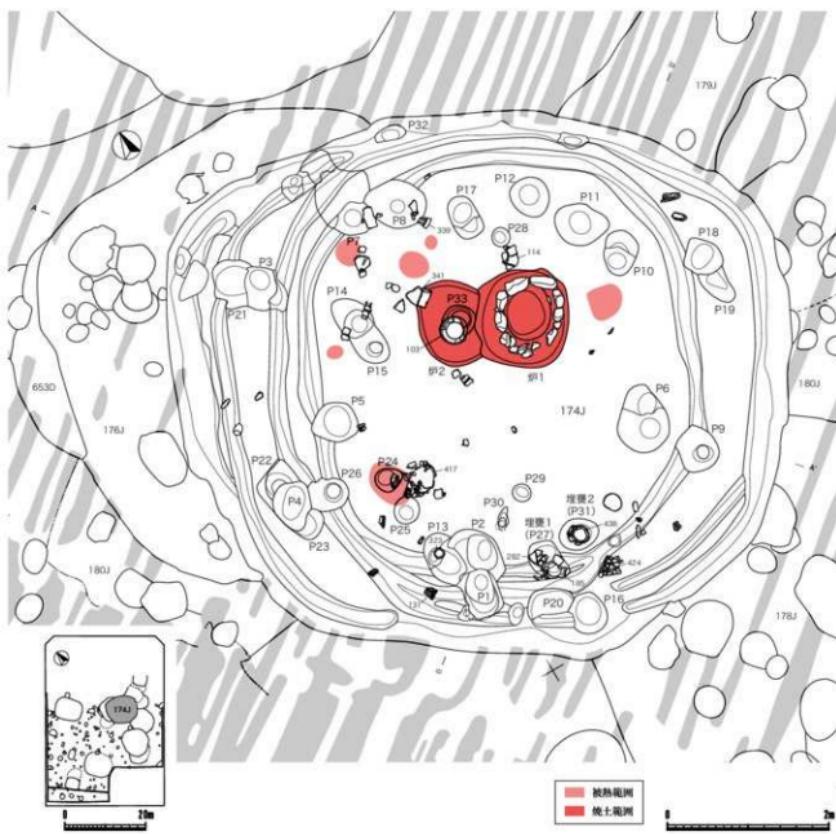
勝坂式 (1~2)、加曾利E式 (3~9)、連弧文 (10)、土製円盤 (11)、打製石斧 (12・13)、石皿 (14)を図示した。

### 174号住居跡

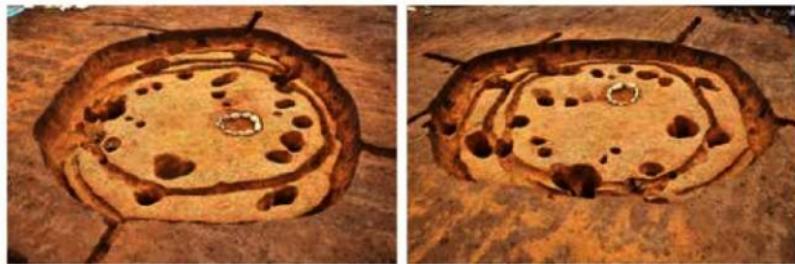
**遺 構** (第13~29図)

[位 置] X=-19441,Y=-24158。

[住居構造] 176J・178J・179J・180J・181Jを切る。柱の移動を伴う縮小が1度行われた後、3回の拡張が行われた可能性がある。床面に焼土範囲が点在することから1度火災により焼失している。焼失後、柱の立て替えが1回確認できる。平面形:不整円形。規模:縮小時は $5.64 \times 4.69\text{m}$ 、縮小時は $5.26 \times 4.69\text{m}$ を測る。その後拡張に転じ、1回目拡張で $6.49 \times 6.01\text{m}$ 、2回目拡張で $7.11 \times 6.01\text{m}$ 、3回目拡張で $8.02 \times 6.65\text{m}$ を測る。主軸方位: N-30°-E。壁高: 46.2~64.3cmを測り、70°前後の角度で立ち上がる。壁溝: 住居を建てた後、1度縮小が行われる。その後拡張を繰り返しているため、最大で5重の壁溝が確認できる。縮小は元の住居の主軸に対し一部壁溝が北方向に移動しているが、住居の主軸に対し東西方向へ拡張していく。特に西側への拡張が多く4本の壁溝が確認できる。元の住居の壁溝は上幅 15.6~32.1cm・下幅 1.7~19.3cm・深さ 11.0~21.3cm、縮小部分上幅 13.5~30.3cm・下幅 3.2~16.7cm・深さ 5.4~12.9cm、1回目拡張部分上幅端 14.0~25.1cm・下幅 5.6~13.1cm・深さ 5.8cm~20.7cm、2回目拡張部分上幅 16.3~22.8cm・下幅 6.3~11.3cm・深さ 10.9~17.6cm、3回目拡張部分上幅 10.9~48.9cm・下幅 4.7~26.0cm・深さ 6.0~26.0cmを測る。床面: 一部焼土範囲が確認できる。炉: 石囲い炉の炉1と埋甕炉の炉2が隣接して検出された。炉1は炉2を切っている。それぞれがどの縮小・拡張段階に伴うかは断定できない。炉2は住居のやや北寄りに位置し、炉1は住居中央のやや東よりに位置することになる。炉1は周囲に礫が配された不整円形の石囲炉である。 $57.3 \times 51.4\text{cm}$ の焼土範囲が確認でき、 $125.8 \times 116.8\text{cm}$ 、深さ 11.2cmを測る。炉2は炉1に先行する不整円形の埋甕炉である。 $28.6 \times 22.5\text{cm}$ の焼土範囲が確認できる。炉2には深鉢形土器の上半

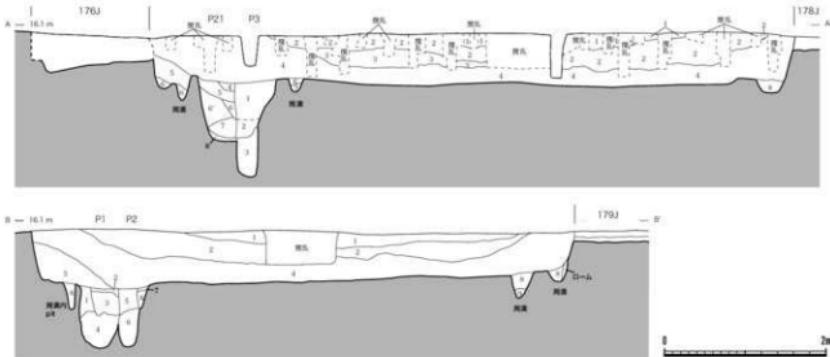


第13図 174号住居跡1 (1 / 60)



174号住居跡全景(東より)

174号住居跡全景(南より)



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を少額。径 1 ~ 2 mm の堆土粒を微量。径 1 ~ 2 mm の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性弱い。  
 2 黒褐色土 (10YR3/2) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を少額。径 1 ~ 2 mm の堆土粒を微量。径 1 ~ 2 mm の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性弱い。1 層よりやや明るい。  
 3 黒褐色土 (10YR3/3) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を少額。径 1 ~ 3 mm の堆土粒を少額。径 1 ~ 3 mm の炭化粒を少額含む。しまり強く、粘性あり。  
 4 黒褐色土 (10YR3/3) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 1 ~ 3 mm の堆土粒を少額。径 1 ~ 3 mm の炭化粒を少額含む。しまり強く、粘性あり。  
 5 黒褐色土 (10YR3/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 1 ~ 2 mm の堆土粒を少額。径 1 ~ 2 mm の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。4 層よりやや明るい。  
 6 黑褐色土 (10YR3/4) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量。径 1 ~ 2 mm の堆土粒を微量含む。しまり・粘性あり。圓溝覆土。  
 7 黑褐色土 (10YR3/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 1 mm の堆土粒を少額。径 1 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。圓溝覆土。  
 8 黑褐色土 (10YR3/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を少額。径 5 ~ 10 mm のロームブロックを微量。径 1 ~ 2 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。圓溝覆土。  
 9 黑褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を微量。径 5 ~ 10 mm のロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。圓溝覆土。

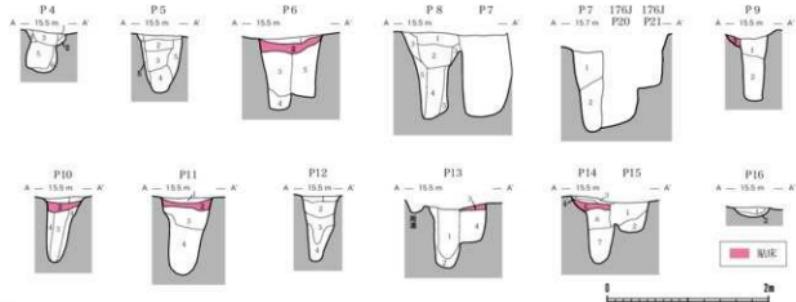
- P1・P2  
 1 黑褐色土 (10YR3/3) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を少額。径 5 ~ 10 mm のロームブロックを少額含む。しまり・粘性あり。上部はやや暗く周囲か? 壁土に転用含む。P1 と同等。  
 2 黑褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 5 ~ 20 mm のロームブロックを少額。径 1 mm の堆土粒を微量。径 1 ~ 2 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。P1  
 3 黑褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 1 mm の堆土粒を微量。径 1 mm の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 4 黑褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。  
 5 黑褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 5 ~ 20 mm のロームブロックを少額。径 1 mm の堆土粒を微量。径 1 mm の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 6 黑褐色土 (10YR3/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 5 ~ 10 mm のロームブロックを少額。径 1 mm の堆土粒を微量。径 1 mm の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 7 黑褐色土 (10YR3/4) P2 壁土。径 1 ~ 3 mm のローム粒を少額。径 10 ~ 15 mm のロームブロックを微量。径 1 mm の堆土粒を微量。径 1 ~ 2 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
 8 黑褐色土 (10YR4/4) P2 壁土。径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 10 ~ 20 mm のロームブロックを多量含む。柱穴あたり腐む。

第14図 174号住居跡2 (1/60)



174号住居跡Aセクション(南より)

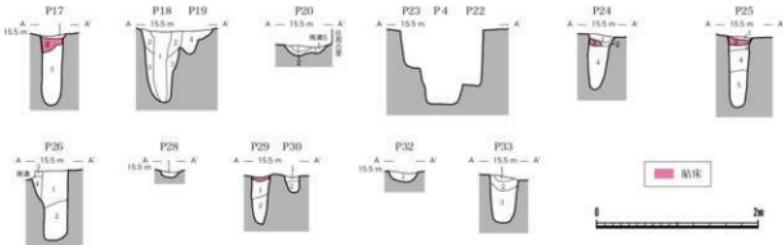
174号住居跡Bセクション(東より)



- P4  
1 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を少額、稚5~10mmのロームブロックを微量、稚1~2mmの砂土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。面積2等。
- 2 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmの砂土粒を少額含む。稚10~20mmのロームブロックを少額含む。しまり強く、粘性あり。
- 3 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~10mmのロームブロックを微量、稚1~2mmの砂土粒を微量含む。稚1~2mmのローム化粧粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 黄褐色土 (10YR5/4) 稚1~3mmのローム粒を少額、稚10~30mmのロームブロックを多額含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 増褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 6 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- P5  
1 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚1~2mmの砂土粒を微量、稚1~2mmの砂土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。取く崩つていてるが粒度の様なロームブロックはない。
- 2 增褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚5~10mmのロームブロックを微量、稚1~2mmのローム化粧粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 3 増褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 4 増褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~10mmのローム粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 5 黄褐色土 (10YR4/6) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~30mmのロームブロックを少額含む。しまり強く、粘性あり。
- P6  
1 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~10mmのロームブロックを微量、稚1~3mmの砂土粒を微量。稚1~2mmのローム化粧粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 黄褐色土 (10YR5/6) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~30mmのロームブロックを多額含む。砂土。
- 3 増褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~30mmのロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 4 増褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を多額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 5 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~20mmのロームブロックを多額含む。しまり強く、粘性あり。
- P7  
1 黄褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を少額、稚5~10mmのロームブロックを少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 黄褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 3 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を少額、稚5~10mmのローム粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 4 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- P8  
1 増褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚10~20mmのロームブロックを微量。稚1~2mmの砂土粒を微量。稚1~3mmの砂土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 増褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を少額、稚5~20mmのロームブロックを少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 3 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚10~20mmのロームブロックを多額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 4 増褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 5 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚10~30mmのロームブロックを多額含む。しまり弱く、粘性あり。

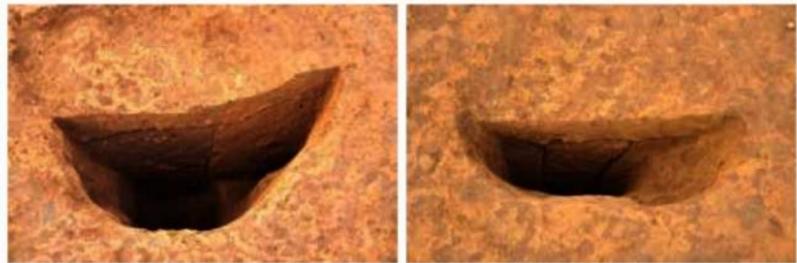
- P9  
1 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~10mmのロームブロックを少額、稚1~2mmの砂土粒を微量。稚1~3mmのローム化粧粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- P10  
1 黄褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚1~2mmの砂土粒を少額含む。しまり・粘性あり。
- 2 黄褐色土 (10YR5/6) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- P11  
1 黄褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚1~2mmの砂土粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- P12  
1 黄褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚1~2mmの砂土粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- P13  
1 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚1~2mmの砂土粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 黄褐色土 (10YR5/6) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 3 黄褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚1~2mmの砂土粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 4 黄褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚5~30mmのロームブロックを少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- P14  
1 増褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~10mmのロームブロックを少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 増褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 3 増褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚1~2mmの砂土粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 4 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚1~2mmの砂土粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- P15  
1 増褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を多額、稚5~10mmのロームブロックを少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 増褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 3 増褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚1~2mmの砂土粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 4 黄褐色土 (10YR4/4) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。稚1~2mmの砂土粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) 稚1~3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- P16  
1 増褐色土 (10YR3/3) 稚1~3mmのローム粒を少額、稚1~2mmの砂土粒を微量。稚1~3mmのローム化粧粒を少額含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 増褐色土 (10YR3/4) 稚1~3mmのローム粒を少額、稚5~10mmのロームブロックを多額含む。しまり弱く、粘性あり。

第15図 174号住居跡3 (1/60)



- P17  
 1 噴褐色土 (10YR4/4) 176JP19の1層と同等。  
 2 黄褐色土 (10YR5/6) 貼床。P16の2層と同等。  
 3 噴褐色土 (10YR3/3) 層1～3mmのローム粒を多量、層5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり弱く・粘性あり。P14の4層に似る。
- P18・P19  
 1 噴褐色土 (10YR3/3) P18覆土。層1～3mmのローム粒を多量、層5～10mmのロームブロックを微量含む。層1～2mmの燒土粒を少量、層1～3mmの炭化粒を少量含む。しまり弱く・粘性あり。  
 2 黄褐色土 (10YR4/4) P18覆土。層1～3mmのローム粒を多量、層5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり弱く・粘性あり。  
 3 噴褐色土 (10YR3/3) P18覆土。層1～3mmのローム粒を多量、層5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり弱く・粘性あり。  
 4 黄褐色土 (10YR4/4) P19覆土。層1～3mmのローム粒を多量、層5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり弱く・粘性あり。
- P20  
 1 噴褐色土 (10YR3/4) 層1～3mmのローム粒を少量含む。しまり弱く・粘性強い。  
 2 黄褐色土 (10YR3/4) 層1～3mmのローム粒を多量、層5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり弱く・粘性強い。
- P24  
 1 噴褐色土 (10YR3/4) 層1～3mmの燒土粒を少量含む。しまり弱く・粘性あり。
- P25  
 1 噴褐色土 (10YR3/4) 層1～3mmのローム粒を少額。層1～2mmの燒化粒を微量含む。しまり弱く・粘性あり。  
 2 黄褐色土 (10YR3/3) 層1～3mmのローム粒を多量、層5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり弱く・粘性あり。  
 3 噴褐色土 (10YR3/4) 層1～3mmのローム粒を多量、層5～10mmのロームブロックを多量含む。しまり弱く・粘性強い。層5～15mmのロームブロックを多量含む。しまり弱く・粘性あり。
- P26  
 1 噴褐色土 (10YR3/4) 層1～3mmのローム粒を多量、層1～3mmの燒土粒を微量含む。しまり弱く・粘性あり。  
 2 黄褐色土 (10YR3/3) 層1～3mmのローム粒を少額含む。しまり弱く・粘性あり。  
 3 烧土 (10YR4/4) 層1～3mmのローム粒を少額含む。層10～30mmのロームブロックを多量含む。しまり強く・粘性あり。
- P28  
 1 噴褐色土 (10YR3/3) 層1～3mmのローム粒を多量、層1～3mmの燒土粒を少量含む。層1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり弱く・粘性あり。
- P30  
 1 噴褐色土 (10YR3/3) 層1～3mmのローム粒を多量、層1～3mmの燒土粒を少量含む。しまり弱く・粘性あり。
- P32  
 1 噴褐色土 (10YR3/3) 層1～3mmのローム粒を多量、層5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり弱く・粘性あり。
- P33  
 1 噴褐色土 (10YR3/3) 層1～3mmのローム粒を多量、層1～3mmの燒土粒を微量含む。しまり弱く・粘性あり。

第16図 174号住居跡4（1／60）



174号住居跡P6貼床下セクション (東より)

174号住居跡P10貼床下セクション (南より)

部が埋設されている。炉体土器（103）は176Jのピットを利用して、埋設したものである。107.9×不明cm、深さ14.0cmを測る。柱穴：縮小、拡張に伴い2回の柱の立て替えが考えられる。立て替え前の主柱穴はP6南側・10・14・17・25・27、縮小による立て替え後の主柱穴はP6北側、10・14・17・24・29、拡張による立て替え後の主柱穴はP1・2・3・4・8・9・12・13・18・21と思われる。

【埋 粿】住居南壁周溝付近のP27・31から出土した。東側に位置するP31は49.8×38.9cm、深さ35.2cmの楕円形の掘り込みを持ち、深鉢形土器の上半部（438）が埋設している。住居が建てられた当初から3回目の柱の建て替えが行われるまでの時期に帰属すると思われる。西側に位置するP27は、住居が建てられた際柱穴として使用されたものの南側を若干掘り直し、深鉢形土器の上半部（282）を埋設したものである。56.9×38.4cm、深さ36cmを測る。一番内側の周溝に切られているため、住居が建てられた当初から縮小されるまでの時期に帰属すると思われる。覆土からは土器片が複数出土し、うち16点は同一個体（282）として接合している。

【覆 土】9層。

【遺 物】2点の埋糞、炉2に埋設されていた埋糞のほか、覆土中から非常に多量に出土した。また、炉2の炉体土器の覆土中からは獸骨と思われる骨片が検出されている。出土位置が判明している土器は4,732点であり、うち五領ヶ台式1点、阿玉台式161点、勝坂式358点、曾利式228点、加曾利

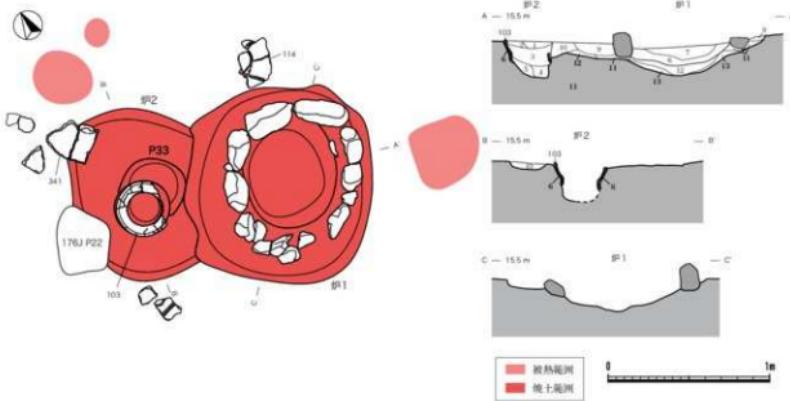


図1・2

- 1 布赤色土（10YR3/4）径1～2mmのローム粒を少量。径1～2mmの燒土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 赤色土（10YR4/4）径1～3mmのローム粒を少量。径1～3mmの燒土粒を少量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 3 布赤色土（2.5YR3/2）径1～3mmのローム粒を少量。径10～20mmのロームブロックを少量。径1～2mmの燒土粒を多量含む。しまり・粘性あり。上面にロームブロック跡跡の一部が現れる。骨片混入。
- 4 布赤色土（2.5YR3/2）径1～3mmのローム粒を多量。径5～10mmのロームブロックを少量。径1～2mmの燒土粒を多量含む。しまり・粘性弱い。
- 5 赤色土（10YR4/4）径1～3mmのローム粒を少量。径10～50mmのロームブロックを少量。径1～3mmの燒土粒を少量含む。しまり強く、粘性弱い。
- 6 明赤色土（10YR5/6）径1～3mmの燒土粒を多量含む。しまり強く、粘性弱い。
- 7 布赤色土（10YR3/3）径1～3mmのローム粒を少量。径1～3mmの燒土粒を少量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 8 布赤色土（10YR3/3）径1～3mmのローム粒を少量。径1～3mmの燒土粒を多量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 9 布赤色土（10YR3/4）径1～3mmのローム粒を微量。径1～3mmの燒土粒を多量。径10mmの燒土ブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。崩れ方。
- 10 赤色土（10YR4/4）径1～3mmのローム粒を多量。径10～20mmのロームブロックを多量。径1～2mmの燒土粒を微量含む。径5～10mmの燒土ブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 11 赤色土（10YR4/4）径1～3mmのローム粒を少量。径5～10mmのロームブロックを微量。径1～3mmの燒土粒を少量含む。しまりあり、粘性弱い。崩れ方。
- 12 明赤色土（5YR5/8）径1～3mmの燒土粒を多量。径10～30mmの燒土ブロックを多量含む。しまり強く、粘性なし。崩れ方。
- 13 明黄褐色土（10YR6/6）径1～3mmのローム粒を多量。径5～20mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性なし。被熱ロームブロック。

第17図 174号住居跡炉（1／30）



174号住居跡炉1・2検出状況（南より）



174号住居跡炉1・2全景（南より）



174号住居跡炉1セクション（南より）



174号住居跡炉2セクション下部（南より）

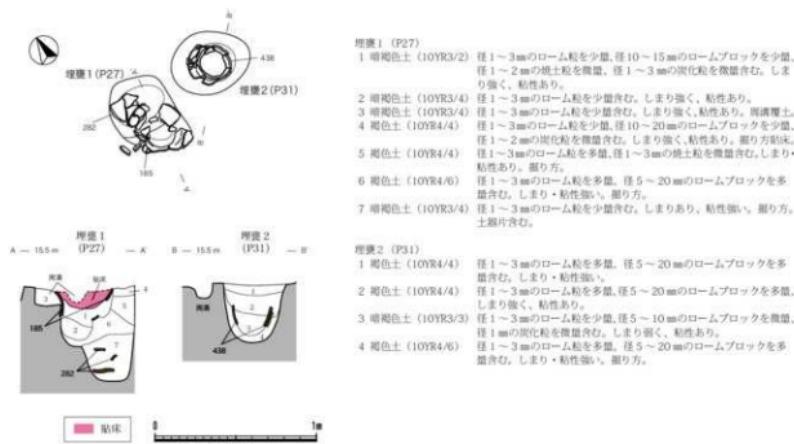


174号住居跡炉周辺遺物出土状態（西より）



174号住居跡炉2骨片出土状態（南より）

E式 2,066点、連弧文 277点、土器片錐 10点、土製円盤 11点、不明土製品 2点である。出土した石器の総点数は 471 点、31,275.0g で、器種の内訳は、石鏃 2点、石鏃未製品 1点、楔形石器 12点、両極剥片 4点、石錐 1点、二次的剥離のある剥片 16点（剥片石器系石材 4点、打製石斧系石材 12点）、不規則剥離のある剥片 7点（剥片石器系石材 5点、打製石斧系石材 2点）、剥片 69点（剥片石器系石材 40点、打製石斧系石材 27点、磨製石斧系石材 1点、礫石器系石材 1点）、調整剥片 70点（剥片石器系石材 52点、打製石斧系石材 16点、磨製石斧系石材 2点）、碎片 55点（剥片石器系石材 18点、打製石斧系石材 24点、磨製石斧系石材 3点、礫石器系石材 10点）、石核 3点（剥片石器系石材）、打製石斧 84点、横刃形石器 3点、磨製石斧 3点、磨石 8点、敲石 79点、砥石 2点、石皿 4点、軽石 2点、凹石 2点、線刻礫 1点、片岩製石器 43点、石材の内訳は、黒曜石 126点、チャート 17点、頁岩 1点、



第18図 174号住居跡埋蔵 (1 / 30)



174号住居跡埋蔵1・2 (P27・31) 全景 (東より)

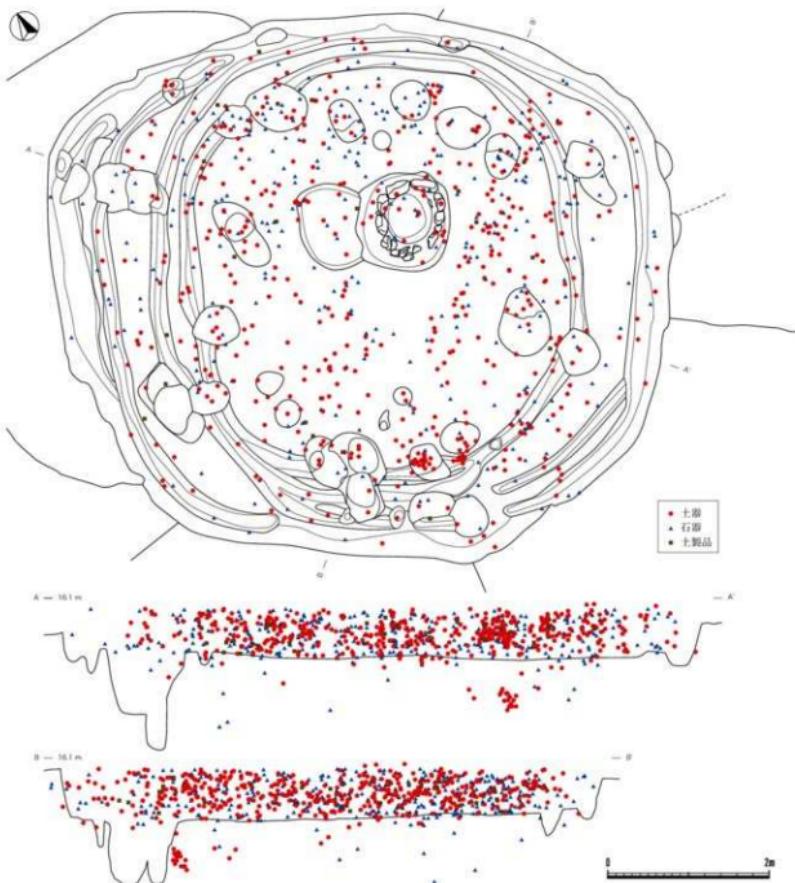
174号住居跡埋蔵1 (P27) Aセクション (東より)



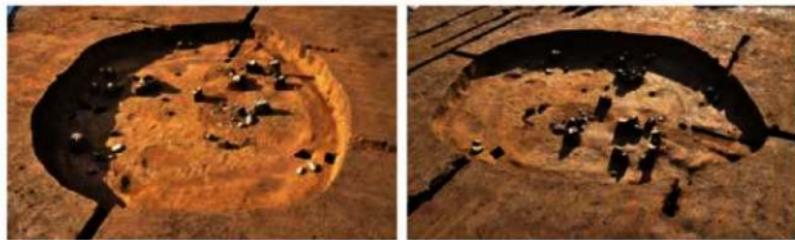
174号住居跡埋蔵2 (P31) Bセクション (東より)



174号住居跡被熱範囲

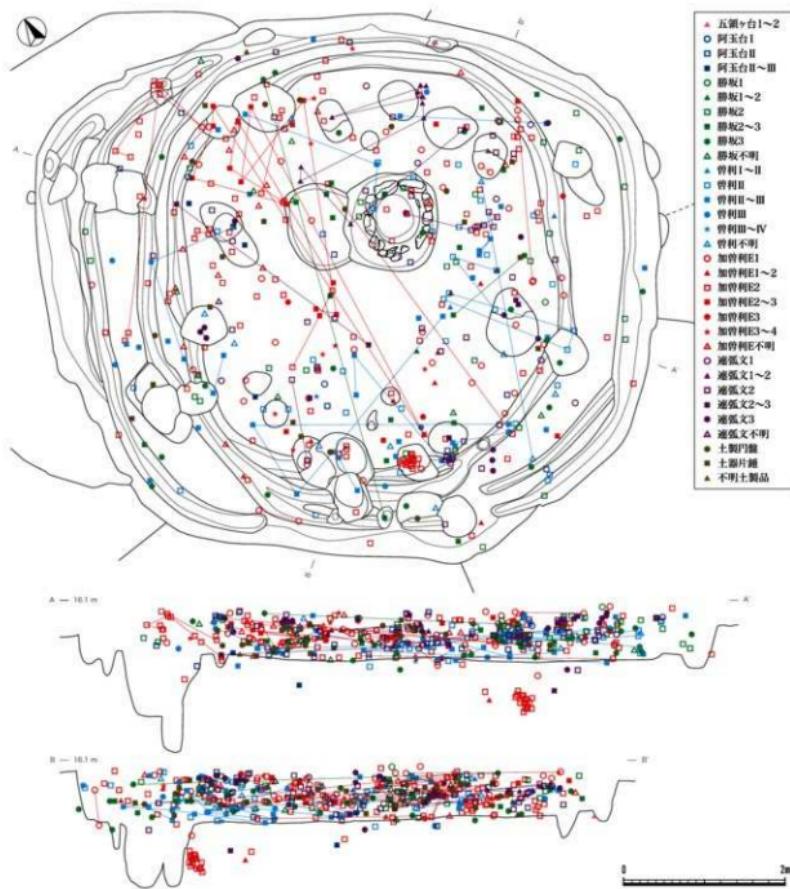


第19図 174号住居跡遺物出土状態（1／60）

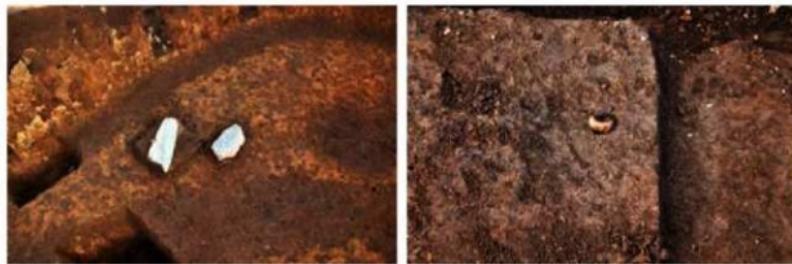


174号住居跡遺物出土全景（東より）

174号住居跡遺物出土全景（北より）

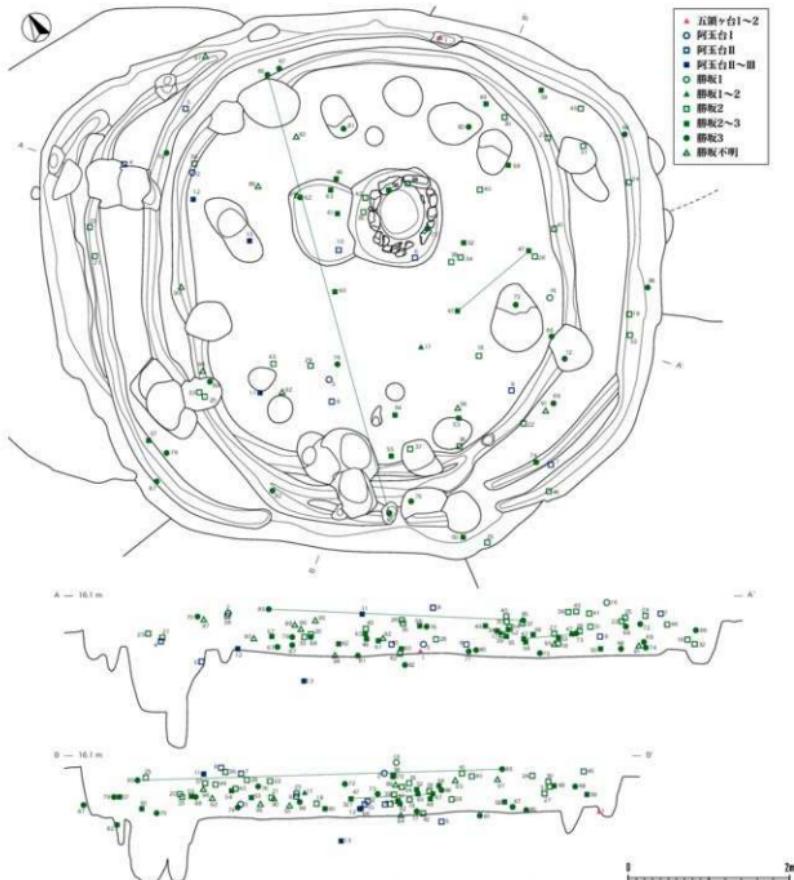


第20図 174号住居跡土器出土状態1 (1/60)



174号住居跡遺物出土状態(西より)

174号住居跡製品出土状態(東より)

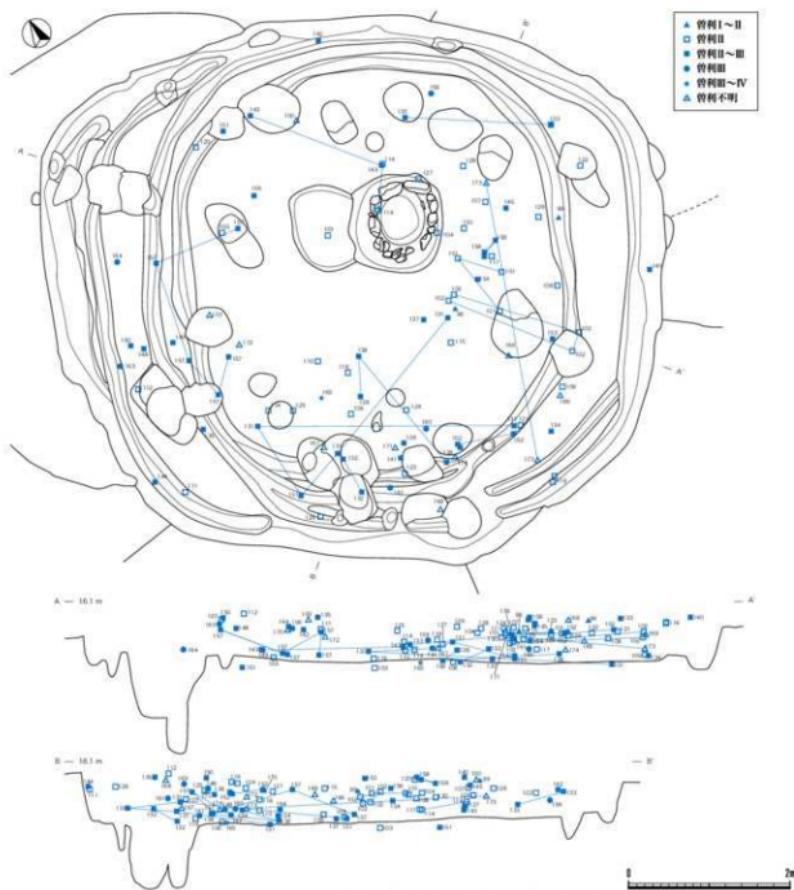


第21図 174号住居跡土器出土状態2 (1/60)



174号住居跡遺物出土状態

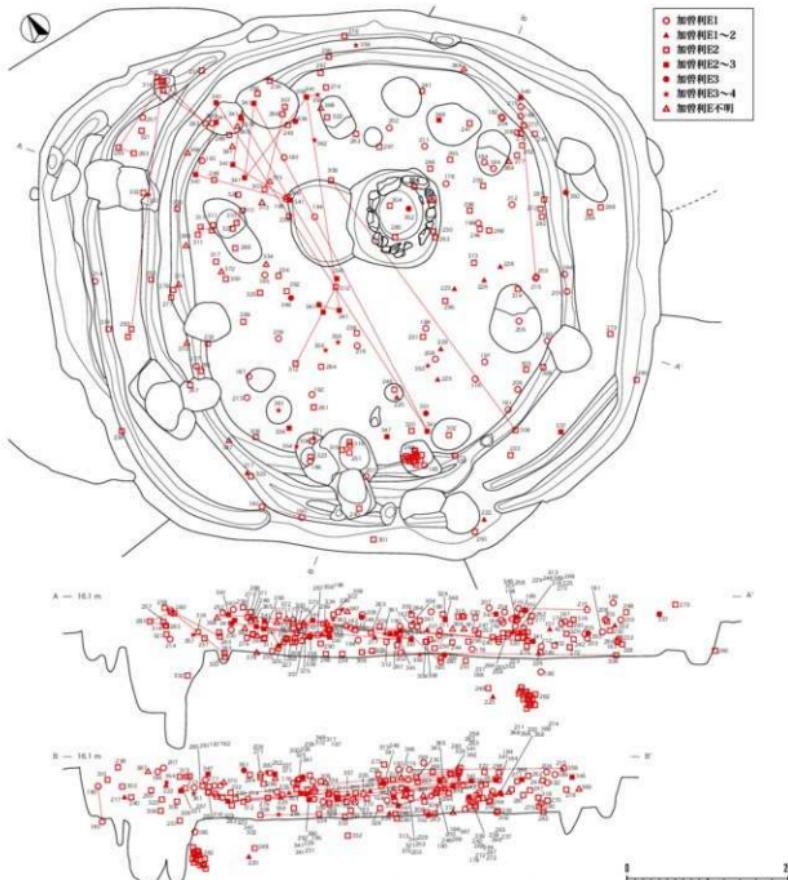
174号住居跡遺物出土状態(西より)



174号住居跡遺物出土状態（西より）



174号住居跡遺物出土状態



第23図 174号住居跡土器出土状態 4 (1 / 60)



174号住居跡遺物出土状態



174号住居跡遺物出土状態



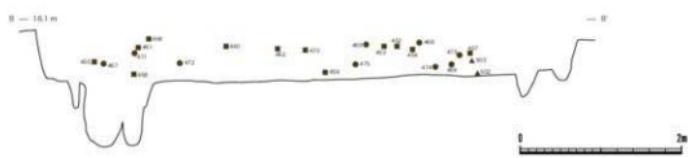
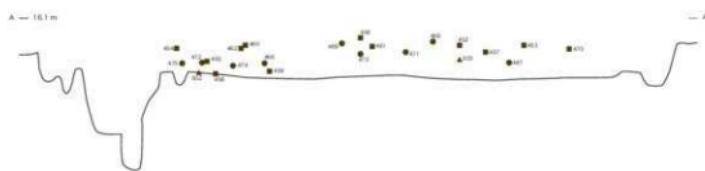
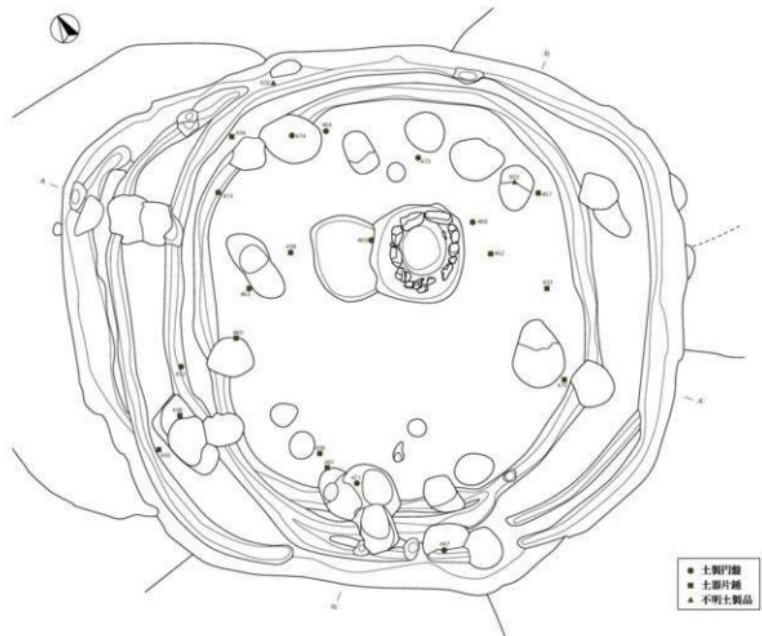
第24図 174号住居跡土器出土状態5 (1/60)



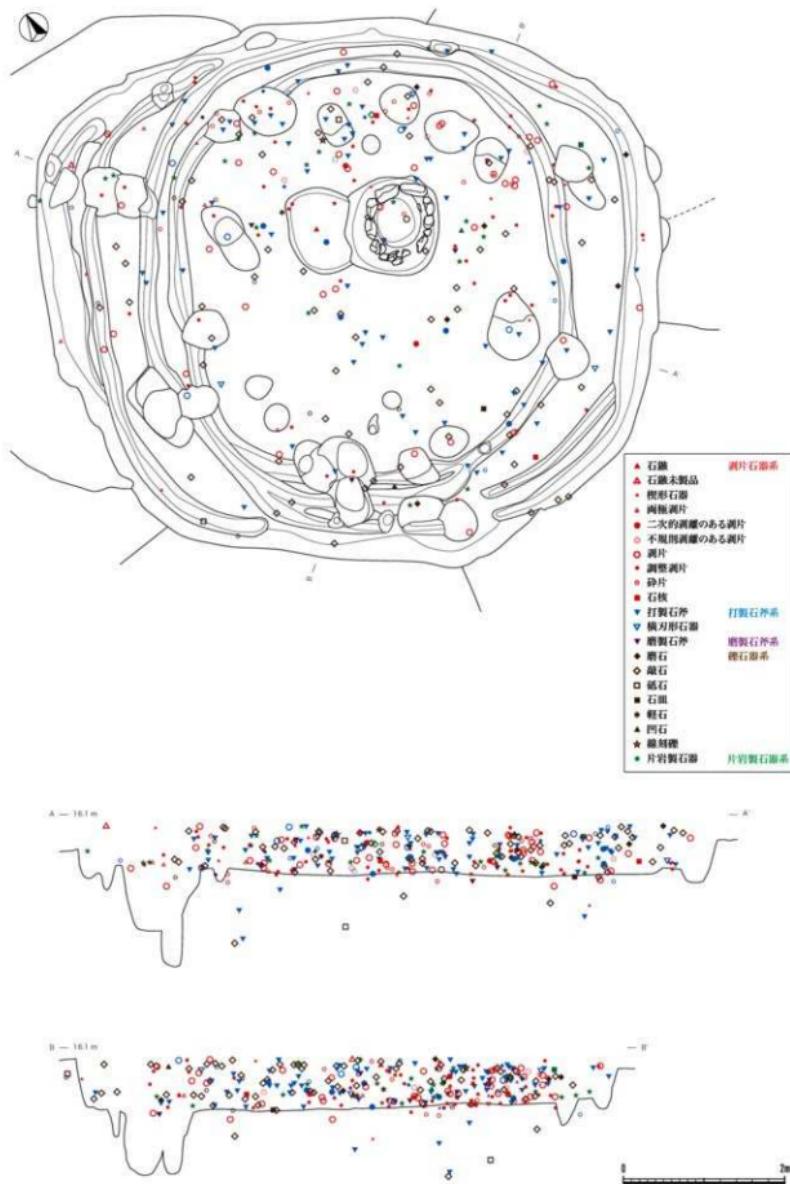
174号住居跡遺物出土状態



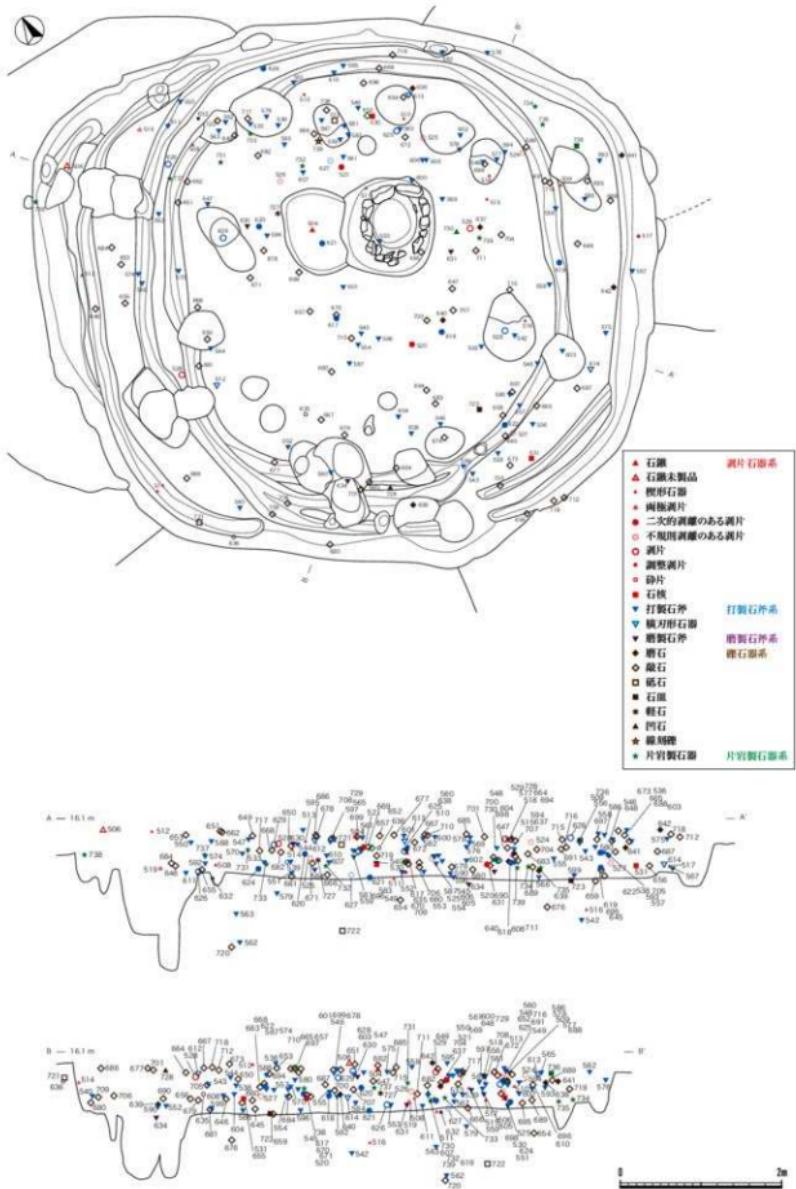
174号住居跡遺物出土状態



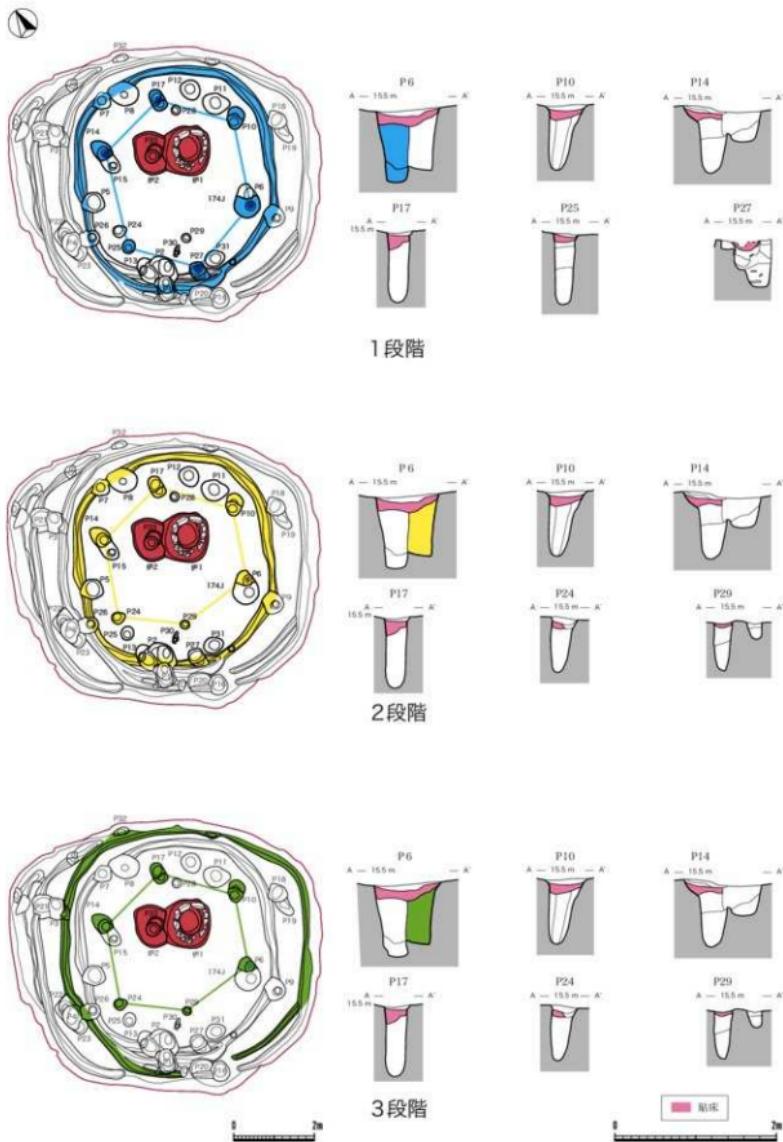
第25図 174号住跡土製品出土状態（1／60）



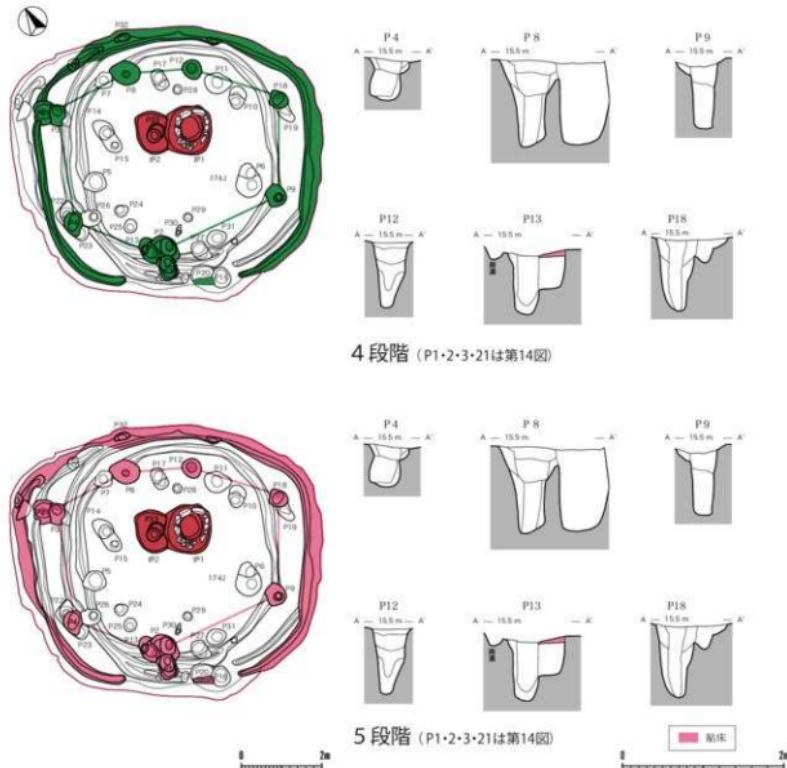
第26図 174号住居跡石器出土状態1 (1/60)



第27図 174号住居跡石器出土状態2 (1/60)



第28図 174号住居跡変遷図1 (1/120・1/60)



第29図 174号住居跡変遷図2 (1/120・1/60)

硬質頁岩1点、ガラス質黒色安山岩1点、ホルンフェルス86点、砂岩151点、片状砂岩1点、細粒凝灰岩1点、凝灰岩16点、緑色岩2点、安山岩9点、閃綠岩9点、ハンレイ岩1点、砂質片岩10点、緑泥片岩24点、結晶片岩13点、安山岩質火山弾2点である。

[時期] 加曾利E 1～E 3式期。

[備考] 3回目の柱の建て替えより前のピットは貼床により閉塞されており、検出時には僅かに窪んでいたことが確認されている。そのことから、3回目の柱の建て替え後の貼床の厚さは6cm前後と推測される。

#### 遺物 (第30～60図、第10～25・42～48表)

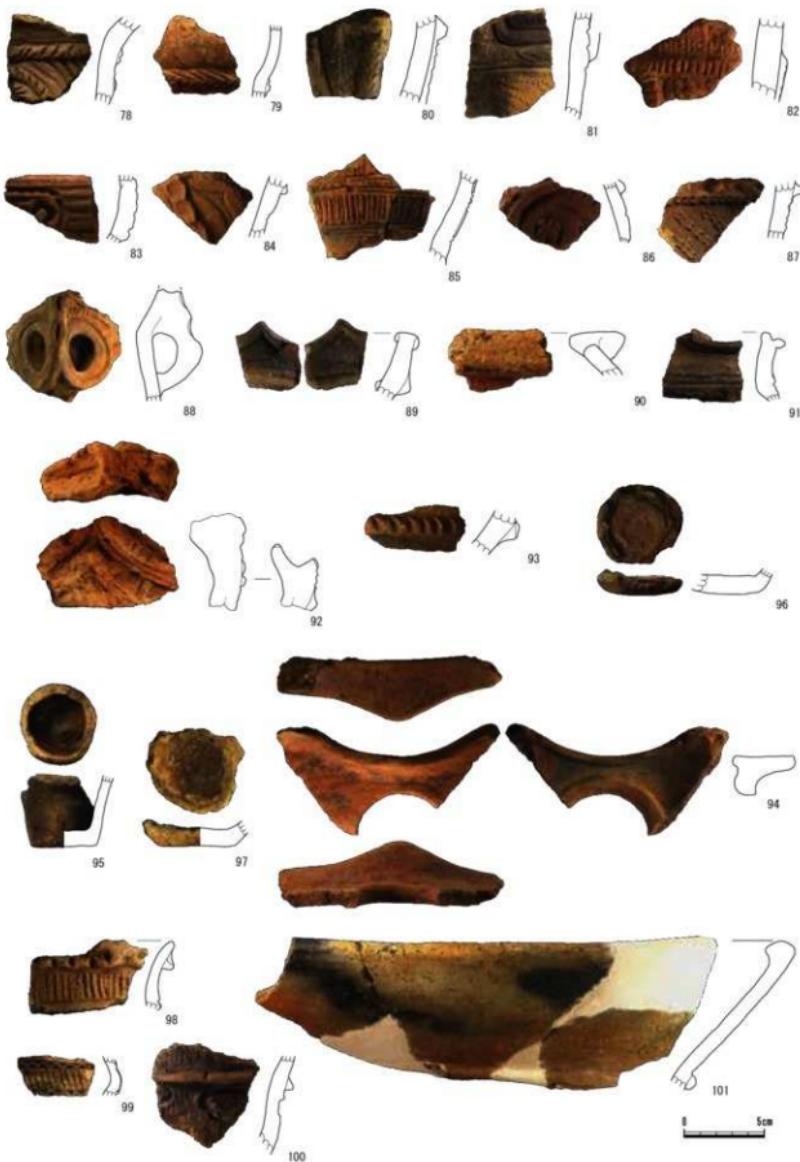
五領ヶ台式(1)、阿玉台式(2～15)、勝坂式(16～97)、曾利式(98～175)、加曾利E式



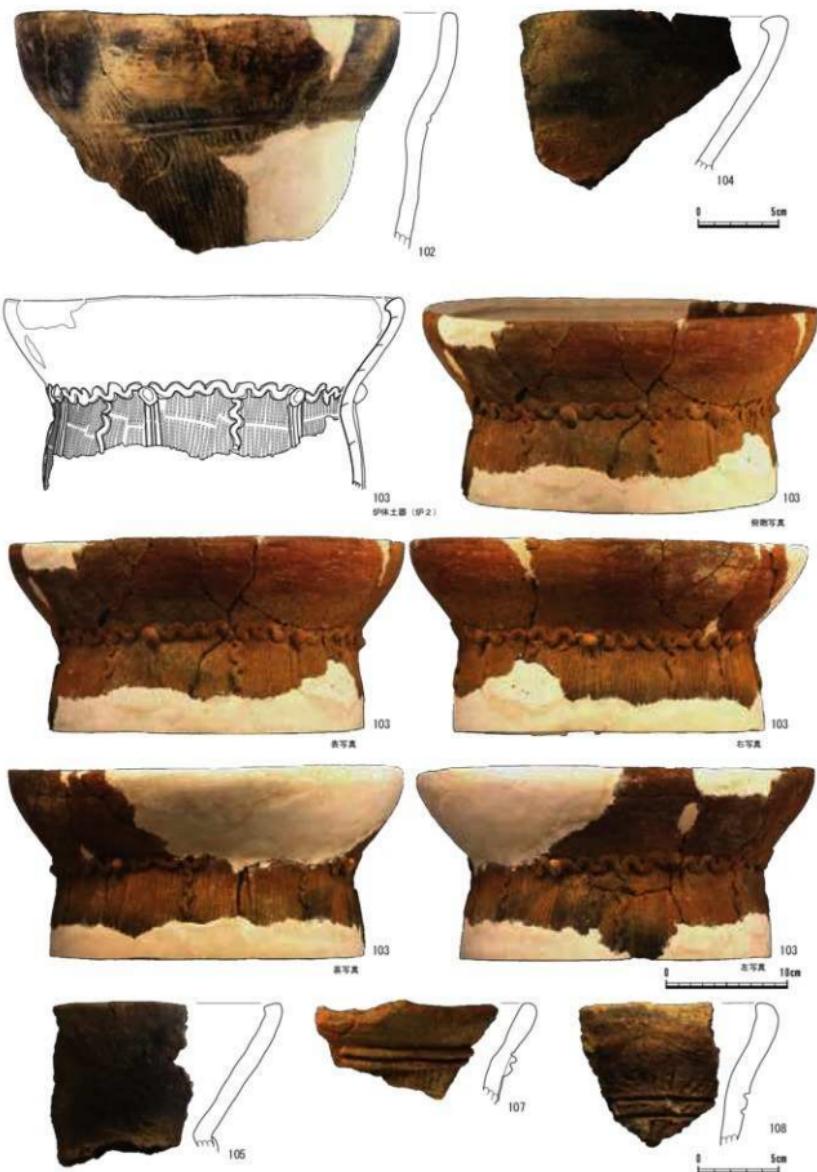
第30図 174号住居跡出土土器1 (1/3)



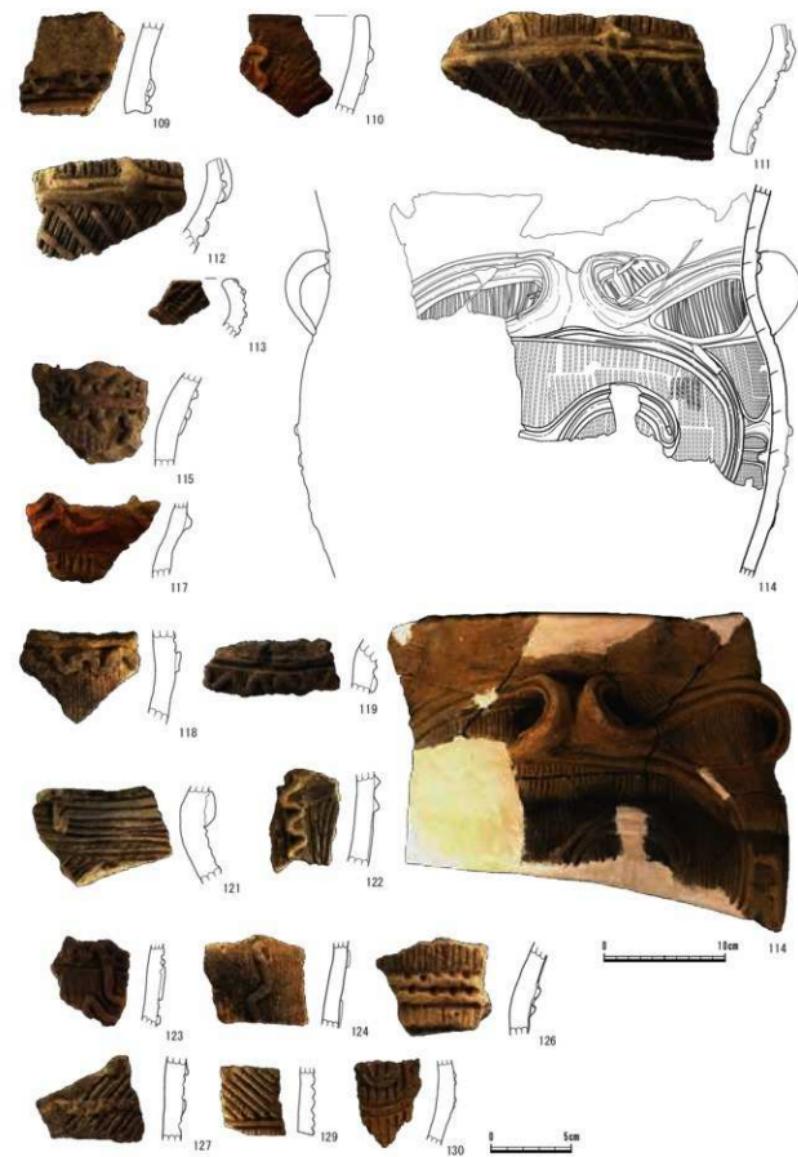
第31図 174号住居跡出土土器2 (1/3)



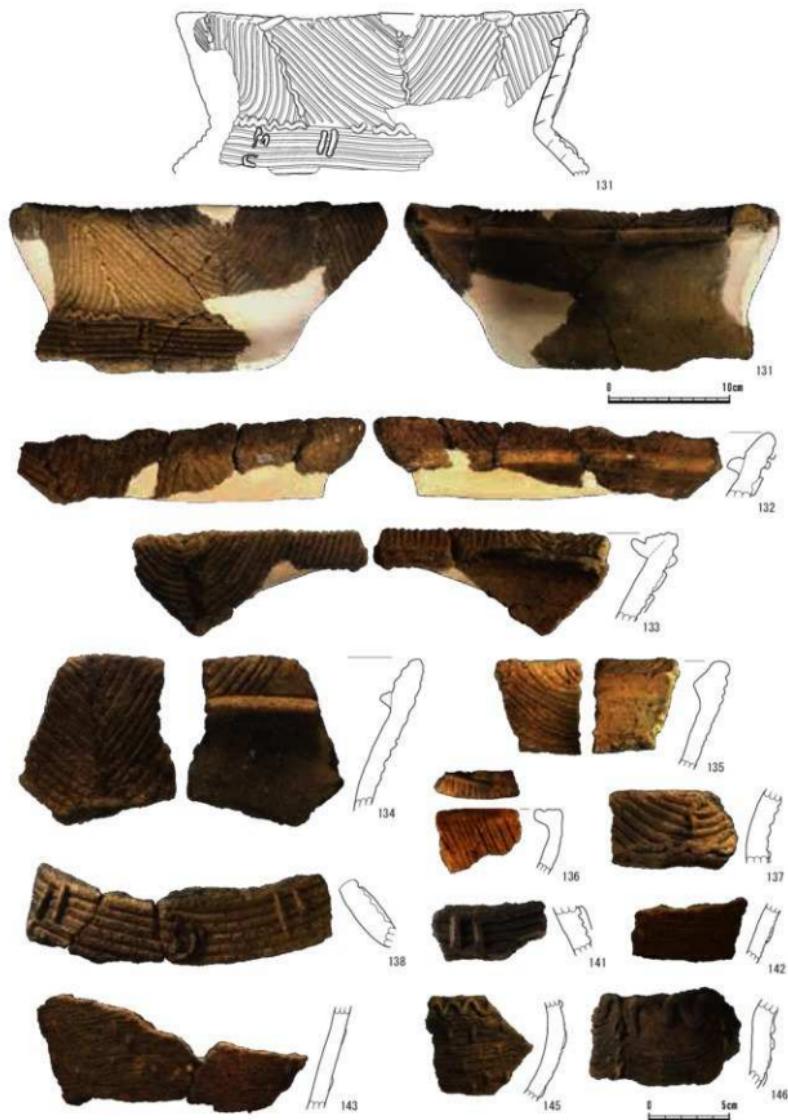
第32図 174号住居跡出土土器3 (1/3)



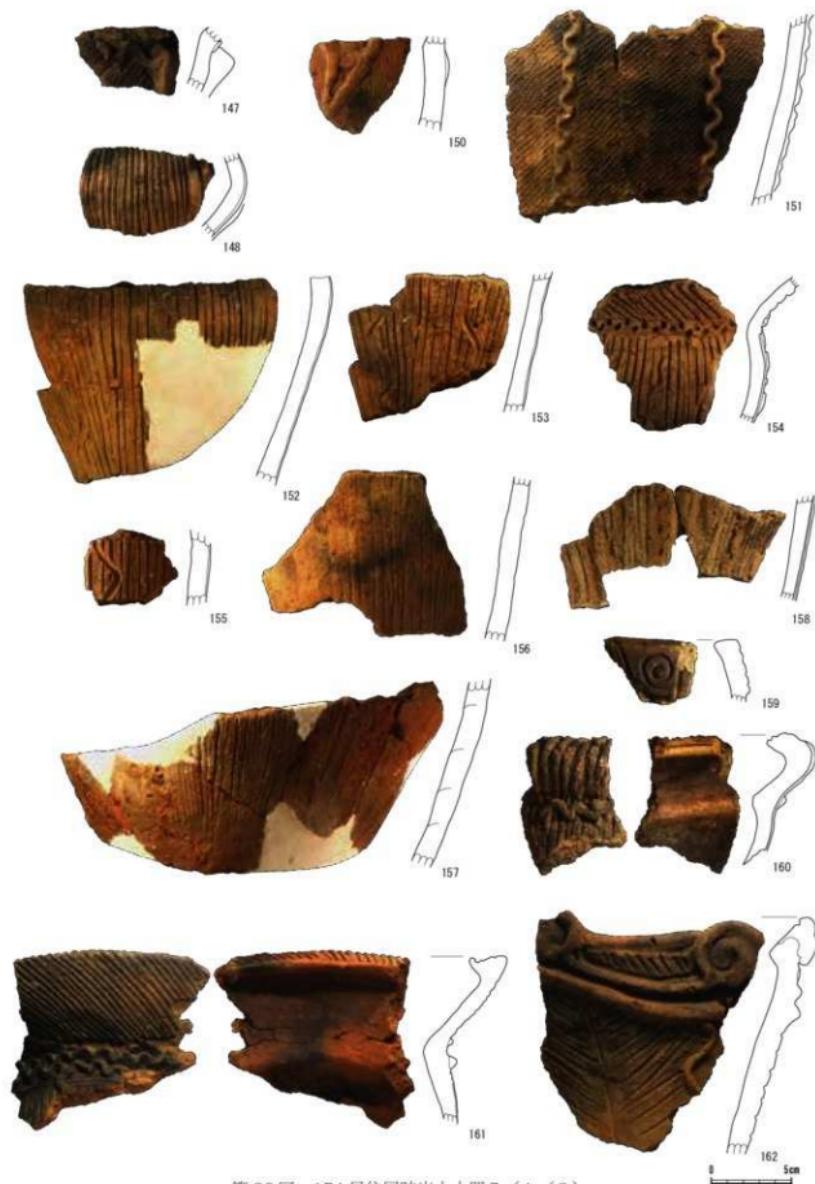
第33図 174号住居跡出土土器4 (1/4・1/3)



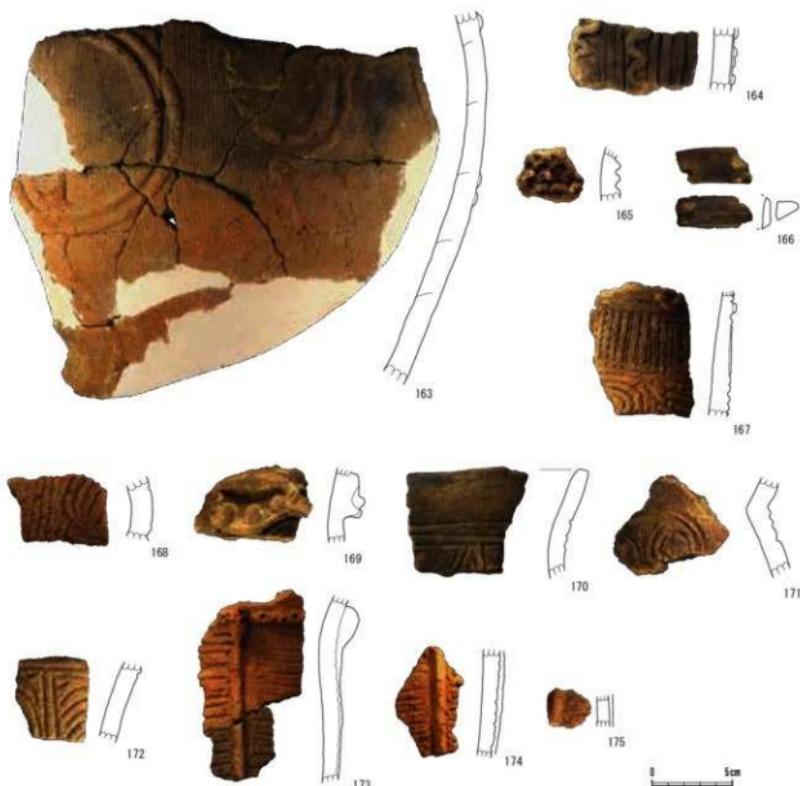
第34図 174号住居跡出土土器5 (1/4・1/3)



第35図 174号住居跡出土土器6 (1/4・1/3)

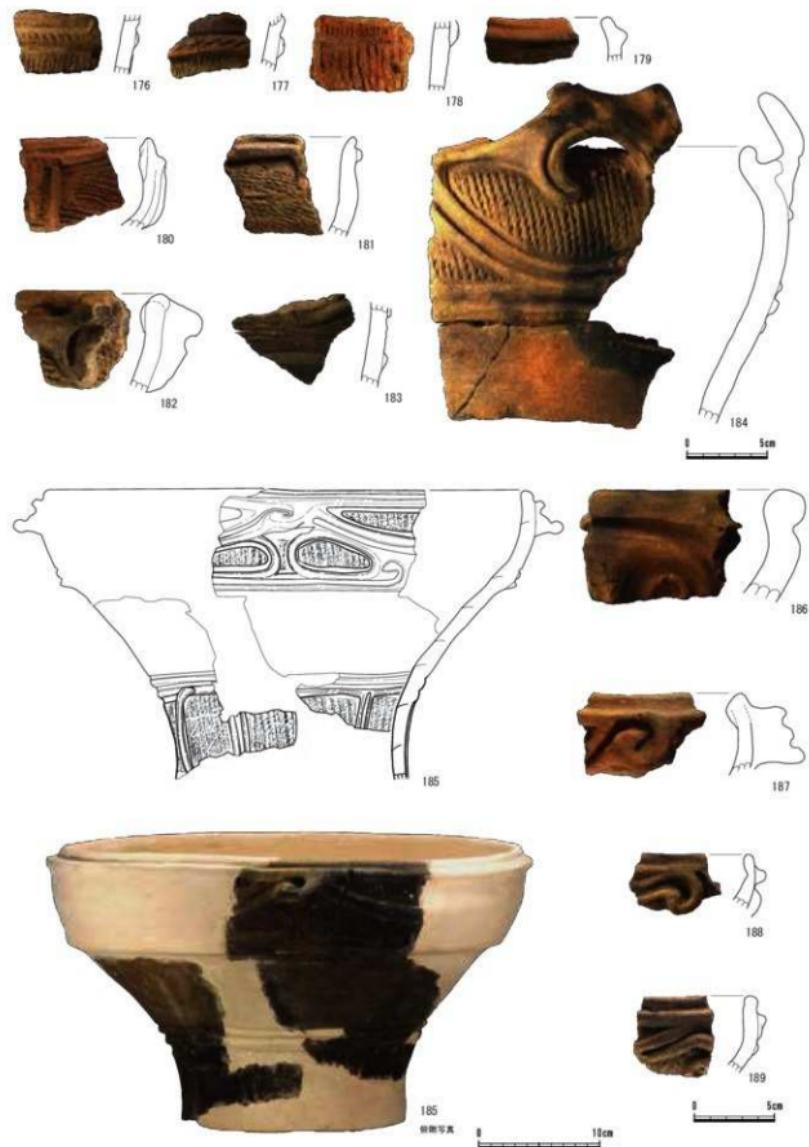


第36図 174号住居跡出土土器7 (1/3)

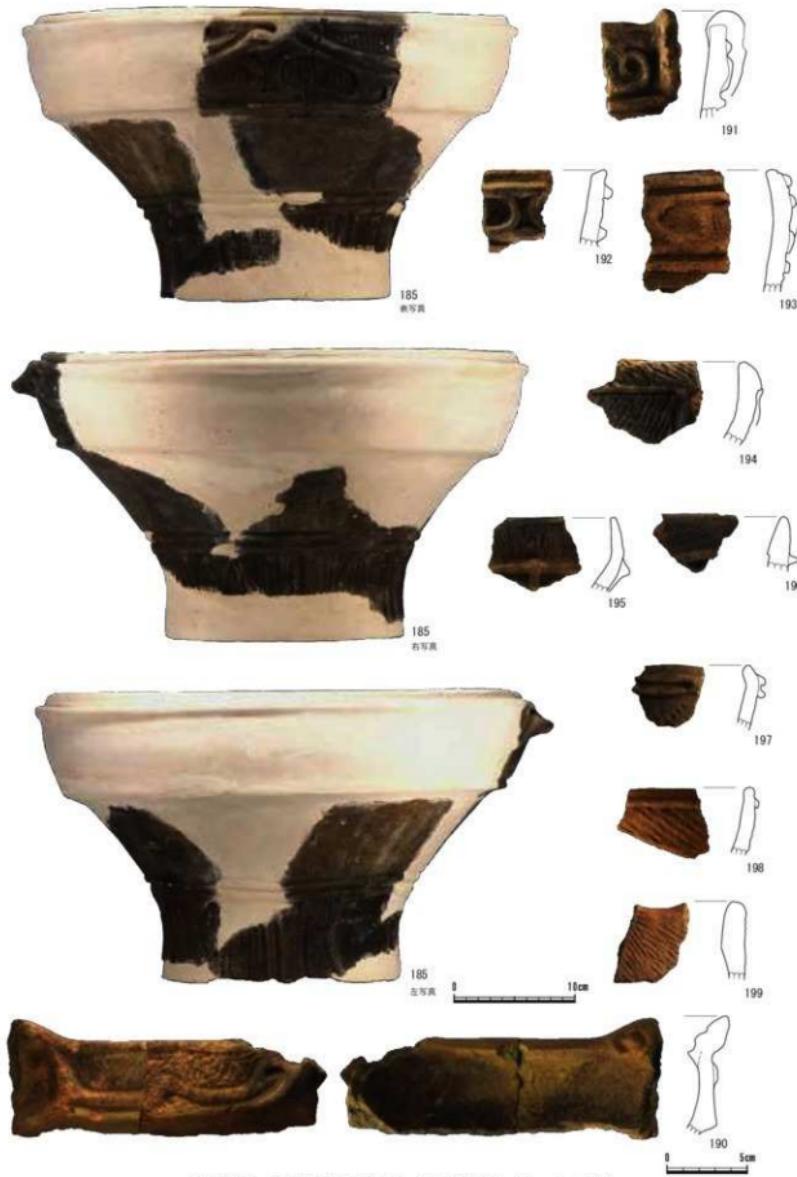


第37図 174号住居跡出土土器8 (1/3)

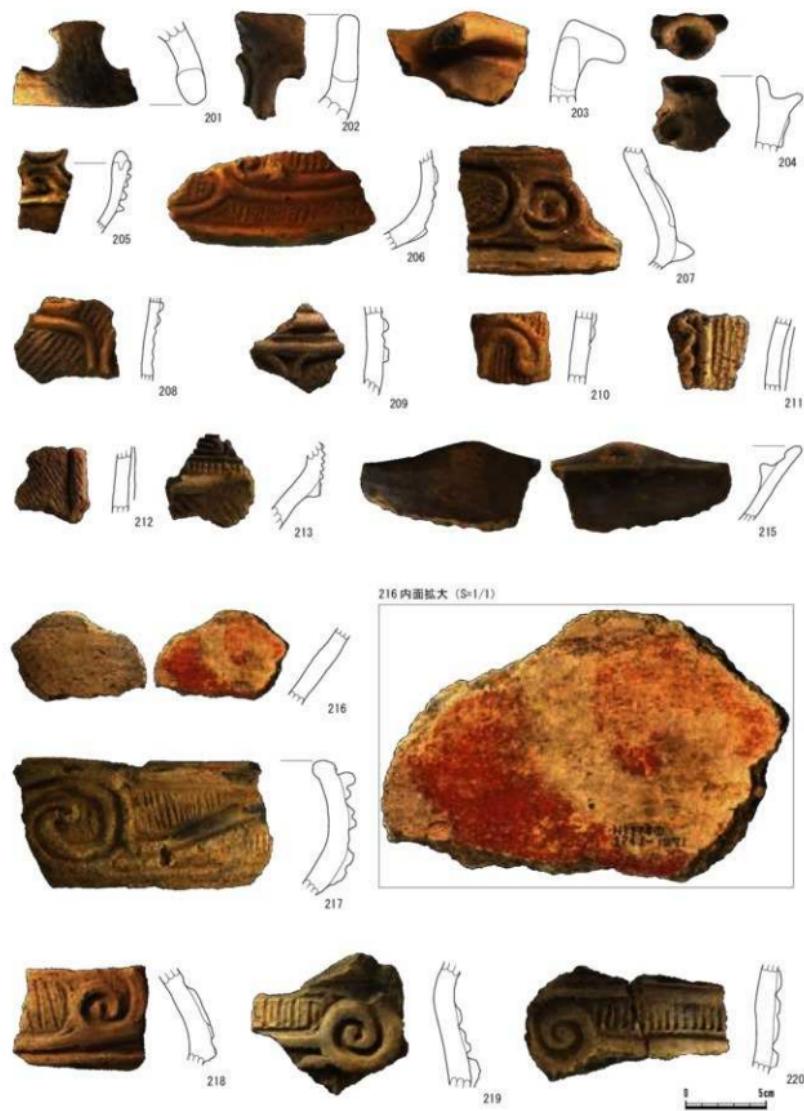
(176～393)、連弧文 (394～450)、称名寺式 (451)、土器片錐 (452～465)、土製円盤 (466～501)、不明土製品 (502～503)、石鋸 (504～505)、石鋸未製品 (506)、石錐 (507)、楔形石器 (508～518)、両極剥片 (519)、二次的剥離のある剥片 (520～523)、不規則剥離のある剥片 (524～527)、剥片 (削片石器系: 528～529)、石核 (530～532)、打製石斧 (533～611)、横刃形石器 (612～614)、二次的剥離のある剥片 (打製石斧系: 615～622, 624)、不規則剥離のある剥片 (打製石斧系: 623, 627)、剥片 (打製石斧系: 625～626, 628～629)、磨製石斧 (630～631, 634)、剥片 (磨製石斧系: 633)、碎片 (磨製石斧系: 635～636)、磨石 (637～644)、敲石 (645～720)、砥石 (721～722)、石皿 (723～725, 736)、軽石 (726～727)、凹石 (728, 730)、線刻縁 (729)、片岩製石器 (731～735, 737～739) を図示した。103は炉2の炉体土器で口縁部径 32.9 cm、残存高 15.9 cm、185はP27の埋甕で残存部口縁部径 38.2 cm、残存高 23.7 cm、438はP31の埋甕で残存高 19.7 cm、胴部最大径 30.1 cmを測る。



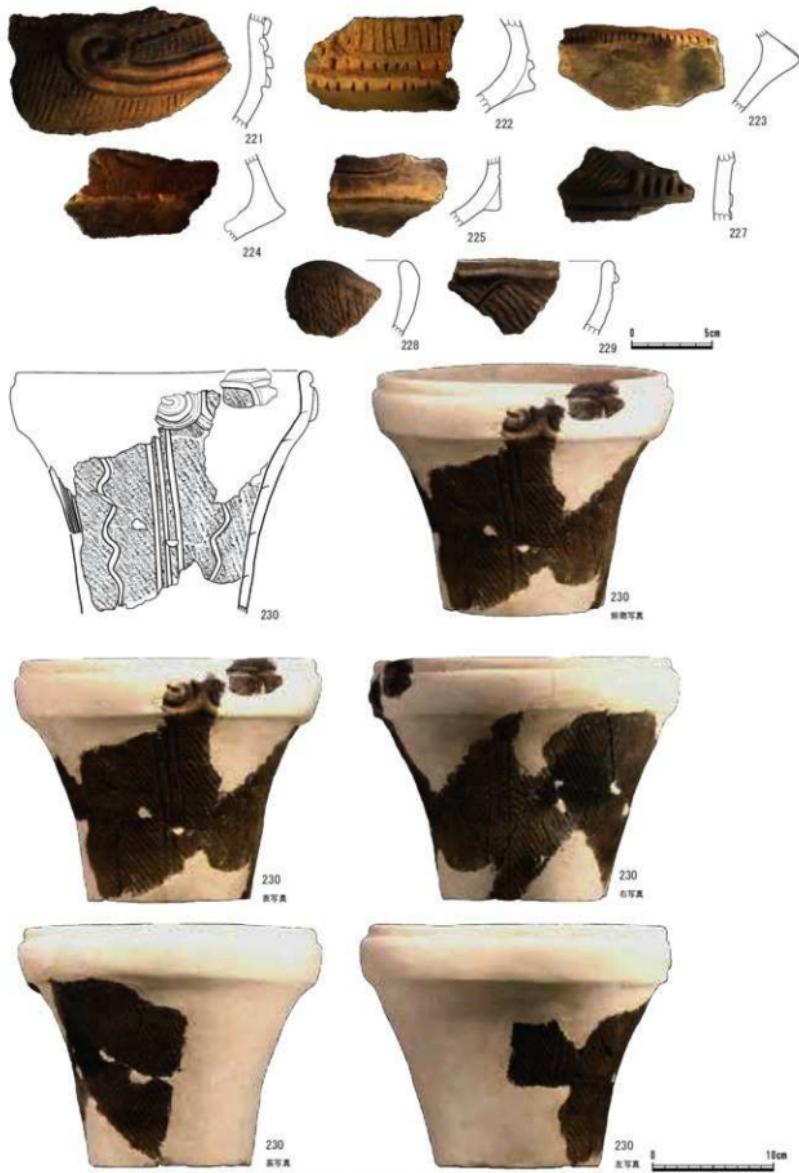
第38図 174号住居跡出土土器9 (1/4・1/3)



第39図 174号住居跡出土土器 10 (1/4・1/3)



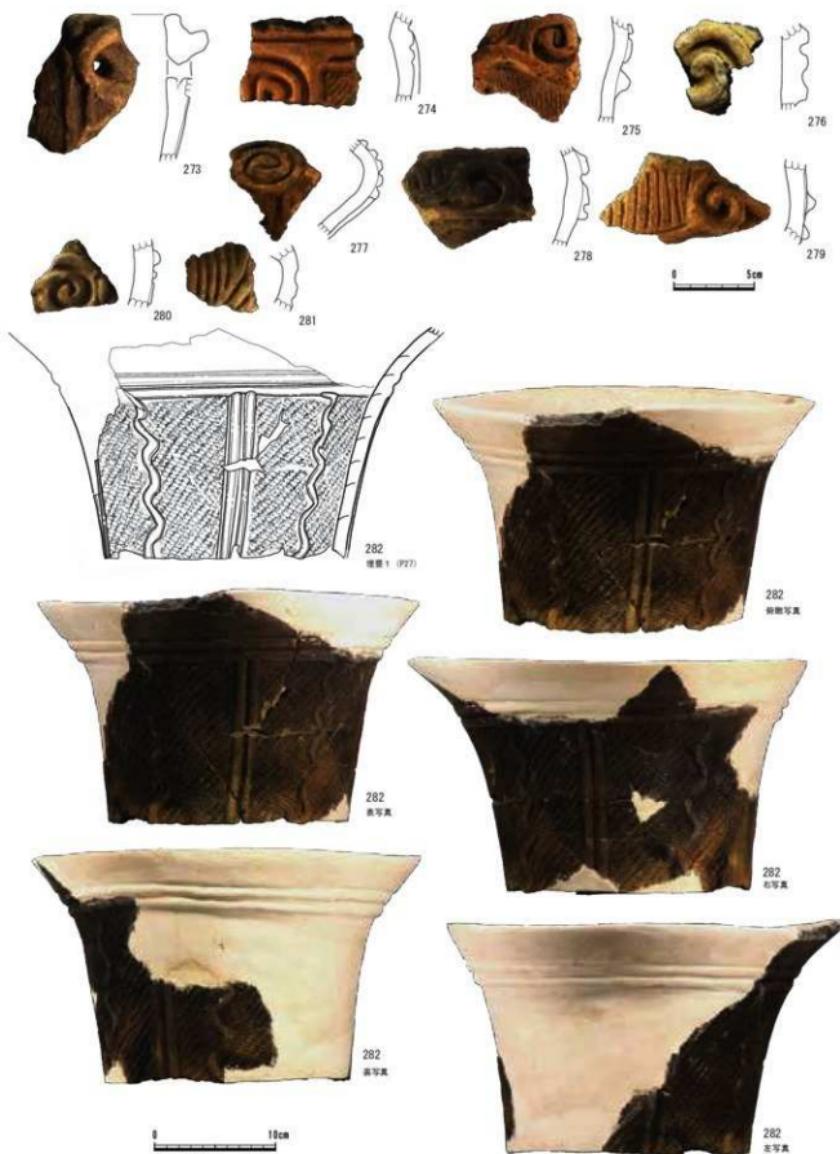
第40図 174号住居跡出土土器 11 (1/3)



第41図 174号住居跡出土土器 12 (1/4・1/3)



第42図 174号住居跡出土土器 13 (1/3)



第43図 174号住居跡出土土器 14 (1/4・1/3)



第44図 174号住居跡出土土器 15 (1/4・1/3)

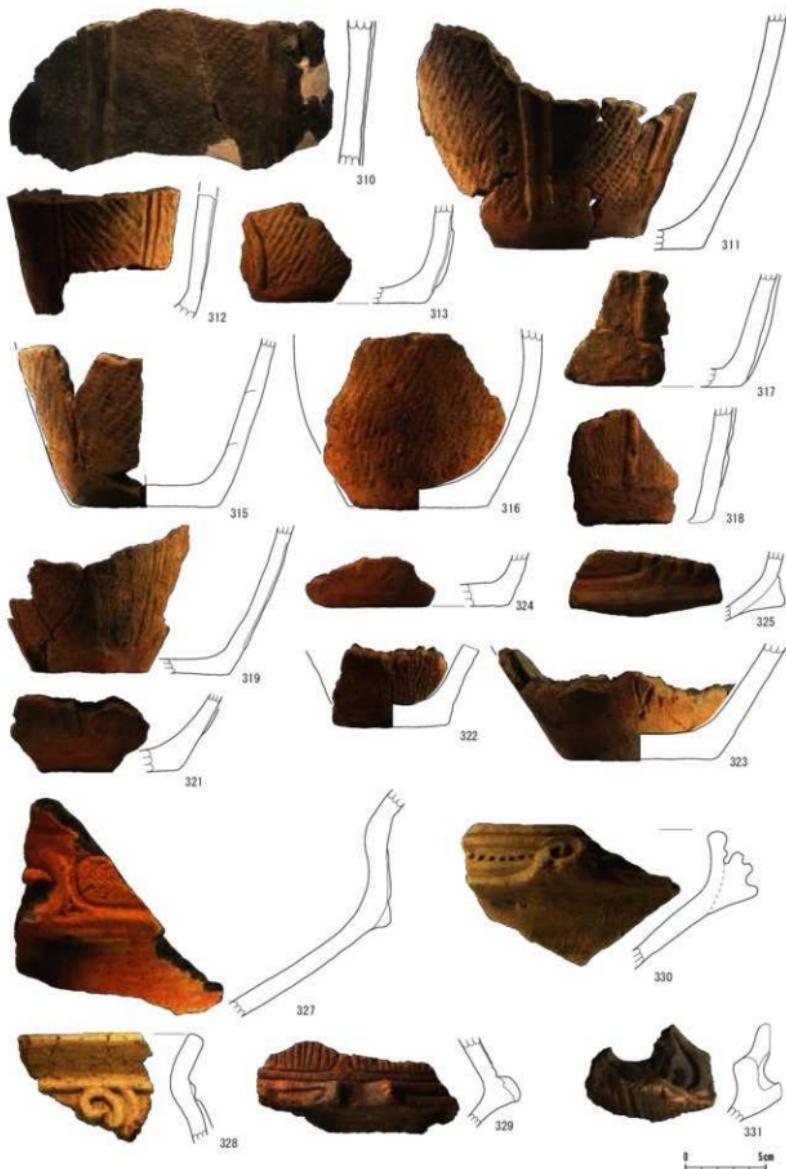
第1章

第2章

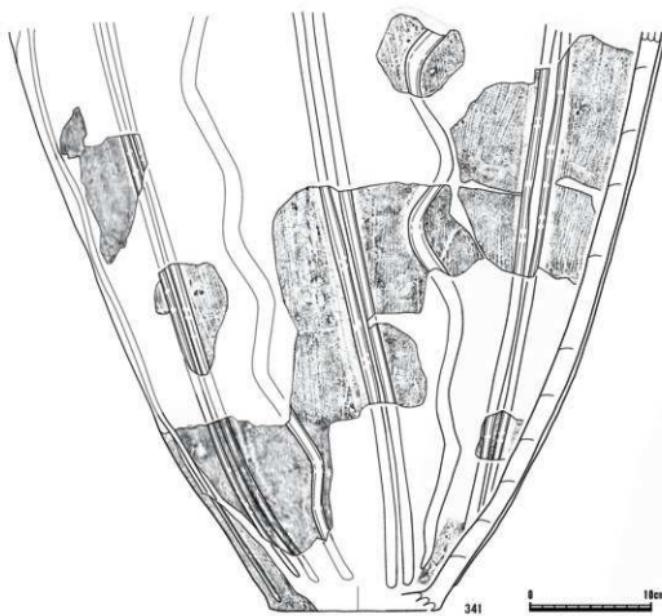
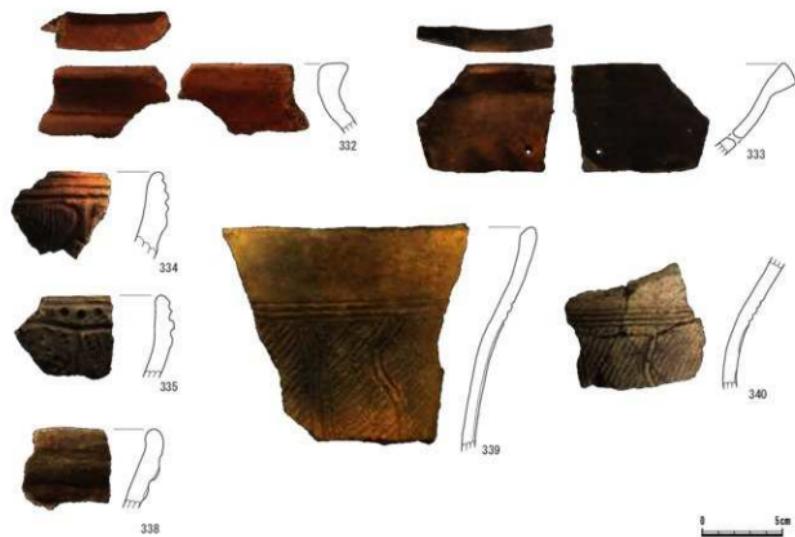
第3章

第4章

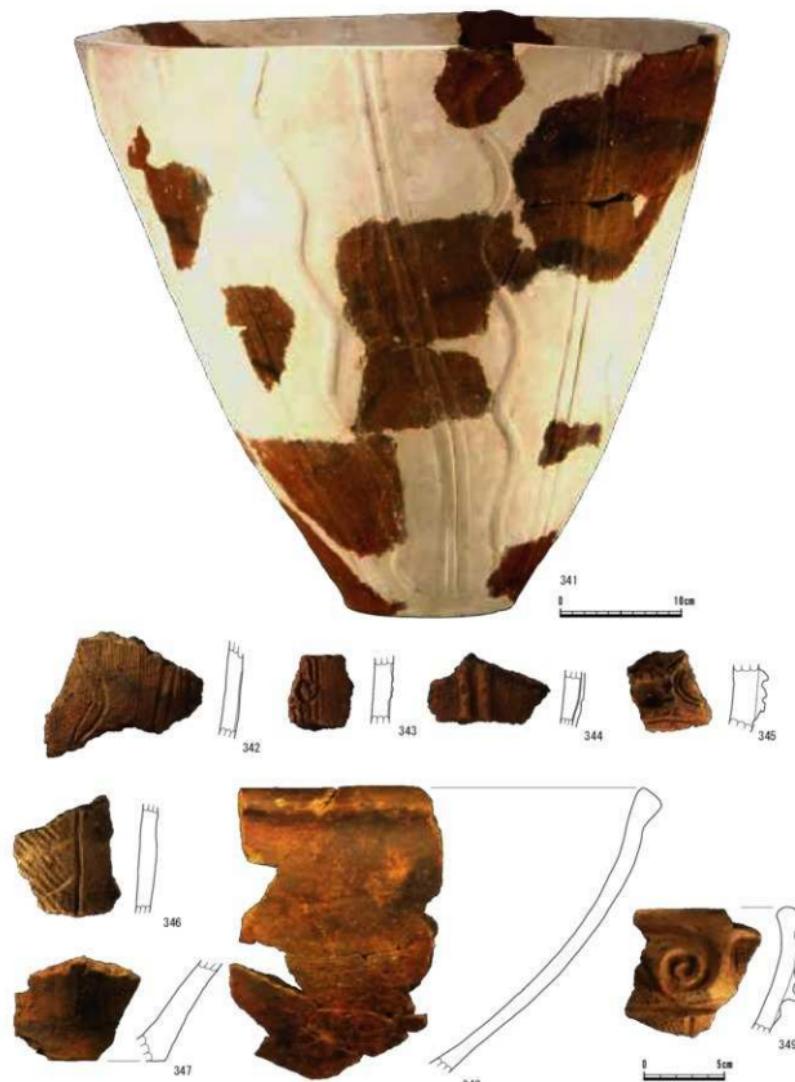
附  
編



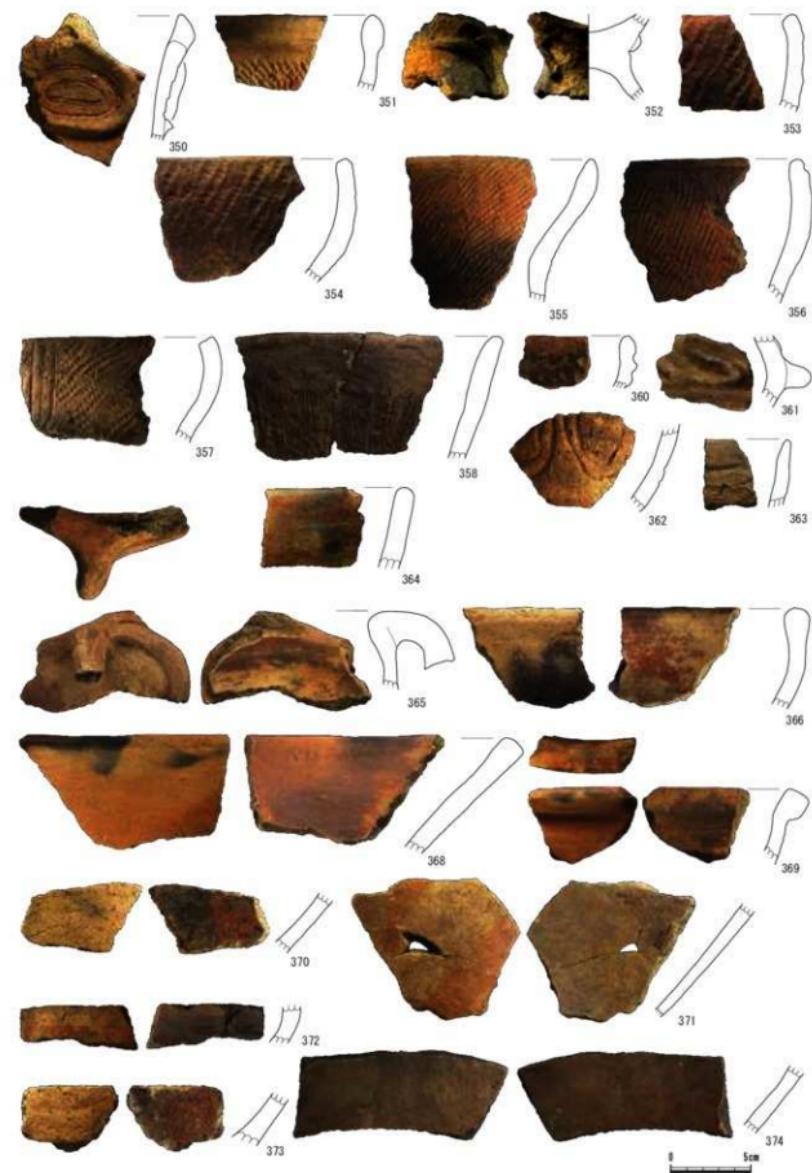
第45図 174号住居跡出土土器 16 (1/3)



第46図 174号住居跡出土土器 17 (1/4・1/3)



第47図 174号住居跡出土土器 18 (1/4・1/3)



第48圖 174号住居跡出土土器 19 (1/3)

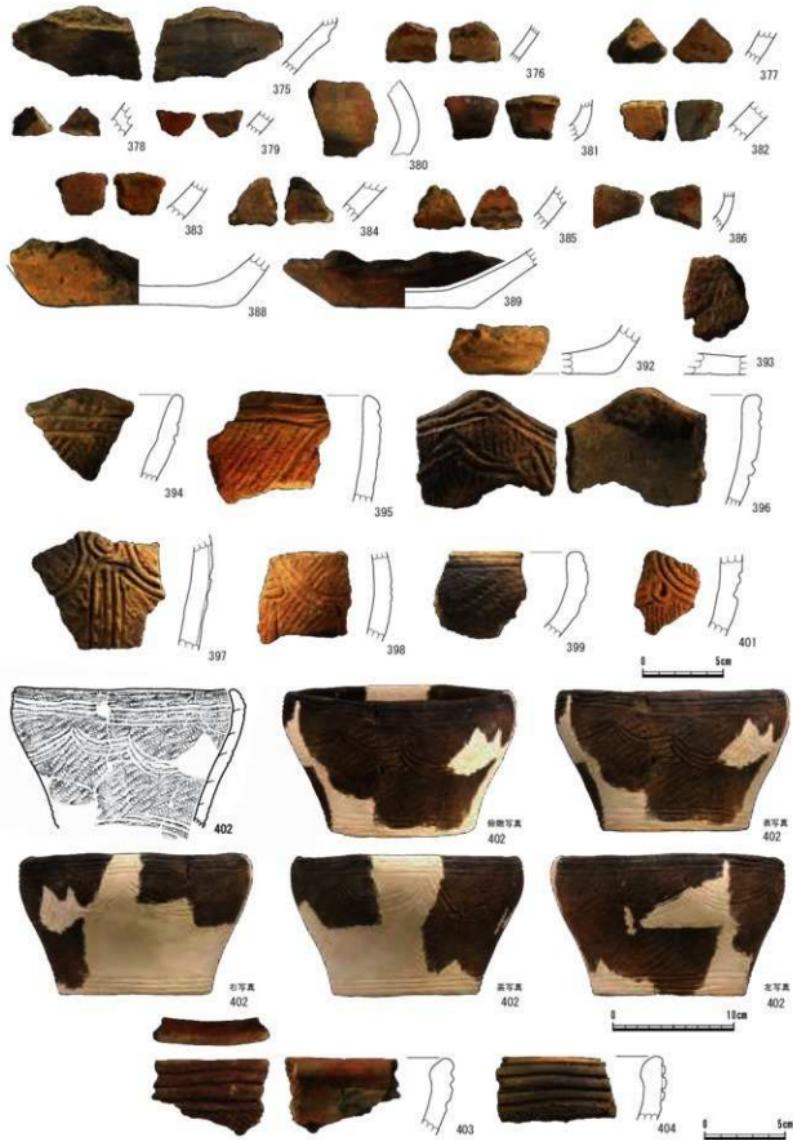
第1章

第2章

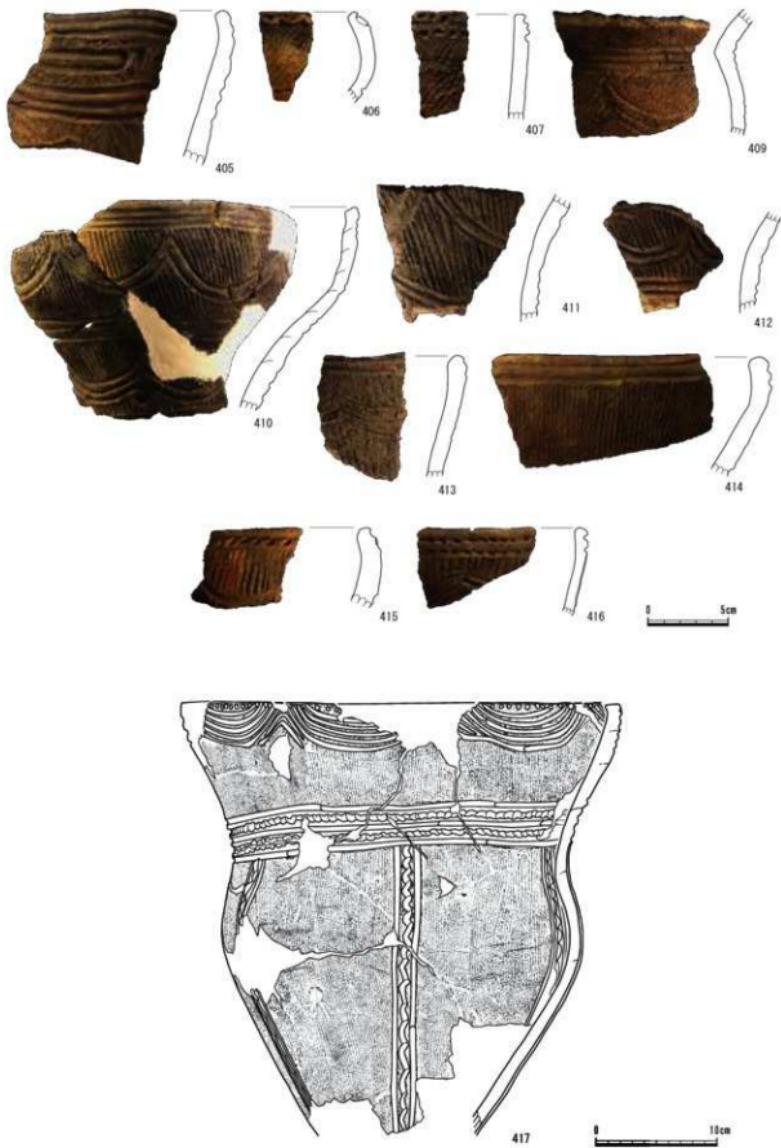
第3章

第4章

附  
編



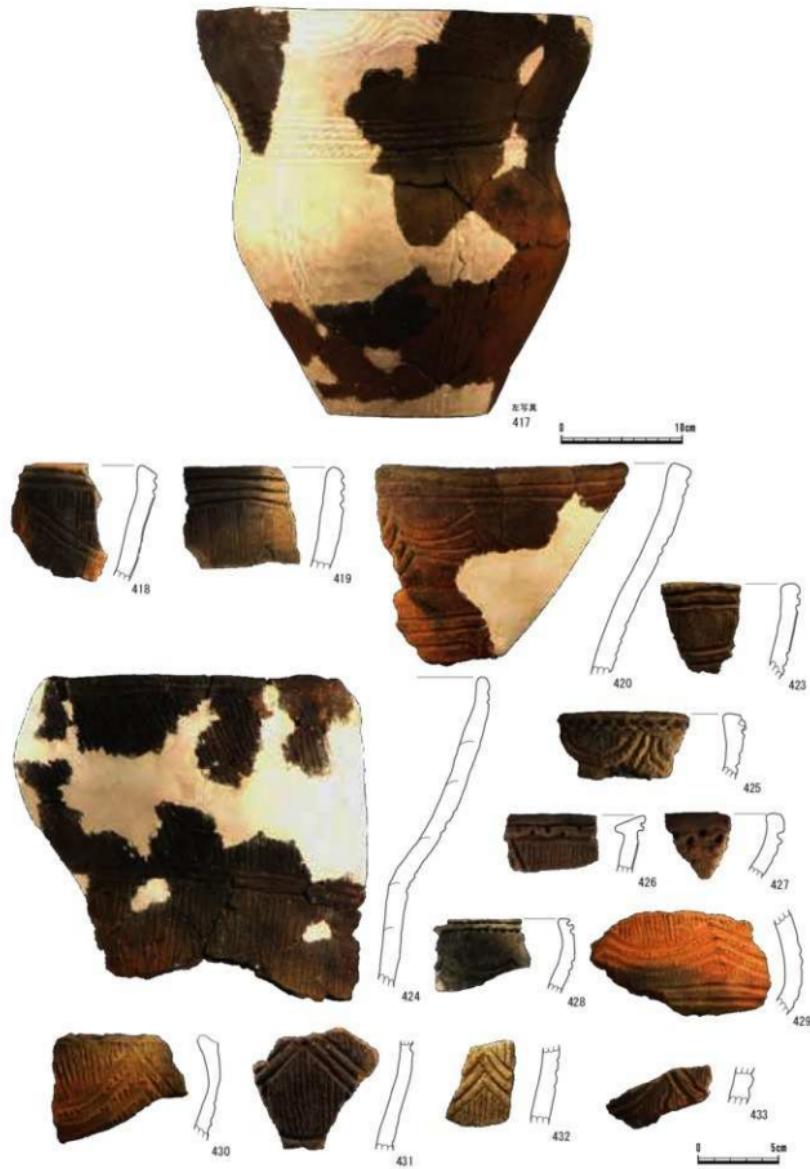
第49図 174号住居跡出土土器 20 (1/4・1/3)



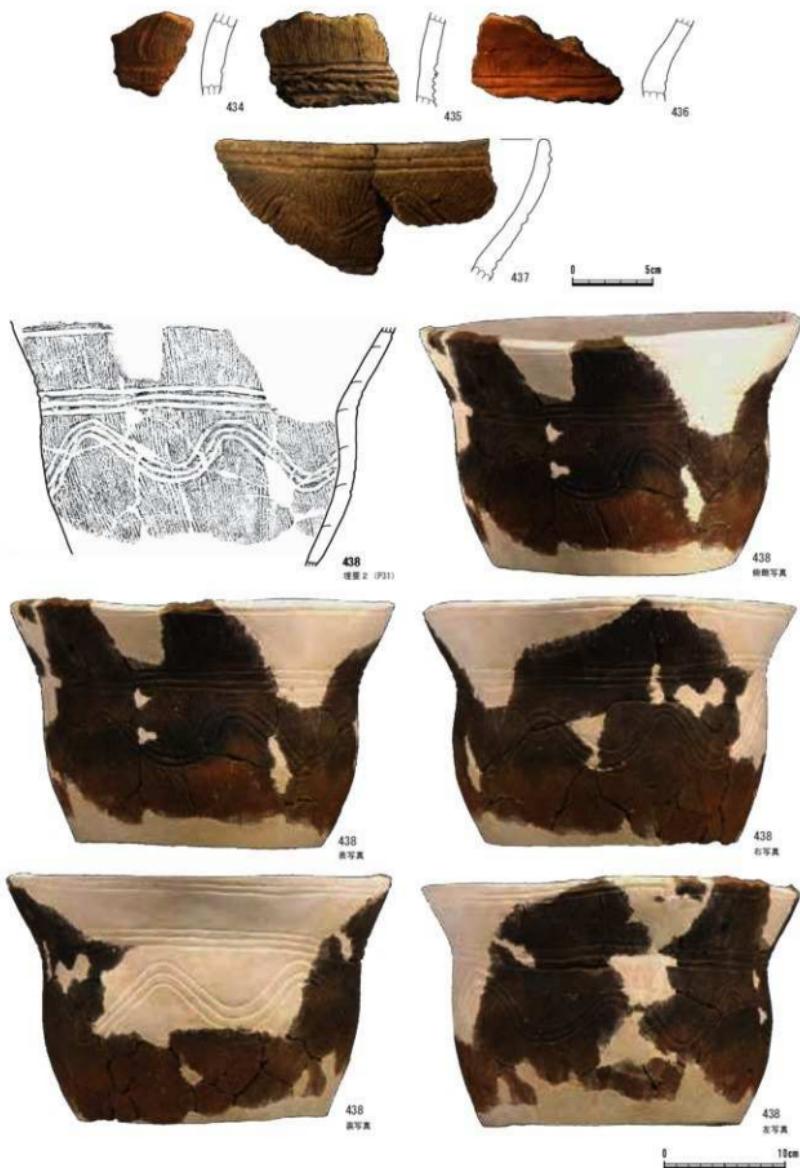
第50図 174号住居跡出土土器 21 (1/4・1/3)



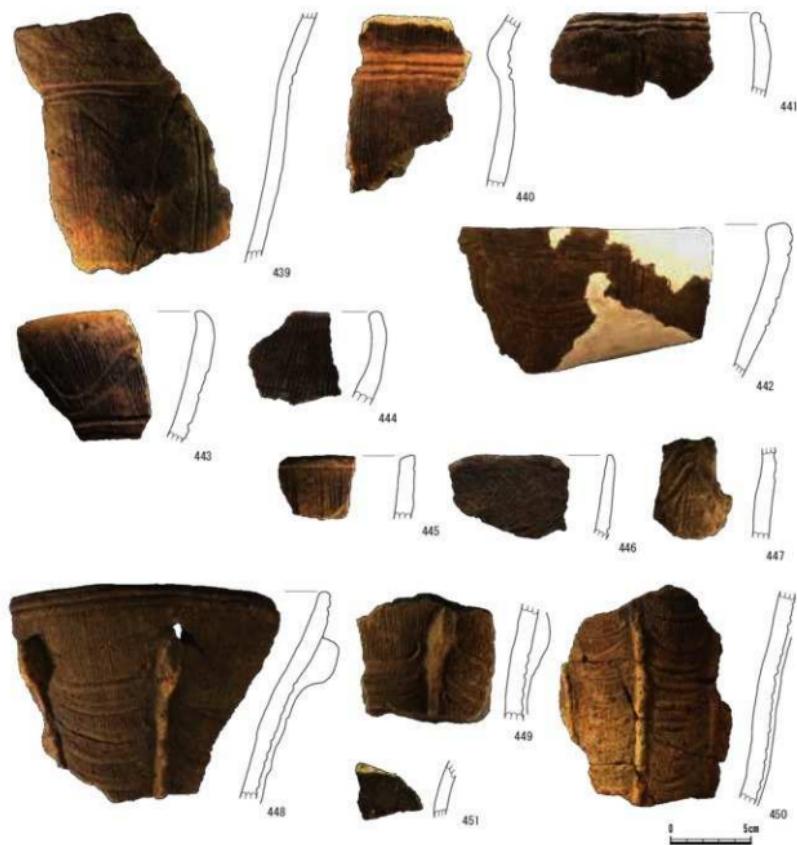
第51図 174号住居跡出土土器 22 (1/4)



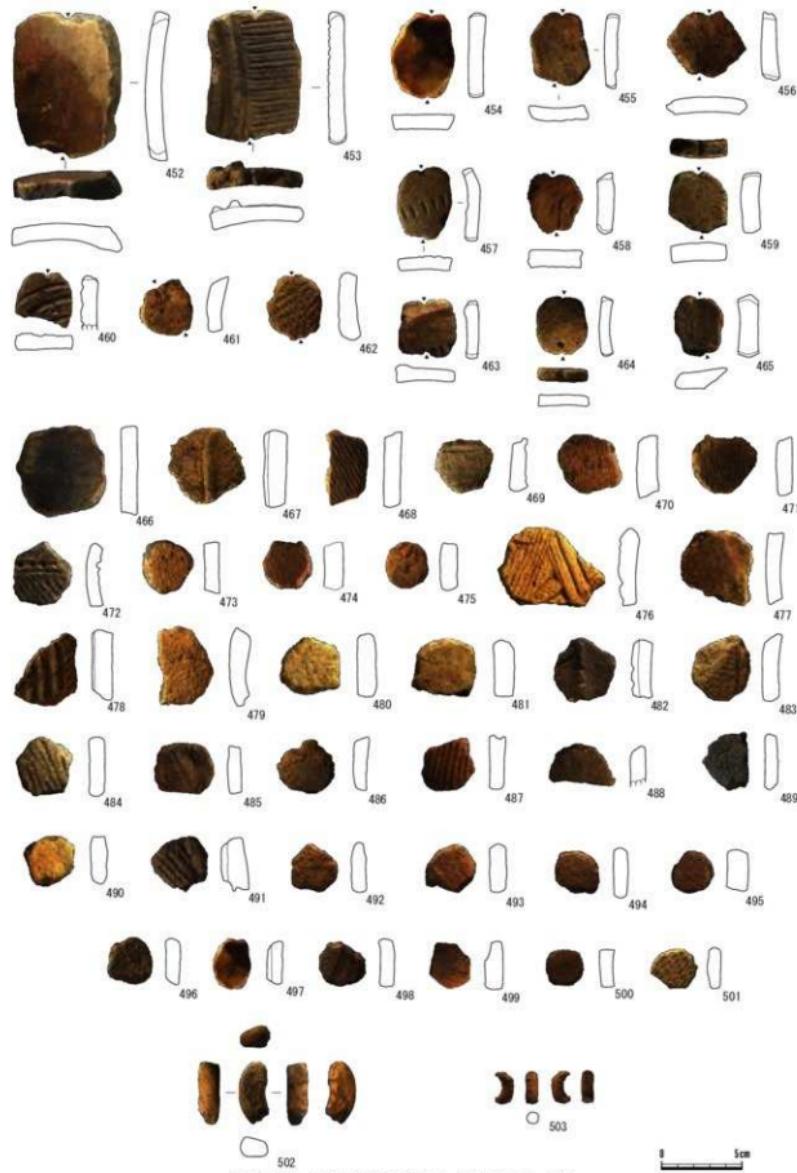
第52図 174号住居跡出土土器 23 (1/4・1/3)



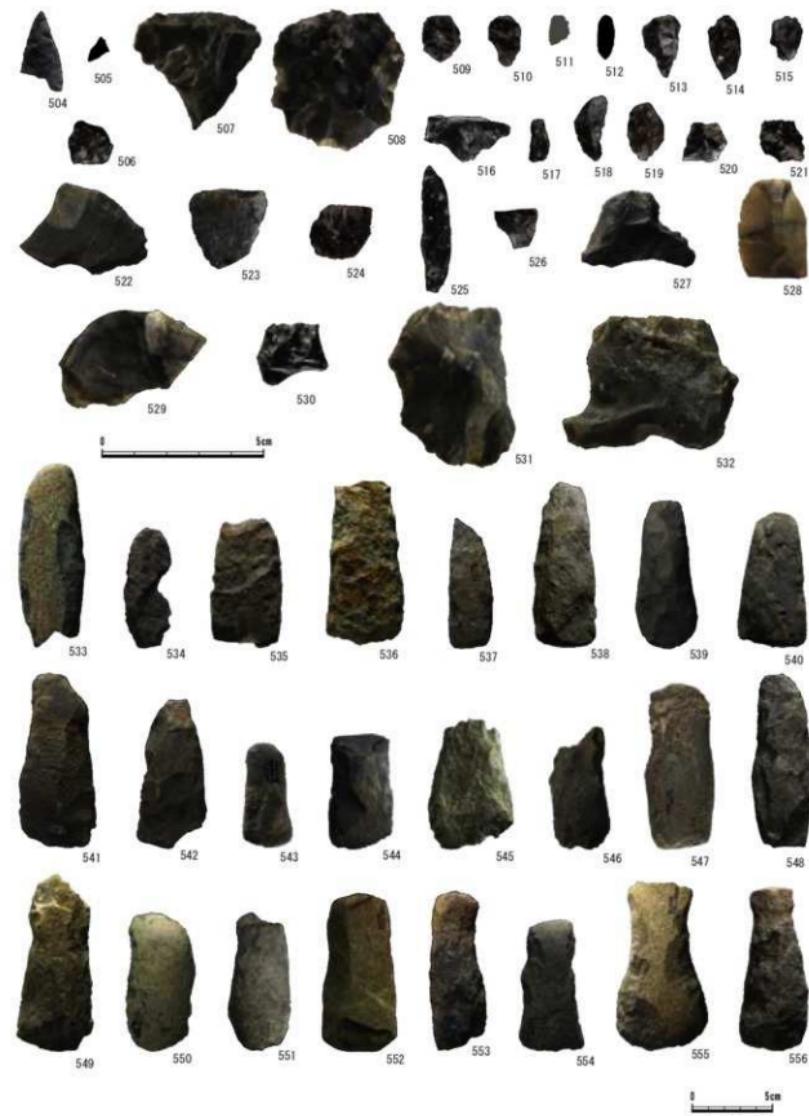
第53図 174号住居跡出土土器 24 (1/4・1/3)



第54図 174号住居跡出土土器 25 (1/3)



第55図 174号住居跡出土土製品（1／3）



第 56 図 174 号住居跡出土石器 1 (1/3・2/3)



第57図 174号住居跡出土石器2 (1/3)



第58図 174号住居跡出土石器3 (1/3)

第1章

第2章

第3章

第4章

附編



第59図 174号住居跡出土石器4 (1/3)



第60図 174号住居跡出土石器5 (1/3)

第1章

第2章

第3章

第4章

附  
編

## 175号住居跡

## 遺構(第61図)

[位置] X=-19440,Y=-24152。

[住居構造] 耕作による攪乱が著しく、ピットが1基確認できるのみである。179J・565Yに切られる。

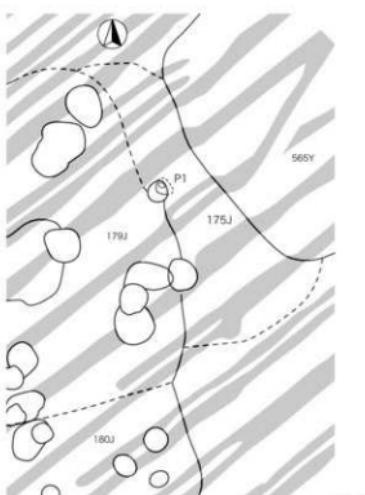
平面形:不明。規模:不明。主軸方位:不明。壁高・壁溝・床面:攪乱が著しいが一部硬質面が認められる。

炉:検出されなかった。柱穴:検出されなかった。

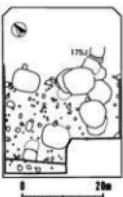
[覆土] 削平により検出されなかった。

[遺物] 検出されなかった。

[時期] 179Jに切られるため、加曾利E1式以前と思われる。



第61図 175号住居跡 (1/60)



P1  
1 塗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少留、  
径1mmの燒土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。



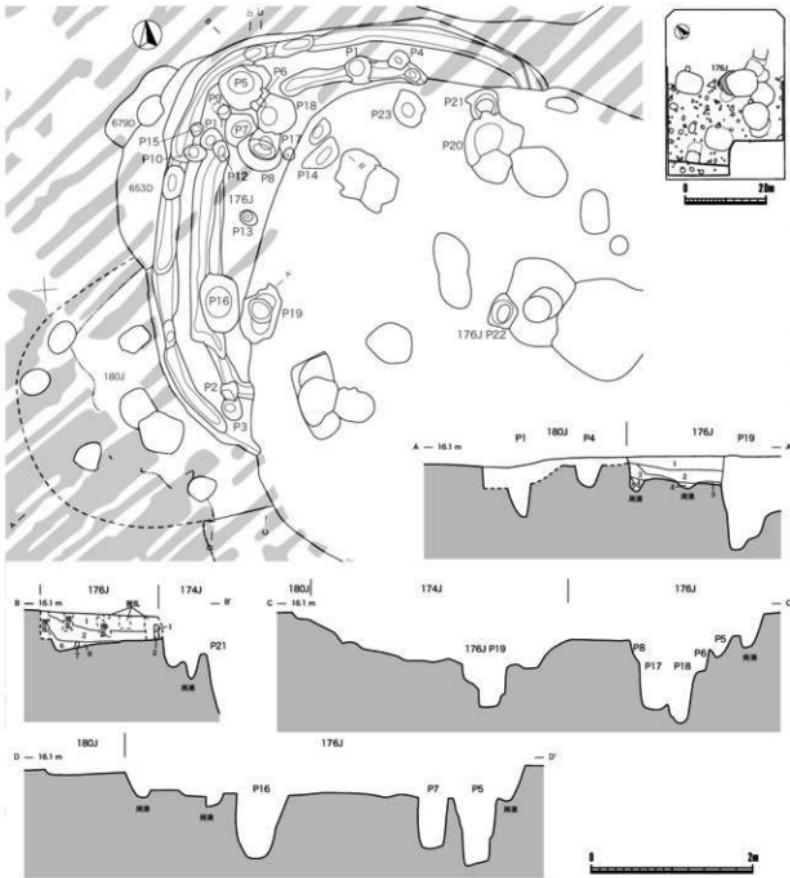
175号住居跡硬質面検出及び全景(東から)

## 176号住居跡

## 遺構(第62~68図)

[位置] X=-19438,Y=-24162。

[住居構造] 180J・653D・679Dを切り、174Jに切られる。壁溝が二重に巡り、一度拡張された可能性が高い。平面形:橢円形か?規模:不明。主軸方位:N-5°-E。拡張後も主軸方向に変更は見られない。壁高:13.1~25.3cmを測り、90°前後の角度で立ち上がる。壁溝:174Jに切られ西側半周のみ残存するが、二重の壁溝が確認される。拡張後壁溝は北西側上幅14.4~25.9cm・下幅5.0~14.2cm・深さ11.4~12.9cm、南西側上幅19.0~32.1cm・下幅8.0~19.6cm・深さ7.7~15.2cmを測る。拡張前壁溝は北西側上幅16.3~22.7cm・下幅6.0~11.7cm・深さ16.7~23.1cm、南西部上幅19.4~27.8cm・下幅8.1~13.9cm・深さ23.1~28.4cmを測る。床面:耕作による攪乱が著しい。炉:検出されなかった。柱穴:拡張前の主柱穴はP8・19・23拡張後の主柱穴はP1・5・16・



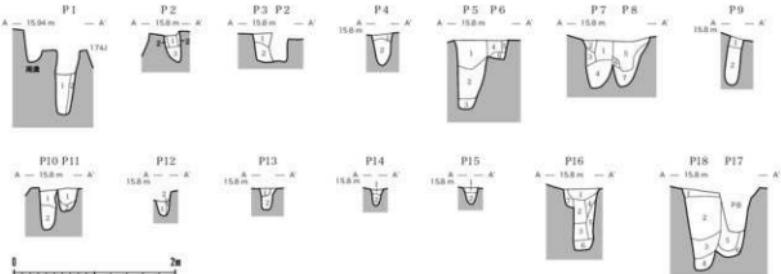
- 1 單褐色土 (10YR3/4) 径1~2mmのローム粒を多量、径1~2mmの地土粒を微量。径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 單褐色土 (10YR3/3) 径1~2mmのローム粒を多量、径1~2mmの地土粒を微量。径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 3 單褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~15mmのロームブロックを少量。径1~2mmの地土粒を微量。径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 單褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径10~30mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 7 黄褐色土 (10YR5/6) 径10~30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強。
- 8 單褐色土 (10YR3/4) P5覆土。径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

第62図 176号住居跡 1 (1/60)

20・21と思われる。また、174JP33も176Jの拡張後のピットである可能性が高い。

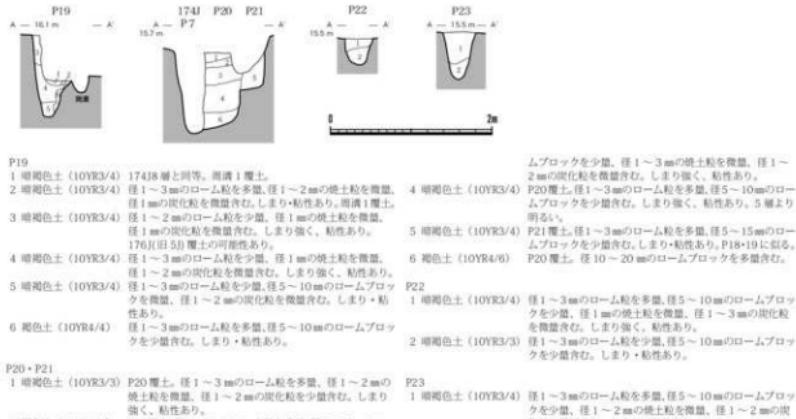
[覆 土] 8層。

[遺 物] 覆土中から比較的多量に出土した。出土位置が判明している土器は125点であり、うち阿玉台式9点、勝坂式21点、曾利式1点、加曾利E式42点である。出土した石器の総点数は22点、2,496.2g

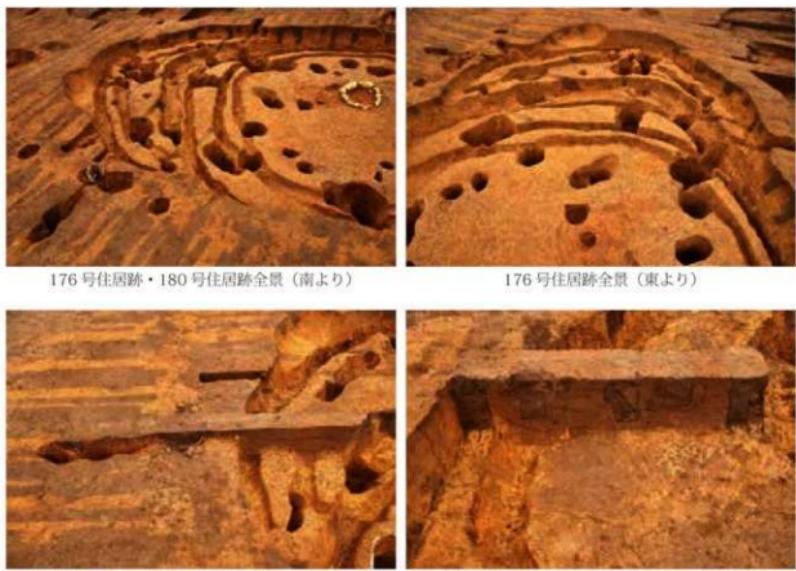


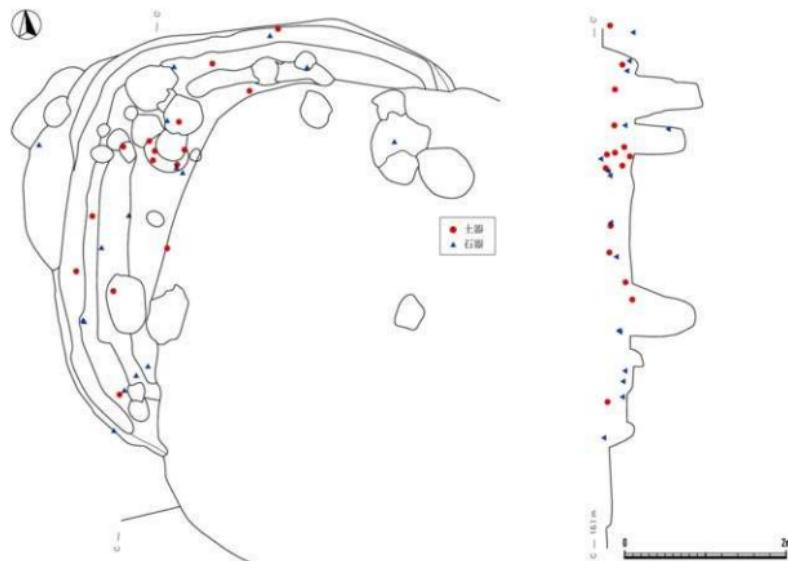
- P1  
1 帽褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。  
2 帽褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- P2  
1 帽褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
2 帽褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。  
3 帽褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- P3・P4  
1 帽褐色土 (10YR4/4) 貫入、径1~3mmのローム粒を多量、径10~15mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性強い。  
2 帽褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- P5・P6  
1 帽褐色土 (10YR3/3) P5 褐土、径1~3mmのローム粒を少量。径5mmの砂土ブロックを微量含む。径1~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
2 帽褐色土 (10YR3/3) P5 褐土、径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。  
3 帽褐色土 (10YR3/4) P5 褐土、径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。  
4 黄・黄褐色土 (10YR4/3) P6 褐土、径1~3mmのローム粒を多量、径20mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
5 帽褐色土 (10YR3/3) P6 褐土、径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
6 帽褐色土 (10YR4/6) P6 褐土、径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性強い。
- P7・P8  
1 帽褐色土 (10YR4/4) P7 褐土、径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。径1mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
2 帽褐色土 (10YR4/4) P7 褐土、径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
3 帽褐色土 (10YR4/4) P7 褐土、径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。  
4 帽褐色土 (10YR3/3) P7 褐土、径1~3mmのローム粒を多量含む。径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。  
5 帽褐色土 (10YR3/4) P8 褐土、径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。  
6 帽褐色土 (10YR4/4) P8 褐土、径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- P9  
1 帽褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
2 帽褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- P10  
1 帽褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。  
2 帽褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性あり。
- P11  
1 帽褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。  
2 帽褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量含む。径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P12  
1 帽褐色土 (10YR4/6) P3の2層と同等。  
2 帽褐色土 (10YR4/6) P3の2層と同等。
- P13  
1 帽褐色土 (10YR4/4) P3の1層と同等。  
2 帽褐色土 (10YR4/6) P3の2層と同等。
- P14  
1 帽褐色土 (10YR4/4) P3の1層と同等。  
2 帽褐色土 (10YR4/6) P3の2層と同等。
- P15  
1 帽褐色土 (10YR4/4) P3の1層と同等。  
2 帽褐色土 (10YR4/6) P3の2層と同等。
- P16  
1 帽褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径1mmの砂土粒を微量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
2 帽褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmの炭化粒を微量含む。径1~3mmのローム粒を微量含む。径1~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
4 帽褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~20mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
5 帽褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
3 帽褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
6 帽褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
7 帽褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を微量含む。径10~20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P17・P18  
1 帽褐色土 (10YR4/4) P18 褐土、径1~3mmのローム粒を多量、径5~30mmのロームブロックを多量含む。しまり弱く、粘性あり。  
2 帽褐色土 (10YR4/4) P18 褐土、径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。  
3 帽褐色土 (10YR3/3) P18 褐土、径1~3mmのローム粒を微量含む。しまり弱く、粘性あり。  
4 帽褐色土 (10YR3/4) P18 褐土、径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。  
5 帽褐色土 (10YR3/3) P17 褐土、径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。  
6 帽褐色土 (10YR4/4) P17 褐土、径1~3mmのローム粒を多量含む。径10~20mmのロームブロックを多量含む。しまり弱く、粘性あり。

第63図 176号住居跡2 (1/60)

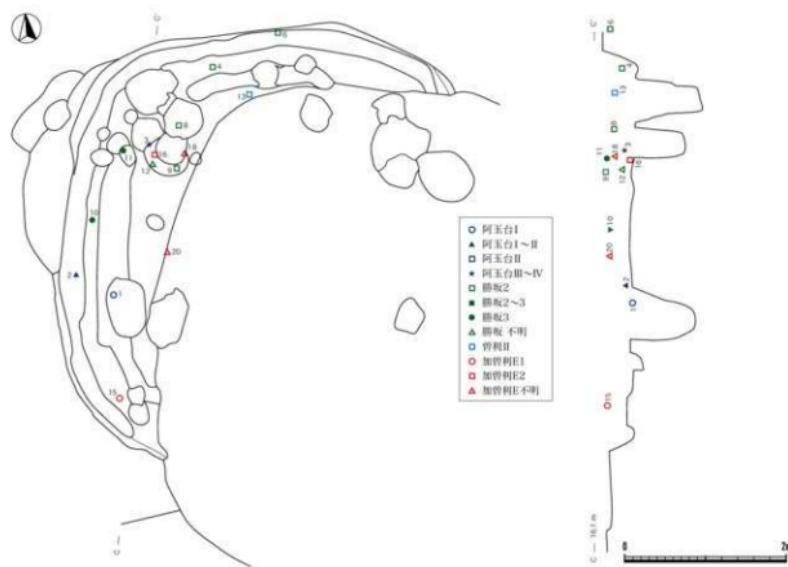


第64図 176号住居跡3 (1/60)

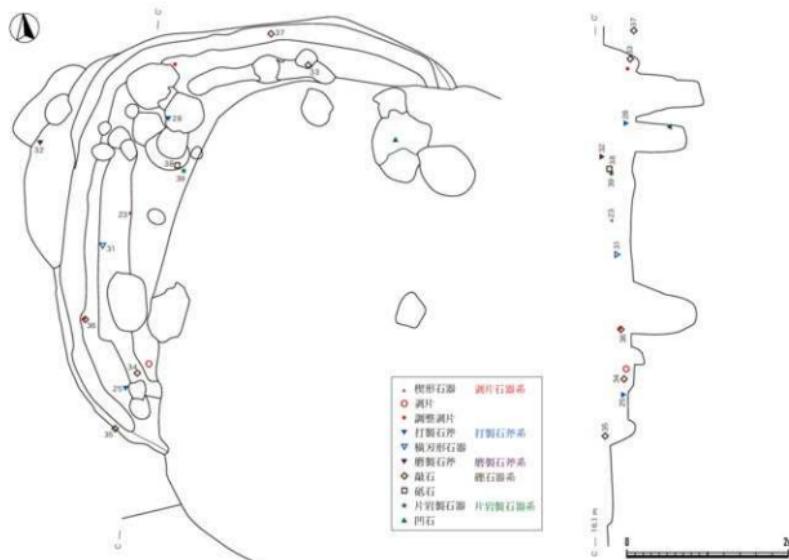




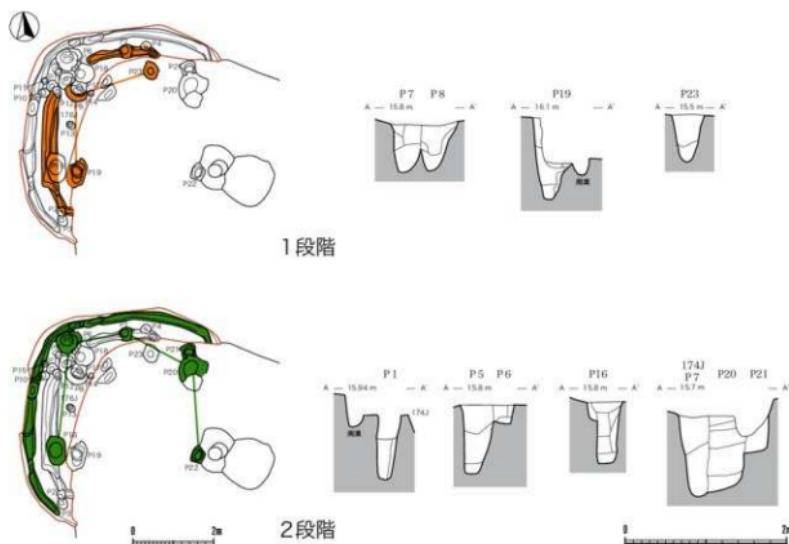
第65図 176号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第66図 176号住居跡土器出土状態 (1/60)



第67図 176号住居跡石器出土状態 (1/60)



第68図 176号住居跡変遷図 (1/120 + 1/60)



第69図 176号住居跡出土遺物（1／3・2／3）

で、器種の内訳は、楔形石器 1 点、不規則剥離のある剥片 1 点（剥片石器系石材）、剥片 1 点（剥片石器系石材）、調整剥片 3 点（剥片石器系石材 2 点、打製石斧系石材 1 点）、打製石斧 6 点、横刃形石器 1 点、磨製石斧 1 点、敲石 5 点、砥石 1 点、凹石 1 点、片岩製石器 1 点、石材の内訳は、黒曜石 4 点、チャート 1 点、ホルンフェルス 3 点、砂岩 10 点、凝灰岩 1 点、砂質片岩 1 点、緑泥片岩 2 点である。

【時期】勝坂式期。

【備考】174JP33 は、本住居跡の拡張後のピットである可能性がある。

【遺物】(第 69 図、第 26・43・48 表)

阿玉台式（1～3）、勝坂式（4～12）、曾利式（13）、加曾利 E 式（14～20）、土器片錘（21～22）、楔形石器（23）、不規則剥離のある剥片（剥片石器系：24）、打製石斧（25～30）、横刃形石器（31）、磨製石斧（32）、敲石（33～37）、砥石（38）、片岩製石器（39）、凹石（40）を図示した。

## 177 号住居跡

【遺構】(第 70～75 図)

【位置】X=19450,Y=-24161。

【住居構造】耕作による攪乱が著しい。178J・182J・682D を切る。平面形：不整円形。規模：7.10×6.40m。主軸方位：N-25°-E。壁高：12.6～33.4 cm を測り、70°前後の角度で立ち上がる。壁溝：一部途切れるものの、東コーナーから西コーナーまで半周程認められる。東コーナー上幅 14.52～38.9 cm・下幅 1.6～13.4 cm・深さ 1.6～5.8 cm、北西コーナー上幅 14.6～25.5 cm・下幅 3.8～12.3 cm・深さ 3.1～11.9 cm、西コーナー上幅 8.9～20.8 cm・下幅 1.9～8.0 cm・深さ 11.8 cm を測る。床面：耕作による攪乱が著しい。炉：住居のほぼ中央に炉 2、その東側に隣接して炉 1 が位置している。炉 1 は不明×42.2 cm の地床炉で深さ 0.6 cm 前後の楕円形の掘り込みを持つ。同じく炉 2 も 129.4×不明 cm の地床炉で、深さ 14.9 cm 前後の円形の掘り込みを持つ。炉 2 には深鉢形土器の上部（5）に別個体の深鉢形土器の上部（23）が入れられる形で 2 個体の土器が埋設されている。また、炉 1 周辺には 43.4×不明 cm の火床範囲が、炉 2 周辺には 167.5×123.6 cm の焼土範囲が確認できる。柱穴：P1～3・6・8・13・17・18 が主柱穴と思われる。

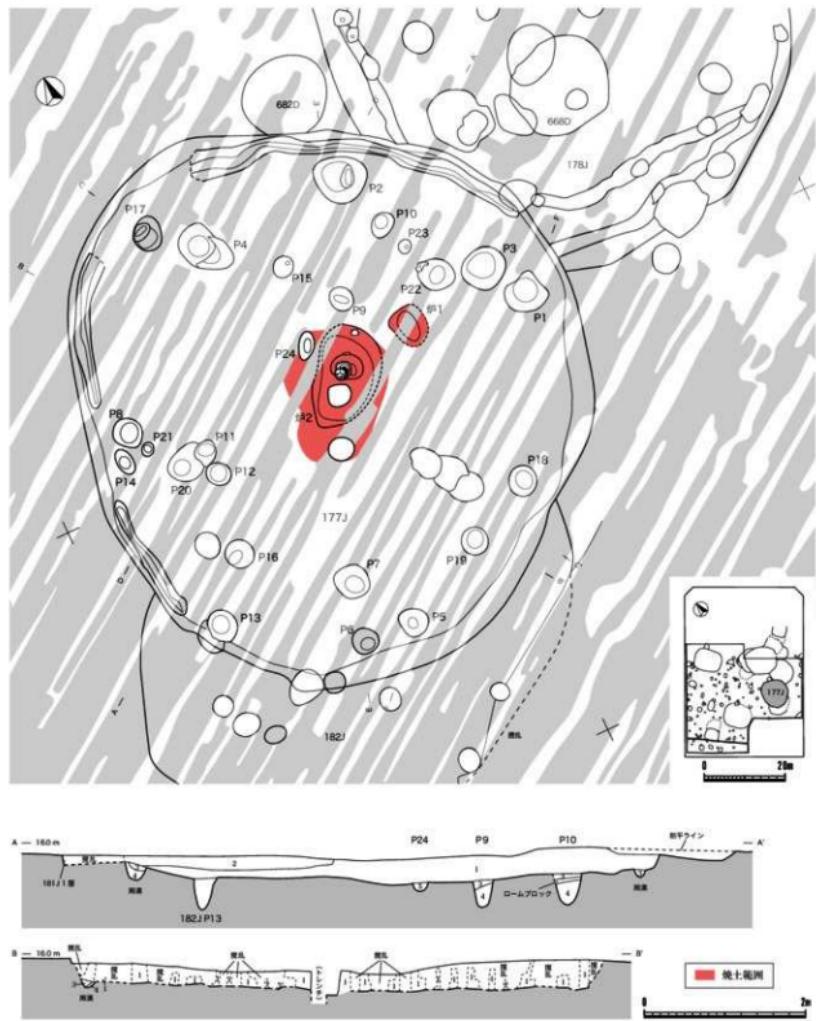
【覆土】5 層。

【遺物】炉 2 に土器が埋設されていたほか、覆土中から多量に出土した。出土位置が判明している土器は 341 点であり、うち阿玉台式 9 点、勝坂式 18 点、曾利式 10 点、加曾利 E 式 180 点、連弧文 15 点である。出土した石器の総点数は 30 点、2,567.4g で、器種の内訳は、楔形石器 1 点、剥片 6 点（剥片石器系・石材 5 点、打製石斧系石材 1 点）、調整剥片 5 点（剥片石器系石材 2 点、打製石斧系石材 3 点）、打製石斧 8 点、磨製石斧 1 点、敲石 5 点、石皿 2 点で、石材の内訳は、黒曜石 6 点、チャート 1 点、頁岩 1 点、ホルンフェルス 7 点、砂岩 11 点、凝灰岩 1 点、緑泥片岩 1 点である。

【時期】加曾利 E 2～3 式期。

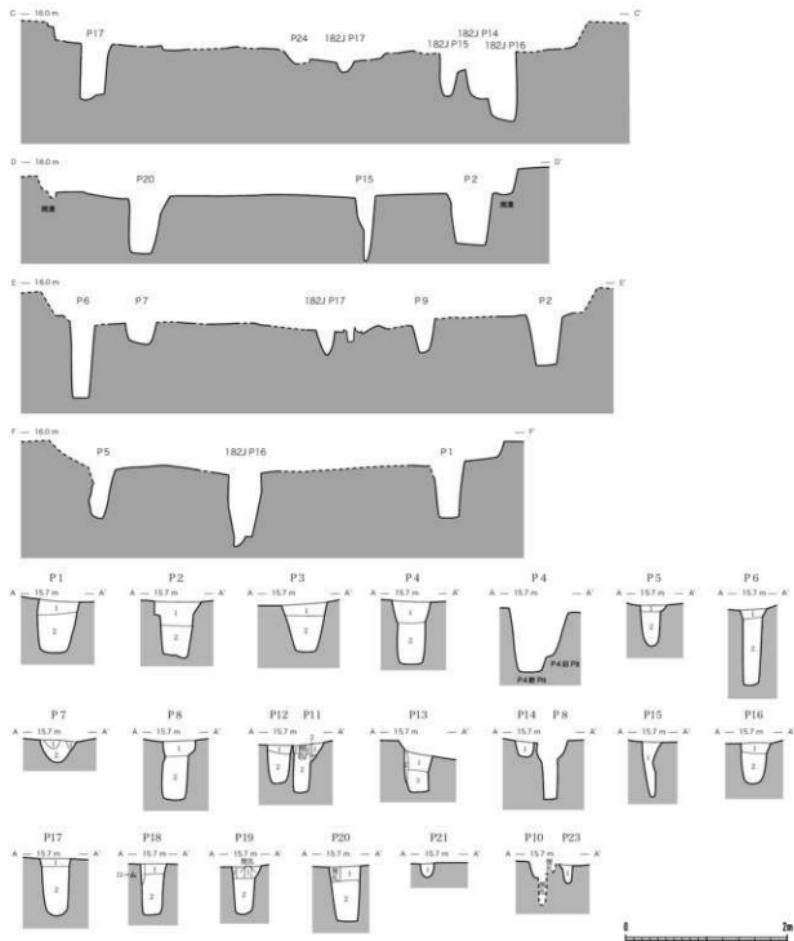
【遺物】(第 76～78 図、第 27・29・43・48 表)

阿玉台式（1）、勝坂式（2～5）、曾利式（6～14）、加曾利 E 式（15～32）、連弧文式（33～42）、土器片錘（43）、楔形石器（44）、打製石斧（45～52）、調整剥片（打製石斧系：53～55）、磨製石斧（57）、敲石（56、58～61）、石皿（62～63）を図示した。5 は炉 2 の炉体土器で残存高 12.3 cm、口縁部径 20.6 cm、23 も炉 2 の炉体土器で残存高 11.8 cm、口縁部径 14.3 cm を測る。



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径 2~3 mm のローム粘を多量、径 3~5 mm の燒土粒を少量。径 3~5 mm の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 黒褐色土 (10YR3/1) 径 2~3 mm のローム粘を多量。径 2~4 mm の燒土粒を少量、径 3~5 mm の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 3 單褐色土 (10YR3/3) 径 1~3 mm のローム粘を多量、径 1 mm の燒土粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 4 黑褐色土 (10YR3/3) 径 1~3 mm のローム粘を多量、径 1 mm の燒土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 5 黑褐色土 (10YR3/2) 径 2~3 mm のローム粘を多量、径 3~5 mm の燒土粒を多量、径 7~10 mm の燒土ブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

第70図 177号住居跡1 (1/60)



P1 ~ P6・P8・P11・P12・P16 ~ P20・P22

1 黒褐色土 (10YR3/2) 層 1 ~ 3 m のローム粒を多量、層 5 ~ 7 m のロームブロックを微量、層 2 ~ 5 m の燒土粒を少量。層 2 ~ 5 m の炭化粒を微量。しまり・粘性あり。

2 黒褐色土 (10YR3/2) 層 1 ~ 3 m のローム粒を多量、層 2 ~ 3 m の燒土粒を微量。層 2 ~ 5 m の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P7

1 黒褐色土 (10YR3/2) 層 2 ~ 3 m のローム粒を多量、層 10 m のロームブロックを少量。層 2 ~ 5 m の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

2 黒褐色土 (10YR3/2) 層 1 ~ 3 m のローム粒を多量、層 2 ~ 3 m の燒土粒を微量。層 2 ~ 5 m の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P13

1 黒褐色土 (10YR3/2) 層 1 ~ 3 m のローム粒を多量、層 5 ~ 7 m のロームブロックを微量、層 2 ~ 5 m の燒土粒を少量。層 2 ~ 5 m の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

2 黒褐色土 (10YR3/3) 層 2 ~ 3 m のローム粒を多量、層 2 ~ 3 m の燒土粒を微量。層 1 ~ 2 m の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

3 黑褐色土 (10YR3/2) 層 1 ~ 3 m のローム粒を多量、層 2 ~ 3 m の燒土粒を微量。層 2 ~ 5 m の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P14・P15・P21・P23

1 黑褐色土 (10YR3/2) 層 2 ~ 3 m のローム粒を多量、層 3 ~ 5 m の燒土粒を微量。層 2 ~ 3 m の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第71図 177号住居跡2 (1 / 60)



177号住居跡全景（東より）



177号住居跡全景（南より）



177号住居跡Bセクション（南より）



177号住居跡Aセクション（東より）



177号住居跡焼土分布状況（西より）



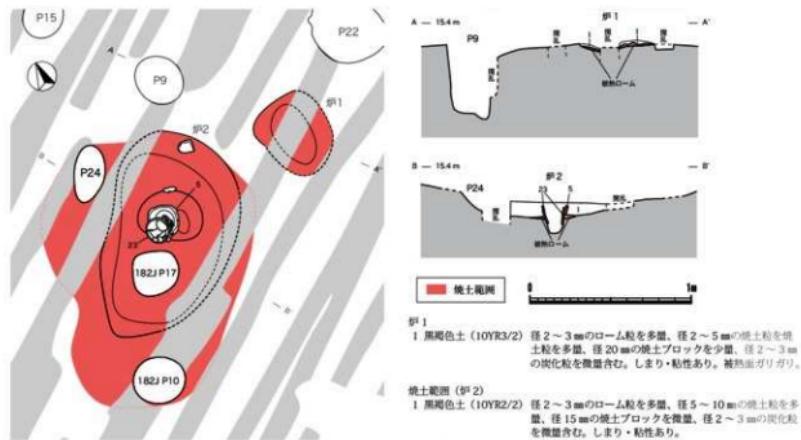
177号住居跡炉1検出状況（南より）



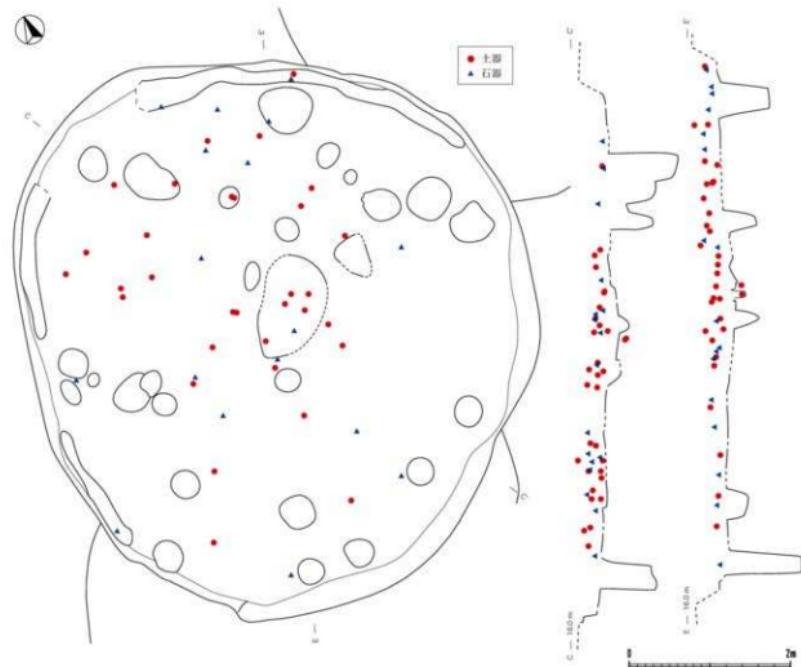
177号住居跡炉1Aセクション（南より）



177号住居跡炉1全景（南より）



第72図 177号住居跡炉 (1 / 30)



第73図 177号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)



177号住居跡炉1 全景（東より）



177号住居跡焼土範囲Bセクション（南より）



177号住居跡炉2 検出状況（南より）



177号住居跡炉2炉体土器（5・23）Aセクション（南より）



177号住居跡炉2 全景（南より）



177号住居跡炉体土器（5・23）出土状態（東より）



177号住居跡炉体土器（5・23）出土状態（北より）

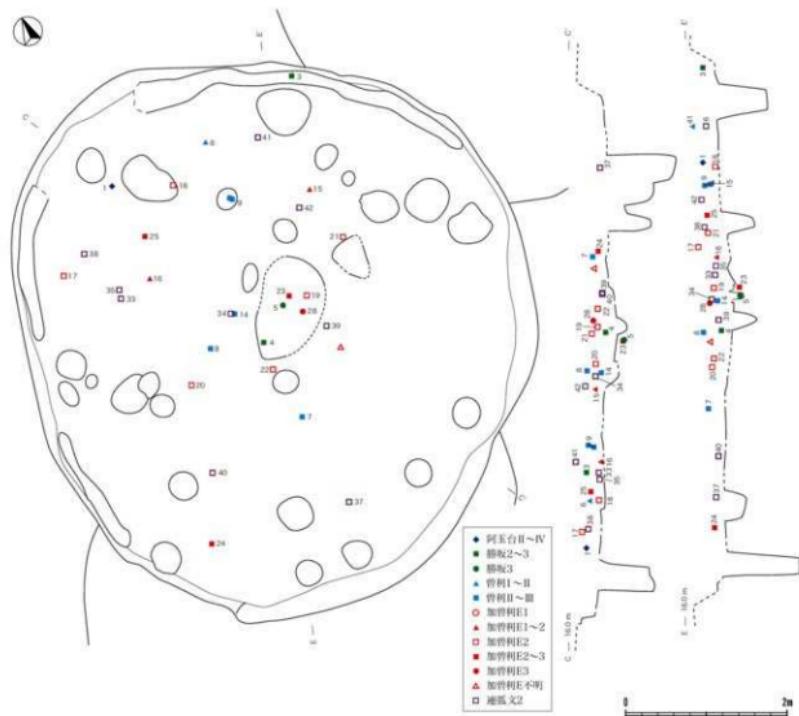


177号住居跡炉体土器（5・23）出土状態（南より）

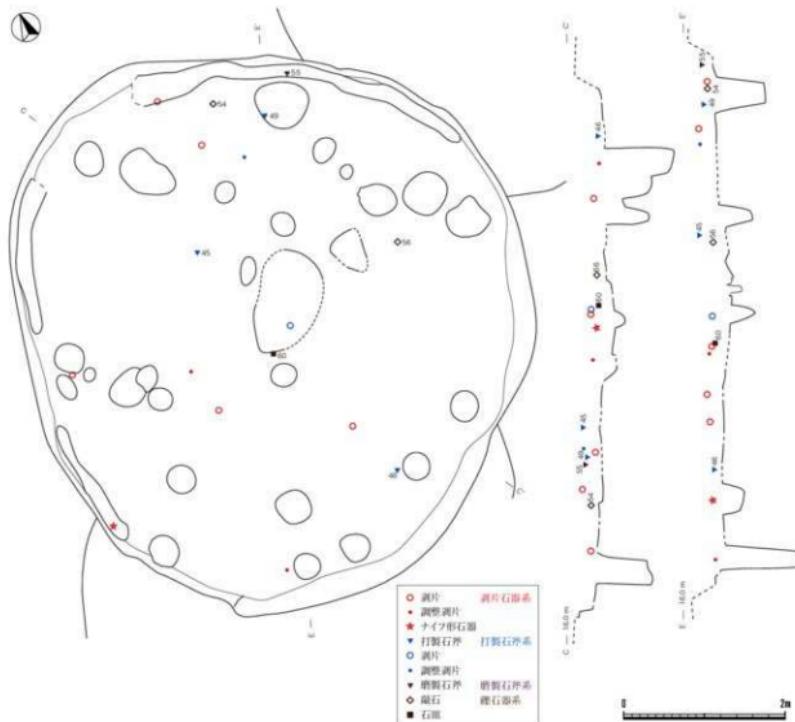


177号住跡跡灰土器（5・23）出土状態（西より）

177号住跡跡2掘り方全景（南より）



第74図 177号住跡跡器出土状態（1／60）



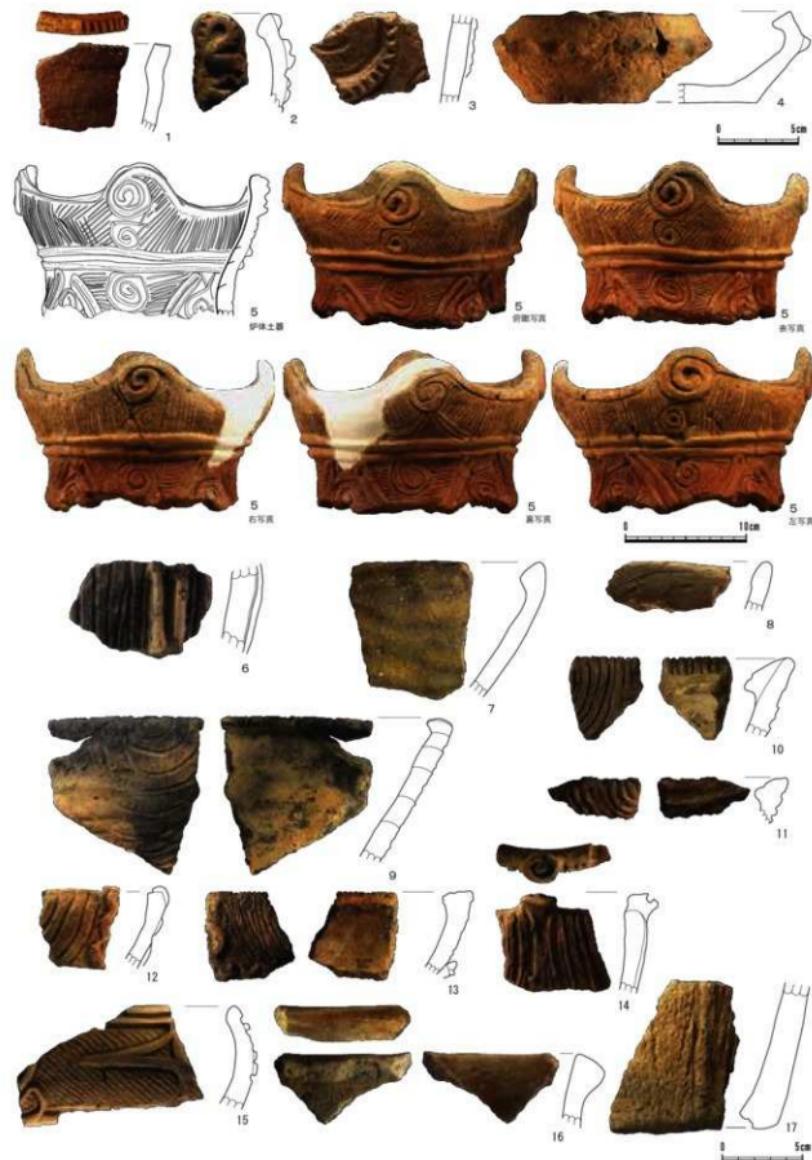
第75図 177号住居跡石器出土状態 (1/60)

## 178号住居跡

## 遺構 (第79~85図)

[位置] X=19447,Y=-24157。

[住居構造] 181Jを切り、174J・177Jに切られる。住居内に667D・668Dが位置する。壁溝が二重に巡り、拡張された可能性が高い。平面形：楕円形。規模：不明 × 5.50m。北側が174Jに切られているため長軸は不明だが、南側は43.2～76.2cm程度拡張されている。主軸方位：N-0°。拡張後も主軸方向の変更は見られない。壁高：0.9～14.1cmを測り、60°前後の角度で立ち上がる。壁溝：拡張前の壁溝は北西側と南側の一部のみの検出であるが、拡張後は北西コーナー、南西コーナーを欠くが、全周するとと思われる。また、拡張前の壁溝は北側が大きく蛇行する。拡張後壁高は南側上幅12.9～20.6cm・下幅4.4～11.1cm・深さ4.0～4.5cm、西側上幅9.2～15.5cm・下幅3.4～9.3cm・深さ13.1～14.4cmを測る。拡張間は北西側上幅12.4～15.8cm、下幅2.4～7.5cmを測り、深さは不明である。南側は上幅11.3～22.8cm、下幅3.3～8.9cm、深さ7.0～8.2cmを測る。床面：耕作による擾乱が著しい。炉：炉1～3まで検出された。炉1は住居中央よりやや北に位置し、74.6×35.4cmの被熱範囲が確認できる。



第76図 177号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)

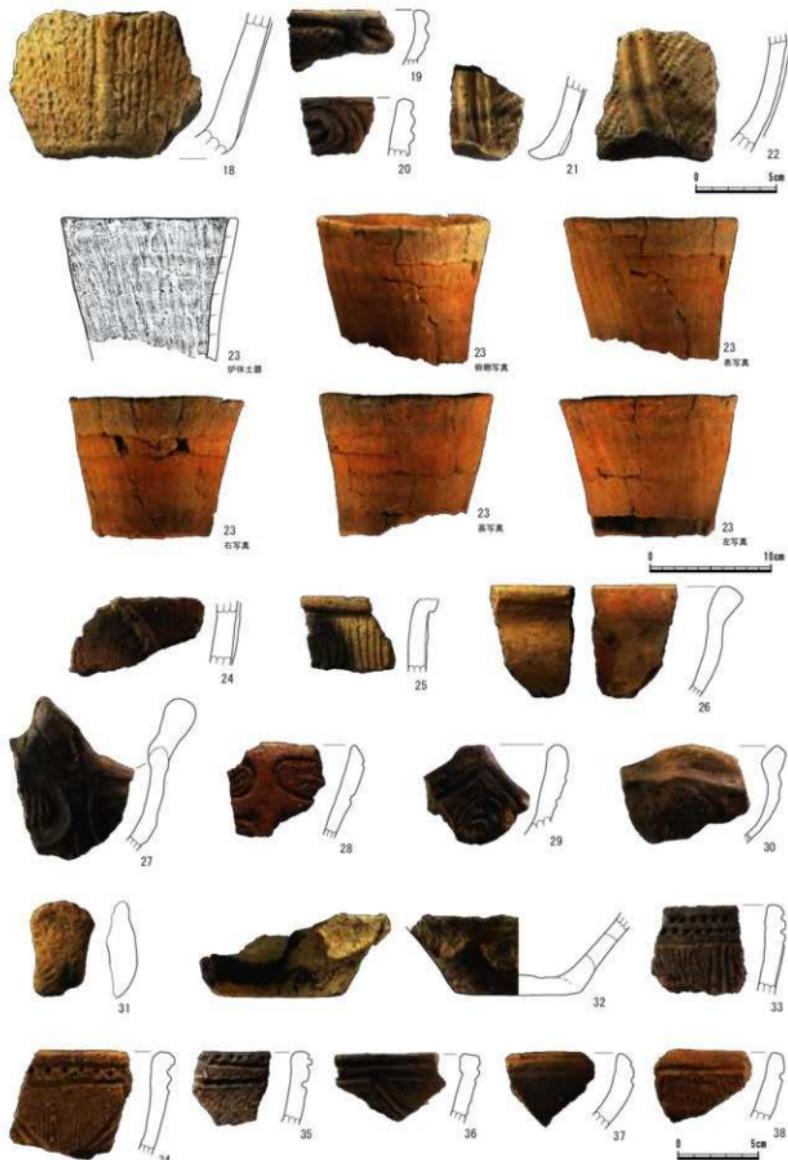
第1章

第2章

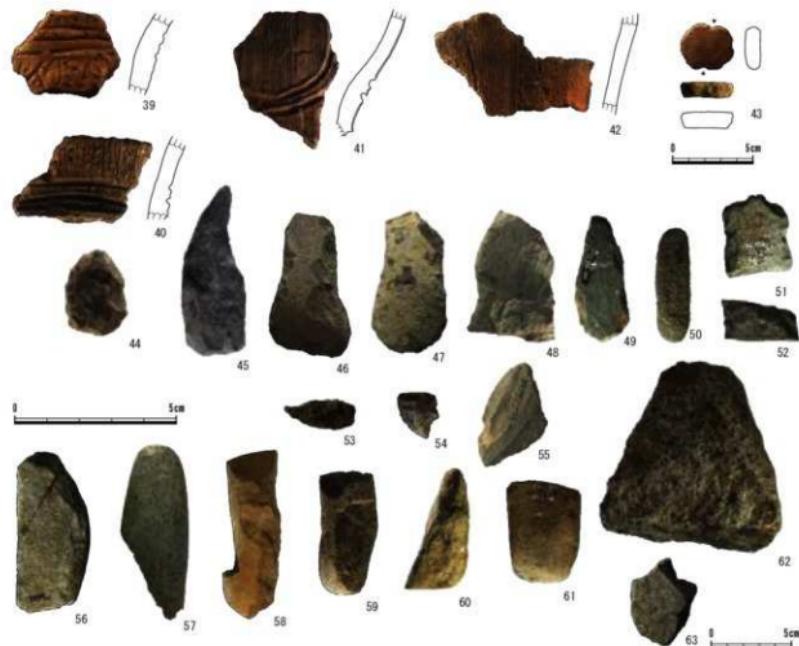
第3章

第4章

附  
編



第77図 177号住居跡出土遺物2 (1/4・1/3)



第78図 177号住居跡出土遺物3 (1/3・2/3)

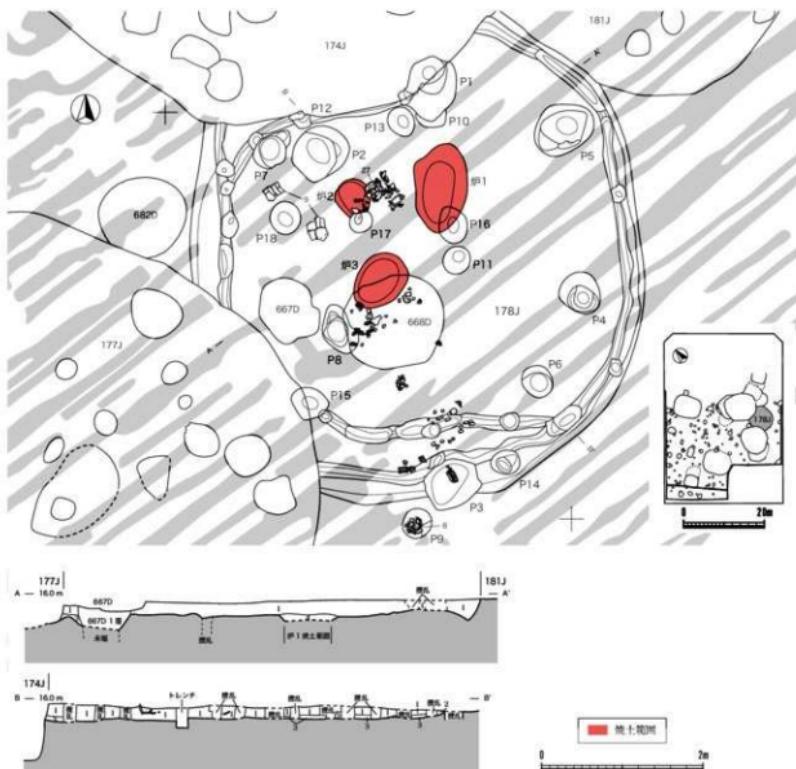
110.0×63.9cm、深さ17.0cmの楕円形の掘り込みを持つ地床炉である。炉2は住居中心よりやや西に位置し、深鉢形土器を埋設する。51.1×43.5cm、深さ25.6cmの不整円形の掘り込みを持つ埋甕炉である。炉3は住居中心よりやや南側に位置する。63.1×35.3cm、深さ16.6cmの不整円形の掘り込みを持つ地床炉である。柱穴:P1~2、P4~7、P15が主柱穴と思われる。P9は単独ピットの可能性が高い。

#### [覆 土] 4層。

[遺 物] 炉2に土器が埋設されていたほか、覆土中から比較的多量に出土した。出土位置が判明している土器・粘土塊は315点であり、うち阿玉台式14点、勝坂式48点、曾利式1点、加曾利E式161点、連弧文2点、粘土塊1点である。出土した石器の総点数は23点、1,167.7gで、器種の内訳は、楔形石器1点、不規則剥離のある剥片2点(剥片石器系石材)、剥片2点(剥片石器系石材)、打製石斧系石材1点)、調整剥片5点(剥片石器系石材)、打製石斧4点、磨製石斧1点、蔽石4点、片岩製石器4点、石材の内訳は、黒曜石9点、ホルンフェルス5点、砂岩4点、凝灰岩1点、砂質片岩1点、綠泥片岩1点、結晶片岩2点である。

[時 期] 加曾利E式期。

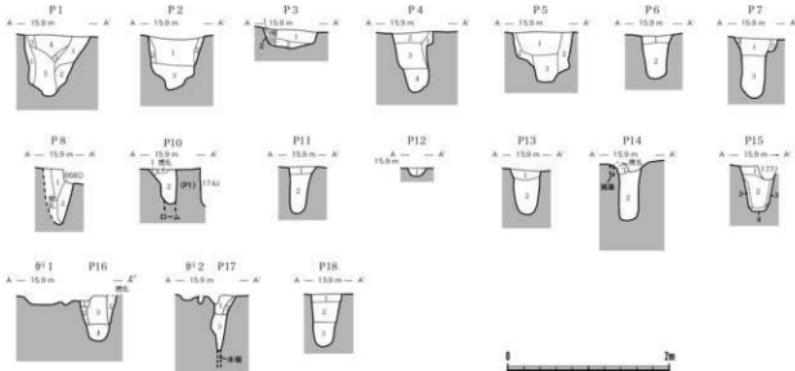
[備 考] 炉2からは炉体土器が出土しているが、破片資料での出土であり、また、破片数も少量だったため復元および図化し得なかった。住居南側のP9には深鉢形土器(第87図8)が埋設されていたが、



- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 径 2~3 mm のローム粒を多量。径 1~2 mm の焼土粒を多量。径 3~5 mm の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 黒褐色土 (10YR3/2) 径 1~2 mm のローム粒を少量。径 1~2 mm の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 3 黒褐色土 (10YR2/2) 径 1~3 mm のローム粒を多量。径 2~3 mm の焼土粒を少量。径 2~3 mm の炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 4 黒褐色土 (10YR3/1) 炙 1。径 2~7 mm のロームブロックを多量。径 2~7 mm の焼土粒を多量。径 3~5 mm の炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。

第 79 図 178 号住居跡 1 (1 / 60)





P1

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径 2 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 20 ~ 50 mm のロームブロックを多量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を微量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径 2 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 20 ~ 50 mm のロームブロックを多量含む。しまりあり、粘性強。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) 径 2 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を少量含む。しまり・粘性強。
- 4 黑褐色土 (10YR3/1) 径 2 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を少量含む。しまり強・粘性強。
- 5 黑褐色土 (10YR2/2) 径 2 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を少量含む。しまり強。粘性あり。

P2・P3・P7

- 1 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 1 ~ 10 mm のロームブロックを少量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性強。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性強。
- 3 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性強。

P3・P6・P10・P11・P14

- 1 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 10 mm のロームブロックを微量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。
- 2 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 1 ~ 2 mm の他土粒を微量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 3 黑褐色土 (10YR2/2) 径 2 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 10 mm のロームブロックを微量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。
- 4 黑褐色土 (10YR2/2) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 1 ~ 3 mm の他土粒を微量。径 1 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

P4

- 1 黑褐色土 (10YR2/2) 径 2 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 10 mm のロームブロックを微量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量含む。しまり・粘性弱。

- 2 黑褐色土 (10YR2/1) 径 2 ~ 5 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 5 mm の他土粒を微量。径 2 ~ 5 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 3 黑褐色土 (10YR2/2) 径 2 ~ 5 mm のローム粒を多量。径 10 mm のロームブロックを微量。径 2 ~ 5 mm の他土粒を微量。径 2 ~ 5 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 4 黑褐色土 (10YR2/2) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 1 ~ 3 mm の他土粒を微量。径 1 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 1 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 5 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 1 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 2 褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量含む。しまり・粘性弱。

- 3 黑褐色土 (10YR3/2) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量含む。しまりあり、粘性強。

P12

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) 径 2 ~ 5 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 6 mm の他土粒を多量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性強。

- 1 黑褐色土 (10YR3/3) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を少量。径 1 ~ 2 mm の他土粒を微量。径 1 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり強・粘性弱。

- 2 黑褐色土 (10YR3/3) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を少量。径 5 ~ 10 mm のロームブロックを微量含む。しまり・粘性弱。

- 3 黑褐色土 (10YR3/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。

- 4 褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を少量。径 5 ~ 10 mm のロームブロックを微量含む。しまり・粘性強。

P16

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量。径 10 mm のロームブロックを少量。径 3 ~ 5 mm の他土粒を多量。径 5 mm の炭化粒を少量含む。しまり・粘性弱。

- 2 褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 3 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 10 mm のロームブロックを微量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 4 喀褐色土 (10YR3/2) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量。径 20 mm のロームブロックを微量含む。しまり強く。粘性あり。

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量。径 10 mm のロームブロックを微量。径 3 ~ 5 mm の他土粒を多量。径 5 mm の炭化粒を少量含む。しまり・粘性弱。

- 2 褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量含む。しまり・粘性弱。

- 3 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量。径 10 mm のロームブロックを微量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 4 喀褐色土 (10YR3/2) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量。径 20 mm のロームブロックを微量含む。しまり強く。粘性あり。

P17

- 1 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 5 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を少量。径 1 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 2 褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量含む。しまり・粘性弱。

- 3 黑褐色土 (10YR3/2) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量含む。しまりあり、粘性強。

- 1 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を微量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 2 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を少量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を微量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 3 黑褐色土 (10YR3/2) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量含む。しまりあり、粘性弱。

P18

- 1 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を微量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 2 黑褐色土 (10YR3/1) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を少量。径 2 ~ 3 mm の他土粒を微量。径 2 ~ 3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

- 3 黑褐色土 (10YR3/2) 径 1 ~ 2 mm のローム粒を多量含む。しまりあり、粘性弱。

P8

- 1 黑褐色土 (10YR2/2) P17 の 2 倍と同等。

- 2 黑褐色土 (10YR3/1) 径 2 ~ 5 mm のローム粒を多量。径 2 ~ 5 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱。

第80図 178号住居跡2 (1/60)



178号住居跡Aセクション南側（東より）



178号住居跡Aセクション北側（東より）



178号住居跡Bセクション東側（南より）



178号住居跡Bセクション西側（南より）



178号住居跡炉1全景（西より）



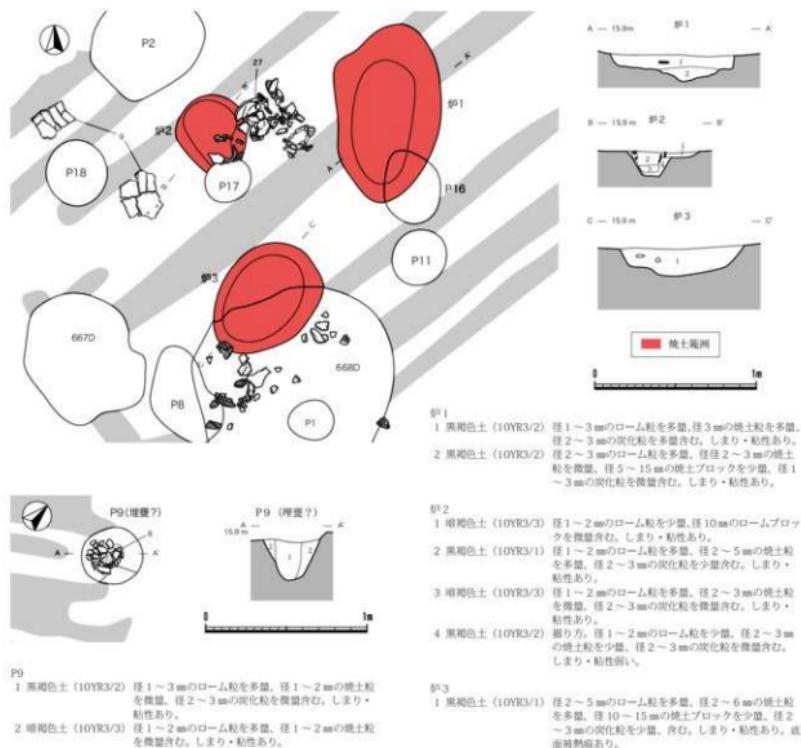
178号住居跡炉1Aセクション（西より）



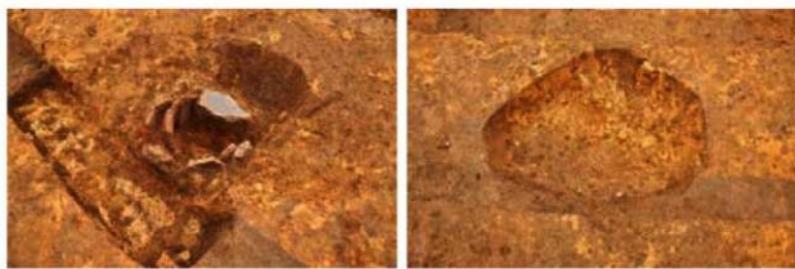
178号住居跡炉2全景（東より）

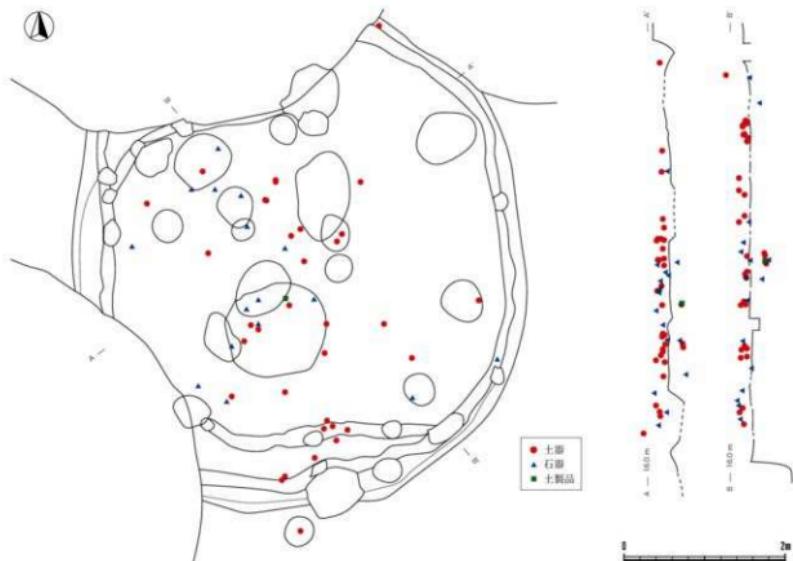


178号住居跡炉2Aセクション（東より）



第81図 178号住居跡炉・P9(埋甕?) (1/30)





第82図 178号住居跡遺物出土状態 (1/60)



178号住居跡遺物出土状態（東より）



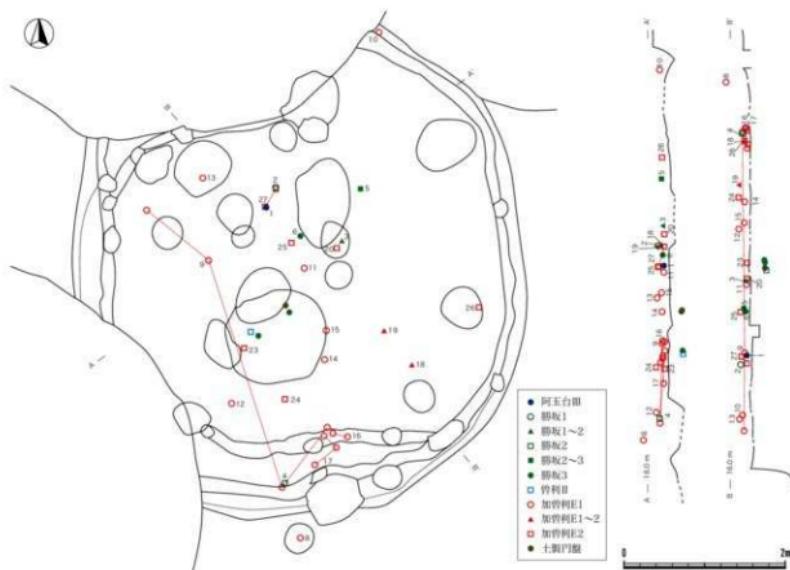
178号住居跡遺物出土状態



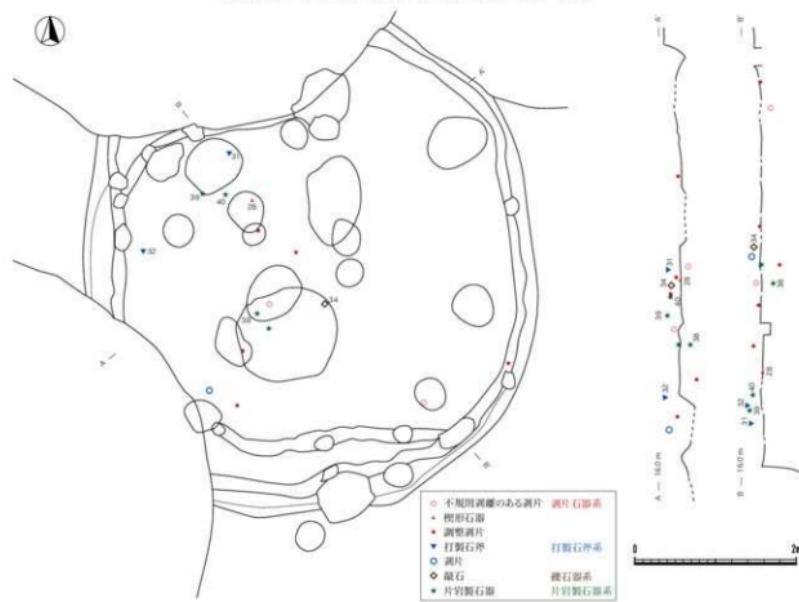
178号住居跡遺物出土状態



178号住居跡遺物出土状態



第83図 178号住居跡器出土状態 (1/60)



第84図 178号住居跡器出土状態 (1/60)

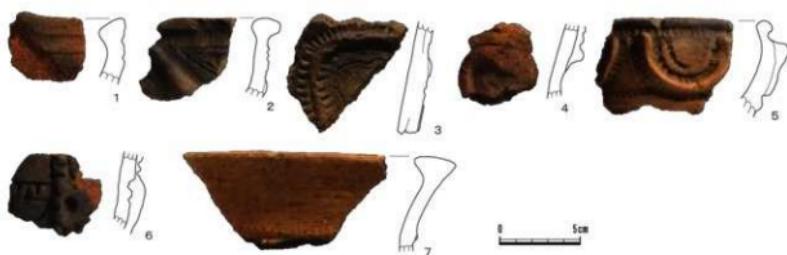
これはピット・遺物を含め 178 号住居跡に伴わない可能性がある。

### 遺 物 (第 86 ~ 90 図、第 29・30・48・49 表)

阿玉台式 (1)、勝坂式 (2~6)、曾利式 (7)、加曾利 E 式 (8~27)、楔形石器 (28)、打製石斧 (29~32)、磨製石斧 (33)、敲石 (34~37)、片岩製石器 (38~40) を図示した。



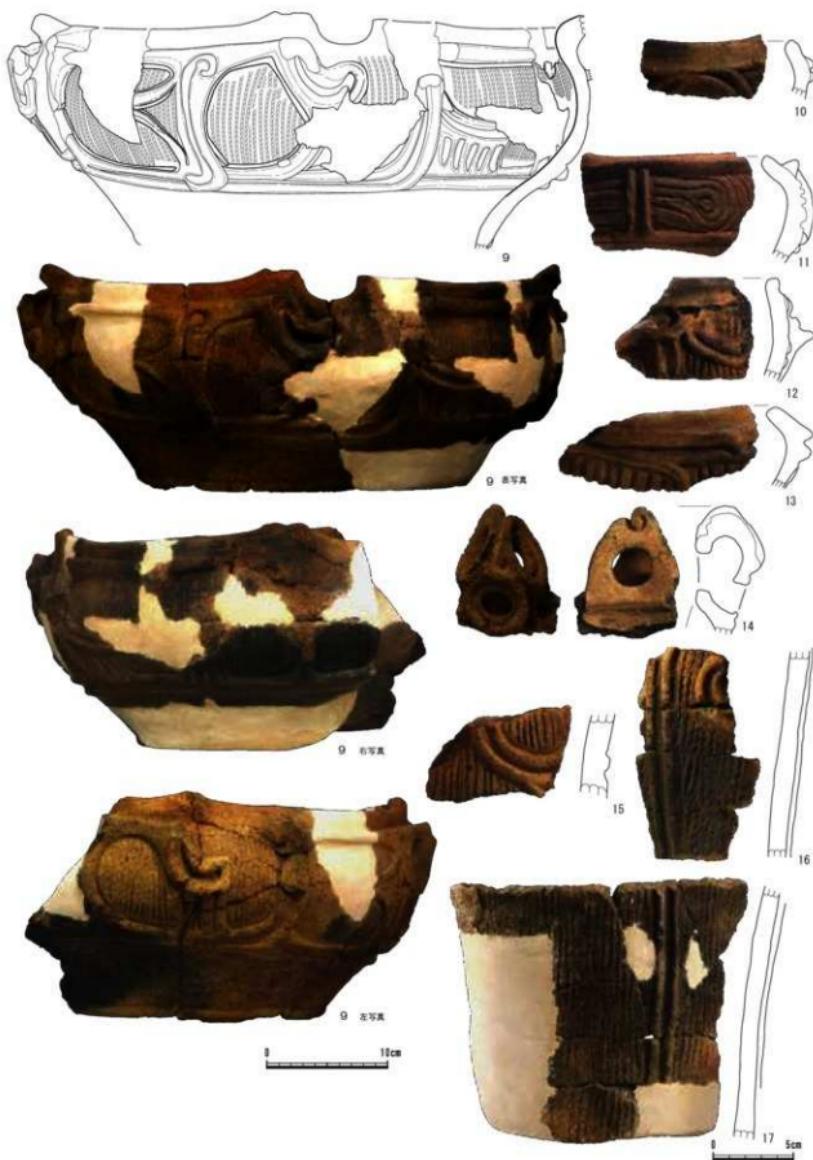
第 85 図 178 号住居跡変遷図 (1 / 120・1 / 60)



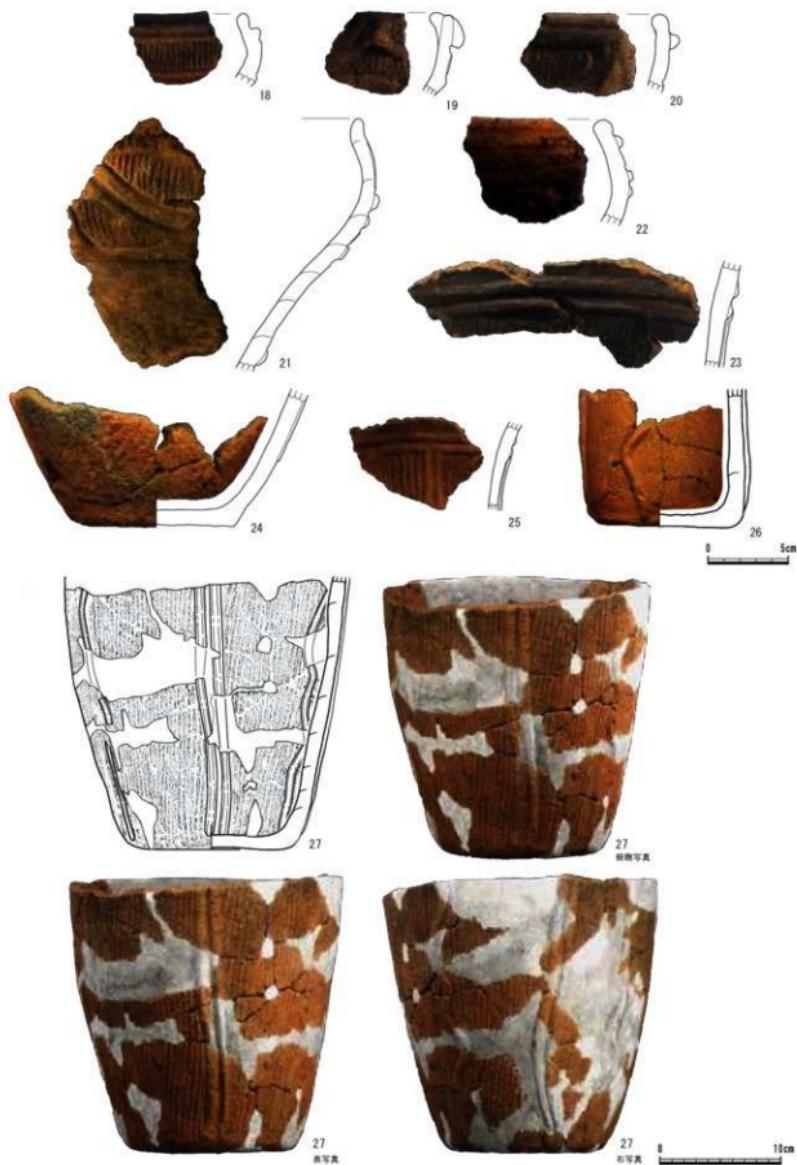
第 86 図 178 号住居跡出土遺物 1 (1 / 3)



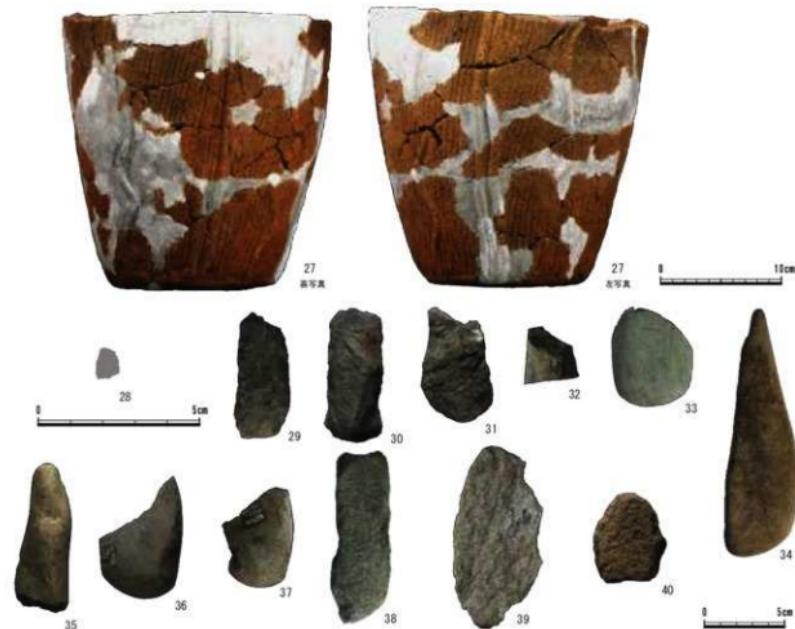
第87図 178号住居跡出土遺物2(1/4)



第88図 178号住居跡出土遺物3 (1/4・1/3)



第89図 178号住居跡出土遺物4 (1/4・1/3)



第90図 178号住居跡出土遺物5(1/4・1/3・2/3)

## 179号住居跡

## 遺構(第91~96図)

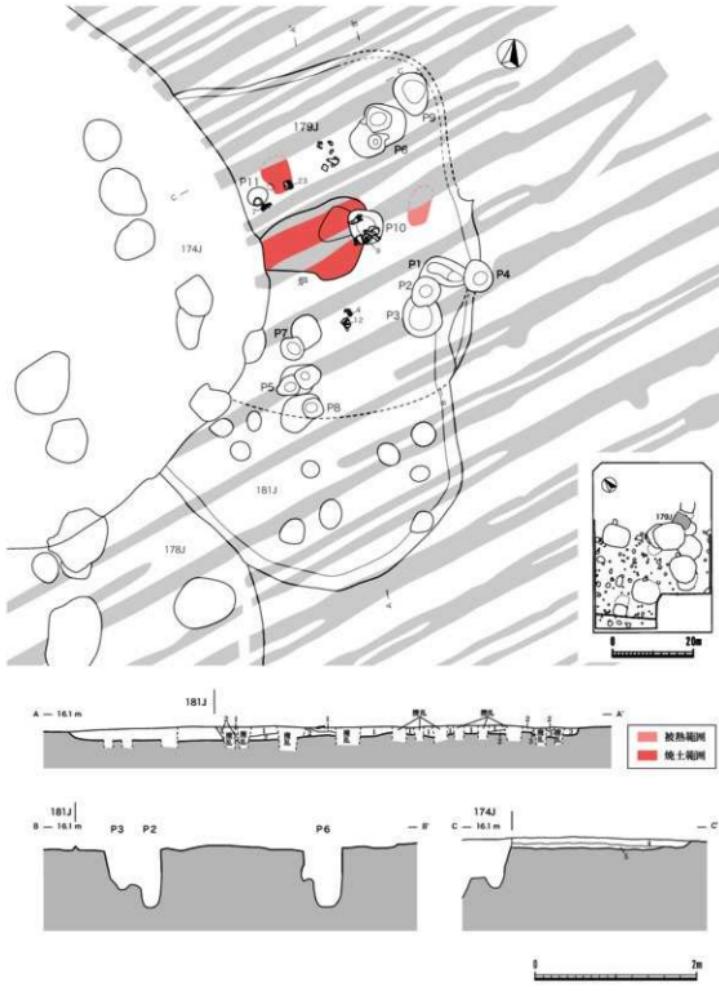
[位置] X=19440, Y=-24154。

[住居構造] 174Jに切られ175Jを切る。攪乱が著しく明確ではないが、181Jを切ると思われる。平面形：不明。規模：不明。主軸方位：N=10°-W。壁高：2.3～8.9 cmを測り、25°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：耕作による攪乱が著しい。炉：住居の規模は不明だが、ほぼ中央に位置すると思われる。129.4×66.7 cm、20.0×13.5 cmの被熱範囲が確認できる。125.0×77.4 cm、深さ7.3 cmの不整形の掘り込みをもつ地床炉である。柱穴：P2・5・6が主柱穴と思われる。

[覆土] 5層。

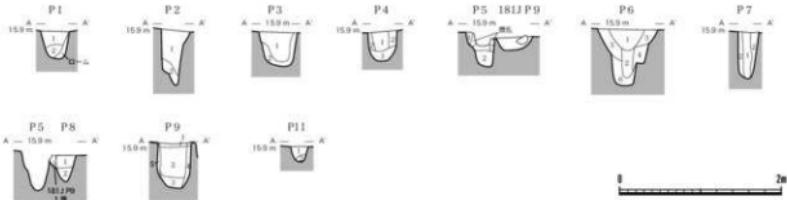
[遺物] 覆土中から比較的多量に出土した。出土位置が判明している土器は107点であり、うち阿玉台式8点、勝坂式8点、曾利式4点、加曾利E式62点である。出土した石器の総点数は25点、1,277.7gで、器種の内訳は、石鏃1点、楔形石器1点、不規則剥離のある剥片1点(剥片石器系石材)、剥片4点(剥片石器系石材)、調整剥片2点(剥片石器系石材)、打製石斧6点、磨石2点、敲石4点、輕石1点、片岩製器3点、石材の内訳は、黒曜石9点、ホルンフェルス3点、砂岩6点、片状砂岩1点、凝灰岩1点、閃綠岩1点、綠泥片岩1点、結晶片岩2点、安山岩質火山彈1点である。

[時期] 加曾利E1式期。



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を少置。径1～3mmの燒土粒を微量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。かの周囲は燒土。
- 2 黒褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多置。径5～15mmのロームブロックを少置。径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く。粘性あり。
- 3 烧土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多置。径5mmの焼土粒を微量含む。しまり強く。粘性あり。
- 4 黑褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を少置。径1～2mmの燒土粒を少量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く。粘性あり。
- 5 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多置。径1～3mmのロームブロックを多置。径1～3mmの焼土粒を微量。径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く。粘性あり。

第91図 179号住居跡1 (1/60)



P1

- 1 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~2mmのローム粒を少置、径1~3mmの燒土粒を少置。  
径1~3mmの化粧粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 喬褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P2

- 1 喬褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多置、径5~10mmのロームブロックを微量含む。径1~3mmの燒土粒を微量含む。径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少置。しまり・粘性あり。

P3

- 1 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~2mmのローム粒を多置。径1~2mmの燒土粒を微量含む。径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。P2の1側に似る。
- 2 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少置、径5~10mmのロームブロックを少置含む。しまり・粘性あり。

P4

- 1 喬褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少置、径1mmの燒土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 喬褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多置、径5~10mmのロームブロックを少置含む。しまり・粘性あり。

P5

- 1 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少置、径5~30mmのロームブロックを少置含む。しまり・粘性あり。
- 2 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P6

- 1 喬褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多置含む。しまり強く・粘性あり。
- 2 喬褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少置、径5~10mmのロームブロックを少置含む。しまり・粘性あり。
- 3 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少置、径1mmの燒土粒を微量含む。しまり・粘性強い。
- 4 喬褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多置、径5~15mmのロームブロックを多置含む。しまり・粘性強い。
- 5 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多置、径5~10mmのロームブロックを多置含む。しまり強く・粘性あり。
- 6 黃褐色土 (10YR5/6) ローム。Pe面。

P7

- 1 喬褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多置含む。しまり強く・粘性あり。
- 2 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多置、径5~15mmのロームブロックを少置含む。しまり強く・粘性あり。

P8

- 1 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多置、径1~2mmの燒土粒を少置。径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く・粘性あり。
- 2 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少置含む。しまり・粘性あり。I層によく見ゆ。

P9

- 1 喬褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多置、径5~10mmのロームブロックを少置含む。しまり強く・粘性あり。
- 2 喬褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多置、径5~10mmのロームブロックを少置含む。しまり・粘性あり。
- 3 喬褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多置、径5~15mmのロームブロックを少置含む。しまり・粘性あり。
- 4 喬褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多置、径5~15mmのロームブロックを少置含む。しまり・粘性あり。
- 5 黃褐色土 (10YR5/6) 径10~30mmのロームブロックを多置含む。しまり・粘性強い。

P11

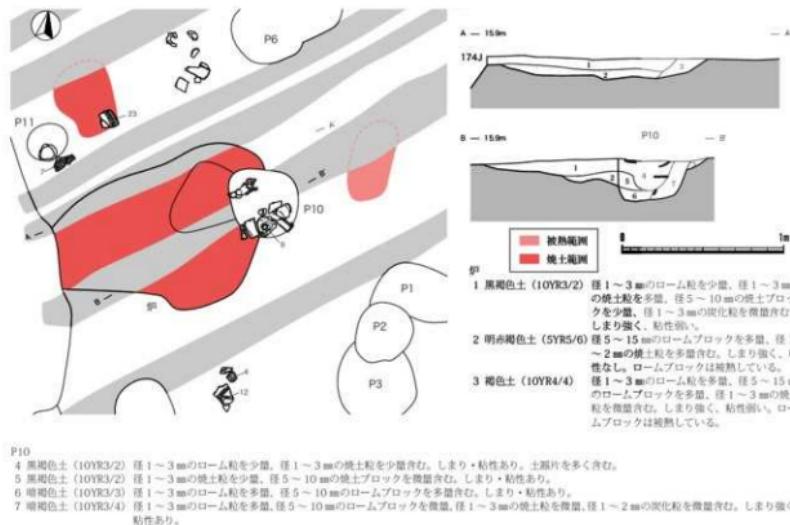
- 1 喬褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多置、径1mmの燒土粒を微量含む。しまり強く・粘性あり。
- 2 喬褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少置含む。しまり・粘性強い。

第92図 179号住居跡2 (1/60)



179号住居跡・181号住居跡全景（南より）

179号住居跡・181号住居跡全景（東より）



第93図 179号住居跡炉 (1/30)



179号住居跡・181号住居跡Aセクション (南より)

179号住居跡・181号住居跡Bセクション (東より)



179号住居跡炉全景 (南より)

179号住居跡被熱範囲全景 (東より)



179号住居跡・181号住居跡遺物出土状態（南より）



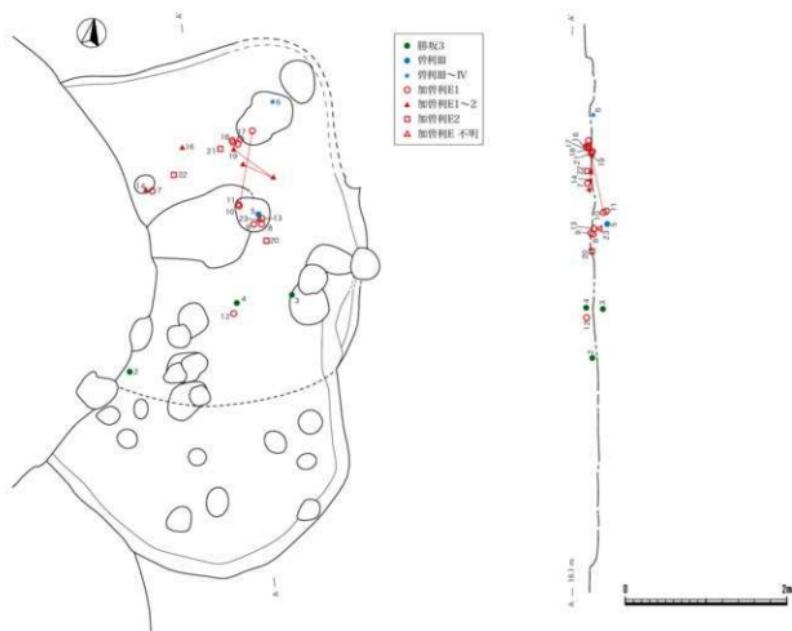
179号住居跡・181号住居跡遺物出土状態（東より）



179号住居跡・181号住居跡遺物出土状態



179号住居跡 P10 遺物出土状態（西より）



第95図 179号住居跡土器出土状態（1／60）



179号住居跡遺物出土状態（南より）

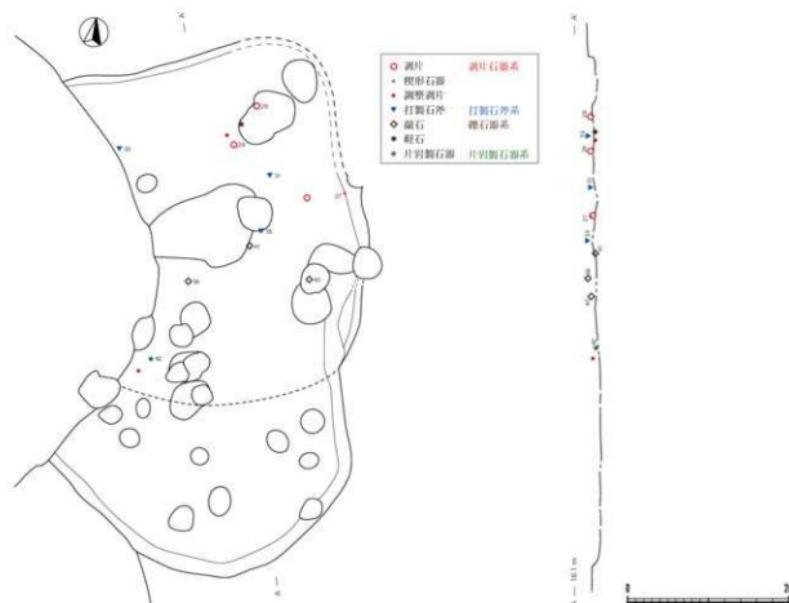


179号住居跡遺物出土状態（西より）

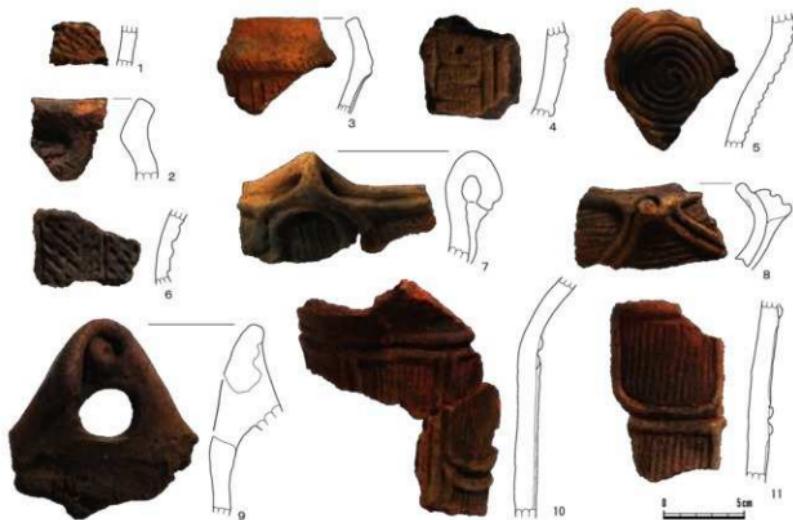
**[備考]** 炉の北側に不明 × 35.3 cm の焼土範囲、東側に不明 × 25.1 cm の被熱範囲が認められる。

**遺物** (第97・98図、第31・32・43・49表)

黒浜式 (1)、勝坂式 (2~4)、曾利式 (5~6)、加曾利E式 (7~24)、土器片錘 (25)、石錐 (26)、楔形石器 (27)、剥片 (剥片石器系: 28~29)、打製石斧 (30~35)、磨石類 (36~37)、敲石 (38~41)、片岩製石器 (42) を図示した。



第96図 179号住居跡石器出土状態 (1 / 60)



第97図 179号住居跡出土遺物 1 (1 / 3)



第98図 179号住居跡出土遺物2 (1/3・2/3)

## 180号住居跡

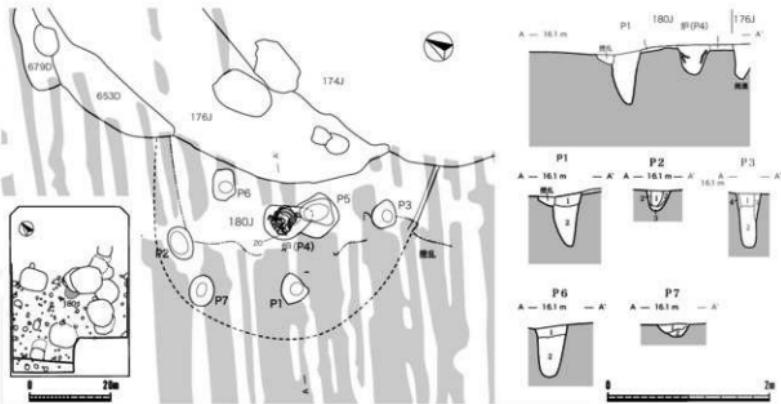
## 遺構(第99～103図)

[位置] X=-19441, Y=-24164。

[住居構造] 176J・174J・653Dに切られる。平面形:不明。規模:不明。主軸方位:N-60°-E。壁高:検出されなかった。壁溝:検出されなかった。床面:耕作による擾乱が著しい。炉:擾乱により住居の構造がはっきりしないが、住居のほぼ中央と思われる位置に深鉢形土器の上半部(20)を埋設した埋甕炉(P4)が検出された。深さ25cmを測る。土器を設置した後、土器の下部からピットの下端にかけて2cmの土を貼り内部の使用面を構築したと推測される。外側については土器上部とピットの上端の間に土を貼り、礫を設置している。なお、周囲から焼土粒が検出されている。柱穴:P1・3・6以外の主柱穴は確認できなかった。

[覆土] 1層。

[遺物] 住居のほぼ中央に位置するP4に土器が埋設されていたほか、覆土中から少量出土した。出土位置が判明している土器・粘土塊は52点であり、うち阿玉台式18点、勝坂式19点、加曾利E式1点、粘土塊1点である。出土した石器の総点数は4点、818.7gで、器種の内訳は、打製石斧1点、



1 布赤褐色土(5YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

## P1

- 1 増赤褐色土(5YR3/3) 径1~2mmのローム粒を少量、径1~2mmの燒土粒を少量。径1~3mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
2 増赤褐色土(5YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量。径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

## P2

- 1 増赤褐色土(10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
2 褐色土(10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少額含む。しまり強く、粘性あり。  
3 褐色土(10YR4/6) 径10~20mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。ロームブロック。

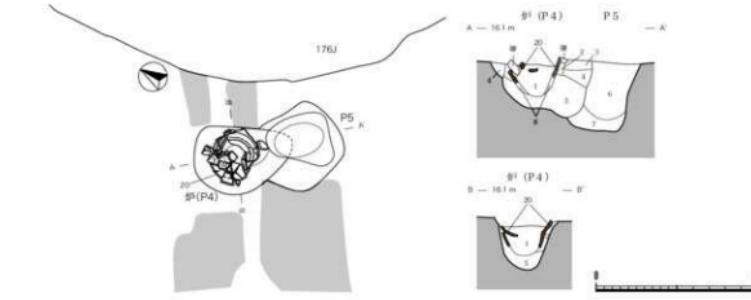
## P3

- 1 増褐土色土(10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を微量、径5~10mmのロームブロックを少額含む。しまり強く、粘性あり。  
2 増褐土色土(10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
3 褐色土(10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少額含む。しまり強く、粘性あり。  
4 増褐土色土(10YR5/6) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~20mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

## P6・P7

- 1 増褐土色土(10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径1~2mmの燒土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
2 増褐土色土(10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。

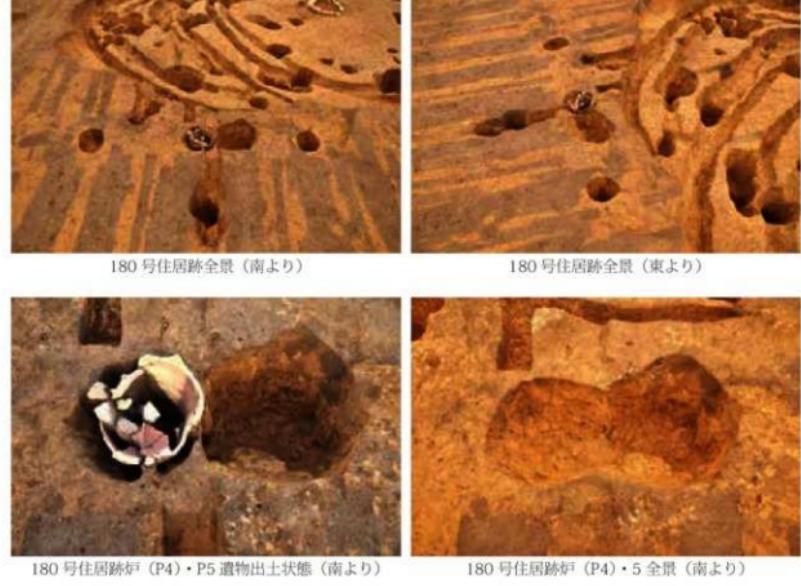
第99図 180号住居跡(1/60)



伊 (P4)・P5

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) P4 地下。径 1～2 mm のローム粒を微量。径 1～3 mm の堆土粒を少量、径 10 mm の堆土ブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) P4 地下。径 1～2 mm のローム粒を多量。径 1～2 mm の堆土粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 單褐色土 (10YR3/4) P4 地下。径 1～3 mm のローム粒を多量。径 1～2 mm の堆土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 褐色土 (10YR4/4) P4 地下。径 1～3 mm のローム粒を多量。径 5～10 mm のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) P4 地下。径 1～3 mm のローム粒を多量。径 10～30 mm のロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 6 單褐色土 (10YR3/3) P5 地下。径 1～3 mm のローム粒を少量、径 5～10 mm のロームブロックを微量含む。径 1 mm の堆土粒を微量、径 1～2 mm の灰化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 7 單褐色土 (10YR3/4) P5 地下。径 1～3 mm のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 8 單褐色土 (10YR3/4) P4 地下。埋藏幅 1 m。径 1～2 mm のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。7 層に近似。

第100図 180号住居跡炉 (P4) (1/30)



180号住居跡炉 (P4)・P5 遺物出土状態 (南より)

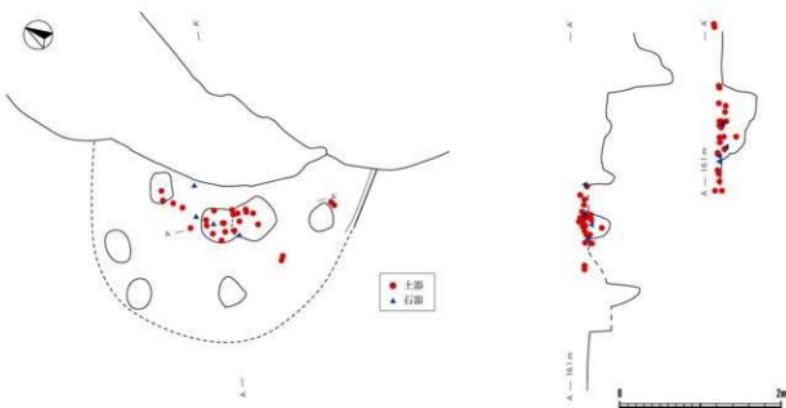
180号住居跡炉 (P4)・5 全景 (南より)



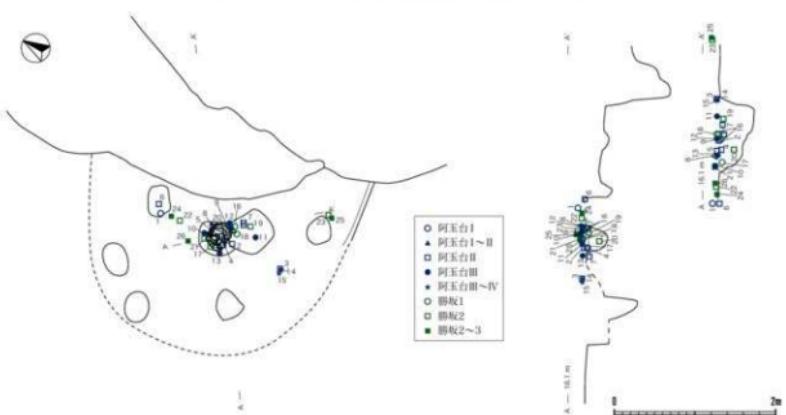
180号住居跡炉 (P4)・P5 Aセクション (南より)



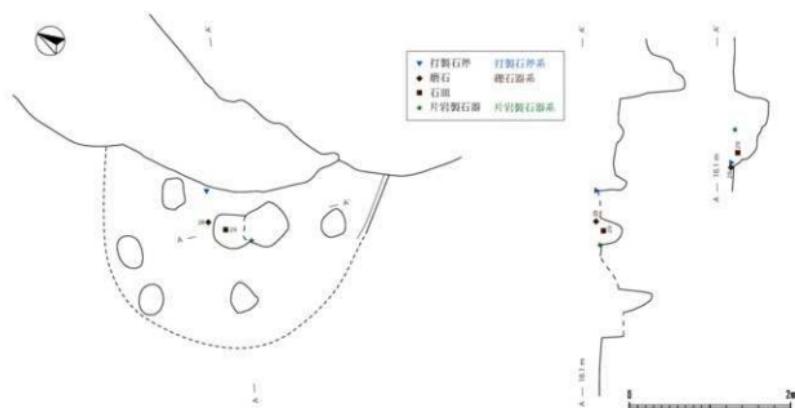
180号住居跡遺物出土状態 (南より)



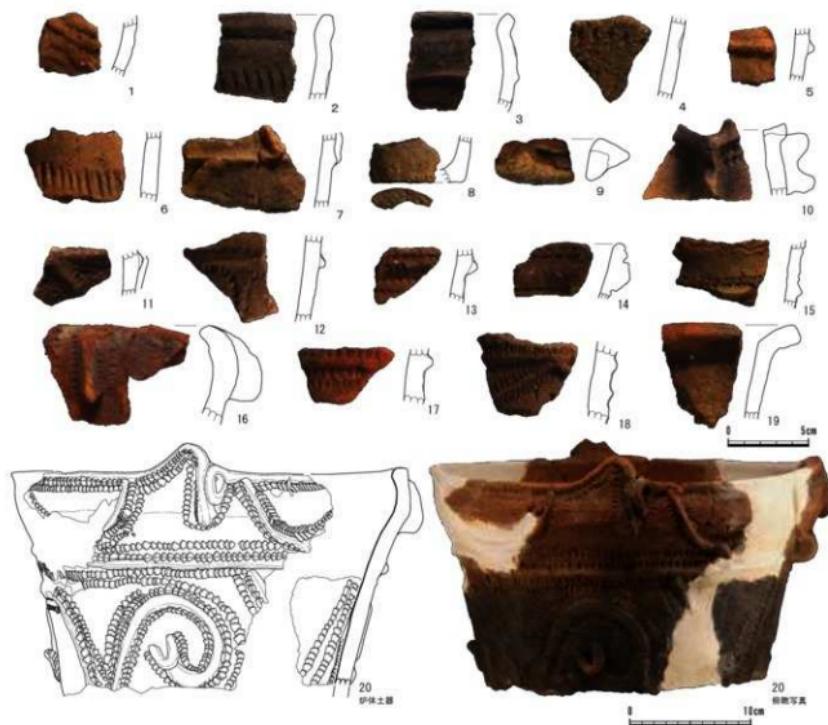
第101図 180号住居跡遺物出土状態 (1/60)



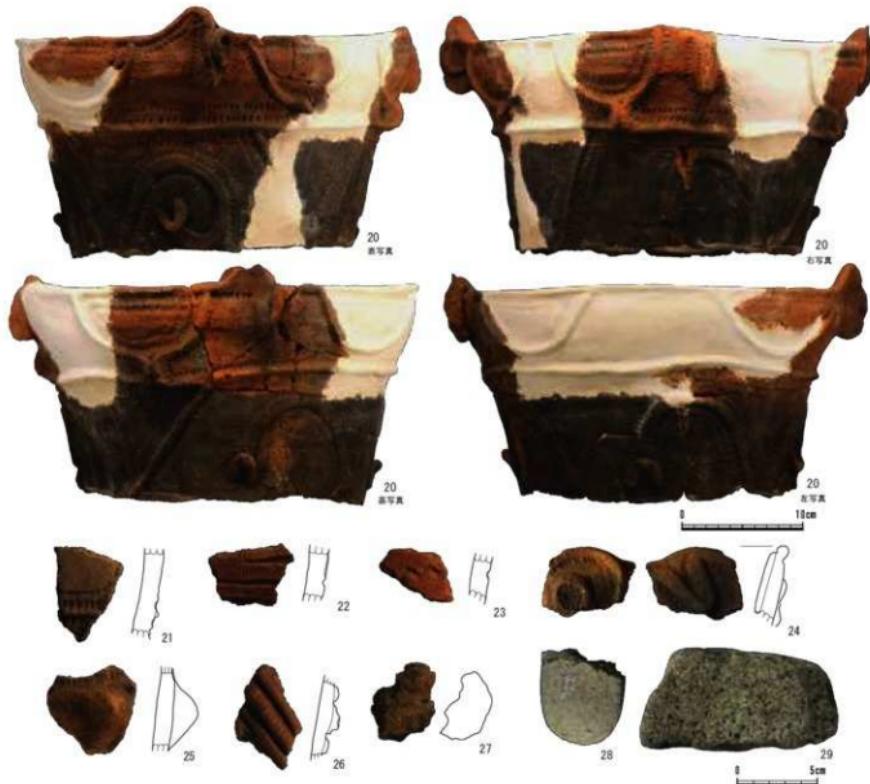
第102図 180号住居跡土器出土状態 (1/60)



第103図 180号住居跡石器出土状態 (1/60)



第104図 180号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)



第105図 180号住居跡出土遺物2（1／4・1／3）

磨石1点、石皿1点、片岩製石器1点、石材の内訳は、砂岩2点、安山岩1点、砂質片岩1点である。

[時 期] 阿玉台～勝坂2式期。

#### 遺 物 (第104・105図、第33・34・43・49表)

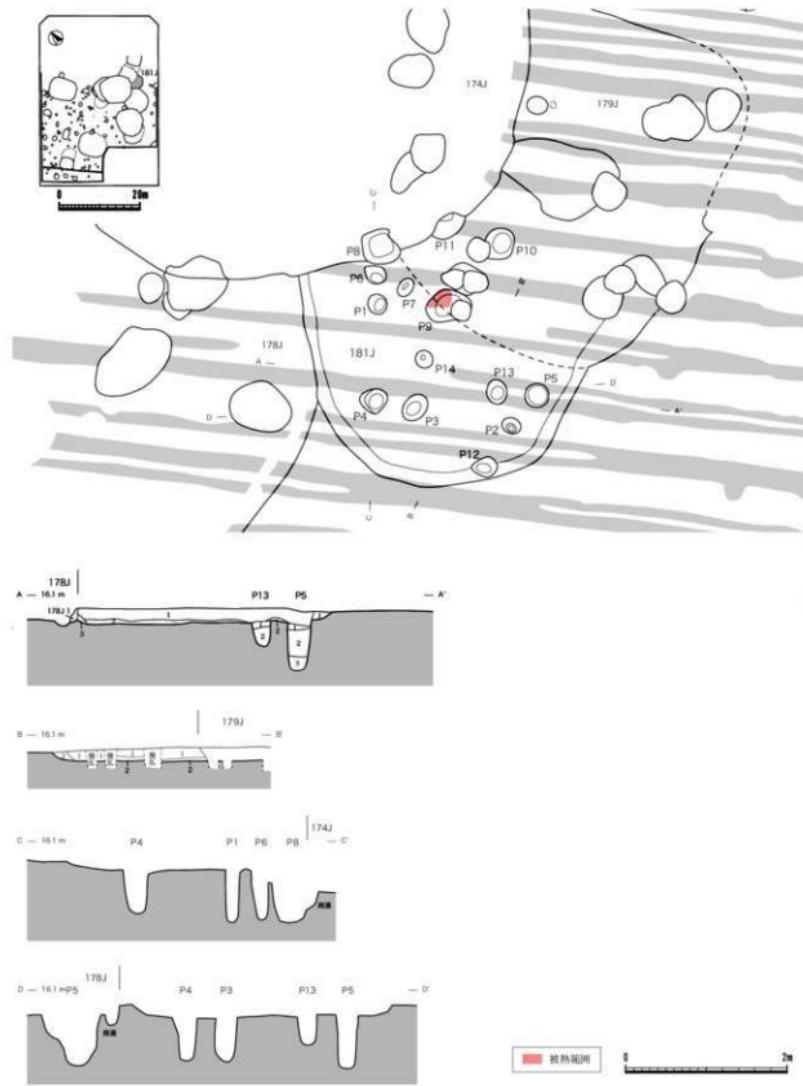
阿玉台式（1～15）、勝坂式（16～26）、粘土塊（27）、磨石（28）、石皿（29）を図示した。20はP4の埋甕で残存高19.8cm、口縁部径23.0cmを測る。

#### 181号住居跡

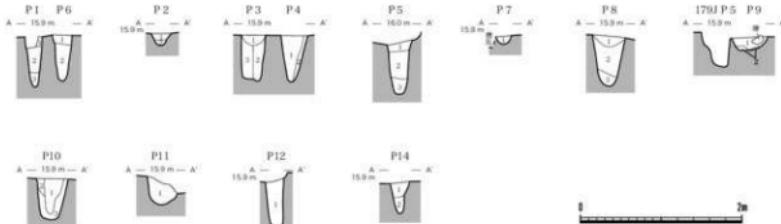
##### 遺 構 (第106～110図)

[位 置] X=19443,Y=24154。

[住居構造] 174J・179J・178Jに切られる。平面形：不整円形。規模：不明。主軸方位：N-45°-W。壁高：6.7～12.8cmを測り、30°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：耕作による擾乱が著しい。柱穴：P4・5・8・10・11が主柱穴と思われる。



第106図 181号住居跡1 (1/60)



P1

- 1 噴褐色土 (10YR3/4) 層 20~50 mm のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。弱末か?
- 2 噴褐色土 (10YR3/3) 層 1~3 mm のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 噴褐色土 (10YR3/4) 層 1~3 mm のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P2

- 1 褐色土 (10YR4/6) 層 1~3 mm のローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 黄褐色土 (10YR5/6) 層 1~3 mm のローム粒を多量。径 10~20 mm のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

P3

- 1 褐色土 (10YR4/4) 層 1~3 mm のローム粒を多量。径 5~10 mm のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 噴褐色土 (10YR3/3) 層 1~3 mm のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 層 1~3 mm のローム粒を少量。径 5~10 mm のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

P4

- 1 噴褐色土 (10YR3/4) 層 1~3 mm のローム粒を少量。径 1 mm の燒土粒を微量。径 1~2 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 噴褐色土 (10YR3/4) 層 1~3 mm のローム粒を少量。径 5~10 mm のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

P5

- 1 噴褐色土 (10YR3/3) 層 1~3 mm のローム粒を少量。径 1~2 mm の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 噴褐色土 (10YR3/3) 層 1~2 mm のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 噴褐色土 (10YR3/4) 層 1~2 mm のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P6

- 1 褐色土 (10YR4/4) 層 1~3 mm のローム粒を少量。径 5~15 mm のロームブロックを少量。径 10~30 mm の褐色土ブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
- 2 噴褐色土 (10YR3/4) 層 1~3 mm のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

P7

- 1 褐色土 (10YR4/4) P3 の 1 層と同等。

P8

- 1 噴褐色土 (10YR3/3) 層 1~2 mm のローム粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 噴褐色土 (10YR3/3) 層 1~3 mm のローム粒を少量。径 5~10 mm のロームブロックを少量。径 1~3 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 3 噴褐色土 (10YR3/4) 層 1~3 mm のローム粒を微量含む。しまり・粘性強い。

P9

- 1 噴褐色土 (10YR3/3) 層 1~3 mm のローム粒を多量。径 1~2 mm の燒土粒を微量。径 1~2 mm の炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 噴褐色土 (10YR3/4) 層 1~3 mm のローム粒を多量。径 1~2 mm の燒土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

P10

- 1 噴褐色土 (10YR3/3) 層 1~3 mm のローム粒を少量。径 1 mm の燒土粒を微量。径 1 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 黄褐色土 (10YR4/4) 層 1~3 mm のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 層 1~3 mm のローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。

P11

- 1 層 1~3 mm のローム粒を少量。径 5~20 mm のロームブロックを多量。径 1 mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P12

- 1 噴褐色土 (10YR3/4) 層 1~3 mm のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

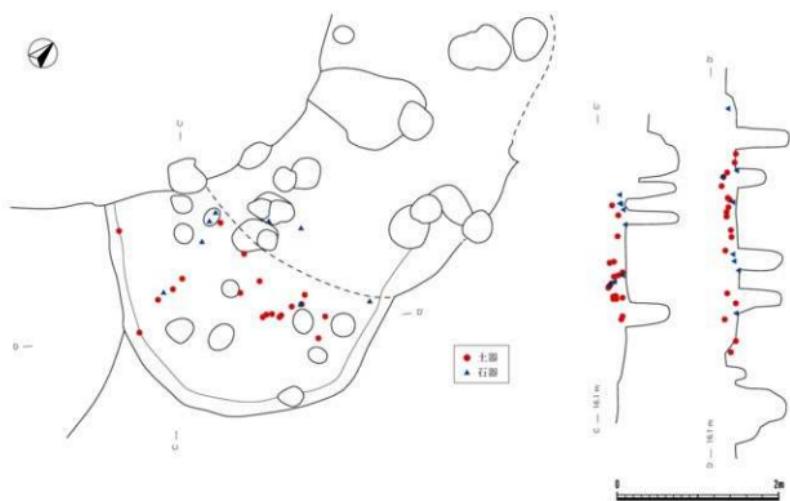
P13

- 1 噴褐色土 (10YR3/4) 層 1~3 mm のローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 噴褐色土 (10YR3/3) 層 1~3 mm のローム粒を少量。径 5~15 mm のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

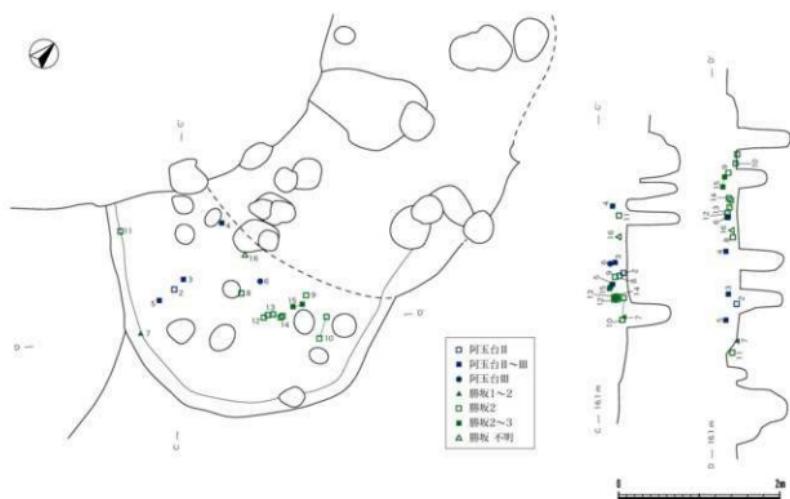
P14

- 1 噴褐色土 (10YR3/4) 層 1~3 mm のローム粒を少量。径 5~10 mm のロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 層 1~3 mm のローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。

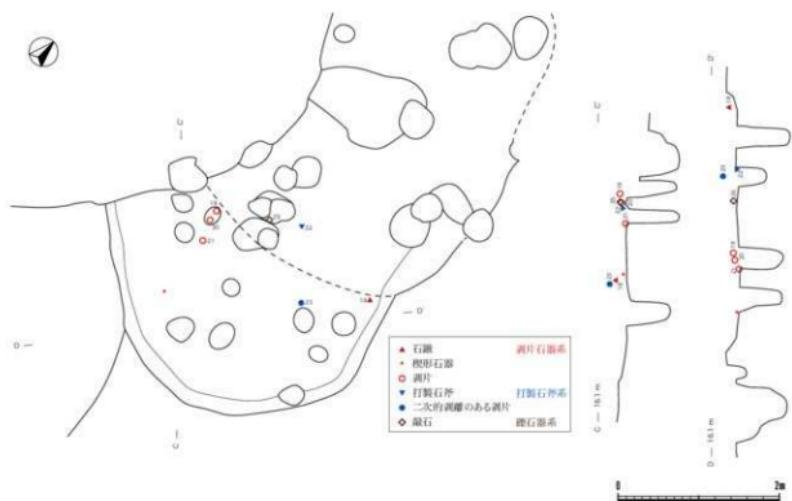
第107図 181号住居跡2 (1/60)



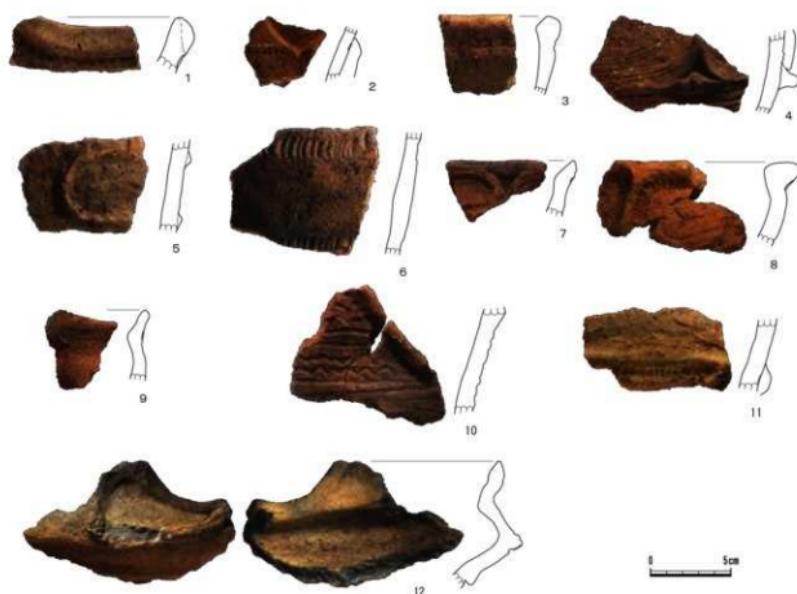
第108図 181号住居跡遺物出土状態 (1/60)



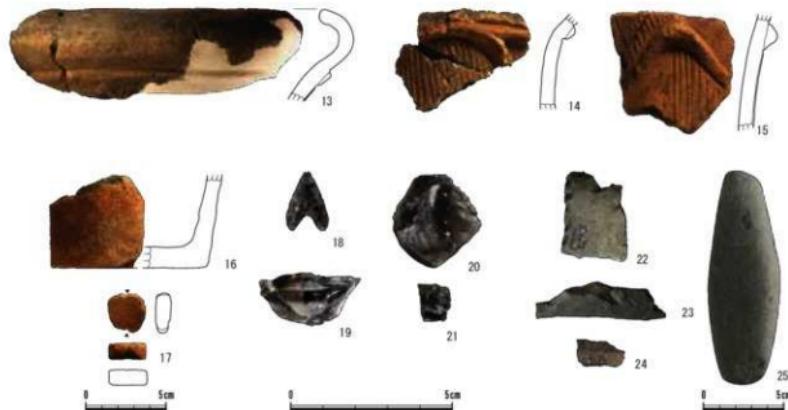
第109図 181号住居跡土器出土状態 (1/60)



第110図 181号住居跡石器出土状態 (1/60)



第111図 181号住居跡出土遺物1 (1/3)



第112図 181号住居跡出土遺物2 (2/3・1/3)

**[覆 土]** 3層。

**[遺 物]** 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は81点であり、うち阿玉台式28点、勝坂式37点、加曾利E式3点である。出土した石器の総点数は9点、436.6gで、器種の内訳は、石鎌1点、櫻形石器1点、二次的剥離のある剥片1点（打製石斧系石材）、剥片3点（剥片石器系石材）、調整剥片1点（打製石斧系石材）、打製石斧1点、敲石1点、石材の内訳は、黒曜石5点、ホルンフェルス2点、砂岩2点である。

**[時 期]** 阿玉台II式期。

**[備 考]** 攪乱により住居の規模は明確ではないが、住居のほぼ中央に位置すると思われるP9内に34.5×21.8cmの被熱範囲が認められる。181号住居跡の地床炉の可能性がある。

#### **遺 物** (第111・112図、第35・36・43・49表)

阿玉台式（1～6）、勝坂式（7～16）、土器片錐（17）、石鎌（18）、剥片（19～21）、打製石斧（22）、二次的剥離のある剥片（23）、調整剥片（24）、敲石（25）を図示した。

### 182号住居跡

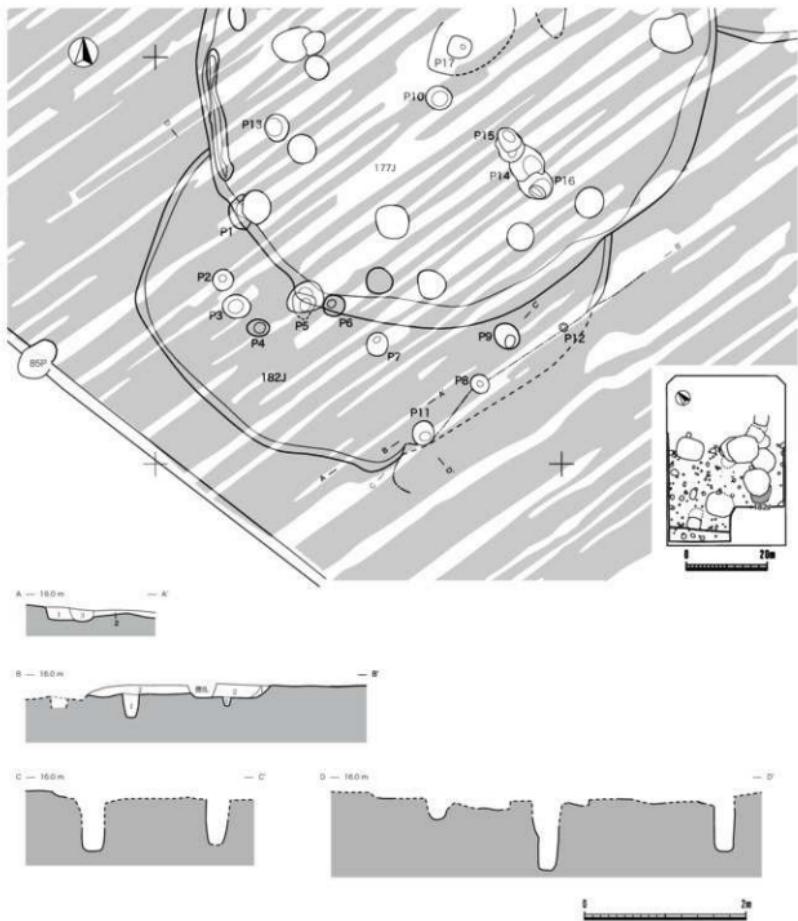
#### **遺 構** (第113～115図)

**[位 置]** X=-19454, Y=-24163。

**[住居構造]** 177に切られる。平面形：不整円形。規模：不明。主軸方位：N-E。壁高：8.0～13.6cmを測り、60°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：耕作による搅乱が著しい。柱穴：P3・9・10・11・13・14・15・16が主柱穴と思われる。

**[覆 土]** 3層。

**[遺 物]** 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は4点であり、うち阿玉台式1点、曾利式2点、加曾利E式1点である。出土した石器の総点数は2点、259.4gで、器種の内訳は、打製石斧1点、敲石1点、石材の内訳は、ホルンフェルス2点である。



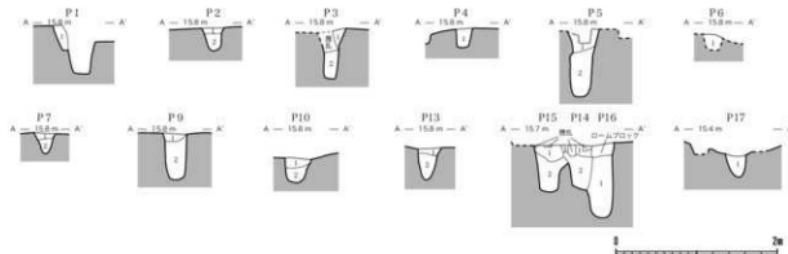
- 1 單褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径2mmの堆土粒を少量。径2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 径2~5mmのローム粒を多量。径1~3mmの堆土粒を少量。径2~5mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 黑褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量。径2mmの堆土粒を少量。径2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第113図 182号住居跡1 (1/60)

[時 期] 加曾利E 1~2式期。

**遺 物** (第116図、第37・49表)

曾利式(1)、加曾利E式(2~7)打製石斧(8)、敲石(9)を図示した。



## P1・P4・P6・P8・P12

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粘を少量。径15~20mmのロームブロックを微量。径3mmの炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性強い。

## P2・P3・P5・P7・P9・P10

1 黒褐色土 (10YR2/2) 径2~3mmのローム粘を少額。径1~2mmの燒土粘を微量。径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

2 黑褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粘を多量。径1mmの燒土粘を微量。径1mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

## P13

1 増褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粘を多量。径1mmの燒土粘を微量含む。しまり強く、粘性あり。

2 増褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粘を少額。径1mmの燒土粘を微量含む。しまり強く、粘性あり。

## P14・P15

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~3mmのローム粘を多量。径5~7mmのロームブロックを微量。径2~5mmの燒土粘を少額。径2~5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

2 黑褐色土 (10YR3/2) 径1~3mmのローム粘を多量。径2~3mmの燒土粘を微量。径2~5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。

## P16

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粘を多量。径2~3mmの燒土粘を少額。径2~5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第114図 182号住居跡2 (1/60)



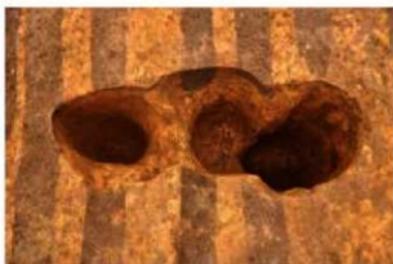
182号住居跡全景（南より）



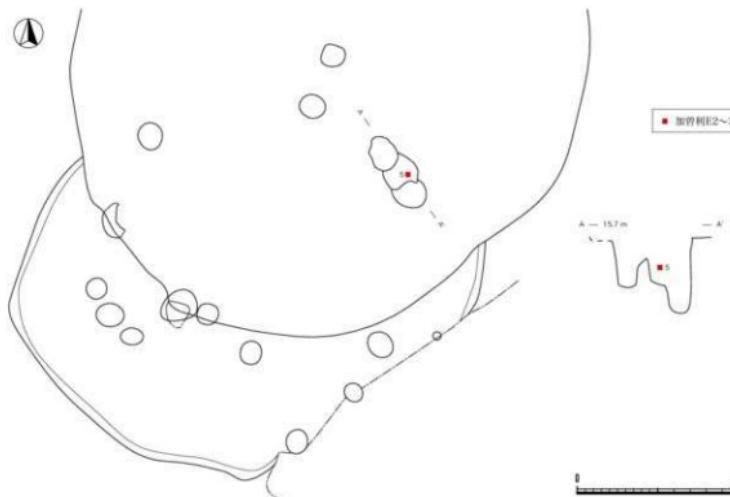
182号住居跡全景（西より）



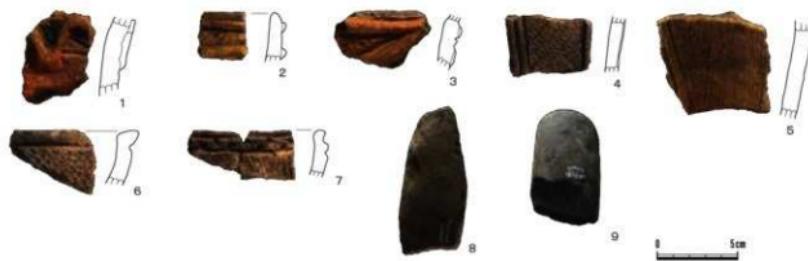
182号住居跡A・Bセクション（東より）



182号住居跡P14~16全景（南より）



第115図 182号住居跡土器出土状態 (1/60)



第116図 182号住居跡出土遺物 (1/3)

### (3) 土坑

#### 650号土坑

##### **遺構** (第117図)

[位置] X=19451, Y=-24184。

[構造] 41Pを切る。平面形：楕円形。規模：1.3×1.14m・深さ 37 cm前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は 60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-48°-E。

[覆土] 2層。

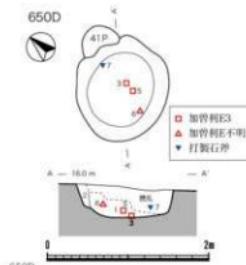
[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 13 点であり、うち加曾利E式 6点である。石器は 3 点で、器種の内訳は剥片 1 点（剥片石器系石材）、碎片 1 点（打製石斧系石材）、

打製石斧1点、石材の内訳は、黒曜石1点、ホルンフェルス2点である。

[時 期] 加曾利E式期。

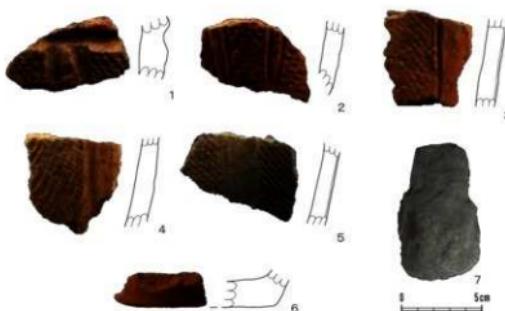
**遺 物** (第118図、第38・49表)

加曾利E式(1~6)、打製石斧(7)を図示した。



1 黒褐色土 (10YR3/1) 径 2~3 m のローム粘土多量。径 2 m の黒色粘土を微量含む。しまり・粘性あり。  
2 黒褐色土 (10YR3/2) 径 2 m のローム粘土を微量含む。しまり・粘性強い。

第117図 650号土坑 (1/60)



第118図 650号土坑出土遺物 (1/3)



650号土坑全景 (東より)



650号土坑セクション (東より)

## 651号土坑

**遺 構** (第119図)

[位 置] X=19450, Y=-24182。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：1.19×0.86m・深さ 15 cm前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は 25° 前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 18° - W。

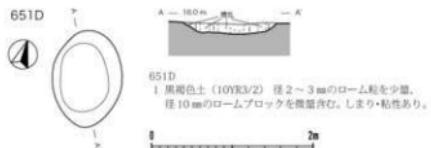
[覆 土] 1層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 加曾利E式期。

**遺 物** (第120図、第38表)

加曾利E式(1)を図示した。



第119図 651号土坑 (1/60)



第120図 651号土坑出土遺物 (1/3)



651号土坑全景(南より)



651号土坑セクション(南より)

## 652号土坑

## 遺構 (第121図)

[位置] X= -19452, Y= -24181。

[構造] ピットと重複するが前後関係は不明である。平面形：不整円形。規模：1.23×0.92 cm・深さ 15 cm 前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は 25° 前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-18°-E。

[覆土] 2層。

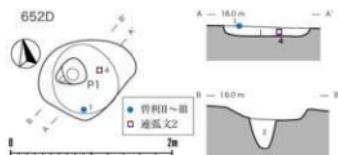
[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 12 点であり、うち曾利式 4 点、加曾利 E 式 1 点、連弧文 7 点である。

[時期] 加曾利 E 2~3式期。

[備考] 652D のやや西寄りに 37×31 cm、深さ 22 cm のピットが検出されている。

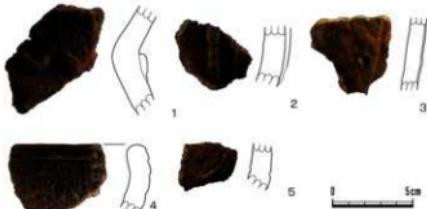
## 遺物 (第122図、第38表)

曾利式 (1)、加曾利 E 式 (2~3)、連弧文 (4~5) を図示した。



652D  
1 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を多量、径7mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。  
2 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

第121図 652号土坑 (1/60)



第122図 652号土坑出土遺物 (1/3)



652号土坑全景（東より）

652号土坑セクション（東より）

## 654号土坑

## 遺構 (第123図)

[位 置] X=19447, Y=-24151。

[構 造] 平面形：楕円形？規模：1.58×不明m・深さ 39cm前後を測る。坑底は起伏があり、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-46°-E。

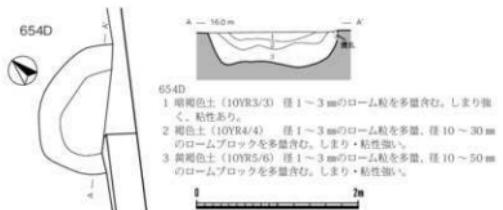
[覆 土] 3層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 阿玉台式期。

## 遺物 (第124図、第39表)

阿玉台式(1)を図示した。



第124図 654号土坑出土遺物 (1/3)

第123図 654号土坑 (1/60)



654号土坑全景（西より）

654号土坑セクション（西より）

**655号土坑****遺構** (第125図)

[位置] X=19448, Y=-24152。

[構造] 平面形：楕円形？規模：1.05×不明m・

深さ 19 cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は40°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-50°-E。

[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

**遺物** (第126図、第39・43表)

加曾利E式(1)、土製円盤(2)を図示した。



655D  
1 黄褐色土 (10YR3/3) 径1-3mmのローム粒を多量含む。  
しまり強く、粘性あり。  
2 黄土 (10YR4/4) 径1-3mmのローム粒を多量、径10-30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。  
3 黄褐色土 (10YR5/6) 径1-3mmのローム粒を多量、径10-50mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

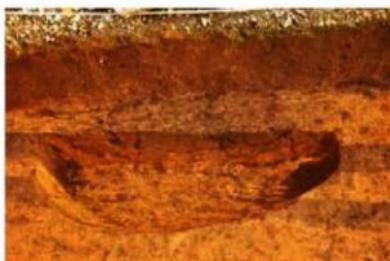
第125図 655号土坑 (1/60)



第126図 655号土坑出土遺物 (1/3)



655号土坑全景 (西より)



655号土坑セクション (西より)

**656号土坑****遺構** (第127図)

[位置] X=19446, Y=-24151.5。

[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：0.66×0.46m・

深さ 19 cm前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は50°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-31°-W。

[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

**遺物** (第128図、第39表)

加曾利E式(1)を図示した。



656D  
1 黄土 (10YR4/4) 径1-3mmのローム粒を多量、径10-30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。  
2 黄褐色土 (10YR5/6) 径1-3mmのローム粒を多量、径10-50mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

第127図 656号土坑 (1/60)



第128図 656号土坑出土遺物 (1/3)



656号土坑全景（東より）



656号土坑セクション（東より）

## 657号土坑

## 遺構 (第129図)

[位置] X=19450.1, Y=-24154.

[構造] 平面形：梢円形。規模：不明 × 0.86m・深さ 21 cm 前後を測る。坑底は平坦で、壁は 80° 前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 42° - W。

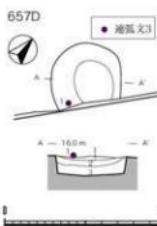
[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 4 点であり、うち連弧文 2 点である。

[時期] 加曾利 E 式期。

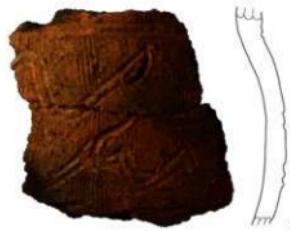
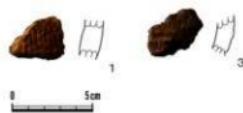
## 遺物 (第130図、第39表)

加曾利 E 式 (1)、連弧文 (2~3) を図示した。



第129図 657号土坑 (1/60)

- 657D
- 褐色土 (10YR3/3) 径 1 ~ 3 m のローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 褐色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 3 m のローム粒を多量含む。径 10 ~ 30 mm のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
  - 黄褐色土 (10YR5/6) 径 1 ~ 3 m のローム粒を多量含む。径 10 ~ 50 mm のロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。



第130図 657号土坑出土遺物 (1/3)



657号土坑全景（東より）



657号土坑セクション（東より）

## 659号土坑

## 遺構(第131図)

[位置] X=19430,Y=24167。

[構造] 566Yに切られる。平面形：隅丸長方形。規模：不明×1.07m・深さ21cm前後を測る。

坑底は僅かに起伏があり、壁は30°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-50°-E。

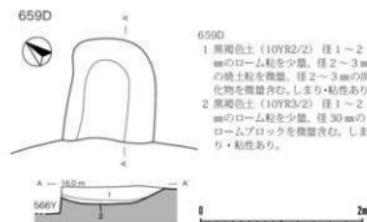
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。石器は黒曜石製の楔形石器1点である。

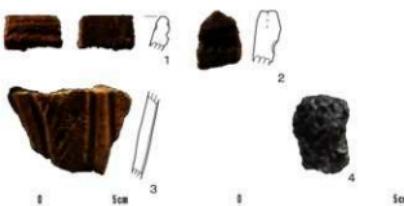
[時期] 中期。

## 遺物(第132図、第39・49表)

阿玉台式(1~2)、加曾利E式(3)、楔形石器(4)を図示した。



第131図 659号土坑(1/60)



第132図 659号土坑出土遺物(1/3・2/3)



659号土坑全景(東より)



659号土坑セクション(西より)

## 660号土坑

## 遺構(第133図)

[位置] X=19431,Y=24173。

[構造] 669Dを切っている。平面形：円形。規模：1.25×1.16m・深さ31cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は70°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-37°-E。

[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は1点であり、うち加曾利E式1点である。石器は閃綠岩製の石皿1点である。

[時期] 中期。

## 遺物 (第135図、第39・49表)

阿玉台式(1)、勝坂式(2)、加曾利E式(3~4)、石皿(5)を図示した。

### 669号土坑

#### 遺構 (第133図)

[位置] X=-19431.5, Y=-24173。

[構造] 660Dに切られる。平面形：楕円形。規模: 0.88×0.41m・深さ 16 cm前後を測る。坑底は凹凸があり、壁は70°前後の角度で立ち上がる。長軸方位: N-54°-E。

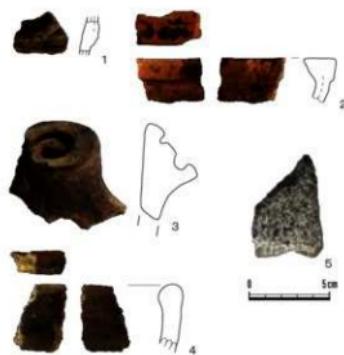
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

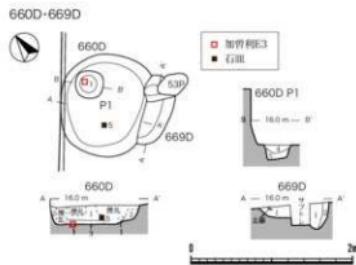
[時期] 加曾利E式期。

#### 遺物 (第134図、第39表)

加曾利E式(1)を図示した。



第134図 660号土坑出土遺物 (1/3)



660D

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 径2~3mmのローム粒を多量。径2~3mmの砂粒を少量。径2~3mmの炭化米を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~2mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 黑褐色土 (10YR2/2) 径2~3mmのローム粒を多量。径2~3mmの砂粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 黑褐色土 (5YR2/1) 径2~3mmのローム粒を多量。径2~3mmの砂粒を少量。径2~3mmの炭化米を微量含む。しまり・粘性あり。
- 5 黑褐色土 (5YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまりあり、粘性強い。

669D

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 径1~2mmのローム粒を多量。径5mmのロームブロックを微量。径3mmの砂粒を少量。径1~2mmの炭化米を少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 黄褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~20mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。

第133図 660・669号土坑 (1/60)



第135図 669号土坑出土遺物 (1/3)



660号土坑全景 (南より)



660号土坑セクション (南より)



660号土坑P1セクション（南より）



669号土坑セクション（西より）

## 665号土坑

## 遺構（第136図）

[位置] X=-19437, Y=-24165。

[構造] 平面形：橢円形。規模：1.56×1.17m・深さ 20 cm前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 38° - W。

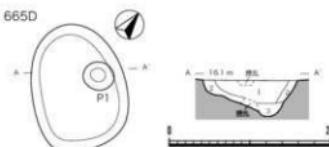
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は1点であり、うち加曾利E式1点である。

[時期] 加曾利E式期。

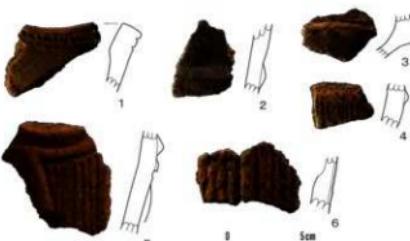
## 遺物（第137図、第39表）

阿玉台式（1）、勝坂式（2）、加曾利E式（3～6）を図示した。



- 665D  
 1 黒褐色土 (HOYR3/1) 径1～3mmのローム粒を多量。径2～3mmの堆土粒を少量。径3mmの炭化物を数箇含む。しまり・粘性あり。  
 2 喀斯特土 (HOYK3/3) 径1～2mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。  
 3 黒褐色土 (HOYK2/2) 径1～2mmのローム粒を多量。径10mmのロームブロックを少箇含む。しまり・粘性あり。

第136図 665号土坑（1／60）



第137図 665号土坑出土遺物（1／3）



665号土坑全景（南より）



665号土坑セクション（東より）

## 667号土坑

### 遺構 (第138図)

[位置] X=19447.5, Y=24158.5.

[構造] 178Jを切る。平面形：不整形。規模：0.79×0.67m・深さ56cm前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は80°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-29°-W。

[覆土] 3層。

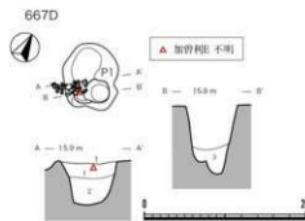
[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は3点であり、うち加曾利E式1点である。

[時期] 加曾利E式期。

[備考] 667Dの東側に不整形のピットがあり、最深部の深さは80.5cmを測る。また、土坑内には集石が確認される。

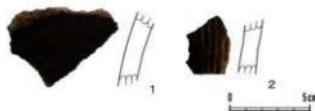
### 遺物 (第139図、第39表)

加曾利E式(1~2)を図示した。



- 667D  
 1 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを微量、径2~3mmの焼土粒を少量、径2~3mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 2 黒色土 (10YR2/1) 径2~5mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを微量、径2~3mmの焼土粒を多量、径2~3mmの炭化粒を多量含む。しまり弱く・粘性なし。  
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒・径20~30mmのロームブロックを多量、径3~5mmの炭化物を少量含む。しまり弱く・粘性なし。

第138図 667号土坑 (1/60)



第139図 667号土坑出土遺物 (1/3)



667号土坑全景 (西より)



667号土坑セクション (西より)



667号土坑P1セクション (西より)



667号土坑遺物出土状態 (西より)

## 668号土坑

## 遺構(第140図)

[位置] X=19448,Y=24157。

[構造] 178Jの床下から検出される。平面形:不整円形。規模:1.47×1.18m・深さ15cm前後を測る。

坑底は起伏があり、壁は50°前後の角度で立ち上がる。長軸方位:N-53°-E。

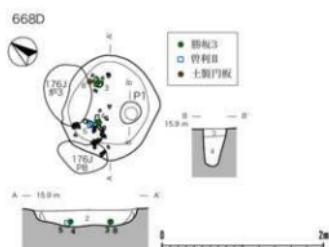
[覆土] 4層。

[遺物] 覆土中から比較的多く出土した。出土位置が判明している土器・土製品は17点であり、うち阿玉台式1点、勝坂式3点、曾利式6点、加曾利E式3点、土製円盤1点である。

[時期] 勝坂3式期。

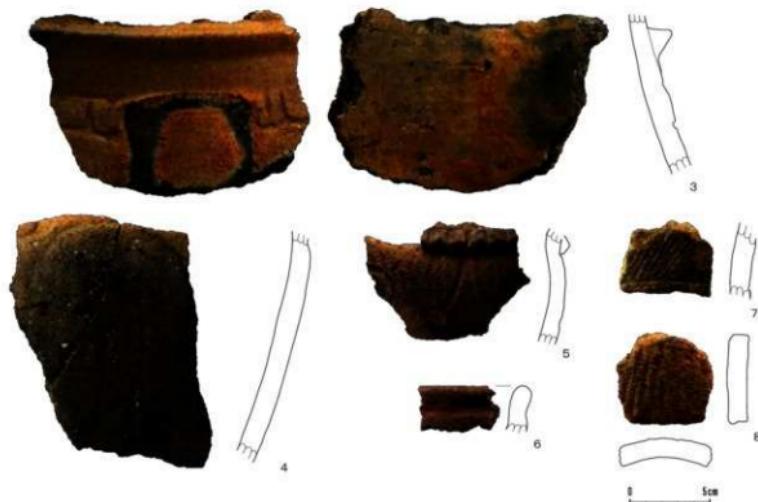
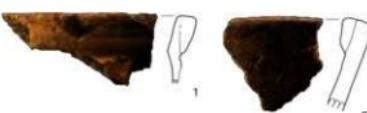
## 遺物(第141図、第39・43表)

勝坂式(1~4)、曾利式(5)、加曾利E式(6)、連弧文(7)、土製円盤(8)を図示する。



第140図 668号土坑(1/60)

668D  
 1褐色土(10YR4/4) 径1~2mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。  
 2黒褐色土(10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を多量、径20~30mmのロームブロックを少量。  
 径2~3mmの燒土粒を微量。径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
 3黒褐色土(10YR3/1) 径2~3mmのローム粒を多量、径20mmのロームブロックを少量。径1~2mmの燒土粒・炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。  
 4黒褐色土(10YR3/1) 径1~2mmのローム粒を多量、径1~2mmの燒土粒・炭化物を微量含む。しまりあり・粘性弱い。



第141図 668号土坑出土遺物(1/3)



668号土坑全景（東より）



668号土坑セクション（東より）



668号土坑P1全景（東より）



668号土坑遺物出土状態（東より）

### 670号土坑

#### 遺構 (第142図)

[位置] X=-19432,Y=-24173。

[構造] 671D, 50Pを切り、566Yに切られる。

擾乱による破壊が著しく構造が明確ではない。平面形：不明。規模：不明 × 不明 m・深さ 23 cm前後を測る。長軸方位：N - 58° - W。

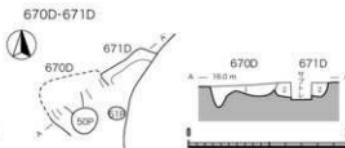
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

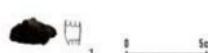
#### 遺物 (第143図、第39表)

加曾利E式(1)を図示した。



- 670D・671D  
1 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~20mmのロームブロックを微量。径3~5mmの褐土粒を少量、径3~5mmの炭化物を微量含む。少し粘性あり。  
2 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を多量、径1~2mmの褐土粒を少量。径1~2mmの炭化物を少量含む。しまり強く、粘性あり。

第142図 670・671号土坑 (1/60)



第143図 670号土坑出土遺物 (1/3)

### 671号土坑

#### 遺構 (第142図)

[位置] X=-19431.5,Y=-24172.5。

[構造] 670D、566Yに切られる。平面形：隅丸長方形。規模：0.71 × 不明 m・深さ 14 cm前後



第144図 671号土坑出土遺物 (1/3)

を測る。坑底はやや起伏があり、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-57°-E。

【覆 土】2層。

【遺 物】覆土中から僅かに出土した。

【時 期】加曾利E式期。

#### 遺 物 (第144図、第40表)

加曾利E式(1)を図示した。



670号土坑(左)・671号土坑(右)全景(東より)



670号土坑セクション(東より)



671号土坑セクション(東より)

#### 672号土坑

##### 遺 構 (第145図)

【位 置】X=-19435,Y=-24176。

【構 造】ピットと重複するが、前後関係は不明である。平面形：楕円形。規模：2.08×1.47m・深さ23cm前后を測る。坑底は起伏があり、壁は40°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-24°-W。

【覆 土】2層。

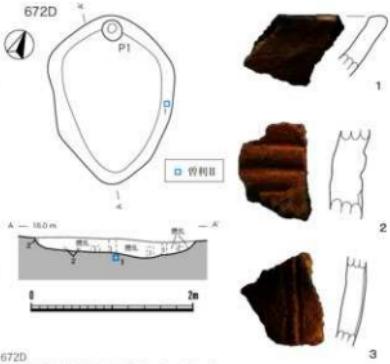
【遺 物】覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は3点であり、うち曾利式1点である。

【時 期】加曾利E式期。

【備 考】672D北側に25.4×24.5cm深さ32cm前後のピットが位置する。

##### 遺 物 (第146図、第40表)

加曾利E式(1~3)を図示した。



第146図 672号土坑出土遺物  
(1/3)

第145図 672号土坑(1/60)



672号土坑全景（北より）



672号土坑セクション（北より）

## 673号土坑

## 遺構（第147図）

[位置] X=-19441, Y=-24177。

[構造] P81を切り、677Dに切られる。平面形：不整円形。規模：0.7×0.63m・深さ26cm前後を測る。坑底は僅かに凹凸があり、壁は70°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-59°-W。

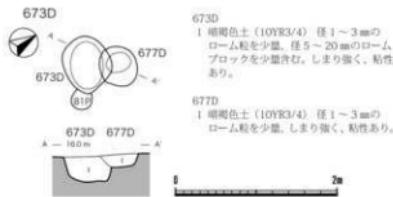
[覆土] 1層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 中期。

## 遺物（第148図、第40表）

阿玉台式（1）を図示した。



第147図 673号土坑（1/60）



第148図 673号土坑出土遺物（1/3）



673号土坑（左）・677号土坑（右）全景（東より）



673号土坑（左）・677号土坑（右）セクション（東より）

## 674号土坑

## 遺構（第149図）

[位置] X=-19442, Y=-24174。

[構造] 693Dに切られる。平面形：隅丸長方形。規模：0.9×0.54m・深さ18cm前後を測る。坑

底は西側が大きく隆起し、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-22°-W。

【覆 土】1層。

【遺 物】覆土中から僅かに出土した。

【時 期】加曾利E式期。

【遺 物】(第150図、第40表)

連弧文(1)を図示した。

## 693号土坑

【遺 構】(第149図)

【位 置】X=-19447,Y=-24175。

【構 造】竪穴状遺構で、674Dを切る。平面形：隅丸長方形。規模：2.53×1.48m・深さ22cm前後を測る。坑底は平坦で壁は50°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-55°-E。

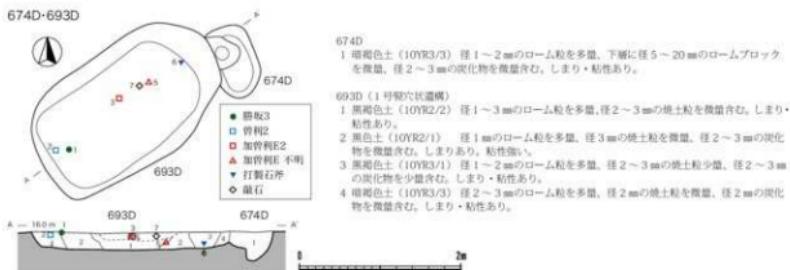
【覆 土】4層。

【遺 物】覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は12点であり、うち勝坂式1点、曾利式1点、加曾利E式4点である。石器は3点で、器種の内訳は打製石斧1点、敲石2点、石材の内訳は、ホルンフェルス1点、砂岩2点である。

【時 期】中期。

【遺 物】(第151・152図、第41・49表)

勝坂式(1)、曾利式(2)、加曾利E式(3～5)、打製石斧(7)、敲石(6、8)を図示する。



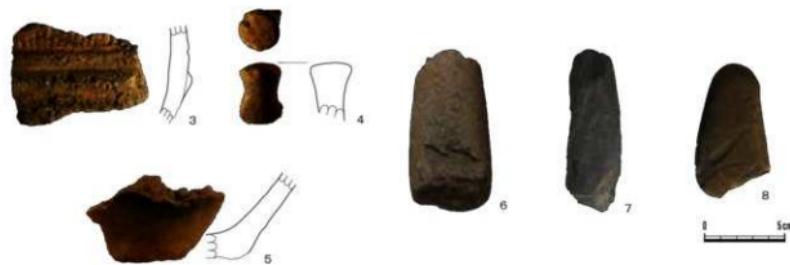
第149図 674・693号土坑(1/60)



第150図 674号土坑出土遺物(1/3)



第151図 693号土坑出土遺物1(1/3)



第152図 693号土坑出土遺物2(1/3)



693号土坑(左)・674号土坑(右)全景(東より)

693号土坑(左)・674号土坑(右)  
セクション(東より)

## 675号土坑

## 遺構(第153図)

[位置] X=-19439, Y=-24176。

[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：1.14×0.52m・深さ 19 cm前後を測る。坑底は凹凸があり、壁は80°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 52° - E。

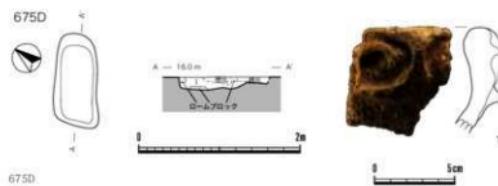
[覆土] 1層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E2式期。

## 遺物(第154図、第40表)

加曾利E式(1)を図示した。

675D  
1 帯褐色土(10YR3/4)に1~3mmのローム粒を少量含む。  
しまり・粘性あり。

第153図 675号土坑(1/60)

第154図 675号土坑  
出土遺物(1/3)



675号土坑全景（東より）



675号土坑セクション（東より）

## 676号土坑

## 遺構 (第155図)

[位置] X=19441, Y=-24178。

[構造] 平面形：円形。規模：1.19×1.08m・深さ14cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は40°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-7°-E。

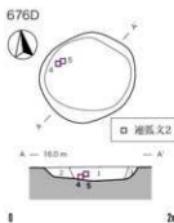
[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は4点であり、うち勝坂式1点、連弧文2点である。

[時期] 加曾利E式期。

## 遺物 (第156図、第40表)

勝坂式(1)、加曾利E式(2)、連弧文(3~5)を図示した。



- 676D  
1 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径3~5mmの砂粒を少額含む。しまり・粘性あり。  
2 黑褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を多量、径2~3mmの砂粒を少額含む。しまり・粘性あり。  
3 喙褐色土 (10YR3/4) 径2~3mmのローム粒を多量、径2~3mmの砂粒を少額含む。しまり・粘性あり。

第155図 676号土坑 (1/60)



第156図 676号土坑出土遺物 (1/3)



676号土坑全景（東より）



676号土坑セクション（東より）

## 678号土坑

### 遺構 (第157図)

[位置] X=19440,Y=24180。

[構造] 平面形: 不整形。規模: 1.3×0.93m・深さ 15cm 前後を測る。坑底は起伏があり、壁は 40° 前後の角度で立ち上がる。長軸方位: N-22°-E。

[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

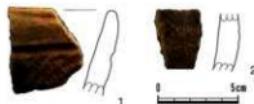
[時期] 加曾利 E 式期。

### 遺物 (第158図、第40表)

加曾利 E 式 (1~2) を図示した。



第157図 678号土坑 (1/60)



第158図 678号土坑出土遺物 (1/3)



678号土坑セクション (東より)



680号土坑 (右)・681号土坑 (左) 全景 (南より)

## 680号土坑

### 遺構 (第159図)

[位置] X=19442,Y=24181.5。

[構造] 681D を切る。平面形: 不整円形。規模: 0.7×0.64m・深さ 39cm 前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は 70° 前後の角度で立ち上がる。長軸方位: N-26°-E。

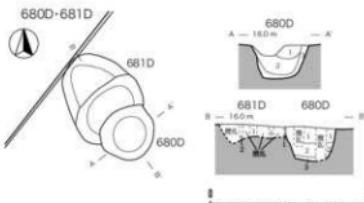
[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 中期。

### 遺物 (第160図、第40表)

阿玉台式 (1)、加曾利 E 式 (2) を図示した。



680D  
1 黒色土 (10YR2/1) 径 1~3m のローム粒を多量、径 1~2m の土粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
2 黒色土 (10YR2/1) 径 1~3m のローム粒を多量、径 10~20mm のロームブロックを少量、径 1~2cm の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。  
3 喬色土 (10YR3/1) 径 1~2m のローム粒を多量、径 30mm のロームブロックを少額。径 1~2cm の炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。

681D  
1 黒色土 (10YR2/2) 径 1~2m のローム粒を多量、径 2~3m の土粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
2 喬色土 (10YR3/2) 径 1~2m のローム粒を多量、径 30mm のロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。

## 681号土坑

### 遺構 (第159図)

第159図 680・681号土坑 (1/60)

[位 置] X=19441,Y=-24182。  
 [構 造] 680Dに切られる。平面形：不整橢円形。規模：不明 × 0.92m・深さ 12 cm前後を測る。坑底は起伏があり、壁は 70°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 34° - W。

[覆 土] 2層。  
 [遺 物] 覆土中から僅かに出土した。  
 [時 期] 加曾利E式期。

#### 遺 物 (第161図、第40表)

勝坂式（1）、加曾利E式（2・3）を図示した。



第160図 680号土坑出土遺物 (1/3)



第161図 681号土坑出土遺物 (1/3)



680号土坑セクション (南より)



681号土坑セクション (南より)

### 682号土坑

#### 遺 構 (第162図)

[位 置] X=19446,Y=-24160。  
 [構 造] 177Jに切られる。平面形：円形。規模：1.07×1.02m・深さ 21 cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は 50°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 54° - E。

[覆 土] 2層。  
 [遺 物] 覆土中から比較的多く出土した。出土位置が判明している土器・土製品は 11 点であり、うち阿玉台式 1 点、勝坂式 4 点、曾利式 2 点、加曾利E式 1 点、土製円盤 1 点である。石器は凝灰岩製の打製石斧 1 点である。

[時 期] 中期。

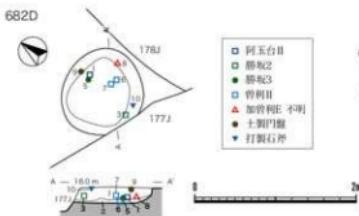
#### 遺 物 (第163図、第40・43・49表)

阿玉台式（1）、勝坂式（2～5）、曾利式（6・7）、加曾利E式（8）、土製円盤（9）、打製石斧（10）を図示した。

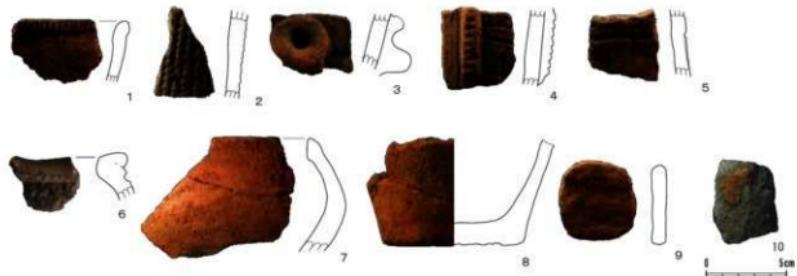


682号土坑全景（西より）

682号土坑セクション（西より）



第162図 682号土坑 (1/60)



第163図 682号土坑出土遺物 (1/3)

## 684号土坑

## 遺構 (第164図)

[位置] X=-19445, Y=-24165。

[構造] 平面形：円形。規模：1.04×0.95m・深さ 16 cm前後を測る。坑底は僅かに凹凸があり、壁は 40°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 6° - W。

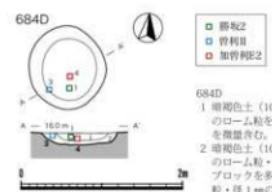
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 10 点であり、うち阿玉台式 1 点、勝坂式 1 点、曾利式 1 点、加曾利 E 式 4 点である。石器は緑泥片岩製の片岩製石器 1 点である。

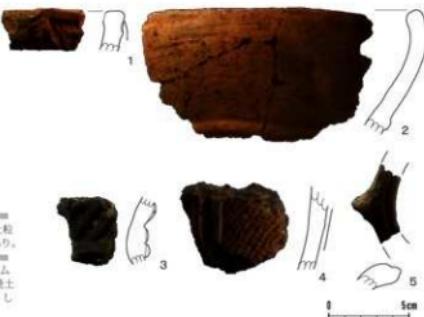
[時期] 中期。

**遺物** (第165図、第40表)

勝坂式(1)、曾利式(2~3)、  
加曾利E式(4~5)を図示した。



第164図 684号土坑 (1/60)



第165図 684号土坑出土遺物 (1/3)



684号土坑全景 (西より)



684号土坑セクション (西より)

**686号土坑****遺構** (第166図)

[位置] X=19448.5, Y=-24168.

[構造] 東側が一部攪乱により破壊されている。平面形: 不整円形。規模: 0.81×0.77m・深さ 29 cm前後を測る。坑底は起伏があり、壁は 80° 前後の角度で立ち上がる。長軸方位: N-2°-E。

[覆土] 5層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は2点であり、うち加曾利E式1点である。

[時期] 加曾利E式期。

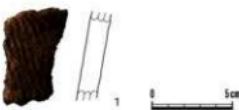
**遺物** (第167図、第40表)

加曾利E式(1)を図示した。



- 686D  
 1 黒褐色土 (10YR3/4) 厚さ1~3mmのローム粒を多量。径5mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 黒褐色土 (10YR3/3) 厚さ1~3mmのローム粒を多量。径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 3 黒褐色土 (10YR3/3) 厚さ1~3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 4 黑褐色土 (10YR4/4) 厚さ1~3mmのローム粒・径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 5 黑褐色土 (10YR4/6) 厚さ1~3mmのローム粒・径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

第166図 686号土坑 (1/60)



第167図 686号土坑出土遺物 (1/3)



686号土坑全景（東より）



686号土坑セクション（東より）

## 687号土坑

### 遺構 (第168図)

[位置] X=-19448, Y=-24165.5。

[構造] 平面形：楕円形。規模： $0.75 \times 0.58\text{m}$ ・深さ 10 cm前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は 40°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N - 51° - E。

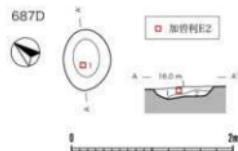
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は 1点であり、うち加曾利E式 1点である。

[時期] 加曾利E 2式期。

### 遺物 (第169図、第41表)

加曾利E式(1)を図示した。



第168図 687号土坑 (1/60)

- 687D  
1 黄色土 (10YR4/4) 径 1 ~ 3 mm のローム粒を多量、径 1 mm の砂土粒、炭化物を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
2 黒色土 (10YR4/6) 径 1 ~ 3 mm のローム粒・径 5 ~ 20 mm のロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。



第169図 687号土坑出土遺物 (1/3)



687号土坑全景（東より）



687号土坑セクション（東より）

## 690号土坑

## 遺構(第170図)

[位置] X=19446,Y=-24170。

[構造] 567Y, 2号炉跡に切られる。平面形:不整橢円形。規模:1.22×0.92m・深さ37cm前後を測る。

坑底は平坦で、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位:N-61°-W。

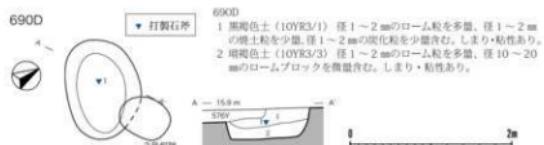
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 繩文時代。

## 遺物(第171図、第49表)

打製石斧(1)を図示した。



第170図 690号土坑(1/60)



第171図 690号土坑出土遺物(1/3)



690号土坑全景(西より)



690号土坑セクション(東より)

## 691号土坑

## 遺構(第172図)

[位置] X=19452,Y=-24176。

[構造] 平面形:不整橢円形。規模:0.84×0.52m・深さ15cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位:N-54°-E。

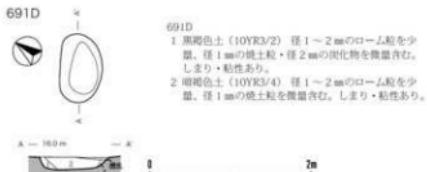
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。石器は緑泥片岩製の片岩製石器1点である。

[時期] 繩文時代中期。

## 遺物(第173図、第38表)

勝坂式(1)を図示した。



第172図 691号土坑 (1 / 60)

第173図 691号土坑出土遺物  
(1 / 3)

691号土坑全景 (東より)



691号土坑セクション (西より)

#### (4) 炉跡

##### 1号炉跡

###### 遺構 (第174図)

[位 置] X=-1943.3, Y=-24172.5。

[構 造] 566Yに切られる。また、大部分が攪乱であるため規模などは不明である。平面形：不明。

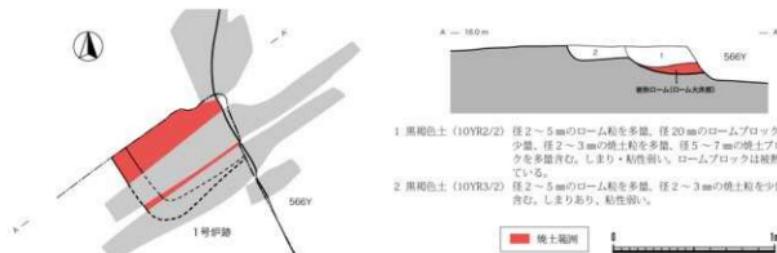
規模：不明。深さ：16 cm前後。焼土：攪乱により規模は不明だが、一部焼土範囲が確認できる。

[覆 土] 2層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土したが、いずれも破片資料のため、図化し得なかった。

[時 期] 繩文時代中期。

[所 見] 単独炉跡である。



第174図 1号炉跡 (1 / 30)



1号灶跡全景（西より）



1号灶跡セクション（西より）

## 2号灶跡

## 遺構（第175図）

[位 置] X=19442,Y=-24174。

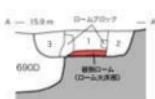
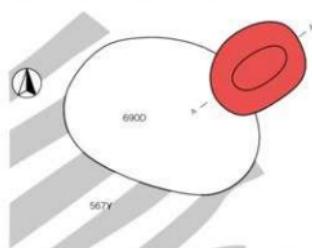
[構 造] 690Dを切る。平面形：橢円形。規模：0.62×0.49m。深さ：15 cm前後。焼土：1層の下に火床面が確認できる。

[覆 土] 3層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土したが、いずれも破片資料のため、図化し得なかった。

[時 期] 繩文時代中期。

[所 見] 単独炉跡である。



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径2～5mmのローム粒を少量。径2～5mmの焼土粒を多量。径2～3mmの炭化粒を少量含む。しまりあり、粘性弱い。熱を受けてガリガリ。  
2 黒褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量。径2～3mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
3 黒褐色土 (10YR3/1) 径1～3mmのローム粒を多量。径3～5mmの焼土粒を少量。径1～3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。



第175図 2号灶跡 (1/30)



2号灶跡完掘状況（西より）



2号灶跡セクション（西より）

## (5) ピット

## 43号ピット

## 遺構(第176図)

[位置] X=19454.5,Y=-24157.5。

[構造] 平面形：不整円形。規模：37×32 cm・

深さ 68 cmを測る。

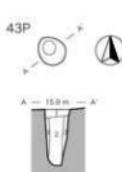
[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 勝坂3式期。

## 遺物(第177図、第41表)

勝坂式(1)を図示した。



- 43P  
 1 暗褐色土(10YR3/4) 径1~3 mmのローム粒を少額、径5~10 mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 暗褐色土(10YR3/3) 径1~3 mmのローム粒を少額含む。しまり・粘性あり。  
 3 暗褐色土(10YR3/4) 径1~3 mmのローム粒を多額、径5~10 mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。

第176図 43号ピット(1/60)



第177図 43号ピット出土遺物(1/3)



43号ピット全景(西から)



43号ピットセクション(西から)

## 55号ピット

## 遺構(第178図)

[位置] X=19436.5,Y=-24178.5。

[構造] 平面形：隅丸長方形か。規模：不明

×38 cm・深さ 29 cmを測る。

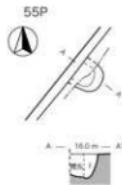
[覆土] 1層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

## 遺物(第179図、第41表)

加曾利E式(1)を図示した。



- 55P  
 55P 暗褐色土(10YR4/4) 径1~3 mmのローム粒を少額、径1 mmの炭化物を微量含む。しまり強く、粘性あり。

第178図 55号ピット(1/60)



第179図 55号ピット出土遺物(1/3)



55号ピット全景（南から）

55号ピットセクション（南から）

## 56号ピット・57号ピット

## 遺構（第180図）

[位置] X=19437.5,Y=-24179。

[構造] 平面形：56号ピット、不整形。

57号ピット、梢円形。規模：56号ピット、

39×28 cm・深さ 74 cmを測る。57号ピット、

36×30 cm、深さ 56 cmを測る。

[覆土] 2層。

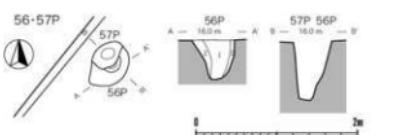
[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E3式期。

## 遺物（第181図、第41・43表）

阿玉台式（1）、勝坂式（2）、土器片錘（3）

を図示した。



56P  
1 墓褐色土 (10YR3/4) 径1～3 mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
2 墓褐色土 (10YR4/4) 径1～3 mmのローム粒を少量、径5～20 mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

第180図 56・57号ピット (1/60)



第181図 56・57号ピット出土遺物 (1/3)



56号ピット（上）・57号ピット（下）全景（西から）

56号ピットセクション（西から）

## 69号ピット

## 遺構（第182図）

[位置] X=19445,Y=-24156.5。

[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：30×25 cm・深さ 34 cmを測る。

[覆 土] 3層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 勝坂2式期。

#### 遺 物 (第183図、第39表)

勝坂式(1)を図示した。



第182図 69号ピット (1/60)



第183図 69号ピット  
出土遺物 (1/3)



68号ピット (左)・69号ピット (右) 全景 (東より)



69号ピットセクション (東より)

#### 71号ピット

##### 遺 構 (第184図)

[位 置] X=-19442,Y=-24170.3。

[構 造] 平面形：橢円形。規模：38×36cm・深さ70cmを測る。

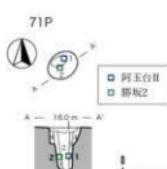
[覆 土] 4層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 勝坂式期。

##### 遺 物 (第185図、第41表)

阿玉台式(1)、勝坂式(2)を図示した。



第184図 71号ピット (1/60)



第185図 71号ピット出土遺物 (1/3)



71号ピット全景（東から）



71号ピットセクション（東から）

**87号ピット****遺構** (第186図)

[位置] X=-19441.5, Y=-24166.5  
 [構造] 平面形：不整円形。規模：58×43 cm・深さ 15 cmを測る。

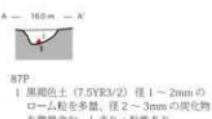
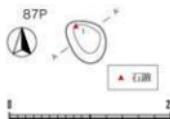
[覆土] 1層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 繩文時代。

**遺物** (第187図、第49表)

石錐（1）を図示した。



第186図 87号ピット (1/60)



第187図 87号ピット出土遺物 (2/3)



87号ピット全景（東から）



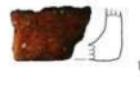
87号ピットセクション（東から）

**89号ピット****遺構** (第188図)

[位置] X=-19444, Y=-24175.5。  
 [構造] 平面形：円形。規模：31×30 cm・深さ 13 cmを測る。  
 [覆土] 2層。  
 [遺物] 覆土中から僅かに出土した。  
 [時期] 阿玉台式期。



1 黒褐色土 (7.5YR3/2) 径 1～2mm のローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 2 黒褐色土 (7.5YR3/2) 径 2～3mm のローム粒を少量含む。径 10～15mm のロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。



第188図 89号ピット (1/60)

第189図 89号ピット出土遺物 (1/3)

**遺物**(第189図、第41表)

阿玉台式(1)を図示した。



89号ピット全景(東より)



89号ピットセクション(西から)

**98号ピット****遺構**(第190図)

[位置] X=19451.5,Y=-24178.5。

[構造] 平面形: 楕円形。規模: 39×36 cm・深さ 30 cmを測る。

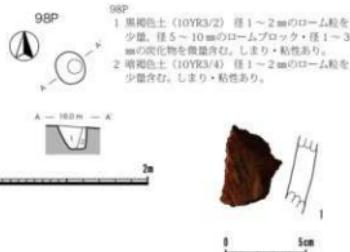
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E 2~3式期。

**遺物**(第191図、第41表)

加曾利E式(1)を図示した。

第190図 98号ピット 第191図 98号ピット  
(1/60) 出土遺物(1/3)

98号ピット全景(東より)

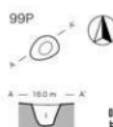


98号ピットセクション(東より)

**99号ピット****遺構**(第192図)

[位置] X=19450,Y=-24176.

[構造] 平面形: 不整円形。規模: 37×27 cm・深さ 35 cmを測る。



第192図 99号ピット(1/60)

[覆 土] 1層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 中期。

**遺 物** (第193図、第43表)

土製円盤(1)を図示した。



第193図 99号ピット出土遺物(1/3)



99号ピット全景(東より)



99号ピットセクション(西より)

**102号ピット**

**遺 構** (第194図)

[位 置] X=19447.5,Y=24176.5。

[構 造] 平面形:円形。規模:30×29cm・深さ17cmを測る。

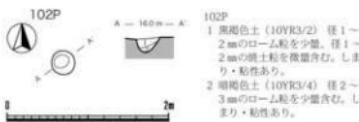
[覆 土] 2層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 加曾利E式期。

**遺 物** (第195図、第41表)

曾利式(1)を図示した。



第194図 102号ピット(1/60)



第195図 102号ピット出土遺物(1/3)



102号ピット全景(東より)



102号ピットセクション(東より)

## 104号ピット

## 遺構(第196図)

[位 置] X=19446.5,Y=-24182.5。

[構 造] 平面形: 楕円形。規模: 32×26 cm・深さ 25 cmを測る。

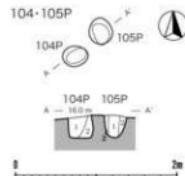
[覆 土] 2層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 加曾利E式期。

## 遺物(第197図、第41表)

加曾利E式(1)を図示した。



104P・105P  
1 黒褐色土(10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を少量。径1~2mmの燒土粒と炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。  
2 黑褐色土(10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

第196図 104・105号ピット(1/60)

## 105号ピット

## 遺構(第196図)

[位 置] X=19446.5,Y=-24182。

[構 造] 平面形: 楕円形。規模: 32×28 cm・深さ 26 cmを測る。

[覆 土] 2層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 加曾利E3~4式期。

## 遺物(第198図、第41表)

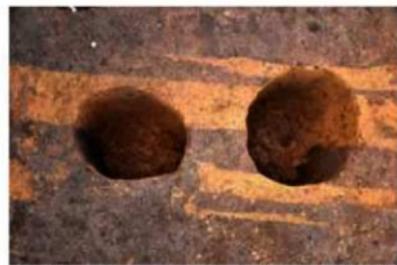
加曾利E式(1)を図示した。



第197図 104号ピット出土遺物(1/3)



第198図 105号ピット出土遺物(1/3)



104号ピット(左)・105号ピット(右)全景(東より)

104号ピット(左)・105号ピット(右)  
セクション(東より)

## 106号ピット

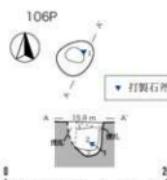
## 遺構(第199図)

[位 置] X=19445.5,Y=-24175。

[構 造] 平面形: 不整円形。規模: 48×39 cm・深さ 44 cmを測る。

[覆 土] 3層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。



106P  
1 單褐色土(10YR3/3) 径2~3mmのローム粒を少量。径2~3mmの燒土粒を多量。径2~3mmのローム粒を多量。径2~3mmの燒土粒を多量。径2~3mmのローム粒を多量。径2~3mmの燒土粒を多量。径2~3mmのローム粒を多量。径2~3mmの燒土粒を多量。径2~3mmのローム粒を多量。しまり・粘性あり。  
2 黑褐色土(10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を多量。径2~3mmの燒土粒を多量。しまり・粘性あり。  
3 黑褐色土(10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を少量。径2~3mmの燒土粒を少量。しまり・粘性あり。

第199図 106号ピット(1/60)

[時 期] 加曾利E式期。

[遺 物] (第200図、第49表)

打製石斧(1)を図示した。



第200図 106号ピット出土遺物(1/3)



106号ピット全景(西から)



106号ピットセクション(西から)

### 109号ピット

[遺 構] (第201図)

[位 置] X=19448.5,Y=-24178。

[構 造] 平面形:不整円形。規模:47×41cm・  
深さ 52 cmを測る。

[覆 土] 2層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 勝坂式期。

[遺 物] (第202図、第41表)

勝坂式(1)を図示した。



第201図 109号  
ピット(1/60)

第202図 109号ピット  
出土遺物(1/3)



109号ピット全景(西から)



109号ピットセクション(西から)

遺構名	位置	時期	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	長軸方位	備考
650D	X= -19451 Y= -24184	加曾利E 3式期	橢円形	1.3	1.14	37	N=48°-E	
651D	X= -19450 Y= -24182	加曾利E 式期	橢円形	1.19	0.86	15	N=18°-W	
652D	X= -19452 Y= -24181	加曾利E 2~3式期	不整円形	1.23	0.92	15	N=11°-E	
653D	X= -19439 Y= -24163.5	不明	不明	不明	不明	28	N=23°-E	
654D	X= -19447 Y= -24151	阿玉台式期	橢円形か	1.58	不明	39	N=46°-E	
655D	X= -19448 Y= -24152	加曾利E 式期	橢円形か	1.05	不明	19	N=50°-E	
656D	X= -19446 Y= -24151.5	加曾利E 式期	圓丸長方形	0.66	0.46	19	N=31°-W	
657D	X= -19450.1 Y= -24154	加曾利E 式期	橢円形	不明	0.86	21	N=42°-W	
658D	X= -19451.5 Y= -24156	縄文時代	円形	0.66	0.55	15	N=83°-E	
659D	X= -19430 Y= -24167	中期	圓丸長方形	不明	1.07	21	N=50°-E	
660D	X= -19431 Y= -24173	中期	円形	1.25	1.16	31	N=37°-E	
661D	X= -19437 Y= -24164	縄文時代	橢円形	0.73	0.6	17	N=38°-W	
662D	X= -19439 Y= -24168	縄文時代	橢円形	1.04	0.73	16	N=40°-E	
663D	X= -19433.5 Y= -24175	中期	橢円形	1.13	0.67	13	N=86°-W	
664D	X= -19437 Y= -24171	縄文時代	橢円形	0.8	0.54	19	N=46°-E	
665D	X= -19437 Y= -24165	加曾利E 式期	橢円形	1.56	1.17	20	N=38°-E	
666D	X= -19440.5 Y= -24169	縄文時代	円形	0.68	0.62	13	N=55°-E	
667D	X= -19447.5 Y= -24158.5	加曾利E 式期	不整形	0.79	0.67	56	N=29°-W	
668D	X= -19448 Y= -24157	勝坂3期	不整円形	1.47	1.18	15	N=53°-E	
669D	X= -19431.5 Y= -24173	加曾利E 式期	橢円形	0.88	0.41	16	N=54°-E	
670D	X= -19432 Y= -24173	加曾利E 式期	不明	不明	23	N=58°-W		
671D	X= -19431.5 Y= -24172.5	加曾利E 式期	圓丸長方形	0.71	不明	14	N=57°-E	
672D	X= -19435 Y= -24176	加曾利E 式期	橢円形	2.08	1.47	23	N=24°-W	
673D	X= -19441 Y= -24177	中期	不整円形	0.7	0.63	26	N=59°-W	
674D	X= -19442 Y= -24174	加曾利E 式期	圓丸長方形	0.9	0.54	18	N=22°-W	
675D	X= -19439 Y= -24176	加曾利E 2式期	圓丸長方形	1.14	0.52	19	N=52°-E	
676D	X= -19441 Y= -24178	加曾利E 2式期	円形	1.19	1.08	14	N=7°-E	
677D	X= -19440.5 Y= -24176.5	縄文時代	円形	0.52	0.47	16	N=77°-E	
678D	X= -19440 Y= -24180	加曾利E 3式期	不整形	1.3	0.93	15	N=22°-E	
679D	X= -19438 Y= -24163.5	縄文時代	不整橢円形か	1.18	不明	19	N=47°-E	
680D	X= -19442 Y= -24181.5	中期	不整円形	0.7	0.64	39	N=26°-E	
681D	X= -19441 Y= -24182	加曾利E 式期	不整橢円形	不明	0.92	12	N=34°-W	
682D	X= -19446 Y= -24160	中期	円形	1.07	1.02	21	N=54°-E	
683D	X= -19441.5 Y= -24171	縄文時代	橢円形	0.71	0.5	20	N=63°-E	
684D	X= -19445 Y= -24165	中期	円形	1.04	0.95	16	N=6°-W	
685D	X= -19444 Y= -24173.5	縄文時代	不整円形	0.87	0.73	42	N=60°-E	
686D	X= -19448.5 Y= -24168	加曾利E 式期	不整円形	0.81	0.77	29	N=2°-E	
687D	X= -19448 Y= -24165.5	加曾利E 2式期	橢円形	0.75	0.58	10	N=51°-E	
688D	X= -19446 Y= -24166	縄文時代	不整円形か	不明	6	不明		
689D	X= -19446 Y= -24165.5	縄文時代	不整円形	0.83	0.72	9	N=68°-E	
690D	X= -19446 Y= -24170	縄文時代	不整橢円形	1.22	0.92	37	N=61°-W	
691D	X= -19452 Y= -24176	加曾利E 式期	不整橢円形	0.84	0.52	15	N=54°-E	
692D	X= -19451.5 Y= -24177	縄文時代	不整橢円形	0.73	0.33	18	N=45°-E	
693D	X= -19447 Y= -24175	中期	圓丸長方形	2.53	1.48	22	N=55°-E	

第5表 土坑一覧表

遺構名	位置	時期	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
37P	X= -19446.8 Y= -24185.3	縄文時代	橢円形	33	23	16	
38P	X= -19446.5 Y= -24184.5	縄文時代	円形	39	37	7	
39P	X= -19448.5 Y= -24182	縄文時代	橢円形	41	33	39	
40P	X= -19454 Y= -24177.5	縄文時代	橢円形	44	36	28	
41P	X= -19448.5 Y= -24183.5	縄文時代中期	橢円形か	不明	50	23	
42P	X= -19446.5 Y= -24181	縄文時代	不整円形	30	29	17	
43P	X= -19454.5 Y= -24157.5	勝坂3期	不整円形	37	32	68	
44P	X= -19437.5 Y= -24169	縄文時代	橢円形	53	46	77	
45P	X= -19438.8 Y= -24171.5	縄文時代	不整円形	35	27	25	
46P	X= -19439.3 Y= -24171.5	縄文時代	橢円形	39	37	34	
47P	X= -19438 Y= -24170.5	縄文時代	橢円形	41	36	38	
48P	X= -19439 Y= -24170.5	縄文時代	橢円形	54	40	42	

第6表 ピット一覧表(1)

遺構名	位置	時期	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
49P	X= -19441 Y= -24170	縄文時代	橢円形	51	41	14	
50P	X= -19432.5 Y= -24173	縄文時代	不整円形	34	31	28	
51P	X= -19432.2 Y= -24172.5	縄文時代	橢円形	21	15	29	
52P	X= -19441 Y= -24172.5	縄文時代	不整形	33	18	19	
53P	X= -19431.2 Y= -24172.5	中期	不整形	40	26	49	
54P	X= -19437 Y= -24177.5	縄文時代	不整円形	35	30	30	
55P	X= -19436.5 Y= -24178.5	加曾利E 3式期	隅丸長方形か	不明	38	29	
56P	X= -19437.5 Y= -24179	中期	不整形	60	46	51	
57P	X= -19437.5 Y= -24179	中期	不整形	39	28	74	
58P	X= -19433 Y= -24174.5	勝坂式期	橢円形	36	30	56	
59P	X= -19433 Y= -24175	加曾利E式期	不整円形	44	34	38	
60P	X= -19439 Y= -24180.5	縄文時代	円形	35	33	32	
61P	X= -19436.5 Y= -24176	縄文時代	円形	51	47	29	
62P	X= -19442.5 Y= -24180	縄文時代	橢円形	50	39	21	
63P	X= -19436.8 Y= -24166	縄文時代	橢円形	34	27	19	
64P	X= -19438 Y= -24165	勝坂式期	橢円形	48	38	24	
65P	X= -19438.5 Y= -24166	縄文時代	不整円形	44	43	77	
66P	X= -19438 Y= -24166.6	縄文時代	橢円形	35	23	21	
67P	X= -19440.5 Y= -24167	縄文時代	隅丸長方形	49	43	17	
68P	X= -19441.5 Y= -24167	縄文時代	不整円形	30	25	31	
69P	X= -19441 Y= -24166.5	勝坂2式期	隅丸長方形	61	36	34	
70P	X= -19441.5 Y= -24169.5	縄文時代	橢円形	44	36	28	
71P	X= -19442 Y= -24170.3	勝坂式期	橢円形	38	36	70	
72P	X= -19442.8 Y= -24171.2	縄文時代	円形	31	36	40	
73P	X= -19442.5 Y= -24177.5	縄文時代	不整円形	30	27	19	
74P	X= -19445 Y= -24177	縄文時代	円形	33	32	23	
75P	X= -19444.5 Y= -24164.5	縄文時代	円形	35	32	32	
76P	X= -19443.5 Y= -24165.3	縄文時代	橢円形	38	29	30	
77P	X= -19443.5 Y= -24173.5	縄文時代	円形か	不明		11	
78P	X= -19446 Y= -24175.5	縄文時代	橢円形	48	34	33	
79P	X= -19443.5 Y= -24170.7	阿玉台式期	円形	37	35	29	
80P	X= -19444 Y= -24171	縄文時代	円形	41	37	56	
81P	X= -19441.2 Y= -24176.5	縄文時代	橢円形か	不明	25	18	
82P	X= -19445.7 Y= -24168.3	縄文時代	橢円形	30	22	17	
83P	X= -19450.5 Y= -24166	縄文時代	橢円形	38	29	19	
84P	X= -19452 Y= -24166.5	縄文時代	円形	41	37	37	
85P	X= -19454.8 Y= -24166.5	縄文時代	不整形	56	38	64	
86P	X= -19446.5 Y= -24163.5	縄文時代	不整円形	59	55	22	
87P	X= -19441.5 Y= -24166.5	縄文時代	不整円形	58	43	15	
88P	X= -19437 Y= -24174.5	縄文時代	不整円形	51	42	20	
89P	X= -19444 Y= -24175.5	阿玉台式期	円形	31	30	13	
90P	X= -19442.5 Y= -24166.5	縄文時代	円形	26	23	12	
91P	X= -19443 Y= -24167	縄文時代	円形	38	37	70	
92P	X= -19443 Y= -24167.5	縄文時代	不整円形	36	23	37	
93P	X= -19445 Y= -24181.5	縄文時代	円形	44	43	49	
94P	X= -19443.5 Y= -24181.5	縄文時代	円形	32	29	14	
95P	X= -19444 Y= -24183.5	縄文時代	橢円形	36	32	44	
96P	X= -19446.5 Y= -24182.5	加曾利E式期	円形	40	38	44	
97P	X= -19450.3 Y= -24179.5	加曾利E式期	円形	38	38	19	
98P	X= -19451.5 Y= -24178.5	加曾利E 2 ~ 3式期	橢円形	39	36	30	
99P	X= -19450 Y= -24176	中期	不整円形	37	27	35	
100P	X= -19446 Y= -24183	加曾利E式期	橢円形か	不明	38	25	
101P	X= -19451.3 Y= -24177.5	縄文時代	橢円形	44	38	52	
102P	X= -19447.5 Y= -24176.5	加曾利E式期	円形	30	29	17	
103P	X= -19453.5 Y= -24174.5	縄文時代	不整円形	38	31	23	
104P	X= -19446.5 Y= -24182.5	加曾利E式期	橢円形	32	26	25	
105P	X= -19446.5 Y= -24182	加曾利E 3 ~ 4式期	橢円形	32	28	26	
106P	X= -19445.5 Y= -24175	加曾利E式期	不整円形	48	39	44	
107P	X= -19447.5 Y= -24174.5	縄文時代	不整円形	27	25	32	

第7表 ピット一覧表(2)

遺構名	位置	時期	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
108P	X= -19447.5 Y= -24177.5	縄文時代	不整円形	37	27	22	
109P	X= -19448.5 Y= -24178	勝坂式期	不整円形	47	41	52	
110P	X= -19445.5 Y= -24183	縄文時代	不整円形	43	41	45	
111P	X= -19438.5 Y= -24168	縄文時代	不整円形	39	36	36	
112P	X= -19432.5 Y= -24170.5	縄文時代	円形	38	37	20	
113P	X= -19432.5 Y= -24170.3	縄文時代	円形	36	33	26	
114P	X= -19430.3 Y= -24170	縄文時代	円形	39	37	11	
115P	X= -19430 Y= -24170	縄文時代	不整形	42	37	90	
116P	X= -19449.7 Y= -24139.3	縄文時代	円形	37	34	15	
117P	X= -19448.3 Y= -24174	縄文時代	橢円形	32	27	20	
118P	X= -19447 Y= -24180.5	縄文時代	不整形	38	34	11	
119P	X= -19479.3 Y= -24179	縄文時代	不整形	62	31	14	
120P	X= -19450 Y= -24179.8	縄文時代	不整円形	35	31	79	
121P	X= -19448 Y= -24178.5	縄文時代	不整形	24	21	23	
122P	X= -19446.8 Y= -24179	縄文時代	橢円形	49	30	6	
123P	X= -19445.3 Y= -24179.5	縄文時代	不整円形	25	24	32	

第8表 ピット一覧表(3)

辨認番号	型式	断面	部位	口縁部・腹部・肩部・足部文	口縁部・腹部・肩部・突起・把手特徴	肩部・底部・脚部特徴	外面部調	内面部調	備考
第11図1	勝坂3	深鉢	胴部	—	—	—	三角印文、爪形文が施される。	明赤褐色	に赤い黄褐色
第11図2	勝坂3	深鉢	胴部	—	—	—	単節斜縞文LR	赤褐色	に赤い黄褐色
第11図3	加賀利E1	深鉢	口縁部	縦糸文し	縦糸文が「eoj」字状に耐付される。	—	—	明黄褐色に赤い黄褐色	—
第11図4	加賀利E1	深鉢	口縁部	縦糸文し	縦糸によって区画を作る。	—	—	黒褐色	—
第11図5	加賀利E1	深鉢	口縁部	縦糸文し	縦糸で渦巻文を耐付される。	—	—	褐色	暗灰色
第11図6	加賀利E1	深鉢	胴部～底	—	—	縦糸が耐付される。	—	に赤い黄褐色	—
第11図7	加賀利E1	深鉢	胴部	—	—	縦糸文L	赤褐色で渦巻文を描かれる。	褐色	—
第12図8	加賀利E1	深鉢	胴部	—	—	縦糸文L	縦糸が耐付される。	褐色	—
第12図9	加賀利E1	深鉢	口縁部	單節斜縞文LR	縦糸が耐付される。	—	—	暗褐色	暗灰褐色
第12図10	港文	深鉢	胴部	—	—	—	単節斜縞文LR	赤褐色が横帯に進る。	暗褐色

第9表 90号住居跡出土土器一覧

辨認番号	型式	断面	部位	口縁部・腹部・肩部・足部文	口縁部・腹部・肩部・突起・把手特徴	肩部・底部・脚部特徴	外面部調	内面部調	備考
第30図1	古窓ケ付 1～2	深鉢	胴部	—	—	沈縞	2列の三角文が施される。	に赤い褐色	—
第30図2	阿玉台I	深鉢	口縁部	—	—	—	内面に2列の刺突文が施される。	に赤い黄褐色	—
第30図3	阿玉台I	深鉢	胴部	—	—	—	粘土を耐付し、縫に飴みが施される。	に赤い褐色	—
第30図4	阿玉台II	深鉢	口縁部	—	—	—	縦糸によって横円形の区画を作り、区画内に連続爪形文が施される。	に赤い黄褐色	—
第30図5	阿玉台II	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部に沿って1列の幅広角押文が施される。	褐色	—
第30図6	阿玉台II	深鉢	突起	突起から背巻を垂下させ区画が作られる。区画内には沈縞を運ぶるもの、沈縞を充填するものがある。	—	—	—	に赤い黄褐色	—
第30図7	阿玉台II	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部、底部と脚部に2列の角押文が施される。また、外側の角押文の下に縦縞が耐付される。	に赤い黄褐色	—
第30図8	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	縦縞により区画を作り、角押文が施される。一方の区画にはさらに2列の角押文、もう一方の区画には沈縞がそれられ加えられる。	に赤い褐色	—
第30図9	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	縦縞を耐付し、上部に三列の角押文が施される。縦縞の下部は三列の角押文が加えられる。	黒褐色	褐色
第30図10	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	縦縞を耐付し、縦縞に沿って2列の角押文。縦縞が施される。	に赤い黄褐色	—

第10表 174号住居跡出土土器一覧(1)

辨認番号	型式	階層	部位	口縁部・胸部・肩部・底部地文	口縁部・胸部・肩部・突起・脚部等微	胸部・底部・脚部地文	胸部・底部・肩部特徴	外面部色	内面部色	備考
第30回11	阿玉台Ⅱ —Ⅲ	深鉢	把手	—	「C」字状を有する把手を貼付する。縁に沿って刷みが施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第30回13	阿玉台Ⅱ —Ⅲ	深鉢	胸部	—	—	—	平行化粧により区画を作り、押打印が充満される。3条の進行する模様が加えられる。	灰黄褐色	—	
第30回14	阿玉台Ⅲ	深鉢	口縁部	—	口縁部に單脚斜鉢文LRが竪方向に施される。	—	—	黒褐色	—	
第30回15	阿玉台Ⅲ	深鉢	胸部	—	—	—	隕帶を施す。2列の角押文が施される。角押文の中心に沈線が加えられる。	灰黄褐色	—	
第30回16	勝坂1	深鉢	胸部	—	—	—	隕帶を割り三三角形の区画を作り幅広角押文が施される。区画内には波状横筋が施され、隕帶でさしらべる角形の区画が作られる。三角形の区画内には隕帶の比縫を集合させる。	褐色	—	
第30回17	勝坂1～ 2	深鉢	口縁部	—	口縁部下に連續爪彫文と2条の波状比縫が施される。	—	—	黒褐色	—	
第30回18	勝坂2	深鉢	口縁部	—	口縁部に無文帯を設け、平行比縫により半円形の区画が作られる。区画内には連續爪彫文が施され、波状比縫が施される。	—	—	黒褐色	褐色	
第30回19	勝坂2	深鉢	口縁部	—	無文帯により区画が作られる。隕帶上には連續爪彫文が施され、区画内に沿って3角押印が施される。区画内には波状の三角押印、半円形の側文が加えられる。	—	—	灰黄褐色	—	
第30回21	勝坂2	深鉢	口縁部	—	隕帶で三角形の区画を作り、隕帶に沿って幅広角押文が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第30回22	勝坂2	深鉢	口縁部	—	内面に円錐の凹みを作る。軸部に沿って3角押印が施され、隕帶上には連續爪彫文が施される。更に蛇行比縫。三角押文を加える部分がみられる。口縁部の波状部分の中には円錐刺突が加えられる。また、口縁部と隕帶上に角押文が施される。	—	—	に赤い褐色	—	
第30回23	勝坂2	深鉢	口縁部	—	全面に赤みが施される。	—	—	に赤い褐色	—	
第30回24	勝坂2	深鉢	口縁部	—	口縁に沿って三角押文が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第30回25	勝坂2	深鉢	口縁部	—	先端を内側に折り返して成形される。	—	—	灰黄褐色	—	
第30回26	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	撲糸文か	隕帶によって区画を作り、隕帶上には連續爪彫みが施される。区画内に三叉文、切込みが加えられる。	褐色	—	
第30回27	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	隕帶によって三角形の区画を作り、隕帶上には角押文が施される。区画内には隕帶が充満される。	に赤い黄褐色	—	
第30回28	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	隕帶によって三角形の区画が作られる。隕帶上に切込み、波状比縫が施される。〔波状比縫〕に沿って文繻が施される。	褐色	—	
第30回29	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	隕帶によって区画を作り、連續爪彫文が施される。区画外には隕帶に沿って連續爪彫文と波状比縫が施される。	に赤い黄褐色	—	
第30回30	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	隕帶によって区画を作られる。隕帶上には幅広角押文、交叉刺突が施し、隕帶に沿って一串三角押印が施される。	に赤い黄褐色	—	
第30回31	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	隕帶によって区画を作り、連續爪彫文が施される。区画内には波状比縫と文繻が施される。角押文が加えられる。	灰黄褐色	—	
第30回32	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	隕帶によって区画を作り、平行比縫、幅広角押文が施される。幅広角押文に隕帶で直状状紋を引く。	に赤い黄褐色	—	

第11表 174号住居跡出土土器一覧（2）

辨別番号	型式	階級	部位	口縁部・胸部 ・底部文	口縁部・胸部・肩部・ 突起・把手微	胸部・底部・ 脚部文	脚部・底部・脚部特徴	外面部色	内面部色	備考
第30図33	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	縄文によって三角形の区画を作り、底部には垂れ込みが現れる。底部に角押文がある。	に赤い黄褐色	—	—
第30図34	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	3重の区画で底辺で角折の区画が作られる。内側の区画を追跡すると、内側に角押文が充填し、中央に三爻文が施される。	に赤い褐色	—	—
第30図35	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	縄文で段状の文様が施される。内側には三角押文を施し、外側には広角押文を施させ、その外側には斜めと広角押文が施される。	橙色	暗色	—
第30図40	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	横帯と縦帯の隙間に刻みを施し、縄帶に沿って角押文が加えられる。また、縦帯にそって段状文様がみえる。	に赤い褐色	黒褐色	—
第30図41	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	縄帶を施させ、平行弦線を引く。平行弦線に沿って2列の連續乳突文が施される。	に赤い赤褐色	—	—
第31図42	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	2条一群の沈線で弧状の文様が描かれる。	灰褐色	に赤い褐色	—
第31図43	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	平行比摩2区画を作り、区画内に比摩の文様を貼り、中央に三爻文が施される。	黄褐色	—	—
第31図44	勝坂2	深鉢	胸部	—	—	—	平行比摩によって区画を作り、区画内は斜肩の沈線が充填される。	灰褐色	—	—
第31図45	勝坂2	深鉢	突起	—	2つの孔が開く型鍛錆状に成形される。	—	—	に赤い褐色	—	—
第31図46	勝坂2	深鉢	底部付近	—	—	—	三角押文の内側に刻みを施し区画が作られる。区画内には区画に沿って角押文がみられる。	橙色	—	—
第31図47	勝坂2~3	深鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	橙色	—	—
第31図48	勝坂2~3	深鉢	口縁部	—	口縁部下部に沈線が施る。	—	—	灰褐色	—	—
第31図49	勝坂2~3	深鉢	口縁部	—	口縁部の内側に斜面を貼付し刻みが施される。縄帶によって区画を作り、区画内に内側斜面の文様が充填される。区画内には三角形の文様を施す部分と比摩2区画を描き区画内に傾斜の沈線を引く部分がある。	—	—	に赤い赤褐色	—	—
第31図50	勝坂2~3	深鉢	口縁部	—	縄帶によって三角形の区画を作り、第2列に刻みが加えられる。区画内に内側斜面の文様が充填される。区画外には三角形の文様を施す部分と比摩2区画を描き区画内に傾斜の沈線を引く部分がある。	—	—	に赤い褐色	—	—
第31図51	勝坂2~3	深鉢	口縁部	—	縄帶によって半円形の区画を作り、縄帶上に乳突状の突起文が形成される。区画内に内側斜面の文様が充填され、その上に文様に三角押文が施される。	—	—	に赤い褐色	—	—
第31図52	勝坂2~3	深鉢	口縁部	—	底状の頂点部から隆起が垂下し、縁帶上に角押文が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—
第31図53	勝坂2~3	深鉢	把手	—	柄状は丸みを帯び、上部は波状にならうか、外側に平行弦線を引き、間に角押文が施される。	—	—	灰褐色	—	—
第31図55	勝坂2~3	深鉢	突起	—	「匁」字状を呈し、刻みが加えられる。	—	—	明赤褐色	—	—
第31図56	勝坂2~3	深鉢	把手	—	「匁」字状に成形される。背面に同様の文様が施される。突起部に内側斜面を引き、把手附近に刻みが加えられる。	—	—	に赤い橙色	—	—
第31図57	勝坂2~3	深鉢	把手	—	「匁」字状に成形される。表面に1条、裏面に2条の沈線を引き、把手附近に刻みが施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—
第31図58	勝坂2~3	深鉢	口縁部	—	孔を開け楕円状の耳起が口縁部に貼付される。隆起上に刻みが施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—

第12表 174号住居跡出土土器一覧(3)

辨認番号	型式	階層	部位	口縁部・脚部・脚部地文	口縁部・脚部・肩部・突起・把手付微	脚部・底部・脚部地文	脚部・底部・脚部地文	外表面色	内面色調	備考
第31図59	勝坂2~3	深鉢	脚部	—	—	沈縫	縫隙を封付し、先端を頭巻状に作る。縫隙には幅広角押文が施される。	に赤い褐色	—	
第31図60	勝坂2~3	深鉢	脚部	—	—	—	—	に赤い褐色	—	
第31図61	勝坂2~3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙を「つ」字状に封付し、周囲に角押文が施される。	に赤い褐色	—	
第31図62	勝坂2~3	浅鉢	口縁部	—	折り返した口脚部の先端を頭巻状に成形し、その上に幅広角押文が施される。	—	上部と下部に幅広角押文を1列施し、間に交互刻突が施される。	に赤い褐色	—	
第31図63	勝坂2~3	浅鉢	口縁部	—	ミニチュアの復縫であろうか。口縁部の直下に交互刻突を施し、その下部に角押文が施される。	—	—	に赤い褐色	—	
第31図64	勝坂3	深鉢	口縁部	—	口縁部の折り返した部分に沿って角押文が施される。	—	—	に赤い褐色	—	
第31図65	勝坂3	深鉢	口縁部	—	縫隙によって区画を作り、縫隙带上に角押文が施される。区画には縫隙の位置が充填される。	—	—	灰黄褐色	—	
第31図66	勝坂3	深鉢	口縁部・單節斜綱文R	—	口縁部に円形の文様を施してが施される。中央は凸状に膨らむ。	—	—	灰黄褐色	—	
第31図70	勝坂3	深鉢	口縁部	—	縫隙を施さず、縫隙上に交互刻突が施される。また、角形が強される。	—	—	に赤い褐色	—	
第31図71	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙によって四角形の区画を作り、縫隙上に角みをもつて、区画内部は縫隙が充填される。	灰黄褐色	—	
第31図72	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙によって区画を作り、区画内部は縫隙が充填される。	に赤い褐色	—	
第31図73	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙を封付し、縫隙上に角押文が施される。また、縫隙の下部に沈縫で「W」字状の模様が強される。	灰黄褐色	—	
第31図76	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙によって、細円形の区画が施される。曲線部分を側面にて割離され、区画内部には縫隙の位置が充填される。	黒褐色	—	
第31図77	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙を封付せ、その上に縫隙を横方向に封付し区画が作られる。区画内部は充填である。	に赤い褐色	—	
第32図78	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙を施さず、その下部に弧状に縫隙が封付される。縫隙上には角形が施される。	灰黄褐色	—	
第32図79	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙を封付し、縫隙上に矢羽根状の突起文様が施される。	に赤い褐色	—	
第32図80	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙と斜縫によって区画を作り、縫隙上に幅広角押文が施される。区画には三脚押文が施される。	に赤い褐色	—	
第32図81	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	単節斜綱文R	に赤い褐色	—	
第32図82	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙文L	に赤い赤褐色	—	土器所蔵
第32図83	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙による縫隙を引き、上に捺壓で角押文を施せる。縫隙の上面に三脚押文が施される。	に赤い褐色	—	
第32図84	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙によって区画を作り、縫隙上に押指を施せる。区画内部は幅広角押文が施される。	に赤い褐色	—	
第32図85	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	平行化縫によって区画が作られる。区画内部は幅広角押文が施される。	に赤い褐色	—	
第32図86	勝坂3	深鉢	脚部	—	—	—	縫隙によって区画を作り、区画内部は化縫の文様が施される。円筒の文様の中心に角みが加えられる。	暗褐色	黒褐色	

第13表 174号住居跡出土土器一覧(4)

辨別番号	型式	階級	部位	口縁部・頸部・肩部文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底部・脚部構文	胴部・底部・脚部特徴	外面色	内面色	備考
第32回87	勝坂3	深鉢	頸部	-	-	-	-	縄帶によって三つの区分を描き、区間に沿って斜めに走る縦線が描かれ、その上から下へ斜めに走る縦線が描かれる。	暗褐色	-
第32回88	勝坂3	深鉢	把手	-	2つの孔が開けられ周縁部に成型される。2つの孔に沿って沈縫帯が引かれ、更に沈縫の外側に角押印が施される。	-	-	に赤い黄褐色	-	
第32回89	勝坂か	深鉢	口縁部	-	口縁部に沿って縄帶が貼付される。また、縄帶によって沈縫が形成される。	-	-	黒褐色	-	
第32回90	勝坂か	深鉢	口縁部	-	口縁部が広くして成型される。	-	-	棕色	-	
第32回91	勝坂か	深鉢	口縁部	無跡斜縫文L	口縁部に實文部分が剥け、斜めに走る縦線と横線が施される。	-	-	灰黃褐色	-	
第32回92	勝坂か	深鉢	口縁部	-	口縁部に沿って縄帶を貼付し、孔のみが残される。縄帶の下部は平行沈縫を垂下させせる。また、柳の葉の愛らしさを見せる実記が施される。	-	-	棕色	-	
第32回93	勝坂か	浅鉢	頸部	-	-	-	-	褐色	-	
第32回94	香伊 佐土 原	把手	-	中央に円形の孔が開こうか。表面には縄帶で現状に成型し、裏面は縄に縄帶が貼付される。	-	-	に赤い黄褐色	-		
第32回95	勝坂か	深鉢	底部	-	-	-	-	灰黃褐色	-	
第32回96	勝坂か	深鉢	底部	-	-	-	-	ミニチュアの底部である。平底で内側は黒いか赤みをもつ。	-	
第32回97	勝坂か	深鉢	底部	-	-	-	-	ミニチュアの平底の底部である。	-	
第32回98	曾利I～II	深鉢	頸部	-	-	摺板文L	-	平底の底部である。内側に赤彩がある。	-	
第32回99	曾利I～II	深鉢	頸部	-	-	-	-	上面に縄帶を貼付し、交互刺突を施す。下部には平行沈縫が引かれる。	に赤い黄褐色	
第32回100	曾利I～IIか	深鉢	頸部	-	-	-	-	平行沈縫によって区画を作り、それぞれの平行沈縫に交互刺突を施す。区内には縄帶が施される。	に赤い黄褐色	
第32回101	曾利II	深鉢	口縁部	-	-	-	-	縄帶を巡らせ、そこから2本の斜縫を引いて進行する沈縫を施せる。	に赤い黄褐色	
第33回102	曾利II	深鉢	口縁部	-	口縁部は無文で、頸部に縄帶が貼付される。	摺板文L	-	に赤い黄褐色	-	
第33回103	曾利II	深鉢	口縁部～頸部	-	伊2の卯体が施される。無文部を沿うる。口縁部との境に縄帶が貼付される。	摺板文L	-	2本の卯体を2段状の縄帶を1組とし、垂下させる。また、2本の卯体の上部には粘土粒が貼付される。文数の単位は7単位標準ができる。	に赤い黄褐色	
第33回104	曾利II	深鉢	口縁部	-	大きく開く無文の口縁である。	-	-	に赤い黄褐色	-	
第33回105	曾利II	深鉢	口縁部	-	下部に縱の縄帶が貼付される。	-	-	褐色	-	
第33回107	曾利II	深鉢	口縁部	摺板文L	口縁部は無文で、口縁部下に縄帶が巡る。	-	-	に赤い黄褐色	-	
第33回108	曾利II	深鉢	口縁部	單體斜縫文RL	口縁部は無文で、頸部から沈縫を垂下せず、その下部に平行沈縫がある。縄帶上には刺突が施される。	-	-	灰褐色	-	
第34回109	曾利II	深鉢	頸部	-	-	平行沈縫を巡らせ、平行沈縫上に斜行する縄帶が貼付される。	-	灰黃褐色	-	
第34回110	曾利II	深鉢	口縁部	單體斜縫文RL	-	-	-	に赤い黄褐色	-	
第34回111	曾利II	深鉢	頸部	-	縄帶によって区画が作られる。縄帶で「凸」字形や攝多文を作り出す。右上から左下へ斜行する沈縫と左上から右下へ斜行する沈縫を引かれる。その下部に2本の卯体の縄帶が巡る。	-	-	に赤い黄褐色	-	
第34回112	曾利II	深鉢	頸部	-	左上から斜行する沈縫を施され、その上に右上から縄帶が貼付される。	-	-	に赤い黄褐色	-	
第34回113	曾利II	深鉢	口縁部	-	左上から斜行する沈縫を施され、その上に右上から縄帶が貼付される。	-	-	に赤い黄褐色	-	

第14表 174号住跡出土土器一覧（5）

検出番号	型式	階級	部位	口縁部・胸部・肩部 肩部地文	口縁部・胸部・肩部・突起・ 把手付微	胸部・底部・ 脚部地文	脚部・底部・脚部特徴	外表面色	内表面色	備考	
第34回114	曾利II	深鉢	口縁部 一腰部	—	—	沈線、墨系文I	横文帯を有けた下に「oo」字状の粘土紐が貼付 した。また、腰部には2本の横位の 縦帶を有する。	に赤い黄褐色	—	—	
第34回115	曾利II	深鉢	胸部	—	—	沈線	2列の矩行する縦帶上に 縦帶が施される。	黒褐色	褐色	—	
第34回117	曾利II	深鉢	胸部	—	—	—	縦帶を腰部に貼付する。 腰部の下部に例み が施される。	褐色	—	—	
第34回118	曾利II	深鉢	胸部	—	—	柳眉条縫	矩行する縦帶が貼付され る。	に赤い黄褐色	—	—	
第34回119	曾利II	深鉢	胸部	—	—	—	成行の縦帶が貼付される。	黒褐色	—	—	
第34回121	曾利II	深鉢	胸部	—	—	—	縦帶を腰部に、表線上に 2.2cm程度の粘土紐が貼付さ れる。	灰黃褐色	—	—	
第34回122	曾利II	深鉢	胸部	—	—	沈線	縦帶を貼付け、腰部の矩 行する縦帶を加える。	灰黃褐色	褐色	—	
第34回123	曾利II	深鉢	胸部	—	—	沈線	平行沈線を施し、成行の 縦帶を貼付する。段状の 縦帶から矩行する縦帶を 垂下する。	灰褐色	—	—	
第34回124	曾利II	深鉢	胸部	—	—	柳眉条縫	矩行する縦帶を垂下せ る。	に赤い褐色	—	—	
第34回126	曾利II	深鉢	胸部	—	—	—	縦帶を垂らせ、腰帶上に 円形刺突が施される。	に赤い褐色	—	—	
第34回127	曾利II	深鉢	胸部	—	—	平行沈線	2本の縦帶を添え、腰帶上に 交互に刺突が施される。	黒褐色	に赤い褐色	—	
第34回129	曾利II	深鉢	胸部	—	—	—	横位、斜位に平行沈線を 引き、一部を押出し文で引 かれる。	灰黃褐色	—	—	
第34回130	曾利II	深鉢	胸部	—	—	平行沈線	縦帶を渦巻状に貼付し、 腰部の中央に沈線が施さ れる。	に赤い褐色	—	—	
第35回131	曾利II～ III	深鉢	口縁部	—	—	—	平行沈線によって墨文文 が施される。山長の部分と谷 筋の部分は口縁部から腰行 する縦帶を垂下せる。ま た、腰部との境には横位の 矩行する縦帶が施される。 平行沈線を施し、その上 で2列の3cm程度の粘土紐 が貼付される。文様の単位 は3箇位以上と考えられる。	—	灰黃褐色	—	—
第35回132	曾利II～ III	深鉢	口縁部	—	—	—	平行沈線によって墨文文 が施される。重墨文の中心部 と円が接する部分から腰行 する縦帶を垂下せる。	—	に赤い黄褐色	—	—
第35回133	曾利II～ III	深鉢	口縁部	—	—	—	平行沈線によつ重墨文が施 される。重墨文の中心部か ら腰行する縦帶を垂下させ る。	—	に赤い褐色	—	—
第35回135	曾利II～ III	深鉢	口縁部	—	—	—	平行沈線で墨文文を施し、 その上に段状縦帶が貼付 させる。	—	灰黃褐色	—	—
第35回136	曾利II～ III	深鉢	口縁部	—	—	—	灰縞で墨文文を引き、口縁 部の内面にも外側と同じ方 向に沈線を引き。	—	に赤い褐色	—	—
第35回137	曾利II～ III	深鉢	胸部	—	—	—	口縁部から口縁部に向かつ て沈線が斜位に施される。	—	に赤い褐色	—	—
第35回138	曾利II～ III	深鉢	胸部	—	—	平行沈線	平行沈線で墨文文を施し、 その上に段状縦帶が貼付 される。	—	に赤い黄褐色	—	—
第35回141	曾利II～ III	深鉢	胸部	—	—	—	2本・2列の3cm程度の縦 帶が矩行する縦帶を交互 に貼付する。	に赤い黄褐色	—	—	
第35回142	曾利II～ III	深鉢	胸部	柳眉条縫 8箇・ 1.8cm	—	—	平行沈線で墨文文を施し、 その上に2.2cm程度の粘土紐が 貼付される。	0.8cm程度の粘土紐を渦巻 状に貼付する。	に赤い褐色	黒褐色	—
第35回143	曾利II～ III	深鉢	胸部	—	—	柳眉条縫	1.0cm程度の粘土紐が貼付 される。	に赤い褐色	黒褐色	—	
第35回145	曾利II～ III	深鉢	胸部	—	—	柳眉条縫	段状の縦帶を垂下させ、 傾いて上部に墨文文を施す。	灰黃褐色	—	—	
第35回146	曾利II～ III	深鉢	胸部	—	—	—	腰部の縦帶が施され、また、 縦帶を有する墨文文に 円形刺突が加えられる。 縦帶の間にには沈線で渦巻 文様が描かれる。	灰黃褐色	に赤い褐色	—	—

第15表 174号住跡出土土器一覧（6）

辨別番号	型式	階級	部位	口縁部・胸部・肩部 底部文	口縁部・胸部・肩部・突起・ 把手付微	胸部・底部・ 底部文	胸部・底部・ 底部文	外外面色	内里面色	備考	
第36回147	曾利II~III	深鉢	胸部	—	—	単胞斜縞文RL	隆帯を付けし、底帶の上部から横帯の波形の隆帯を巡らせる。	灰黄褐色	—		
第36回148	曾利II~III	深鉢	胸部	—	—	平行沈縞	2本の刃の隆帯を対位に巡らせる。	に赤い黄褐色	黒褐色		
第36回150	曾利II~III	深鉢	胸部	—	—	柳条条縞	横帯にて三角形状の文様を作り、底面に隆帯が貼付される。	に赤い黄褐色	—		
第36回151	曾利II~III	深鉢	胸部	—	—	複節斜縞文RLR	1本の波状の隆帯が垂下する。	灰黄褐色	—		
第36回152	曾利II~III	深鉢	胸部	—	—	平行沈縞	航行する沈縞を1本垂下させる。	に赤い褐色	黒褐色		
第36回153	曾利II~III	深鉢	胸部	—	—	平行沈縞	航行する沈縞を垂下させる。	褐色	灰褐色		
第36回154	曾利II~III	深鉢	胸部~底部	—	斜行文が施される。横帯の 場所を巡らせ、交叉刺突が 施される。	平行沈縞	航行する隆帯を垂下させ る。また、直径0.7cm程 度の粘土粒が2つ貼付さ れる。	に赤い黄褐色	—		
第36回155	曾利II~III	深鉢	胸部	—	—	平行沈縞	1条の航行する沈縞を垂 下させる。	褐色	黒褐色		
第36回156	曾利II~III	深鉢	胸部	—	—	沈縞	全体に沈縞が施される。	に赤い褐色	—		
第36回157	曾利II~III	深鉢	胸部	—	—	沈縞	航行する隆帯を垂下させ る。	に赤い黄褐色	—		
第36回158	曾利II~III	深鉢	胸部	—	—	平行沈縞	航行する隆帯と直線的な 隆帯を交互に垂下させる。	浅黄褐色	—		
第36回159	曾利III	深鉢	口縁部	—	沈縞で底面文が施される。	—	—	灰黄褐色	—		
第36回160	曾利III	深鉢	口縁部	—	口縁部の内部から斜行文が 施され、網目まで斜く。胸 部に横帯の波状の隆帯が點 在する。	平行沈縞	—	—	灰黄褐色	—	
第36回161	曾利III	深鉢	口縁部~胸部	—	口縁部の内部から外部へ口 縁部全体に斜行文が施され る。横帯の波状の隆帯が2 つ巡らる。	平行沈縞	波状の隆帯が垂下する。	に赤い褐色	—		
第36回162	曾利III	深鉢	口縁部	—	口縁部の内部に沈縞が引か れる。隆帯によって区画と 底面文が作られる。下部の 底帶が底面文を作り、斜 行文を難くように上部の底 帶が貼付される。区画内は 左1か所の横帯の沈縞が先 頭される。	—	沈縞を垂下させ、沈縞に 向かって「IV」字状の文 様を対位に巡縞して描く。 また、航行する沈縞を垂 下させる。	灰黄褐色	—		
第37回163	曾利III	深鉢	胸部	—	—	柳条条縞9条 2.0cm	底帶による円形の文様。 「」字状に貼付された底 帶から航行する沈縞が垂 下する。	に赤い褐色	—		
第37回164	曾利III	深鉢	胸部	—	—	平行沈縞、沈縞	沈縞、平行沈縞の間に波 状の隆帯が貼付される。	灰黄褐色	—		
第37回165	曾利III~IV	深鉢	胸部	—	—	—	内面部突文が施される。	灰黄褐色	—		
第37回166	曾利か	有孔 鉢	胸部?	—	三角形に成形された騎士形 に孔開けられる。有孔開付 士形の鉢であろうか。	—	—	黒褐色	—		
第37回167	曾利か	深鉢	胸部	—	—	—	平行沈縞節文を施し、上 部に平行沈縞による底帶 が巡らされる。また、下部は 平行沈縞。	に赤い黄褐色	—		
第37回168	曾利か	深鉢	胸部	—	—	—	平行沈縞によつて横円形 の区画を作り、区画内、 区画外共に平行沈縞が充 填される。	に赤い褐色	に赤い黄褐色		
第37回169	曾利か	深鉢	胸部	単胞斜縞文RL	—	—	横円形の粘土を敷き、上 部の縁文が対位に形成する。 また、側面に隆帯が加え られる。	に赤い黄褐色	—		
第37回170	曾利か	深鉢	口縁部	—	無文帶を取ける。横帯の沈 縞が引かれ、2条一対の沈 縞で文様が構かれる。	底帶なし	—	に赤い黄褐色	—		
第37回171	曾利か	深鉢	胸部	—	—	柳条条縞	沈縞によって底帶状の文 様が構かれる。	に赤い黄褐色	—		
第37回172	曾利か	深鉢	胸部	—	—	—	沈縞によって区画を作り、 区画内を底状の沈縞で充 填する。	に赤い褐色	—		
第37回173	曾利か	深鉢	胸部	—	—	柳条条縞	隆帯を削除し、隆帯上に は円形刺突文が施される。 0.7cm程の間隔で沈縞が横 位に引く。	褐色	—		
第37回174	曾利か	深鉢	胸部	—	—	柳条条縞	隆帯を削除し、隆帯上に は円形刺突文が施される。 0.7cm程の間隔で沈縞を横 位に引く。	褐色	—		

第16表 174号住居跡出土土器一覧(7)

検出番号	型式	階層	部位	口縁部・胸部・肩部 肩部地文	口縁部・胸部・肩部・突起・ 把手等微	胸部・底部・ 脚部地文	脚部・底部・脚部特徴	外表面色	内表面色	備考
第38回175	普利カ	深跡	脚部	—	—	櫛条条紋	櫛帶が部位に貼付され、 櫛帶から模位の模様が引 かれる。	に赤い褐色	に赤い褐色	
第38回176	加賀利E1	深跡	脚部	—	—	櫛条文し	櫛帶を貼付し、脚帶上に 連続する筋みが貼付られ る。	に赤い黄褐色	—	
第38回177	加賀利E1	深跡	脚部	—	—	楕圓斜縞文	櫛帶を貼付し、脚帶上に 斜めの筋みが貼付られる。	に赤い黄褐色	—	
第38回178	加賀利E1	深跡	脚部	—	—	櫛条文し	櫛帶を貼付し、脚帶上に 連続爪形文が施される。	に赤い黄褐色	—	
第38回179	加賀利E1	深跡	口縁部	櫛条文し	櫛位の隠帶が巡る。	—	—	に赤い褐色	—	
第38回180	加賀利E1	深跡	口縁部	櫛条文し	隠帶によって区画が作られ る。	—	—	に赤い古褐色	—	
第38回181	加賀利E1	深跡	口縁部	櫛条文し	隠帶によって方角の区画 が作られる。区画内は櫛条 文で充填される。	—	—	灰黄褐色	—	
第38回182	加賀利E1	深跡	口縁部	櫛条文し	隠帶によって、区画と周囲 文が作られる。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第38回183	加賀利E1	深跡	脚部	—	—	櫛条文し	隠帶によって区画を作り、 区画内に施行する隠帶が 貼付される。	暗褐色	—	
第38回184	加賀利E1	深跡	口縁部	櫛条文し	弧状の平行する隠帶が貼付 される。周囲は櫛条文である。	—	—	暗褐色	—	
第38回185	加賀利E1	深跡	口縁部 ～脚部	櫛条文し	2本一対の隠帶で区画を作 り、区画の端に内凹状の 区画が作られる。隠帶は模位 で貼付され、模位は模文用である。 脚部は模文用である。 文様の単位は6単位以上と 考えられる。	櫛条文し	2本一対の隠帶と蛇行す る隠帶を1組として垂下さ せる。	灰黄褐色	—	
第38回186	加賀利E1	深跡	口縁部	—	—	—	—	褐色	—	
第38回187	加賀利E1	深跡	口縁部	—	—	—	—	に赤い褐色	—	
第38回188	加賀利E1	深跡	口縁部	櫛条文R	—	—	—	に赤い黄褐色	—	
第38回189	加賀利E1	深跡	口縁部	櫛条文し	隠帶によって、区画と周囲 文が作られる。	—	—	灰褐色	—	
第39回190	加賀利E1	深跡	口縁部	單節斜縞文RL	隠帶によって区画を作り。 区画の端に中央に櫛条文が 作られる。区画内は櫛条文が 作られる。また、口縁部の 内側に櫛条文と隠帶が施 される。	—	—	褐色	—	
第39回191	加賀利E1	深跡	口縁部	—	—	—	—	灰黄褐色	—	
第39回192	加賀利E1	深跡	口縁部	櫛条文R	櫛位の平行隠帶と口縁部 から貼付された隠帶の隠帶 によって区画を作り、区画 内に隠帶と通巻状の文様が 加えられる。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第39回193	加賀利E1	深跡	口縁部	—	—	—	—	に赤い黄褐色	—	
第39回194	加賀利E1	深跡	口縁部	前々段多栗RL	櫛位の比叡山巡らせ。隠帶 が貼付される。	—	—	黒褐色	—	
第39回195	加賀利E1	深跡	脚部	櫛条文L	櫛位の隠帶を巡らせ。そぞ から隠帶を垂下させる。	—	—	灰黄褐色	—	
第39回196	加賀利E1	深跡	口縁部	櫛条文R	櫛位の隠帶が巡る。	—	—	暗褐色	—	
第39回197	加賀利E1	深跡	口縁部	單節斜縞文LR	隠帶を貼付し、細かい模円 形の区画が作られる。	—	—	灰黄褐色	—	
第39回198	加賀利E1	深跡	口縁部	前々段多栗RL	口縁部直下に隠帶が貼付さ れる。	—	—	明赤褐色	—	
第39回199	加賀利E1	深跡	口縁部	單節斜縞文LR	複数口縁部であろうか。	—	—	に赤い褐色	—	
第40回201	加賀利E1	脚台	脚部	—	—	—	円形の孔が開けられる。	に赤い褐色	—	
第40回202	加賀利E1	脚台	把手	—	—	—	口縁部から模様の変形が作 り出されるか。	に赤い黄褐色	—	
第40回203	加賀利E1	深跡	口縁部	—	—	—	—	に赤い褐色	—	
第40回204	加賀利E1	深跡	突起	—	高さ1.3cm程で円筒状に成 形される。上部が深く窪んで いる。外面には隠帶で溝 文が施される。	—	—	灰黄褐色	—	
第40回205	加賀利E1	深跡	口縁部	—	隠帶によって区画文が施さ れる。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第40回206	加賀利E1	浅跡	脚部	—	—	—	隠帶によって、椭円形の 区画を作り。区画の端に 櫛条文が施される。櫛条 文が充填される。	褐色	—	

第17表 174号住居跡出土土器一覧(8)

辨認番号	型式	階級	部位	口縁部・胸部・肩部地文	口縁部・胸部・肩部・突起・把手等微	胸部・底部・脚部地文	脚部・底部・脚部特徴	外面部色	内面部色	備考	
第40回207	加賀利E1	浅鉢	脚部	—	—	単節斜綱文LR	縦帶によって横円形の区画を作り、区画内には縦文が充填される。また、区画の横に複数の横に複数の横の文様が並ぶ。	に赤い黄褐色	黒色		
第40回208	加賀利E1	深鉢	脚部	—	—	単節斜綱文RL	2本の縦帯を貼り付け、区画が作られるよう。	に赤い褐色	—		
第40回209	加賀利E1	深鉢	脚部	—	—	標準文L	縦帶によって横円形の区画が作られる。	灰褐色	—		
第40回210	加賀利E1	深鉢	脚部	—	—	標準文L	縦帶によって横巻状の文様が並ぶ。	褐色	に赤い黄褐色		
第40回211	加賀利E1	深鉢	脚部	—	—	無節斜綱文	直線的な縦帶と平行する縦帯を重ねさせせる。	褐色	黒褐色		
第40回212	加賀利E1	深鉢	脚部	—	—	無節斜綱文L	縦帯を貼り付し、縦帯上にも脚部と同様の文様が施される。	灰褐色	暗灰色		
第40回213	加賀利E1	深鉢	脚部	—	—	無節斜綱文R	縦帶によって、区画が作られる。縦帶上には幅広の押文を加え、以画面内は比較による横巻状の文様が施される。	に赤い黄褐色	—		
第40回215	加賀利E1	深鉢	口縁部	—	皮状部分の内側に沿巻文が施される。	—	—	に赤い褐色	—		
第40回216	加賀利E1	浅鉢	脚部	—	—	—	内側に沿巻文の赤筋が施される。	に赤い黄褐色	—		
第40回217	加賀利E1 ～2	深鉢	口縁部	標準文L	縦帶によって区画を作り、区画内には横巻文が充填される。また、縦帶で区画内に沿巻文が作られる。	—	—	に赤い黄褐色	—		
第40回218	加賀利E1 ～2	浅鉢	脚部	—	—	—	縦帶によって区画と沿巻文が施される。区画内は縦位の横巻文が充填される。	に赤い褐色	黒褐色		
第40回219	加賀利E1 ～2	深鉢	脚部	—	—	—	縦帶によって区画と沿巻文を作り、区画内は横巻文が施される。	に赤い黄褐色	—		
第40回220	加賀利E1 ～2	深鉢	脚部	—	—	—	縦帶により区画を作り、区画の端に縦帶で沿巻文が施される。	に赤い黄褐色	—		
第41回221	加賀利E1 ～2	深鉢	脚部	—	—	標準文L	2本の縦帶で沿巻文を作り、区画内は横巻文が施される。区画上に横巻文が加えられる。	に赤い褐色	黒褐色		
第41回222	加賀利E1 ～2	浅鉢	脚部	—	—	—	縦帶によって区画を作り、縦帶上に横巻文が充填される。区画内には横巻文が充填し、区画の縫合に沿つて横縫を引く。	明黄褐色	黒褐色		
第41回223	加賀利E1 ～2	浅鉢	脚部	—	連續した割みが施される。	—	—	に赤い黄褐色	—		
第41回224	加賀利E1 ～2	浅鉢	肩部	—	皮状の縦帶によって横円形の文様が施される。下端部に別い皮状の縦帶によって好みの文様を施す際に連続して加えられる。	—	—	に赤い褐色	—		
第41回225	加賀利E1 ～2	浅鉢	脚部	—	—	—	皮状によって横円形の区画が施される。	灰黃褐色	—		
第41回227	加賀利E1 ～2	深鉢	脚部	—	—	単節斜綱文RL	2本の縦帶で沿巻文を作り、区画内は横巻文が充填される。	黒褐色	に赤い褐色		
第41回228	加賀利E1 ～2	深鉢	口縁部	標準文R	—	—	—	灰褐色	—		
第41回229	加賀利E1 ～2	深鉢	口縁部	0段多条斜行 標準文RLR	口縁部附近に縦帶を巡らせ、その下に皮状横縫が施される。	—	—	—	黒褐色	—	
第41回230	加賀利E2	深鉢	口縁部～脚部	單節斜綱文LR	縦帶によって区画を作り、区画内には横巻文が充填される。また、縦帶で横巻状の文様が施される。	單節斜綱文LR	3条一組の横縫と1条の横縫による横縫を正面とし、正面下部に縦帶を4本垂下させる。	灰黃褐色	—		
第42回231	加賀利E2	深鉢	口縁部	單節斜綱文RL	縦帶によって長方形の区画を作り、区画内には横巻文が充填される。長方形の区画外には横巻文が充填される。区画の端に縦帶で沿巻文が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—		
第42回232	加賀利E2	深鉢	口縁部	單節斜綱文RL	縦帶によって区画を作り、2本の長い弧状の横縫が貼り付けられる。	—	—	に赤い黄褐色	—		
第42回233	加賀利E2	深鉢	口縁部	單節斜綱文RL	縦帶によって区画を作り、区画内には横巻文が充填される。また、区画の端に縦帶で沿巻文が施される。	—	—	灰黃褐色	に赤い黄褐色		
第42回234	加賀利E2	深鉢	口縁部	單節斜綱文RL	縦帶によって区画を作り、区画内には横巻文が作られる。また、区画の端に縦帶で沿巻文が施される。	—	—	灰黃褐色	—		

第18表 174号住居跡出土土器一覧（9）

検出番号	型式	階層	部位	口縁部・側面・底部・肩部・突起・把手特徴	側面・底面・肩部特徴	側面・底面・肩部特徴	外表面色	内表面色	備考
第42回240	加曾利E2	深鉢	口縁部	単槽斜縫文R	縫帶によって横円形の区画を作り、区画内は渦巻文が充填される。	-	-	に赤い黄褐色	-
第42回241	加曾利E2	深鉢	口縁部	単槽斜縫文R	縫帶によって横円形の区画を作り、区画内は渦巻文が充填される。	-	-	褐色	-
第42回242	加曾利E2	深鉢	口縁部	単槽斜縫文R	縫帶によって横円形の区画を作り、区画内は渦巻文が充填される。	-	-	黒褐色	に赤い橙色
第42回243	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	縫帶によって区画を作り、区画内には渦巻文が充填される。	-	-	褐色	-
第42回244	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	縫帶を貼付し、渦巻文が施される。	-	-	褐色	-
第42回245	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	縫帶によって渦巻文が施される。	-	-	に赤い黄褐色	-
第42回246	加曾利E2	深鉢	口縁部	標準文し	縫帶によって区画を作り、渦巻文が充填される。区画内は標準文が充填される。	-	-	褐色	-
第42回247	加曾利E2	深鉢	口縁部	標準文し	縫帶によって区画を作り、区画内は渦巻文が充填される。	-	-	灰褐色	-
第42回248	加曾利E2	深鉢	口縁部	標準文し	口縁部上部に横幅の縫帶を、また、2本一封の縫帶が貼付して施される。	-	-	に赤い黄褐色	-
第42回254	加曾利E2	深鉢	口縁部	標準文し	縫帶によって区画を作り、区画内には渦巻文が充填される。	-	-	に赤い黄褐色	-
第42回255	加曾利E2	深鉢	口縁部	標準文か	縫帶によって区画が作られる。	-	-	灰褐色	-
第42回256	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈縫	2本一封の縫帶を横状に貼付し、区画が作られる。区画内には沈縫が充填される。	-	-	に赤い褐色	-
第42回257	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈縫	縫帶によって区画を作り、区画の端に渦巻文が施される。区画内には沈縫が充填される。	-	-	褐色	-
第42回258	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈縫	縫帶によって横円形の区画を作り、区画内には渦巻文が充填される。区画の下部に縫帶がある。	-	-	灰褐色	-
第42回259	加曾利E2	深鉢	口縁部	標準文R	縫帶によって区画を作り、渦巻文が充填される。	-	-	黒褐色	に赤い橙色
第42回262	加曾利E2	深鉢	口縁部	標準文R	縫帶の縫合を2本貼付し、縫は標準文が充填される。	-	-	に赤い黄褐色	-
第42回263	加曾利E2	深鉢	口縁部	標準文し	縫帶によって区画を作り、区画の端に渦巻文が施される。	-	-	黒褐色	-
第42回264	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	縫帶によって区画を作り、区画内に渦巻文を施し、沈縫が充填される。	-	-	灰褐色	-
第42回265	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈縫	2本一封の底狀の縫帶によって区画を作り、区画内には沈縫が充填される。	-	-	黒褐色	-
第42回266	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈縫	縫帶によって区画を作り、沈縫が充填される。	-	-	褐色	-
第42回268	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈縫	2本の縫帶が貼付して施される。	-	-	に赤い黄褐色	-
第42回269	加曾利E2	深鉢	口縁部	標準文し	縫帶によって区画と渦巻文が施される。	-	-	に赤い黄褐色	-
第42回270	加曾利E2	深鉢	口縁部付近	-	沈縫で両端が切れた縫帶を貼付し、その上に標準文で縫合した文字が埋め込まれる。縫合した文字の中心部が膨らむように形成される。	-	-	に赤い黄褐色	-
第42回271	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	外面に點字を貼付して埋めさせた後、その上に標準文で縫合した文字が埋め込まれる。	-	-	に赤い黄褐色	-
第42回272	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	縫帶によって横円形の区画が作られる。	-	-	灰褐色	-
第43回273	加曾利E2	深鉢	口縁部	標準文し	「[8]」字状に貼付された縫帶から、2本の縫帶が垂下される。	-	-	灰褐色	-
第43回274	加曾利E2	深鉢	側面部	単槽斜縫文R	縫帶によって区画を作り、区画内には渦巻文が充填し、渦巻文が施される。	-	-	に赤い褐色	黒色
第43回275	加曾利E2	深鉢	側面部	-	-	縫帶によって区画を作り、区画内には渦巻文が充填し、渦巻文が施される。	-	に赤い褐色	灰褐色
第43回276	加曾利E2	深鉢	側面部	-	-	縫帶によって渦巻文が施される。	-	灰褐色	灰褐色

第19表 174号住居跡出土土器一覧(10)

辨認番号	型式	階級	部位	口縁部・胸部 肩部地文	口縁部・胸部・肩部・突起・把手等微	胸部・底部 脚部地文	脚部・底部・脚部特徴	外面部色	内面部色	備考
第43回277	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	—	—	灰黄褐色	—	
第43回278	加賀利E2	深鉢	胸部	—	隆形によって区画が作られる。区画内に墨を文を彫り、範位の沈線が充填される。	—	—	褐色	—	
第43回279	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	沈線	隆形によって区画と墨を文が作られる。区画内には沈線が充填される。	褐色	—	
第43回280	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	—	隆形によって墨を文が彫られる。	に赤い黄褐色	暗灰色	
第43回281	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	—	同心円状に沈線が引かれる。	に赤い黄褐色	—	
第43回282	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文 R.	2本一列の隆形で旋行する隆形を1組として垂下させる。文様の単位は4單位以上で構成される。	灰黄褐色	—	
第44回283	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文 R.	2条一対の沈線で「く」字状の文様が描かれる。	黑褐色	—	
第44回284	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文 LR.	旋行する隆形を垂下させる。	に赤い黄褐色	—	
第44回285	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文 RL	平行斜縦文を引き、その下から旋行する平行斜縦が垂下する。	に赤い黄褐色	—	
第44回286	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文 RL	平行斜縦文をつけて区画を作り、区画内には墨文が充填される。	褐色	—	
第44回287	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文 RL	単位の範囲で引かれる隆形が交互に垂下する。	に赤い褐色	黑褐色	
第44回288	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文 RL	2本の隆形を垂下させる。	に赤い褐色	—	
第44回289	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文 LR.	隆形によって円形の文様を作り、隆形を垂下させる。	灰黄褐色	—	
第44回291	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 L.	2本一列の隆形で「く」字状の文様が作られる。区画内には墨文が充填される。	に赤い黄褐色	—	
第44回292	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 L.	隆形を横に貼付し、そこから旋行する隆形を垂下させる。	に赤い褐色	黑褐色	
第44回293	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 L.	2本一列の隆形で横位に巡らす。そこから2本一列の隆形で旋行する隆形を受けて垂下させる。	に赤い黄褐色	—	
第44回294	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 L.	1条の文様によって横位に巡らす。	に赤い黄褐色	—	
第44回296	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 L.	隆形が横に巡る。隆形によって墨を引る。区画内には墨文が充填される。	黑褐色	—	
第44回297	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 L.	3本一列の隆形が横位に巡る。	に赤い褐色	—	
第44回298	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 L.	2条一対の沈線で旋行する沈線と1条の旋行する沈線を1組として範位に施す。文様の単位は5單位以上と考えられる。	に赤い褐色	—	
第44回299	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 R.	2条一対の沈線で旋行しながら垂下させる。	に赤い褐色	—	
第44回300	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 R.	2条一対の沈線で旋行する沈線を交叉に垂下させる。	褐色	黑褐色	
第44回301	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 L.	2条一対の沈線で旋行する沈線を垂下させる。	黑褐色	に赤い褐色	
第44回302	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	柳垂条幅 7条以上・1.5cm	2本一列の隆形で巡り、そこから墨を引く。墨の範囲を垂下させる。	灰黄褐色	—	
第44回303	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	撫糸文 L.	横位の横形を2本らせ、そこから隆形を垂下する。	灰黄褐色	に赤い褐色	
第44回304	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	条幅	2本の隆形が弧状に貼付される。	褐色	—	
第44回305	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	柳垂条幅	2本の旋行する隆形を垂下させる。	褐色	に赤い褐色	
第44回307	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	前々段反置 RRL	2条一対の垂下する沈線と旋行する沈線を交互に引く。	に赤い褐色	—	
第44回308	加賀利E2	深鉢	底部付近	—	—	単節斜綱文 LR.	平行沈線を垂下させ、区画が作られる。	に赤い黄褐色	—	
第44回309	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文 LR.	平行沈線を垂下させ、区画が作られる。	灰黄褐色	—	
第45回310	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文 RL.	2条一対の沈線を垂下させる。	に赤い黄褐色	—	
第45回311	加賀利E2	深鉢	胸部	—	—	単節斜綱文	2条一対の沈線を垂下させる。	に赤い褐色	—	

第20表 174号住居跡出土土器一覧(11)

辨認番号	型式	階級	部位	口縁部・側面・底面 ・縫合部地文	口縁部・底面・肩部・突起・ 把手等微	側面・底部・脚部地文	脚部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 45 回 312 加賀利 E2 深鉢 底部	—	—	—	反張字行彌文 L1	2 本の平行沈縫を垂下させる。	に赤い赤褐色	灰黄褐色	—	—	—
第 45 回 313 加賀利 E2 深鉢 底部	—	—	—	単節斜彌文 LR	施行する隠帶を 1 本垂下させる。	褐色	灰褐色	—	—	—
第 45 回 315 加賀利 E2 深鉢 底部	—	—	—	単節斜彌文 LR	平行沈縫を垂下させる。	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第 45 回 316 加賀利 E2 深鉢 脚部～ 底部	—	—	—	単節斜彌文 LR	2 条一对の沈縫を垂下させる。	褐色	—	—	—	—
第 45 回 317 加賀利 E2 深鉢 底部	—	—	—	柳葉条縫	1 本の隠帶を垂下させる。	褐色	—	—	—	—
第 45 回 318 加賀利 E2 深鉢 底部	—	—	—	柳葉条縫 7 条・ 15 cm	1 本の隠帶を垂下させる。	に赤い褐色	灰黄褐色	—	—	—
第 45 回 319 加賀利 E2 深鉢 底部付近	—	—	—	柳葉条縫 7 条・ 15 cm	2 条一对の沈縫を垂下させる。	に赤い褐色	—	—	—	—
第 45 回 321 加賀利 E2 深鉢 底部付近	—	—	—	燃糸文 I	1 本の隠帶を垂下させる。	に赤い赤褐色	灰褐色	—	—	—
第 45 回 322 加賀利 E2 深鉢 底部	—	—	—	柳葉条縫 6 条・ 11 cm	—	に赤い褐色	黒褐色	—	—	—
第 45 回 323 加賀利 E2 深鉢 底部	—	—	—	—	2 条一对の沈縫を垂下させる。	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第 45 回 324 加賀利 E2 深鉢 底部	—	—	—	柳葉条縫 5 条・ 0.9 cm	—	明赤褐色	暗褐色	—	—	—
第 45 回 325 加賀利 E2 浅鉢 肩部	—	—	化粧によって横円弧の区画を作り、区画内は模様が充填される。区画の横には縦位の沈縫が加えられる。	—	—	に赤い赤褐色	—	—	—	—
第 45 回 327 加賀利 E2 浅鉢 脚部	—	—	—	単節斜彌文 LR	隠帶で捺文を施し、沈縫で横円弧の区画を作れる。区画内は模彌文が充填される。	褐色	に赤い黄褐色	—	—	—
第 45 回 328 加賀利 E2 浅鉢 口縁部	—	—	口縁部は無文で直下に横位の隠帶を施され、隠帶で捺文が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第 45 回 329 加賀利 E2 浅鉢 脚部	—	—	化粧によって区画を作られる。下端の隠帶が突起に突き出る。表面の上部に沈縫が施される。また、区画の上部に隠帶を施す。隠帶の上部で捺文帯の突起が施される。	—	—	に赤い褐色	黒褐色	—	—	—
第 45 回 330 加賀利 E2 浅鉢 口縁部	—	—	隠帶によって区画を作られる。下端の隠帶が突起に突き出る。表面の上部に沈縫が施される。	燃糸文 I	—	に赤い赤褐色	—	—	—	—
第 45 回 331 加賀利 E2 浅鉢 口縁部	—	—	口縁部から中心に円形の孔があく把手を附付けようか。把手部分に沈縫で捺文が施される。	燃糸文 I	2 条一对の沈縫が縦位に引かれる。	灰褐色	—	—	—	—
第 46 回 332 加賀利 E2 深鉢 口縁部	—	—	口縁部下に沈縫を 1 条施せる。	—	—	に赤い赤褐色	—	—	—	—
第 46 回 333 加賀利 E2 深鉢 口縁部	—	—	—	—	—	に赤い褐色	灰褐色	—	—	—
第 46 回 334 加賀利 E2 深鉢 織目文 I	—	—	3 条の沈縫を施す。下部に比縫で円状の文様が作られる。区画内は捺文が充填される。	—	—	に赤い赤褐色	—	—	—	—
第 46 回 335 加賀利 E2 -3 深鉢 口縁部	—	—	沈縫を施す。間に円形突起が施される。また、2 条一对の沈縫が垂下する。	—	—	黄褐色	—	—	—	—
第 46 回 338 加賀利 E2 -3 深鉢 口縁部	—	—	2 本の隠帶が巡る。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第 46 回 339 加賀利 E2 -3 深鉢 口縁部～ 脚部	—	—	輪の広い捺文帯にする。	単節斜彌文 RL	施文帯との繋ぎに平行沈縫を巡らせる。そこから平行隠帶を施す。隠帶を垂下させる。平行沈縫を垂下させる。	灰褐色	—	—	—	—
第 46 回 340 加賀利 E2 -3 深鉢 脚部	—	—	—	単節斜彌文 RL	平行沈縫を巡らせ、そこから平行隠帶を施す。隠帶を垂下させる。	灰黄褐色	—	—	—	—
第 46 回 341 加賀利 E2 -3 深鉢 脚部	—	—	—	柳葉条縫 10 条以上	2 本一对の隠帶で施行する隠帶を 1 本として垂下させる。文様の単位は 8 単位構成型である。	に赤い赤褐色	—	—	—	—
第 47 回 342 加賀利 E2 -3 深鉢 脚部	—	—	—	柳葉条縫	2 条一对の隠帶による沈縫と 3 条一对の沈縫を垂下させる。	に赤い褐色	灰黄褐色	—	—	—
第 47 回 343 加賀利 E2 -3 深鉢 脚部	—	—	—	柳葉条縫	縦位の沈縫を引き、その上に沈縫で捺文帯の文様が施す。	褐色	灰黄褐色	—	—	—
第 47 回 344 加賀利 E2 -3 深鉢 脚部	—	—	—	沈縫	2 条の隠帶を垂下させ、隠帶の上に捺文帯を施す。	褐色	に赤い黄褐色	—	—	—
第 47 回 345 加賀利 E2 -3 深鉢 脚部	—	—	—	—	隠帶によって横円弧の区画を作られる。隠帶の上に捺文帯を加えるもの。隠帶に沿って内部に捺文帯を施すものがみられる。	に赤い赤褐色	—	—	—	—
第 47 回 346 加賀利 E2 -3 深鉢 脚部	—	—	—	単節斜彌文 LR	2 条の沈縫を垂下させ、隠帶の間の捺文帯を充填する。	に赤い赤褐色	—	—	—	—
第 47 回 347 加賀利 E2 -3 深鉢 底部	—	—	—	単節斜彌文 RL	単節斜彌文 RL 施す。	明赤褐色	—	—	—	—

第 21 表 174 号住居跡出土土器一覧 (12)

辨別番号	型式	形態	部位	口縁部・胸部・底部 等の地文	口縁部・胸部・底部・突起・ 把手等の特徴	胸部・底部・底部等の 陶器文	胸部・底部・底部等の 特徴	外面色	内面色	備考
第47回348	加賀利E2 -3	浅鉢	口縁部 ～腹部	-	-	-	-	に赤い褐色	-	
第47回349	加賀利E3	深鉢	口縁部	単眼斜綱文LR	上部は僅か、下部を沈縛で 構成する複合文である。 一部の場合は把手等の突起 を作出。伝統的な模様が 充填される。(柳原田風文の下 から2条のU字縫が下する。)	-	-	褐色	-	
第48回350	加賀利E3	深鉢	口縁部	-	口縁部の区画 が作られる。区画内を2条 一对の沈縛が2重で巡る。	-	-	に赤い褐色	-	
第48回351	加賀利E3	深鉢	口縁部	単眼斜綱文 RL	上面に無文帶を設ける。	-	-	に赤い黄褐色	-	
第48回352	加賀利E3	台付 土瓶	脚部	-	-	-	半円状の隠縛が施される。	灰黃褐色	黒褐色	
第48回353	加賀利E3 -4	深鉢	口縁部	單眼斜綱文 LR	-	-	-	に赤い褐色	-	
第48回354	加賀利E3 -4	深鉢	口縁部	單眼斜綱文 LR	-	-	-	褐色	-	
第48回355	加賀利E3 -4	深鉢	口縁部	單眼斜綱文 RL	-	-	-	褐色	-	
第48回356	加賀利E3 -4	深鉢	口縁部	單眼斜綱文 RL	横位の沈縛が巡る。	-	-	に赤い褐色	-	
第48回357	加賀利E3 -4	深鉢	口縁部	單眼斜綱文 LR	平行沈縛を垂下させる。	-	-	に赤い黄褐色	-	
第48回358	加賀利E3 -4	深鉢	口縁部	柳原田風文6条 13cm	-	-	-	褐色	-	
第48回360	加賀利E3 -4	深鉢	口縁部	-	2列の円形斜突文が巡さ れる。	-	-	褐色	-	
第48回361	加賀利E3 -4	浅鉢	肩部	-	隠縛が「つ」字形に駆付さ れる。赤彩が施される。	-	-	に赤い黄褐色	褐灰色	
第48回362	加賀利E3 -4	深鉢	胸部	-	柳原田風文6条 13cm	-	2条一对の「U」字状の沈 縛が施される。	褐色	灰黃褐色	
第48回363	加賀利E4	深鉢	口縁部	柳原田風文	横位の沈縛が巡る。	-	-	灰黃褐色	-	
第48回364	加賀利E4 か	深鉢	口縁部	-	赤彩が施される。	-	-	黑色	-	
第48回365	加賀利E4 か	深鉢	把手	-	横位の把手が駆付さ れる。赤彩が施される。	-	-	に赤い褐色	-	
第48回366	加賀利E4 か	深鉢	口縁部	-	赤彩が施される。	-	-	に赤い黄褐色	-	
第48回368	加賀利E4 か	浅鉢	口縁部	-	赤彩が施される。	-	-	に赤い褐色	-	
第48回369	加賀利E4 か	深鉢	口縁部	-	赤彩が施される。	-	-	褐色	褐灰色	
第48回370	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	黒褐色	
第48回371	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	-	
第48回372	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	外周に舟登状の文様が赤 彩で描かれるよう。	に赤い黄褐色	-	
第48回373	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	-	
第48回374	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	-	
第49回375	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	-	
第49回376	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	-	
第49回377	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	褐色	に赤い黄褐色	
第49回378	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	-	
第49回379	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	-	
第49回380	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	灰黃褐色	-	
第49回381	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	黒褐色	-	
第49回382	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	黒褐色	
第49回383	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い褐色	-	
第49回384	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	-	
第49回385	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	に赤い黄褐色	-	
第49回386	加賀利E4 か	浅鉢	胸部	-	-	-	赤彩が施される。	黒褐色	-	
第49回388	加賀利E4 か	浅鉢	底部	-	-	-	平底の底面である。	に赤い黄褐色	-	
第49回389	加賀利E4 か	浅鉢	底部	-	-	-	平底の底面である。	褐色	-	

第22表 174号住居跡出土土器一覧(13)

辨認番号	型式	階層	部位	口縁部・脇部・肩部・脚部地文	口縁部・腹面・肩部・突起・把手特徴	肩部・底部・脚部地文	肩部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 49 図 392 か	加賀利 E か	深鉢	底部	—	—	—	平底の底底部である。	褐色	—	—
第 49 図 393 か	加賀利 E か	深鉢	底部	—	—	—	平底の底底部である。	にぶい黄褐色	黒褐色	—
第 49 図 394 か	透弧文 I	深鉢	口縁部	單節斜綱文 LR	2 条の沈線が巡る。	—	—	灰黄褐色	—	—
第 49 図 395 透弧文 I	透弧文 I	深鉢	口縁部	單節斜綱文 RL	口縁部下に平行沈線を引く。その下に平行沈線で段長の文様が施される。	—	—	褐色	—	—
第 49 図 396 透弧文 I	透弧文 I	深鉢	口縁部	透弧文 I	口縁部下に平行沈線を引く。口縁部の上部が施され、口縁部の下部が底底部で上部の沈線が底部まで描く。また、2 条一組の沈線で透弧文が施される。	—	—	灰黄褐色	—	—
第 49 図 397 透弧文 I	透弧文 I	深鉢	脇部	—	—	反燃斜行構文 LR	仄窓により、円形、弧状の文様を描き、4 本の沈線を垂下させる。	にぶい黄褐色	—	—
第 49 図 398 透弧文 I	透弧文 I	深鉢	脇部	—	—	單節斜綱文 RL	3 条の沈線で弧状の文様が描かれる。	褐色	黒褐色	—
第 49 図 399 透弧文 I	透弧文 I	深鉢	口縁部	前後段多条 LR	横筋の平行沈線が巡る。	—	—	にぶい黄褐色	—	—
第 49 図 401 か	透弧文 I か	深鉢	脇部	—	—	燃糸文 I	弧状の沈線を引き、沈線の交点に円を描く。中央に円形刺突文が施される。	にぶい褐色	灰黄褐色	—
第 49 図 402 —2	透弧文 I —2	深鉢	口縁部・脇部	單節斜綱文 LR	口縁部下に平行沈線が巡る。また、その下部に 3 条の沈線で透弧文が施され、文様の単位は 8 単位確認できる。	—	3 条一組の沈線が底部に巡る。	黒褐色	—	—
第 49 図 403 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	單節斜綱文 RL	口縁部に平行な 3 条の沈線が巡る。	—	—	暗赤褐色	—	—
第 49 図 404 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	單節斜綱文 RL	口縁部の平行沈線を 3 重に巡らせる。	—	—	暗灰色	にぶい褐色	—
第 50 図 405 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	無節斜綱文 L	口縁部下部に 2 条の沈線を引く。その後の下部で横円筒の文様が施される。また、3 条一組の沈線で透弧文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	—
第 50 図 406 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	單節斜綱文 RL	口縁部下に平行沈線を強し、間に交叉刺突文が加えられる。	—	—	にぶい黄褐色	—	—
第 50 図 407 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	單節斜綱文 RL	口縁部下に円形斜面文を 2 列が施される。	—	—	黒褐色	—	—
第 50 図 409 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	脇部	—	—	單節斜綱文 LR	3 条一組の沈線で透弧文が描かれる。	にぶい黄褐色	—	—
第 50 図 410 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部・脇部	透糸文 I	3 条一組の沈線を口縁部上面に施す。その下部に 2 条一組の沈線で透弧文が施される。文様の単位は 3 単位以上と考えられる。	—	3 条一組の沈線で透弧文を施し、下の 1 条は透弧文の底底部で透弧文が描く。	黒褐色	—	—
第 50 図 411 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	脇部	—	—	燃糸文 I	2 条一組の沈線で透弧文が 2 段が描かれる。	暗赤褐色	—	—
第 50 図 412 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	脇部	—	—	燃糸文 I	2 条一組の沈線で透弧文が描き、その下部に 2 本の沈線を巡らせる。	灰黄褐色	—	—
第 50 図 413 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	透糸文 I	口縁部付近に沈線を巡らせ、3 次の沈線で透弧文が施される。	—	—	灰黄褐色	—	—
第 50 図 414 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	透糸文 I	口縁部下に口縁部に平行な 2 条の沈線が引かる。	—	—	褐色	—	—
第 50 図 415 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	透糸文 I	口縁部底面下に 2 条一組の沈線が巡る。その下部に 2 条の透弧文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	—
第 50 図 416 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	透糸文 I	口縁部底面下に 2 条の沈線を引く。沈線上に刺突文が施される。透弧文の下部に沈線による透弧文が施される。	—	—	灰褐色	—	—
第 50 図 417 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部・脇部	標榜条幅 14 cm 以上・2.8 cm	口縁部上面に円形斜面文が巡る。また、5 条一組の沈線によつて透弧文が施される。5 条一組の沈線によつて透弧文が施される。5 条一組の沈線によつて透弧文が施される。5 条一組の沈線によつて透弧文が施される。5 条一組の沈線によつて透弧文が施される。5 条一組の沈線によつて透弧文が施される。	標榜条幅 14 cm 以上・2.8 cm	脇部の沈線から 2 条一組の沈線の間に透弧の沈線を挟んだ文様を施す。文様の単位は 6 単位確認できる。	にぶい黄褐色	—	—
第 52 図 418 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	標榜条幅	口縁部底面下に 2 条の沈線を引し、沈線の下部に 2 条の沈線で透弧文が施される。	—	—	褐色	—	—
第 52 図 419 透弧文 2	透弧文 2	深鉢	口縁部	標榜条幅	口縁部底面下に 2 条の沈線を引く。2 条の沈線に沿り透弧文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	—

第 23 表 174 号住居跡出土土器一覧 (14)

辨別番号	型式	階級	部位	口縁部・脚部・肩部・耳部地文	口縁部・脚部・肩部・耳部特徴	脚部・底部・腹部地文	脚部・底部・腹部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 52 図 420	透孤文 2	深鉢	口縁部	櫛縞条線 8 条; 1.4 cm	口縁部上部に 2 条の沈線が盛る。4 条一組の透孤文が施され、側面には 3 条の沈線が盛る。	—	—	黒褐色	—	
第 52 図 423	透孤文 2	深鉢	口縁部	櫛縞条線	C 沈線の間に沈線が波らせず、その下部で 2 条一組の透孤文が施される。	—	—	灰黄褐色	—	
第 52 図 424	透孤文 2	深鉢	口縁部・側部	櫛糸文し	口縁部上部に 2 条一組の沈線が盛る。腹部に 3 条一組の透孤文が施される。	—	2 条一組の沈線で透孤文が描かれる。	黒褐色	—	
第 52 図 425	透孤文 2	深鉢	口縁部	櫛縞条線か	口縁部上部に沈線を波らせ、間に円形刺突文が加えられる。その下部に 3 条一組の沈線で透孤文が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第 52 図 426	透孤文 2	深鉢	口縁部	櫛糸文し	透孤文を波らせ。間に交差刺突文が施される。その下には平行沈線で透孤文が施される。	—	—	黒褐色	暗褐色	
第 52 図 427	透孤文 2	深鉢	口縁部	櫛縞条線か	平行沈線を波らせ。間に交差刺突文が施される。	—	—	灰黄褐色	—	
第 52 図 428	透孤文 2	深鉢	口縁部	櫛縞条線 7 条; 1.3 cm	口縁部上部に沈線を引き、透孤文より沈線で透孤文が施される。また、2 条一組の花輪で透孤文が描かれる。	—	—	黒灰色	—	
第 52 図 429	透孤文 2	深鉢	脚部	—	—	櫛糸文し	沈線で 3 重の透孤文が施される。透孤文の下部には沈線が盛る。	に赤い褐色	—	
第 52 図 430	透孤文 2	深鉢	脚部	—	—	櫛糸文し	3 条の沈線で透孤文が施される。	に赤い褐色	黒褐色	
第 52 図 431	透孤文 2	深鉢	脚部	—	—	櫛糸文し	沈線によって透孤文が施される。また、その下には透孤文の一部が確認できる。	黒褐色	—	
第 52 図 432	透孤文 2	深鉢	脚部	—	—	櫛糸文し	平行沈線によって 3 重の透孤文が施される。	に赤い黄褐色	—	
第 52 図 433	透孤文 2	深鉢	脚部	—	—	櫛糸文し	2 条一組の沈線で透孤文を描き、透孤部から逆行する沈線が垂下する。	に赤い褐色	黒褐色	
第 53 図 434	透孤文 2	深鉢	脚部	—	—	櫛糸文し	透孤文 1.1 cm, 8 条の沈線が施される。さらに逆行する沈線が加えられる。	に赤い褐色	—	
第 53 図 435	透孤文 2	深鉢	脚部	—	—	櫛縞条線 0 条; 1.6 cm	透孤文を波らせ、透孤部に逆さに逆行する沈線が加えられる。	に赤い黄褐色	—	
第 53 図 436	透孤文 2	深鉢	脚部	—	—	櫛縞条線 7 条; 1.5 cm	2 条の沈線が盛る。	に赤い褐色	—	
第 53 図 437	透孤文 2 -3	深鉢	口縁部	單脚斜欄文 RII	口縁部上部に 2 条の沈線が盛る。2 本の沈線で透孤文を描き、その下部に沈線が盛る。	—	—	灰黄褐色	—	
第 53 図 438	透孤文 2 -3	深鉢	頭部～脚部	—	上部に 1 条以上、下部に 3 条一組の沈線が盛る。	櫛糸文し	3 条一組の沈線を波状に重ねる。	灰黄褐色	—	
第 54 図 439	透孤文 2 -3	深鉢	脚部	—	—	櫛縞条線 6 条以上・1.1 cm	脚部に 2 条一組の沈線が盛り、そこから平行沈線が垂下される。また、横位の沈線の上部には LR と思われる模様がみられる。	灰黄褐色	—	
第 54 図 440	透孤文 2 -3	深鉢	脚部	—	—	櫛縞条線 7 条; 1.4 cm	くびれ部に 3 条の沈線が盛る。	褐色	—	
第 54 図 441	透孤文 2	深鉢	口縁部	櫛縞条線 9 条; 1.7 cm	口縁部下部に 2 条の沈線が盛る。	—	—	暗褐色	—	
第 54 図 442	透孤文 3	深鉢	口縁部	櫛縞条線 7 条; 1.4 cm	口縁部上部に 2 条の沈線が盛る。そこから平行沈線を垂下させる。平行沈線の間に 4 条 1 组の透孤文が施される。	—	—	に赤い褐色	—	
第 54 図 443	透孤文 3	深鉢	口縁部	櫛縞条線 8 条; 1.6 cm	2 条一組の沈線で透孤文を描き、その下部に沈線が盛る。	—	—	灰黄褐色	—	
第 54 図 444	透孤文 3	深鉢	口縁部	櫛糸文 R	—	—	—	暗褐色	—	
第 54 図 445	透孤文 3	深鉢	口縁部	櫛縞条線 6 条; 1.2 cm	透孤文により透孤文が描かれる。	—	—	黒褐色	—	
第 54 図 446	透孤文 3	深鉢	口縁部	引狀斜欄文 R	2 条一組の沈線により透孤文が描かれる。	—	—	黒褐色	—	
第 54 図 447	透孤文 3	深鉢	脚部	—	—	櫛糸文し	2 条一組の沈線による透孤文が施される。	に赤い褐色	—	
第 54 図 448	透孤文 3	深鉢	口縁部	櫛縞条線 9 条; 1.6 cm	口縁部附近に沈線が盛る。平行沈線の和を點付し、そこから垂れ物を垂下させる。横帶の間には平行沈線で透孤文が描かれる。	—	—	に赤い黄褐色	—	

第 24 表 174 号住居跡出土土器一覧 (15)

辨認番号	型式	基層	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	頸部・底部・脚部地文	頸部・底部・脚部特徴	外表面色	内面色調	備考
第54回449	邊文3	深鉢	頸部	—	—	櫛罫条幅9条、1.6cm	半円形の粘土を削りだし、そこから薄い土を削り、それを横に並べて、その間に平行な線で邊区で描かれる。	に赤い黄褐色	—	
第54回450	邊文3	深鉢	頸部	—	—	櫛罫条幅9条、1.6cm	半円形の粘土を削りだし、そこから薄い土を削り、それを横に並べて、その間に平行な線で邊区で描かれる。	に赤い褐色	黒褐色	
第54回451	称名寺か	深鉢	頸部	—	—	単節斜綱文1R	茂縫によって区画を作り、区画内に斜綱文が施される。	黄灰色	浅黄色	

第25表 174号住居跡出土土器一覧(16)

辨認番号	型式	基層	部位	口縁部・頸部・肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	頸部・底部・脚部地文	頸部・底部・脚部特徴	外表面色	内面色調	備考
第69回1	阿玉台1	深鉢	口縁部	—	1列の「ハ」字形の土梗が施される。	—	—	褐色	—	
第69回2	阿玉台1 ～II	深鉢	口縁部	—	ヒダ状压印が見られる。	—	—	褐色	—	
第69回3	阿玉台Ⅱ ～IV	深鉢	口縁部	—	口縁部直下に2列の三角押印が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第69回4	勝坂2	深鉢	頸部	—	—	櫛罫の両側に幅広押印文が施される。	—	に赤い褐色	—	
第69回5	勝坂2	深鉢	頸部	—	—	櫛罫に沿って両側に幅広押印文が施される。また、櫛罫部分に円形の黏土が剥げられる。	—	褐色	—	
第69回6	勝坂2	深鉢	頸部	—	—	櫛罫・沈縫による区画され、区画内には幅広押印文、三叉が施される。	—	明赤褐色	—	
第69回7	勝坂2	深鉢	頸部	—	—	三角形の区画を作り区画内を赤線で充填。櫛罫上には鍵形状刺突文が施される。	—	褐色	—	
第69回8	勝坂2	深鉢	頸部	—	—	角押文による波状の文様が施される。	—	黒褐色	に赤い黄褐色	
第69回9	勝坂2	深鉢	頸部	—	—	櫛状の把手が貼付され、表面から下側の手があけられる。	—	黒褐色	—	
第69回10	勝坂3	深鉢	頸部	—	—	櫛罫により区画を作り、区画内に逆行する櫛罫が貼付される。	—	黄褐色	—	
第69回11	勝坂3	深鉢	頸部	—	—	櫛罫上に模みを施す。その上から一面赤線文を施す。	—	褐色	—	
第69回12	勝坂か	深鉢	底部	—	—	ミニチャニアの土器の底部であろうか。	—	褐灰色	—	
第69回13	加曾利Ⅰ	深鉢	口縁部	—	無文の口縁部である。	—	—	に赤い黄褐色	黒色	
第69回14	加曾利Ⅰ ～2	深鉢	頸部	—	—	2本一对の櫛罫が横位に貼付される。	—	に赤い褐色	—	
第69回15	加曾利Ⅰ ～E1	深鉢	頸部	—	—	2本の平行する櫛罫が底1方に貼付され、1本の櫛罫が垂下する。	—	黒褐色	浅黃褐色	
第69回16	加曾利Ⅰ ～E2	深鉢	頸部	—	—	櫛罫が平行に貼付される。	—	明黄褐色	—	
第69回17	加曾利Ⅰ ～E2	深鉢	底部	—	—	—	—	に赤い黄褐色	黒	
第69回18	加曾利Ⅰ ～か	深鉢	口縁部	—	全面に赤彩が施される。	—	—	黄褐色	—	
第69回19	加曾利Ⅰ ～か	深鉢	頸部	—	一部に赤彩が施される。	—	—	高い黄褐色～黄灰色	—	
第69回20	加曾利Ⅰ ～か	深鉢	底部	—	—	—	—	明褐色	黒色	

第26表 176号住居跡出土土器一覧

辨別番号	型式	階級	部位	口縁部・脣部 脣部地文	口縁部・面部・脣部・突起・ 面部特徴	面部・底部・面部地文	面部・底部・面部特徴	外面色調	内面色調	備考
第76図1	阿玉台II ～IV	深鉢	口縁部	—	上面に舟彫文が施される。	—	—	褐色	—	
第76図2	勝坂2	深鉢	口縁部	—	縁帶を対応して斜めに貼付し、面部から斜めに下降しながら垂直に貼付され、組み、交互側突が加えられる。	—	—	灰黄褐色	—	
第76図3	勝坂2～3	深鉢	脣部	—	—	—	縁帶上に神引文が施される。	に赤い褐色	—	
第76図4	勝坂か	浅鉢	口縁部 ～底部	—	—	—	2個もしくは4個の単位の突起が作られる。	褐色	—	
第76図5	勝坂3	深鉢	口縁部 ～脣部	—	口縁部に沿って縁帶を追加し、底部には縁帶と比較して面部文が施される。また、口縁部は上方からの斜位の比較が施される。一部文様が異なる。	—	2本一对の縁帶によって三角形の面文を作り、頭部文が施される。また、面部内には沈縫で充填される。	褐色～赤色	—	
第76図6	曾利I～II	深鉢	脣部	—	—	—	沈縫を地文とし縁帶が貼付される。	に赤い黄色～黒色	—	
第76図7	曾利II	深鉢	口縁部	—	口縁部は無文で外側に大きくなっている。	—	—	褐色	—	
第76図8	曾利II	深鉢	口縁部	—	口縁部は無文で外側に広がる。	—	—	に赤い黄色	—	
第76図9	曾利II	深鉢	口縁部	—	口縁部により口縁部の内側から重乳文が施される。	—	—	褐色～黒色	—	
第76図10	曾利II	深鉢	口縁部	—	平行状の文様により、口縁部の内側から重乳文が施される。	—	—	に赤い黄色	—	
第76図11	曾利II	深鉢	口縁部	—	平行状の文様により、口縁部の内側から重乳文が施される。	—	—	褐色	—	
第76図12	曾利II	深鉢	口縁部	—	在縫により重乳文を描き、面部から底部を縫合して下させる。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第76図13	曾利II	深鉢	口縁部	—	在縫により、口縁部の内側から重乳文が施される。また、口縁部の上部、脣部には波状の縫合が貼付される。	—	—	黒褐色	—	
第76図14	曾利II～3	深鉢	口縁部	—	口縁部に奥形が貼付される。口縁部の文様は比較して異なる重乳文の文様にならうか。	—	—	赤褐色	—	
第76図15	加曾利E1 ～2	深鉢	脣部	單節斜縫文RL	口縁部底面下に僅かな無文帯を有する。縫帶により三角形の文様が貼付される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第76図16	加曾利E1 ～2	深鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	灰褐色	—	
第76図17	加曾利E2	深鉢	脣部	—	—	黒朱文L	1本縫帶が貼付される。	明黄褐色	—	
第77図18	加曾利E2	深鉢	底部付近	—	—	黒朱文L	1本縫帶が貼付される。	明黄褐色	オリーブ黒色	
第77図19	加曾利E2	深鉢	口縁部	規則斜縫文 RLR	RLRの規則斜縫文を文と縫帶で前文部が貼付される。	—	—	褐色	に赤い黄褐色	
第77図20	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文Lか	横糸で同心円状の文様が描かれる。	—	—	に赤い褐色～黒灰色	—	
第77図21	加曾利E2	深鉢	脣部	—	—	単節斜縫文LR	2本の縫帶が平行に貼付される。	淡黃色	—	
第77図22	加曾利E2	深鉢	底部付近	—	—	単節斜縫文LR	2本の縫帶が平行に貼付される。	淡黃色	—	
第77図23	加曾利E2 ～3	深鉢	口縁部 ～脣部	柳条縫	伊2の削り土器で上半部が埋設されていた。12cm幅の柳条縫全体が全体に施される。	—	—	褐色	—	削り土器
第77図24	加曾利E2 ～3	深鉢	脣部	—	—	柳条縫	柳条縫を地文とし縫帶が貼付される。	明褐色	—	
第77図25	加曾利E2 ～3	深鉢	脣部	—	—	—	横位の縫合が巡り、その下部に異様の状態が加えられる。	浅黃色	—	
第77図26	加曾利E2 ～3	深鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第77図27	加曾利E3	深鉢	口縁部	単節斜縫文RLR	区画内が複数縫文で充填される。左側の面は平行。右側は縦に施される。	—	—	黒褐色	に赤い褐色	
第77図28	加曾利E3	深鉢	口縁部	単節斜縫文LR	区画内が複数縫文で充填される。	—	—	暗赤褐色	—	
第77図29	加曾利E3	深鉢	口縁部	単節斜縫文RLR	口縁部に沿って1歩の小縫を引き、面部の内側で斜めに貼付。もしくは縫合状の文様が施される。	—	—	黒褐色	—	
第77図30	加曾利E4	深鉢	口縁部	複節斜縫文 RLR	区画内が複数縫文で充填される。	—	—	灰黃褐色	—	
第77図31	加曾利E4	深鉢	把手	—	縫合に貼付される。縫文が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第77図32	加曾利E か	浅鉢	底部	—	—	—	—	暗灰褐色	—	
第77図33	透窓文2	深鉢	口縁部	透窓文L	口縁部下の3条の平行縫帶のうち上2条のまにそれぞれ円形刺突が施される。3条の状態が重複する。	—	—	黒褐色	—	

第27表 177号住居跡出土土器一覧（1）

辨認番号	型式	基盤	部位	口縁部・胸部・肩部・底部地文	口縁部・胸部・肩部・底部特徴	胸部・底部・脚部地文	胸部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第77図34	透波文2	深鉢	口縁部	柳條条線	口縁部直下に平行な2条の波線が引かれ、波線の間に円形押引文が描かれる。2条一对の波線により透波文が描かれる。	—	—	黄褐色	—	
第77図35	透波文2	深鉢	胴部	単節斜綱文LR	口縁部直下に円形押引文が描かれる。その下に柳條がひかれ、下の1条上に円形押引文が描かれる。	—	—	黑褐色	—	
第77図36	透波文2	深鉢	口縁部	単節斜綱文か 柳條条線	口縁部直上に2条の波線を温らせ、その下部に1条の波線で透波文が描かれる。	—	—	灰黄褐色	—	
第77図37	透波文2	深鉢	口縁部	柳條条線	口縁部直下に口縁部と平行な波線が引かれる。	—	—	明黃褐色～黒褐色	—	
第77図38	透波文2	深鉢	口縁部	柳條条線	口縁部直下に僅かな無文帶があり、その下部に口縁部に平行な1条の波線が引かれる。	—	—	明褐色	—	
第78図39	透波文2	深鉢	胴部	—	—	単節斜綱文LR	横位の3条の波線が温り、その下部に1条の波線による透波文が描かれる。	褐色	—	
第78図40	透波文2	深鉢	胴部	—	—	柳條条線	横位の3条の波線が引かれる。	に赤い黄褐色	—	
第78図41	透波文2	深鉢	胴部	—	—	柳條条線	横位の3条の波線が温り、その下部に透波文が描かれる。	暗赤褐色	—	
第78図42	透波文2	深鉢	胴部	—	—	柳條条線	1.0cm幅の柳條条線が焦される。	暗褐色	—	

第28表 177号住居跡出土土器一覧(2)

辨認番号	型式	基盤	部位	口縁部・胸部・肩部・底部地文	口縁部・胸部・肩部・底部特徴	胸部・底部・脚部地文	胸部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第86図1	阿玉台皿	深鉢	口縁部	—	口縁部に押引文、三角押引文が焦される。	—	—	明褐色～黄褐色	に赤い黄褐色	
第86図2	勝坂1	深鉢	口縁部	—	隠帶によって三角形の区画を作り柳條押引文が焦される。区画には三重押引文。段状化が強められる。	—	—	褐色	—	
第86図3	勝坂1～2	深鉢	胴部	—	—	—	隠帶によって区画を作り、隠帶の両端に柳條押引文が焦される。	黒褐色	—	
第86図4	勝坂2	深鉢	胴部	—	—	—	隠帶によって区画を作る。隠帶上、さらに隠帶にそって連続した区文が充填される。	に赤い赤褐色	—	
第86図5	勝坂2～3	深鉢	口縁部	—	口縁部直下に幅広押引文が焦される。半円状の隠帶が新付され、隠帶に沿って幅広押引文が焦る。	—	—	褐色	—	
第86図6	勝坂3	深鉢	胴部	—	—	—	深く引かれた平行化線に交叉する点、隠帶の外側、口縁部の粘土を貼付し縁に剥がれられる。	黒褐色	—	
第86図7	勝利II	深鉢	口縁部	—	口縁部と底部の境目付近を僅かに落上げ、その上に羽みが焦られる。	—	—	明黃褐色	—	
第87図8	加賀利I	深鉢	口縁部～底部	—	—	単節斜綱文LR	LRの単節斜綱文を地文とする。	褐色	—	
第88図9	加賀利E1	深鉢	口縁部～頸部	墨糞文し	口縁部は斜帶部分と半円形に膨らむ部分が対になろうか。隠帶によって区画が作られる。区画の縁に柳條の突起や隠帶を新付する区文もたらされる。強調は無文帯にたどる。	—	—	明褐色	—	
第88図10	加賀利E1	深鉢	口縁部	墨糞文し	無文帯の下部に隠帶によつて区画を作り、「の」字状の2本の隠帶が貼付されようか。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第88図11	加賀利E1	深鉢	口縁部	—	隠帶によって区画を作られる。区画の中間に隠帶で透巻紋の文様が焦られるが、外側の隠帶は強調されて「ノ」字形を見する。	—	—	柳條褐色	—	
第88図12	加賀利E1	深鉢	口縁部	墨糞文し	隠帶によって区画を作られる。区画の端に隠帶で透巻文を貼付し、透巻文から2つの隠帶が垂下する。	—	—	灰黄褐色	—	

第29表 178号住居跡出土土器一覧(1)

辨認番号	型式	形種	部位	口縁部・腹部・脚部 ・底部地文	口縁部・腹部・肩部・突起・ 把手等微	脚部・底部・ 脚部地文	脚部・底部・ 脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 88 回 13	加賀利 E1	深鉢	口縁部	—	—	—	邊帶を斜めに引ける際、邊帶 を斜めに引く際、邊帶を斜めに引 いている。	に赤い黄褐色	—	
第 88 回 14	加賀利 E1	深鉢	把手	—	後縁で 4 つ目円帯の穴で、 開いた把手が付けられてい る。内部と外側には辺縁に より須文が描かれる。	—	—	明黄褐色	—	
第 88 回 15	加賀利 E1	深鉢	脚部	—	—	標準文 L	2 本の邊帶が弧状に貼付 され、そこから 1 本の邊帶 が垂下する。	明黄褐色	—	
第 88 回 16	加賀利 E1	深鉢	脚部	—	—	標準文 L	平行な 2 本の邊帶と 2 本 の脚帶による須文が貼 付される。	橙色	—	
第 88 回 17	加賀利 E1	深鉢	脚部	—	—	標準文 L	平行な 2 本の邊帶と蛇行 する 1 本の邊帶が垂下さ れる。	に赤い黄褐色	—	
第 89 回 18	加賀利 E1 ～Z	深鉢	口縁部	標準文 R	邊帶によって半円形の区画 を作り、区画内には標準文が 充填される。	—	—	赤褐色	—	
第 89 回 19	加賀利 E1 ～Z	深鉢	口縁部	標準文 L	邊帶によって半円形の区画 を作られようか。邊帶の頂 点で須文が描かれる。	—	—	暗褐色	—	
第 89 回 20	加賀利 E2	深鉢	口縁部	標準文 L	口縁部直下に邊帶によって 区画が作られる。	—	—	黒褐色	—	
第 89 回 21	加賀利 E1	深鉢	口縁部～脚部	標準文 R	邊帶によって区画を作り、 区画内には須文が描かれ る。邊帶が須文状、もしく は「△」字状に貼付される。	—	—	HOR3/3	—	
第 89 回 22	加賀利 E2	深鉢	口縁部	直前直後反覆 LRL	2 本の邊帶が貼付され、中 央に円柱状突起を施した文 様が施される。円柱の文様 から 2 本の邊帶がびよ うか。	—	—	明褐色～黒褐色	—	
第 89 回 23	加賀利 E2	深鉢	脚部	—	—	標準文 L	横位の邊帶を斜めに、そ こから 1 本の邊帶が垂下 させる。	黒褐色	—	
第 89 回 24	加賀利 E2	深鉢	脚部～ 底部	—	—	単節斜綱文 LRL	1 本の邊帶、1 本の蛇行す る邊帶、2 本の邊帶がそ れぞれ施される。	明赤褐色	—	
第 89 回 25	加賀利 E2	深鉢	脚部	—	—	標準文 L	2 本の邊帶が横位に並り、 そこから 2 本の平行な邊 帶と 1 本の蛇行する邊帶 が垂下する。	褐色	黒褐色	
第 89 回 26	加賀利 E2	深鉢	脚部～ 底部	—	—	標準文 L	2 本の蛇行する邊帶と蛇行 する邊帶が交互に重下し、 その間に 1 本の邊帶が垂 下する。	明赤褐色	黒色	
第 89 回 27	加賀利 E2	深鉢	脚部～ 底部	—	—	標準文 L	2 本の直線的な邊帶と蛇行 する邊帶が交互に重下し、 これらの組み合せが 4 単位確認できる。	明黄褐色	—	

第30表 178号住居跡出土土器一覧(2)

辨認番号	型式	形種	部位	口縁部・腹部・脚部 ・底部地文	口縁部・腹部・肩部・突起・ 把手等微	脚部・底部・ 脚部地文	脚部・底部・ 脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 97 回 1	黒皿	深鉢	脚部	—	—	無節斜綱文 L	内側に化粧土が施される。	に赤い黄褐色	—	
第 97 回 2	勝坂 3	深鉢	口縁部	單節斜綱文 RL	—	—	—	黒褐色	褐色	
第 97 回 3	勝坂 3	深鉢	口縁部	—	口縁部から脚部上に須文が 施される。(区画内には須文 と斜めに引く須文と) 作 例は三角形文が描かれる。	—	—	—	褐色	
第 97 回 4	勝坂 3	深鉢	脚部	—	—	—	—	に赤い黄褐色	—	
第 97 回 5	曾利Ⅲ	深鉢	脚部	—	—	—	—	明褐色～暗褐色	—	
第 97 回 6	曾利Ⅲ～ IV	深鉢	脚部	—	—	—	—	褐色	—	
第 97 回 7	加賀利 I	深鉢	口縁部	標準文 L	標準状の把手が貼付される。 邊帶により須文書、あるいは は区画が作られようか。	—	—	黒褐色	—	
第 97 回 8	加賀利 E1	深鉢	口縁部	標準文 L	—	—	—	褐色	—	

第31表 179号住居跡出土土器一覧(1)

辨認番号	型式	形態	部位	口縁部・胸部・底部 周囲地文	口縁部・胸部・底部・突起・ 把手特徴	胸部・底部・ 脚部地文	脚部・底部・ 脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 97 図 9	加賀利 E1	深鉢	把手	—	山状の把手で、中央に直径 3.3 cm の孔が開く。頂上部から把手が伸び、底盤で周囲文が繋がれる。	—	—	黒褐色	—	
第 97 図 10	加賀利 E1	深鉢	胸部	—	—	墨条文 R	横位の陣形の下部に、長方形形式の周文が竪方向に作られる。	赤褐色～黒褐色	—	
第 97 図 11	加賀利 E1	深鉢	胸部	—	—	墨条文 R	長方形形式の周文が竪方向に作られる。	赤褐色～黒褐色	—	
第 98 図 12	加賀利 E1	深鉢	胸部	—	—	墨条文 L	横位の陣形を斜めに、そこから陣形を垂下させる。	暗褐色	—	
第 98 図 13	加賀利 E1	深鉢	胸部	—	—	墨条文 L	横位の陣形の下部に陣形で周囲文が貼付される。	黒褐色	明褐色	
第 98 図 14	加賀利 E1 ～2	深鉢	底部	—	—	墨条文 L	前行する陣形と並列的な陣形が底部近くで垂下される。	褐色	黒褐色	
第 98 図 15	加賀利 E2	深鉢	底部	—	—	墨条文 R	2 本一对の陣形を垂下させる。	に赤い黄褐色	黒褐色	
第 98 図 16	加賀利 E1 ～2	深鉢	口縁部	單脚斜綱文 LR	口縁部直下に僅かな無文部分があり、その下部に横位の陣形が貼付される。	—	—	黒褐色	—	
第 98 図 17	加賀利 E1	深鉢	胸部	—	—	単脚斜綱文 L/R	2 本 1 列の弧状の陣形と並列的に陣形が貼付され、並列する陣形が垂下する。	に赤い黄褐色	明褐色	
第 98 図 18	加賀利 E1	深鉢	胸部	—	—	単脚斜綱文 L/R	弧状に貼付けられた陣形と 2 本の陣形が垂下させる。	褐色	—	
第 98 図 19	加賀利 E1 ～2	深鉢	胸部	—	—	単脚斜綱文 L/R	2 本の陣形を横位に貼付し、そこから陣形を垂下させる。	黒褐色	—	
第 98 図 20	加賀利 E1 ～2	深鉢	頂部	—	—	—	—	灰黃褐色	—	
第 98 図 21	加賀利 E2	深鉢	口縁部	—	横位の陣形が貼付され、その下部に陣形で周囲文が垂下される。	—	—	灰黃褐色	—	
第 98 図 22	加賀利 E2	深鉢	口縁部	—	陣形によって区画を作り、区画内には平行沈継で周囲文が充填される。	—	—	暗褐色	—	
第 98 図 23	加賀利 E2	深鉢	胸部	—	陣形によって区画を作り、平行沈継が充填される。陣形の頂点で周囲文が作られる。	—	—	暗褐色	—	
第 98 図 24	加賀利 E か	深鉢	口縁部	—	大きく聞く無文の口縁部である。	—	—	暗褐色	—	

第32表 179号住居跡出土土器一覧(2)

辨認番号	型式	形態	部位	口縁部・胸部・底部 周囲地文	口縁部・胸部・底部・突起・ 把手特徴	胸部・底部・ 脚部地文	脚部・底部・ 脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 104 図 1	阿玉台 I	深鉢	胸部	—	—	—	ヒダ状痕が施される。	明褐色	—	
第 104 図 2	阿玉台 II	深鉢	口縁部	—	口縁部下部に連続爪彫文が施される。	—	—	黒褐色	—	
第 104 図 3	阿玉台 II	深鉢	口縁部	—	口縁部下部に點狀の凹文が施され、その下に陣形で周囲文が作られる。そううか、区画内には幅広内件文がある。	—	—	褪灰色	—	
第 104 図 4	阿玉台 II	深鉢	胸部	—	—	—	1 列の連続した斜みが施される。	に赤い黄褐色	—	
第 104 図 5	阿玉台 II	深鉢	胸部	—	—	—	1 本の陣形が貼付される。	に赤い褐色	—	
第 104 図 6	阿玉台 II	深鉢	胸部	—	—	—	1 列の連続した斜みが施される。	褐色	—	
第 104 図 7	阿玉台 II	深鉢	胸部	—	—	—	陣形によって三角帯と思われる区画が作られる。	に赤い黄褐色	—	
第 104 図 8	阿玉台 I ～II か	深鉢	底部	—	—	—	—	灰褐色	—	
第 104 図 9	阿玉台 II	深鉢	突起	—	—	—	陣形が「C」字状に貼付される。	に赤い黄褐色	—	
第 104 図 10	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部に陣形を貼付し、下部には 2 列の三角押紋が施される。「C」字状の突起が作られる。	—	—	黒褐色	—	
第 104 図 11	阿玉台Ⅱ	深鉢	胸部	—	—	—	陣形を貼付し、両脇に押紋が 2 列が施される。	に赤い黄褐色	—	
第 104 図 12	阿玉台Ⅱ	深鉢	胸部	—	—	—	陣形を貼付し、片側に幅広角引文が施される。陣形と角引文で区画が作られる。	に赤い黄褐色	—	
第 104 図 13	阿玉台Ⅱ	深鉢	胸部	—	—	—	陣形を貼付し、両脇に角引文が施される。	褐色	—	

第33表 180号住居跡出土土器一覧(1)

辨認番号	型式	器種	部位	口縁部・腹部・脚部・脚部地文	口縁部・脚部・肩部・突起・把手特徴	脚部・底部・脚部地文	脚部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考	
第 104 図 14 阿玉台皿 ～N		深鉢	口縁部	—	口縁部内に 2 列の角押文、口縁部底面下に 1 列の角押文が施される。	—	—	褐色	—		
第 104 図 15 阿玉台皿 ～N		深鉢	脚部	—	—	—	—	に赤い黄褐色	—		
第 104 図 16 勝坂 1		深鉢	脚部	—	口縁部付近の突起の両端に 2 列の連續爪形文を施し、口縁部底面下にも 2 列の連續爪形文が施される。	—	—	赤褐色	—		
第 104 図 17 勝坂 1		深鉢	脚部	—	—	—	1 本の隆帯を低付し、両側に連續爪形文が施される。	赤褐色	—		
第 104 図 18 勝坂 1		深鉢	脚部	—	—	—	隆帯の一端が接着するようにな付し、隆帯の外側に連續爪形文が施される。	暗褐色	—		
第 104 図 19 勝坂 2		浅鉢	口縁部	—	「く」字状に口縁部が外側に開曲する。	—	—	明赤褐色	—		
第 104 図 20 勝坂 2		深鉢	口縁部～脚部	—	鉛灰土器でどうか、隆帯によって中央部の火照を作り、隆帯に沿って 1 列ないし 2 列の角押文が施される。脚部を 4 等分した内の 3 カ所に突起が貼付される。また脚部の端には 1 本の隆帯を低付し、隆帯の上端に 2 列、下端に 1 列の三角押文が施される。	—	—	暗褐色状の隆帯、直線的な隆帯が貼付され、隆帯に沿って 1 列ないし 2 列の三角押文が施される。圓唇状の隆帯の先端には「U」字状もしくは「V」字状の粘土帯が貼付される。	赤褐色	—	
第 105 図 21 勝坂 2		深鉢	脚部	—	—	—	隆帯によって区画を作り、両側に幅広角押文が施される。区画内に「角押文」が盛る。	灰黃褐色	—		
第 105 図 22 勝坂 2		深鉢	脚部	—	—	—	平行比輪により区画され、連續爪形文が施される。	赤褐色	—		
第 105 図 23 勝坂 2		深鉢	脚部	—	—	—	角押文が弧状に施される。	赤褐色	—		
第 105 図 24 勝坂 2～3		深鉢	口縁部	—	両面に火照がつけられる。内側は蛇形の隆帯が貼付され、隆帯に沿って帶状三角押文が施される。外側は口縁部に沿って貼付された隆帯により区画が作られ、内側に三角押文が加えられる。	—	—	黒褐色	—		
第 105 図 25 勝坂 2～3		深鉢	脚部	—	—	—	隆帯により三角形の区画が作られ、隆帯の外側に連續爪形文が施される。	褐色	—		
第 105 図 26 勝坂 2～3		深鉢	脚部	—	—	—	3 条の平行比輪が引かれ、隆帯状になった部分に連續爪形文が施される。	褐色	—		

第 34 表 180 号住居跡出土土器一覧（2）

辨認番号	型式	器種	部位	口縁部・腹部・脚部・脚部地文	口縁部・脚部・肩部・突起・把手特徴	脚部・底部・脚部地文	脚部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第 111 図 1 阿玉台 II		深鉢	口縁部	—	口縁部から外側に貼付される隆帯に沿って幅広角押文が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第 111 図 2 阿玉台 II		深鉢	脚部	—	—	—	二叉文柱に幅帯を貼付し、幅帯の間に幅広角押文が施される。	褐色	—	
第 111 図 3 阿玉台 II ～皿		深鉢	口縁部	—	2 列の連續する斜突文で構成される区画が作られる。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第 111 図 4 阿玉台 II ～皿		深鉢	脚部	—	—	—	隆帯を二叉文柱に貼付し、外側、または 2 列の連續斜突文が施される。	に赤い黄褐色	—	
第 111 図 5 阿玉台 II ～皿		深鉢	脚部	—	—	—	隆帯により横円形の区画が作られる。	灰黃褐色	—	
第 111 図 6 阿玉台 II		深鉢	脚部	—	—	—	連續爪形文を 2 列施される。	灰黃褐色	—	
第 111 図 7 勝坂 1～2		深鉢	口縁部	—	隆帯を横円形に貼付し区画が作られる。区画内に貼付される。	—	—	に赤い褐色	—	
第 111 図 8 勝坂 2		深鉢	口縁部	—	隆帯により横円形の区画を作り、連續爪形文、平行比輪が施される。外側に貼付される。	—	—	褐色	—	
第 111 図 9 勝坂 2		深鉢	口縁部	—	輪広角押文と波状紋様によつて区画が作られよう。	—	—	褐色	—	
第 111 図 10 勝坂 2		深鉢	脚部	—	—	—	隆帯にそつて輪広角押文が施される。脚部には波状 2 条と波状の波状 2 本が交互に引かれ。	褐色	—	

第 35 表 181 号住居跡出土土器一覧（1）

辨認番号	型式	基盤	部位	口縁部・頸部・肩部・脚部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胸部・底部・脚部地文	胸部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第111図11	勝坂2	深鉢	胴部	—	—	—	—	褐色によって三角形と思われる区画を作り、隣体に沿って輪郭が施される。	に赤い黄褐色	—
第111図12	勝坂2	深鉢	口縁部	—	口縁部地面上に沿って隣体が平行され区画が作られる。隣体上には連續爪彫文が施されている。	—	—	に赤い黄褐色	—	—
第112図13	勝坂2	深鉢	口縁部	—	口縁部は内側に無文部分の下部には隣槽が貼付される。	—	—	に赤い褐色	—	—
第112図14	勝坂2	深鉢	胴部	—	—	—	褐色によって区画を作り、平行比較が充填される。	に赤い黄褐色	—	—
第112図15	勝坂2～3	深鉢	胴部	—	—	—	褐色によって三角形、あるいは四角形の区画を作り、平行比較が充填される。隣槽の頂点部分に削みが施される。	に赤い黄褐色	—	—
第112図16	勝坂か	深鉢	底部	—	—	—	—	明赤褐色	—	—

第36表 181号住居跡出土土器一覧（2）

辨認番号	型式	基盤	部位	口縁部・頸部・肩部・脚部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胸部・底部・脚部地文	胸部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第116図1	曾利II	深鉢	胴部	—	—	—	—	褐色	に赤い黄褐色	—
第116図2	加曾利E2	深鉢	口縁部	單節斜彫文RL	褐色によって区画を作り、区画内は彫文が充填される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—
第116図3	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜彫文か	褐色によって区画を作り、区画内は彫文が充填される。	に赤い褐色	—	—
第116図4	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜彫文	平行比較を垂下させる。	褐色	に赤い黄褐色	—
第116図5	～3	深鉢	胴部	—	—	単節条縞	2本の平行な比較を垂下する。	褐色	—	—
第116図6	連弧文2	深鉢	口縁部	單節斜彫文RL	口縁部を折り返した部分に比較を施す。	—	—	黒褐色	—	—
第116図7	連弧文2	深鉢	口縁部	標準文	口縁部上面に2条～3条の比較を施させ、沈縛の間に交差して焼成が施される。	—	—	灰褐色	—	—

第37表 182号住居跡出土土器一覧

辨認番号	遺構名	型式	基盤	部位	口縁部・頸部・肩部・脚部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胸部・底部・脚部地文	胸部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第118図1	6500	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	腹斜彫文LRL	1条の直線を横に延び、2条から2条の対角線を垂下させる。	に赤い褐色	—	—
第118図2	6500	加曾利E2	～3	深鉢	胴部	—	腹斜彫文RLR	2条の対角線を垂下させ、一部間の彫文を割り切る。	褐色	—	—
第118図3	6500	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	無肥斜彫文L	2条の直線を垂下させ、沈縛の際の彫文を割り切る。	褐色	に赤い黄褐色	—
第118図4	6500	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜彫文LRL	直線を垂下させ、彫文を割り切る。	に赤い褐色	—	—
第118図5	6500	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜彫文LR	2条の直線を垂下させ、沈縛の際の彫文を削消す。	灰褐色	—	—
第118図6	6500	加曾利E3	深鉢	底部	—	—	単節条縞	直線を垂下させ、彫文を削消す。	褐色	—	—
第120図1	6510	加曾利E	深鉢	胴部	—	—	標準条縞	範行する隣槽を垂下させる。	に赤い褐色	—	—
第122図1	6520	曾利Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	標準条縞	1本の直線の隣槽が横位に延びる。	褐色	—	—
第122図2	6520	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	標準条縞	2本～3条の隣槽を垂下させる。	褐色	褐色	—
第122図3	6520	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	標準条縞	隣縛を垂下させ、間を開けて焼成が施される。	に赤い黄褐色	—	—
第122図4	6520	連弧文2	深鉢	口縁部	標準条縞	口縁部附近に2条～3条の比較を施させ、その下部に比較で連弧文が施かれる。	—	—	黒褐色	—	—
第122図5	6520	連弧文2	深鉢	胴部	—	—	標準条縞	2条～3条の比較で連弧文が施かれる。	褐色	—	—

第38表 土坑・ピット出土土器一覧（1）

辨認番号	遺構名	型式	器種	部位	口縁部・底部・肩部 周辺部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・ 把手特徴	柄部・底部・ 周辺部地文	柄部・底面・脚部特徴	外表面色	内表面色	備考
第124図1	654D	阿玉台Ⅱ ～Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	—	隆縁を有し、隆縁の 両脇に幅広角押支が加 えられる。	に赤い褐色	—	—
第126図1	655D	加賀利E か	深鉢	口縁部	底面文L	ミニチュアの口縁部であろうか。口縁部上面に狭い横文帶 を設ける。	—	—	に赤い褐色	—	—
第128図1	656D	加賀利E か	深鉢	口縁部 ～底面	櫛条縹	ミニチュアであろうか。	櫛条縹	—	に赤い褐色	—	—
第130図1	657D	加賀利E か	深鉢	胴部	—	—	底面文L	—	褐色	—	—
第130図2	657D	透弧文2	深鉢	胴部	—	—	櫛条縹	—	に赤い黄褐色	—	—
第130図3	657D	透弧文3	深鉢	胴部	—	—	櫛条縹	くびれから沈縫が通 る。側面に2条一对の の沈縫に透弧文が描く が、一部透弧文の底頂 部が長く伸び半円形の 文様を描く。	褐色	—	—
第132図1	659D	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部上部に角押支を施し、 下部に透弧文の底頂部を有する。 また、口縁部の内側にも1 列の角押支が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—
第132図2	659D	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	押引文横位に施され る。	黒褐色	に赤い赤褐色	—	—
第132図3	659D	加賀利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縹文R	2条一对の沈縫を垂下 させ、その間の縄文を磨り消す。	に赤い黄褐色	—	—
第134図1	660D	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	—	三叉文状の文様になら うか。	灰黒褐色	—	—
第134図2	660D	佛版3	深鉢	口縁部	—	上面を平らに成形し、内側に 三角形に張り出す。また、外 側に先端を折り返し這樣に成 形される。	—	—	に赤い赤褐色	—	—
第134図3	660D	加賀利E2	深鉢	突起	—	四角形を呈し、上面は平らで 内側に成形される。上面に透 弧文が施される。	—	—	灰黒褐色	—	—
第134図4	660D	加賀利E か	浅鉢	口縁部	—	赤褐色を施される。	—	—	灰黒褐色	—	—
第137図1	665D	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部上部に2列の角押支 を施す。	—	—	に赤い黄褐色	—	—
第137図2	665D	佛版3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縹文LR	隆縁を有し横位に這ら せる。底面の上から縄 文が施される。	褐色	に赤い赤褐色	—
第137図3	665D	加賀利E1 ～2	浅鉢	肩部	—	縦位の沈縫が引かれる。	—	—	に赤い黄褐色	灰黒褐色	—
第137図4	665D	加賀利E1 ～2	深鉢	胴部	—	—	底面文L	縦縫を横位に延ば せる。	灰黒褐色	—	—
第137図5	665D	加賀利E2	深鉢	胴部	—	—	底面文L	2本一对の縦縫を弧形 に動かし、そこから縦 縫を垂下させる。	褐色	—	—
第137図6	665D	加賀利E2	深鉢	胴部	—	—	沈縫か	2本一对の縦縫を垂下 させる。	褐色	—	—
第139図1	667D	加賀利E か	深鉢	胴部	—	—	—	—	黑色	灰黒褐色	—
第139図2	667D	加賀利E か	深鉢	胴部	—	—	底面文L	—	灰黒褐色	—	—
第141図1	668D	佛版3	深鉢	胴部	—	上面を平らに成形する。	—	—	に赤い黄褐色	—	—
第141図2	668D	佛版3	深鉢	胴部	—	上面を平らに成形し、先端を 内側へ折り返す。	—	—	灰黒褐色	—	—
第141図3	668D	佛版3	有孔 跨付	胴部	—	—	—	縫部分の下部に2条一对の の沈縫を施す。沈縫の間に「U」字状の 沈縫と「V」字状の沈 縫が並ぶ。また、内側の 孔が開いた裝飾がどれ たと思われる跡が残る。	褐色	—	—
第141図4	668D	佛版3	有孔 跨付	胴部	—	—	—	2条一对の沈縫によっ て幅5mm程度の平行 する文様を描く。	灰黒褐色	—	—
第141図5	668D	普利II	深鉢	胴部	—	—	単節斜縹文LR	隆縫を横位に動かし、 隆縫上に交互刻痕を加 える。沈縫ごとに角状 の縫合部が見える。沈 縫の下部は横縫を磨り 消している。	灰黒褐色	—	—
第141図6	668D	加賀利E2	深鉢	胴部	—	口縁部に沿ってやや凹みがみ られる。	—	—	暗褐色	—	—
第141図7	668D	透弧文2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縹文LR	横位の沈縫が巡る。	灰黒褐色	—	—
第135図1	669D	加賀利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縹文RD	沈縫を垂下させ、縫の 縄文を磨り消す。	黒褐色	—	—
第143図1	670D	加賀利E か	深鉢	胴部	—	—	単節斜縹文か	—	黒褐色	—	—

第39表 土坑・ピット出土土器一覧（2）

辨認番号	遺構名	型式	器種	部位	口縁部・底面・肩部・側面文	口縁部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底面・側面文	胴部・底面・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考	
第144回1	671D	加曾利E か	不明	不明	—	—	単節斜縫文	—	灰褐色	—		
第146回1	672D	曾利II	深鉢	口縁部	無文の大きく開く口縁部である。	—	—	—	に赤い黄褐色	黒色		
第146回2	672D	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	圓系文が	2 条一対の隆帯を横位に造らし、そのから縫隙が付ける。	褐色	—		
第146回3	672D	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	圓系文L	2 条一対の化粧文を垂下させる。	褐色	—		
第148回1	673D	阿玉台Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を付し、その上に隆帯によって楕円形の区画が作られる。区画内は各位の底面が充填される。	暗褐色	—		
第150回1	674D	透弧文2	深鉢	胴部	—	—	—	2 条一対の沈線が模位に巡る。	に赤い黄褐色	—		
第154回1	675D	加曾利E2 —3	深鉢	口縁部～胴部	隆帯によって透弧文が施される。	—	単節斜縫文	—	灰黃褐色	—		
第156回1	676D	曾板か 有孔 鉢付	口縁部	—	口縁部の下部に 0.6 cm 程度の孔が開けられる。	—	—	—	に赤い黄褐色	—		
第156回2	676D	加曾利E2 —3	深鉢	胴部	—	—	櫛縫条縫	櫛縫行する隆帯を垂下させる。	に赤い黄褐色	—		
第156回3	676D	透弧文2	深鉢	胴部	—	—	圓系文L	2 条の化粧文を横位に巡らせ、その上位に透弧で連続が描れる。	灰褐色	—		
第156回4	676D	透弧文2	深鉢	胴部	—	—	圓系文L	3 条一対の化粧文で弧状の文様を描き、そこから化粧文を垂下させる。	明赤褐色	に赤い黄褐色		
第156回5	676D	透弧文2	深鉢	胴部	—	—	圓系文L	3 条一対の化粧文で透弧文が描かれる。	黑褐色	—		
第158回1	678D	加曾利E3 —4	深鉢	口縁部	単節斜縫文 RL	口縁部に無文部を設けるが、上部に 1 条の透弧が巡る。	—	—	に赤い黄褐色	—		
第158回2	678D	加曾利E3 —4	深鉢	胴部	—	—	櫛縫条縫	櫛縫条縫で櫛縫行する文様を描く。	に赤い黄褐色	—		
第160回1	680D	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	爪形文状の卯みを横位に施す。	黒褐色	—		
第160回2	680D	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	無節斜縫文 L	沈線を横位に引き、間の繩文を垂下させる。	に赤い黄褐色	—		
第161回1	681D	曾利2	深鉢	胴部	—	—	—	平行化粧によって透弧を作り、区画内に三角形状の文様を施す。	褐色	—		
第161回2	681D	加曾利E2 —3	深鉢	胴部	—	—	—	沈線によって筒状文を作り出す。	灰褐色	—		
第161回3	681D	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縫文	沈線によって区画を作り、また、沈線を垂下させる。	に赤い黄褐色	—		
第163回1	682D	阿玉台II	深鉢	口縁部	—	口縁部上部に卯みが施される。	—	—	灰黃褐色	—		
第163回2	682D	曾板1～ 2	深鉢	胴部	—	—	—	三角印文を横位に施す。	黑褐色	—		
第163回3	682D	曾板2	深鉢	胴部	—	中心に孔の開いた円形の粘土を貼付する。	—	—	黑褐色	—		
第163回4	682D	曾板2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を縱位に貼付し、隆帯上に卯みが施される。その位に縫隙を引く。即ち、卯みの化粧文を施す。また、その位に縫隙を引く。	灰褐色	黑褐色		
第163回5	682D	曾板3	深鉢	胴部	—	—	—	沈線を張り、その下部に沈線を交互に施す。	灰黃褐色	—		
第163回6	682D	曾利II	深鉢	口縁部	—	口縁部上部に交互刺突を施す。	—	—	黑褐色	—		
第163回7	682D	曾利II	深鉢	口縁部	—	口縁部は三角形に成形され、口縁部は無文である。	—	—	明赤褐色	—		
第163回8	682D	加曾利E か	深鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	に赤い黄褐色	黒褐色		
第165回1	684D	曾板2	深鉢	胴部	—	隆帯によって区画を作り、隆帯に沿って幅角押文が施される。その内側にも卯み文が加入られる。	—	—	に赤い黄褐色	—		
第165回2	684D	曾利II	深鉢	口縁部	—	—	—	—	に赤い黄褐色	—		
第165回3	684D	曾利II	深鉢	口縁部	—	—	—	—	左上方に斜位に化粧文を施す。また上方から右側の隆帯が貼付される。さらにその右上方から斜位に隆帯が貼付される。	黑色	—	
第165回4	684D	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縫文 LR	2 条一対の隆帯を垂下させる。	に赤い黄褐色	黒褐色		
第165回5	684D	加曾利E2	深鉢	把手	—	三叉文状でそれぞれの中央に沈線が切られる。	—	—	灰黃褐色	—		
第167回1	686D	加曾利E か	深鉢	胴部	—	—	単節斜縫文 LR	—	に赤い黄褐色	黒色		

第40表 土坑・ピット出土土器一覧（3）

博物番号	遺構名	型式	器種	部位	口縁部・底面・周辺地文	口縫部・頸部・肩部・突起・把手特徴	胴部・底面・周辺地文	脚部・底面・脚部特徴	外表面調	内表面調	備考
第 169 図 1	687D	加賀利 E2	深鉢	胴部	—	—	燃糸文 L	隆帶を横位に貼付し、区画を作る。	に赤い黄褐色	—	
第 173 図 1	691D	勝坂か	深鉢	胴部	—	—	—	—	に赤い黄褐色	—	
第 151 図 1	693D	勝坂 3	深鉢	胴部	—	—	—	—	黒褐色	—	
第 151 図 2	693D	曾利 II	深鉢	胴部	—	—	—	—	灰黄褐色	—	
第 152 図 3	693D	加賀利 E2	深鉢	胴部	—	—	燃糸文 L	隆帶を横位に貼付し、区画を作る。	に赤い黄褐色	—	
第 152 図 4	693D	加賀利 Eか	深鉢	突起	—	直径 2.6cm、高さ 3.7cm を持つ円筒形に改変される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第 152 図 5	693D	加賀利 Eか	深鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	に赤い褐色	—	
第 177 図 1	43P	勝坂 3	深鉢	胴部	—	—	—	横位の隆帶を貼付し、隆帶に直って押立文が施される。	に赤い黄褐色	—	
第 179 図 1	55P	加賀利 E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縞文か	隆帶を横位に貼付し、区画を作る。	地灰色	—	
第 181 図 1	56P・57P	阿玉台Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	横位の隆帶が貼付される。	褐色	黒褐色	—	
第 181 図 2	56P・57P	勝坂 2	深鉢	胴部	—	—	—	に赤い褐色	—	—	
第 183 図 1	69P	勝坂 2	深鉢	胴部	—	隆帶を三叉文状に貼付し、隆帶に沿って 1 列の三角押文と、脚の角押文が施される。	—	—	に赤い黄褐色	—	
第 185 図 1	71P	阿玉台 II	深鉢	口縫部	—	山崩に形成される。	—	—	黒色	—	
第 185 図 2	71P	勝坂 2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帶によって区画を作り、隆帶の外縁に沿って角引文が施される。	に赤い褐色	黒褐色	
第 189 図 1	89P	阿玉台	浅鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	に赤い褐色	—	
第 191 図 1	98P	加賀利 E2～3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縞文	単行の隆帶を貼付する。	に赤い褐色	—	
第 195 図 1	102P	曾利か	深鉢	胴部	—	—	—	沈縛で「X」字状の文様が施される。また、窓位の隆帶も施される。	に赤い褐色	—	
第 197 図 1	104P	加賀利 E2	深鉢	胴部	—	—	脚部条縞	2 基一对の沈縛を垂下させる。	に赤い褐色	黒褐色	
第 198 図 1	105P	加賀利 E3	深鉢	口縫部	—	無文帶を設け、口縫部下部に横位の沈縛が施される。	—	—	褐色	—	
第 202 図 1	109P	勝坂 2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帶を貼付し、隆帶に沿って角押文が施される。	褐色	—	

第 41 表 土坑・ピット出土土器一覧（4）

博物番号	遺構名	器種	形状	長さ	幅	厚さ	外表面調	内表面調	備考
第 12 図 11	90	土製円盤	円形	4.2cm	4.1cm	24.2g	に赤い黄褐色	黒褐色	
第 55 図 452	174J	土器片縛	偶丸長方形	9.1cm	6.6cm	93.5g	に赤い黄褐色	褐灰色	
第 55 図 453	174J	土器片縛	偶丸長方形	8.1cm	5.8cm	77.1g	に赤い黄褐色	—	
第 55 図 454	174J	土器片縛	椭円形	5.3cm	4.0cm	23.0g	黒褐色	—	
第 55 図 455	174J	土器片縛	椭円形	4.5cm	3.3cm	17.7g	に赤い黄褐色	—	
第 55 図 456	174J	土器片縛	四角形	4.9cm	4.0cm	20.1g	に赤い黄褐色	黒褐色	
第 55 図 457	174J	土器片縛	椭円形	4.4cm	3.4cm	16.3g	に赤い黄褐色	—	
第 55 国 458	174J	土器片縛	不整円形	3.6cm	3.3cm	15.6g	に赤い褐色	褐灰色	
第 55 国 459	174J	土器片縛	不整円形	4.2cm	3.5cm	19.5g	に赤い黄褐色	—	
第 55 国 460	174J	土器片縛	椭円形か	(3.0)cm	3.4cm	15.4g	灰黄褐色	—	
第 55 国 461	174J	土器片縛	不整円形	3.1cm	3.0cm	12.6g	に赤い黄褐色	—	
第 55 国 462	174J	土器片縛	不整円形	3.9cm	3.1cm	20.8g	に赤い黄褐色	—	
第 55 国 463	174J	土器片縛	四角形	3.7cm	3.7cm	13.4g	に赤い黄褐色	—	
第 55 国 464	174J	土器片縛	椭円形	3.7cm	3.1cm	11.4g	に赤い黄褐色	—	
第 55 国 465	174J	土器片縛	椭円形	3.9cm	3.1cm	14.8g	灰黄褐色	—	
第 55 国 466	174J	土製円盤	四角形	5.3cm	5.1cm	42.1g	黒褐色	—	
第 55 国 467	174J	土製円盤	四角形	4.7cm	4.2cm	29.2g	に赤い黄褐色	灰黄褐色	
第 55 国 468	174J	土製円盤	—	4.7cm	(2.4)cm	14.8g	灰黄褐色	—	
第 55 国 469	174J	土製円盤	不整円形	3.7cm	3.2cm	14.0g	に赤い黄褐色	—	
第 55 国 470	174J	土製円盤	不整円形	3.6cm	3.5cm	19.8g	に赤い黄褐色	黒褐色	
第 55 国 471	174J	土製円盤	不整円形	3.7cm	3.6cm	17.9g	に赤い黄褐色	—	
第 55 国 472	174J	土製円盤	不整円形	3.6cm	3.4cm	11.6g	褐灰色	—	
第 55 国 473	174J	土製円盤	不整円形	3.1cm	3.1cm	11.4g	褐色	黒褐色	

第 42 表 出土土製品一覧（1）

辨認番号	遺構名	断面	形状	長さ	幅	高さ	外面部色調	内面部色調	備考
第 55 図 474	土製円筒	不整円筒	円筒	3.0 cm	2.5 cm	13.6 g	にぶい・褐色	—	—
第 55 図 475	174)	土製円筒	円筒	3.0 cm	2.6 cm	9.9 g	にぶい・黄褐色	灰黄色	—
第 55 図 476	174)	土製円筒	不整円筒	6.5 cm	5.0 cm	33.4 g	にぶい・褐色	にぶい・黄褐色	—
第 55 図 477	174)	土製円筒	不整円筒	5.3 cm	4.0 cm	23.0 g	灰褐色	—	—
第 55 図 478	174)	土製円筒	—	5.8 cm	3.51 cm	20.9 g	にぶい・黄褐色	—	—
第 55 図 479	174)	土製円筒	横円形	(3.6) cm	3.8 cm	20.5 g	褐色	灰黃褐色	—
第 55 図 480	174)	土製円筒	不整円筒	3.8 cm	3.4 cm	19.3 g	浅黄色	—	—
第 55 図 481	174)	土製円筒	横円形	5.3 cm	3.01 cm	21.7 g	にぶい・黄褐色	—	—
第 55 図 482	174)	土製円筒	不整円筒	4.0 cm	3.8 cm	16.6 g	にぶい・黄褐色	—	—
第 55 図 483	174)	土製円筒	不整円筒	4.3 cm	3.6 cm	16.2 g	にぶい・黄褐色	灰黃褐色	—
第 55 図 484	174)	土製円筒	不整円筒	3.8 cm	3.6 cm	15.8 g	にぶい・褐色	—	—
第 55 図 485	174)	土製円筒	横円形	3.8 cm	3.2 cm	13.5 g	にぶい・黄褐色	—	—
第 55 図 486	174)	土製円筒	不整円筒	3.4 cm	3.6 cm	11.0 g	にぶい・黄褐色	—	—
第 55 図 487	174)	土製円筒	不整円筒	3.5 cm	2.8 cm	12.8 g	にぶい・褐色	黒褐色	—
第 55 図 488	174)	土製円筒	—	4.2 cm	2.31 cm	11.0 g	にぶい・黄褐色	—	—
第 55 図 489	174)	土製円筒	横円形	(2.8) cm	3.7 cm	9.6 g	黄灰色	灰黃褐色	—
第 55 図 490	174)	土製円筒	不整円筒	3.3 cm	2.8 cm	10.7 g	にぶい・褐色	—	—
第 55 図 491	174)	土製円筒	不整円筒	3.6 cm	3.1 cm	15.4 g	灰黃褐色	—	—
第 55 図 492	174)	土製円筒	不整円筒	3.1 cm	2.7 cm	9.0 g	褐色	灰黃褐色	—
第 55 図 493	174)	土製円筒	横円形	(3.2) cm	2.8 cm	11.3 g	褐色	黒褐色	—
第 55 図 494	174)	土製円筒	不整円筒	3.2 cm	2.6 cm	6.6 g	にぶい・褐色	—	—
第 55 図 495	174)	土製円筒	横円形	2.7 cm	2.4 cm	10.5 g	にぶい・褐色	—	—
第 55 図 496	174)	土製円筒	不整円筒	3.0 cm	3.0 cm	8.7 g	灰黃褐色	—	—
第 55 図 497	174)	土製円筒	不整円筒	3.0 cm	(2.1) cm	6.2 g	にぶい・褐色	—	—
第 55 図 498	174)	土製円筒	—	3.1 cm	2.41 cm	7.9 g	黒褐色	—	—
第 55 図 499	174)	土製円筒	横円形	3.0 cm	2.9 cm	8.3 g	にぶい・褐色	—	—
第 55 国 500	174)	土製円筒	円形	2.3 cm	2.3 cm	5.2 g	にぶい・褐色	—	—
第 55 国 501	174)	土製円筒	横円形	(2.9) cm	2.5 cm	5.0 g	にぶい・黄褐色	—	—
第 55 国 502	174)	不明土器物	「コ」字状	(3.5) cm	1.7 cm	9.0 g	にぶい・黄褐色	—	—
第 55 国 503	174)	不明土器物	「コ」字状	2.0 cm	0.8 cm	1.6 g	にぶい・褐色	—	—
第 69 国 21	176IP19	土器片	陶丸瓦形	4.4 cm	3.0 cm	22.5 g	明赤褐色	黑色	—
第 69 国 22	176IP19	土器片	陶丸瓦形	2.9 cm	2.1 cm	7.8 g	灰黄褐色	黑色	—
第 78 国 43	177)	土器片	不整円筒	3.3 cm	2.7 cm	11.6 g	にぶい・褐色	にぶい・黄褐色	—
第 98 国 25	179)	土器片	横円形	2.9 cm	2.8 cm	7.9 g	純い・褐色	—	—
第 105 国 27	180)	粘土塊	不整形	—	—	42.5 g	にぶい・黄褐色	灰褐色	—
第 112 国 12	181)	土器片	不整円筒	2.4 cm	2.4 cm	42.5 g	にぶい・黄褐色	灰褐色	—
第 126 国 2	6550	土製円盤	不整円筒	4.5 cm	4.4 cm	23.2 g	にぶい・黄褐色	—	—
第 141 国 8	6680	土製円盤	不整円筒	5.8 cm	5.3 cm	45.3 g	にぶい・褐色	黒褐色	—
第 163 国 9	6820	土製円盤	円形	5.0 cm	4.7 cm	26.9 g	にぶい・褐色	—	—
第 181 国 3	56P・57P	土器片	横円形	4.3 cm	2.8 cm	15.6 g	にぶい・黄褐色	—	—
第 193 国 1	99P	土製円盤	不整円筒	3.9 cm	3.4 cm	15.5 g	にぶい・黄褐色	黒褐色	—

第 43 表 出土土製品一覧（2）

辨認番号	遺構名	断面	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第 12 国 12	90)	打削石斧	麻尾岩	61.2	44.4	15.1	50.3	打削石斧系	—
第 12 国 13	90)	打削石斧	ホルンフェルス	50.0	56.0	21.2	66.7	打削石斧系	—
第 12 国 14	90)	石皿	安山岩	159.3	110.5	46.2	1098.3	研石盤系	研平石盤 / 研敲打 (破損部)
第 56 国 504	174)	石礫	ガラス質黒色安山岩	28.5	15.0	3.7	1.1	剥片石礫系	無半凹型
第 56 国 505	174)	石礫	黒曜石	8.5	6.8	2.1	0.1	剥片石礫系	脚底
第 56 国 506	174)	石礫	黒曜石	15.8	16.2	4.5	1.2	剥片石礫系	—
第 56 国 507	174)	石礫	チャート	39.9	41.7	11.8	17.1	剥片石礫系	—
第 56 国 508	174)	櫻形石核	チャート	47.5	45.2	17.6	34.2	剥片石核系	—
第 56 国 509	174)	櫻形石核	黒曜石	16.8	14.0	6.1	1.1	剥片石核系	エッジ × エッジ
第 56 国 510	174)	櫻形石核	黒曜石	15.7	8.6	7.9	0.8	剥片石核系	エッジ × エッジ
第 56 国 511	174)	櫻形石核	黒曜石	10.6	6.8	5.0	0.4	剥片石核系	切削 × エッジ
第 56 国 512	174)	櫻形石核	黒曜石	15.8	6.1	3.6	0.4	剥片石核系	エッジ × エッジ
第 56 国 513	174)	櫻形石核	黒曜石	22.3	13.8	12.6	3.4	剥片石核系	切削 × エッジ
第 56 国 514	174)	櫻形石核	黒曜石	20.3	10.5	8.5	1.5	剥片石核系	エッジ × エッジ
第 56 国 515	174)	櫻形石核	黒曜石	13.7	9.6	6.3	0.5	剥片石核系	エッジ × エッジ
第 56 国 516	174)	櫻形石核	黒曜石	16.9	26.9	10.6	3.1	剥片石核系	エッジ × エッジ
第 56 国 517	174)	櫻形石核	黒曜石	15.7	8.6	7.9	0.8	剥片石核系	エッジ × エッジ
第 56 国 518	174)	櫻形石核	黒曜石	20.5	9.7	7.2	1.1	剥片石核系	平 × エッジ
第 56 国 519	174)	圓盤剥片	黒曜石	16.8	11.0	3.1	0.5	剥片石核系	—
第 56 国 520	174)	二次的剝離の ある剥片	黒曜石	14.2	15.9	4.7	1.1	剥片石核系	—
第 56 国 521	174)	二次的剝離の ある剥片	チャート	15.5	15.8	4.9	1.2	剥片石核系	—
第 56 国 522	174)	二次的剝離の ある剥片	チャート	29.7	40.8	7.6	8.8	剥片石核系	—
第 56 国 523	174)	二次的剝離の ある剥片	チャート	27.1	27.3	8.3	7.6	剥片石核系	スクレイパー状

第 44 表 出土石器一覧（1）

辨認番号	遺物名	器種	石材	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	大分類	備考
第56回524	1741	不規則剖面の ある剝片	黒曜石	17.5	19.0	6.9	1.7	剥片石器系	
第56回525	1741	不規則剖面の ある剝片	黒曜石	39.3	10.3	6.7	2.5	剥片石器系	
第56回526	1741	不規則剖面の ある剝片	黒曜石	14.2	15.6	3.0	0.5	剥片石器系	
第56回527	1741	不規則剖面の ある剝片	硬質頁岩	27.6	39.6	6.3	5.8	剥片石器系	
第56回528	1741	剥片	チャート	34.7	24.2	7.3	6.6	剥片石器系	
第56回529	1741	剥片	チャート	35.8	51.1	10.4	13.8	剥片石器系	
第56回530	1741	石核	黒曜石	24.3	25.0	11.6	4.7	剥片石器系	
第56回531	1741	石核	チャート	55.8	45.2	28.0	56.4	剥片石器系	
第56回532	1741	石核	チャート	45.7	60.6	19.0	42.5	剥片石器系	剥片工具
第56回533	1741	打製石斧	黒曜石	119.2	43.8	17.1	131.0	打製石斧系	刃形器(側面斜行)
第56回534	1741	打製石斧	ホルンフェルス	80.5	32.4	9.5	24.0	打製石斧系	刃形器
第56回535	1741	打製石斧	砂岩	84.0	47.1	17.5	77.0	打製石斧系	刃形器
第56回536	1741	打製石斧	砂岩	108.0	51.6	17.1	131.7	打製石斧系	刃形器
第56回537	1741	打製石斧	砂岩	86.4	30.8	12.4	45.4	打製石斧系	刃形器
第56回538	1741	打製石斧	砂岩	108.0	41.9	19.3	93.8	打製石斧系	刃形器
第56回539	1741	打製石斧	ホルンフェルス	99.2	41.5	19.4	97.5	打製石斧系	刃形器
第56回540	1741	打製石斧	ホルンフェルス	87.9	45.1	19.2	102.8	打製石斧系	刃形器
第56回541	1741	打製石斧	ホルンフェルス	113.4	50.5	24.5	152.5	打製石斧系	刃形器
第56回542	1741	打製石斧	ホルンフェルス	97.7	46.9	15.2	79.1	打製石斧系	刃形器
第56回543	1741	打製石斧	ホルンフェルス	69.7	33.6	10.7	34.0	打製石斧系	刃形器
第56回544	1741	打製石斧	ホルンフェルス	76.1	43.4	19.4	78.5	打製石斧系	刃形器
第56回545	1741	打製石斧	砂岩	83.7	55.3	16.4	98.0	打製石斧系	刃形器
第56回546	1741	打製石斧	ホルンフェルス	76.6	37.3	16.6	43.7	打製石斧系	刃形器
第56回547	1741	打製石斧	ホルンフェルス	108.9	46.2	18.4	120.1	打製石斧系	刃形器
第56回548	1741	打製石斧	ホルンフェルス	112.3	41.0	22.0	112.7	打製石斧系	刃形器
第56回549	1741	打製石斧	砂岩	114.3	49.3	21.2	138.8	打製石斧系	刃形器
第56回550	1741	打製石斧	砂岩	89.8	45.8	18.5	82.2	打製石斧系	刃形器
第56回551	1741	打製石斧	ホルンフェルス	91.8	41.8	14.0	66.7	打製石斧系	刃形器
第56回552	1741	打製石斧	砂岩	98.0	46.6	23.9	144.4	打製石斧系	刃形器
第56回553	1741	打製石斧	ホルンフェルス	103.4	36.8	22.4	98.5	打製石斧系	刃形器
第56回554	1741	打製石斧	ホルンフェルス	85.5	42.7	12.6	51.2	打製石斧系	刃形器
第56回555	1741	打製石斧	砂岩	109.3	59.7	17.5	133.8	打製石斧系	刃形器
第56回556	1741	打製石斧	砂岩	107.9	45.7	26.0	126.4	打製石斧系	刃形器
第56回557	1741	打製石斧	ホルンフェルス	125.0	51.1	17.9	129.4	打製石斧系	刃形器
第56回558	1741	打製石斧	ホルンフェルス	101.4	47.2	12.8	81.3	打製石斧系	刃形器
第56回559	1741	打製石斧	ホルンフェルス	93.7	45.2	22.3	100.6	打製石斧系	刃形器
第57回560	1741	打製石斧	砂岩	105.3	63.6	16.9	98.8	打製石斧系	刃形器
第57回561	1741	打製石斧	ホルンフェルス	98.8	48.5	10.4	56.1	打製石斧系	刃形器
第57回562	1741	打製石斧	砂岩	94.0	54.8	17.9	110.1	打製石斧系	刃形器
第57回563	1741	打製石斧	砂岩	88.5	57.3	23.2	100.3	打製石斧系	刃形器
第57回564	1741	打製石斧	ホルンフェルス	93.9	49.8	13.2	68.3	打製石斧系	刃形器
第57回565	1741	打製石斧	砂岩	85.4	57.0	23.9	146.6	打製石斧系	刃形器
第57回566	1741	打製石斧	砂岩	99.5	65.7	26.8	186.2	打製石斧系	刃形器
第57回567	1741	打製石斧	砂岩	94.6	63.0	17.9	103.0	打製石斧系	刃形器
第57回568	1741	打製石斧	砂岩	79.4	44.9	14.5	50.7	打製石斧系	刃形器
第57回569	1741	打製石斧	砂岩	71.4	57.7	10.5	53.9	打製石斧系	刃形器
第57回570	1741	打製石斧	砂岩	87.2	48.7	18.9	99.4	打製石斧系	刃形器
第57回571	1741	打製石斧	砂岩	103.2	49.4	20.5	95.8	打製石斧系	刃形器
第57回572	1741	打製石斧	鰐鱚壳	76.8	37.5	11.9	33.6	打製石斧系	刃形器不明
第57回573	1741	打製石斧	ホルンフェルス	61.1	50.7	13.7	55.7	打製石斧系	刃形器不明
第57回574	1741	打製石斧	砂岩	59.7	49.8	18.3	54.0	打製石斧系	刃形器不明
第57回575	1741	打製石斧	砂岩	53.2	47.9	18.9	60.3	打製石斧系	刃形器不明
第57回576	1741	打製石斧	ホルンフェルス	46.7	39.4	13.1	28.1	打製石斧系	刃形器不明
第57回577	1741	打製石斧	砂岩	47.0	45.9	19.3	35.0	打製石斧系	刃形器不明
第57回578	1741	打製石斧	砂岩	30.3	40.7	10.7	18.8	打製石斧系	破片
第57回579	1741	打製石斧	砂岩	43.2	40.4	15.0	35.5	打製石斧系	刃形器不明
第57回580	1741	打製石斧	砂岩	46.2	41.0	18.5	47.6	打製石斧系	刃形器不明
第57回581	1741	打製石斧	砂岩	44.1	26.9	11.4	17.4	打製石斧系	刃形器不明(小型)
第57回582	1741	打製石斧	砂岩	64.9	32.7	13.9	41.0	打製石斧系	刃形器不明(破片)
第57回583	1741	打製石斧	砂岩	52.2	35.5	14.5	28.4	打製石斧系	刃形器不明
第57回584	1741	打製石斧	砂岩	61.8	42.7	17.1	41.1	打製石斧系	刃形器不明
第57回585	1741	打製石斧	砂岩	51.9	50.3	17.1	57.1	打製石斧系	刃形器
第57回586	1741	打製石斧	砂岩	79.2	44.7	19.2	60.7	打製石斧系	刃形器
第57回587	1741	打製石斧	砂岩	48.9	35.1	18.4	35.8	打製石斧系	刃形器不明
第57回588	1741	打製石斧	砂岩	53.9	46.2	17.5	43.3	打製石斧系	刃形器不明
第57回589	1741	打製石斧	砂岩	64.0	44.3	16.7	56.0	打製石斧系	刃形器
第57回590	1741	打製石斧	砂岩	48.6	74.4	18.0	83.1	打製石斧系	破片
第57回591	1741	打製石斧	砂岩	53.1	53.0	16.6	51.2	打製石斧系	刃形器不明
第57回592	1741	打製石斧	ホルンフェルス	40.9	57.2	13.8	34.2	打製石斧系	破片
第57回593	1741	打製石斧	砂岩	44.0	59.3	15.2	36.0	打製石斧系	刃形器不明
第57回594	1741	打製石斧	砂岩	38.1	50.0	15.0	36.9	打製石斧系	刃形器不明

第45表 出土石器一覧（2）

地図番号	遺物名	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第 57 図 595	174)	打製石斧	砂岩	30.3	47.3	12.0	19.3	打製石斧系	扇片
第 57 図 596	174)	打製石斧	砂岩	82.2	51.9	14.7	78.9	打製石斧系	扇形
第 57 図 597	174)	打製石斧	砂岩	90.5	62.4	16.4	131.3	打製石斧系	扇形
第 57 図 598	174)	打製石斧	凝灰岩	69.8	42.9	16.9	62.7	打製石斧系	扇形
第 57 図 599	174)	打製石斧	ホルンフェルス	77.2	55.2	12.4	66.7	打製石斧系	扇形
第 57 図 600	174)	打製石斧	ホルンフェルス	53.7	55.7	14.8	45.2	打製石斧系	扇形不明
第 57 図 601	174)	打製石斧	砂岩	74.4	47.5	16.5	59.8	打製石斧系	扇形
第 57 図 602	174)	打製石斧	ホルンフェルス	63.2	39.4	22.4	53.7	打製石斧系	扇形
第 57 図 603	174)	打製石斧	砂岩	66.9	71.6	17.0	95.7	打製石斧系	扇形
第 57 図 604	174)	打製石斧	砂岩	79.1	66.0	23.3	147.9	打製石斧系	扇形
第 57 図 605	174)	打製石斧	ホルンフェルス	59.7	45.6	12.4	39.9	打製石斧系	六方形 (扇形)
第 57 図 606	174)	打製石斧	砂岩	49.9	42.7	16.1	47.1	打製石斧系	扇形
第 57 図 607	174)	打製石斧	砂岩	42.5	43.5	16.3	31.6	打製石斧系	扇形
第 57 図 608	174)	打製石斧	砂岩	38.6	46.9	19.6	31.3	打製石斧系	扇形不明
第 57 図 609	174)	打製石斧	砂岩	39.0	44.3	14.5	29.4	打製石斧系	扇形不明
第 57 図 610	174)	打製石斧	砂岩	26.8	35.0	9.8	9.6	打製石斧系	小型打製石斧: 扇片
第 57 図 611	174)	楕円形石器	砂岩	17.1	61.9	11.6	13.2	打製石斧系	扇片
第 58 図 612	(74)	楕円形石器	頁岩	53.3	93.1	13.8	67.5	打製石斧系	扇片
第 58 図 613	(74)	楕円形石器	ホルンフェルス	42.3	59.1	7.9	26.3	打製石斧系	扇片
第 58 図 614	(74)	楕円形石器	砂岩	54.1	87.6	13.9	68.0	打製石斧系	扇片
第 58 図 615	174)	二次的削離の ある剝片	砂岩	62.4	48.4	14.1	54.9	打製石斧系	スクレイバー状
第 58 図 616	174)	二次的削離の ある剝片	ホルンフェルス	60.5	52.7	17.8	69.6	打製石斧系	
第 58 図 617	174)	二次的削離の ある剝片	ホルンフェルス	101.5	73.4	57.4	353.3	打製石斧系	
第 58 図 618	174)	二次的削離の ある剝片	砂岩	59.5	36.6	22.0	39.8	打製石斧系	
第 58 図 619	174)	二次的削離の ある剝片	ホルンフェルス	84.1	63.8	20.8	125.8	打製石斧系	
第 58 国 620	174)	二次的削離の ある剝片	ホルンフェルス	38.3	49.1	16.6	33.8	打製石斧系	
第 58 国 621	174)	二次的削離の ある剝片	砂岩	80.2	39.5	25.6	66.2	打製石斧系	側壁面敲打
第 58 国 622	174)	二次的削離の ある剝片	ホルンフェルス	79.7	57.0	24.9	101.2	打製石斧系	
第 58 国 623	174)	不規則削離の ある剝片	ホルンフェルス	51.2	78.5	10.7	42.3	打製石斧系	
第 58 国 624	174)	二次的削離の ある剝片	ホルンフェルス	49.9	66.0	9.6	31.2	打製石斧系	
第 58 国 625	174)	剥片	ホルンフェルス	68.0	73.8	18.2	86.0	打製石斧系	
第 58 国 626	174)	剥片	ホルンフェルス	59.6	67.4	13.1	26.3	打製石斧系	
第 58 国 627	174)	不規則削離の ある剝片	ホルンフェルス	51.7	48.6	13.6	39.8	打製石斧系	
第 58 国 628	174)	剥片	砂岩	45.8	62.9	12.5	35.2	打製石斧系	
第 58 国 629	174)	剥片	砂岩	22.7	51.7	8.7	9.7	打製石斧系	不整形
第 58 国 630	174)	磨製石斧	砂岩	97.4	46.2	26.0	169.1	磨製石斧系	
第 58 国 631	174)	磨製石斧	砂岩	49.6	51.5	28.4	92.4	磨製石斧系	有縫狀 (折れ面に若干の縫 隙)
第 58 国 632	174)	調整剝片	ホルンフェルス	37.6	44.1	7.0	12.1	磨製石斧系	磨製石斧刃再生
第 58 国 633	174)	剥片	粘粒凝灰岩	27.3	55.2	6.5	10.7	磨製石斧系	磨製石斧刃再生片
第 58 国 634	174)	磨製石斧	砂岩	25.9	38.3	31.8	30.9	磨製石斧系	基盤状 (乳棒状)
第 58 国 635	174)	剥片	凝灰岩	44.1	33.2	10.2	13.2	磨製石斧系	磨製石斧端 (原形不 <sup>明</sup> )
第 58 国 636	174)	剥片	砂岩	37.7	16.2	33.6	19.7	磨製石斧系	磨製石斧端 (乳棒状)
第 58 国 637	174)	剥片	砂岩	58.8	50.2	23.5	114.7	磨製石斧系	砂輪状 (手縛)
第 58 国 638	174)	磨片	玄武岩	61.9	80.6	33.1	216.8	磨石器系	砂輪状 (縛手)
第 58 国 639	174)	磨片	安山岩	49.3	82.9	50.8	211.8	磨石器系	砂輪状・刷拭
第 58 国 640	174)	磨片	砂岩	64.3	59.7	30.7	173.7	磨石器系	砂輪状
第 58 国 641	174)	磨片	ハシレイト	28.1	67.1	36.8	90.5	磨石器系	砂輪状
第 58 国 642	174)	磨片	安山岩	30.1	36.7	23.5	22.3	磨石器系	形態不明
第 58 国 643	174)	磨片	安山岩	55.3	39.8	44.4	113.3	磨石器系	
第 58 国 644	174)	磨片	安山岩	40.7	50.3	38.6	111.6	磨石器系	凹形 (複数 / 両面)
第 58 国 645	174)	磨片	砂岩	153.7	63.2	46.8	479.8	磨石器系	扁錐敲打 (高周率)
第 58 国 646	174)	磨片	砂岩	135.0	50.5	35.8	343.7	磨石器系	側面敲打 (粗粒磨石)
第 58 国 647	174)	磨片	凝灰岩	118.2	45.2	30.5	220.5	磨石器系	側面敲打 (部分)・横敲き
第 58 国 648	174)	磨片	凝灰岩	163.0	48.7	20.7	190.3	磨石器系	側面敲打 : 右, 横敲き敲打 : 左
第 58 国 649	174)	磨片	砂岩	146.5	45.6	28.4	285.5	磨石器系	側面敲打 (細かい)
第 58 国 650	174)	磨片	砂岩	127.2	41.3	32.2	272.8	磨石器系	側面敲打・端部敲打
第 58 国 651	174)	磨片	砂岩	129.4	38.0	26.5	169.0	磨石器系	側面敲打 (合併)
第 58 国 652	174)	磨片	難記	114.6	32.9	26.1	112.0	片岩磨石器系	側面敲打・下端面敲打・側 面・磨石器等転用
第 58 国 653	174)	磨片	砂岩	120.2	53.2	24.2	177.9	磨石器系	側面敲打 (横敲打) + 端面敲 打
第 58 国 654	174)	磨片	砂岩	126.8	62.1	23.4	228.4	磨石器系	側面敲打 (両側面)
第 58 国 655	174)	磨片	砂岩	123.4	74.4	31.2	354.0	磨石器系	側面敲打
第 58 国 656	174)	磨片	砂岩	136.6	62.6	37.9	491.5	磨石器系	側面敲打 (特殊磨石状)

第 46 表 出土石器一覧 (3)

地図番号	遺物名	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第 58 図 657	174J	礫石	砂岩	87.1	50.2	40.0	203.7	礫石器系	側面敲打。端部敲打
第 58 図 658	174J	礫石	砂岩	96.2	52.8	32.1	224.6	礫石器系	側面敲打。横敲打
第 58 図 659	174J	礫石	ホルンフェルス	126.9	63.8	35.3	518.7	礫石器系	側面敲打。端部敲打。横敲打。(破損)
第 59 図 660	174J	礫石	ホルンフェルス	113.7	59.2	29.3	258.5	礫石器系	側面敲打。(特異磨耗石状)
第 59 図 661	174J	礫石	砂岩	121.1	42.4	23.0	201.4	礫石器系	側面敲打。(特異磨耗石状)
第 59 図 662	174J	礫石	片状砂岩	128.9	58.1	31.8	234.6	礫石器系	片面側面敲打。横敲打。(打製石未製品か)
第 59 図 663	174J	礫石	ホルンフェルス	86.5	60.9	23.6	136.6	礫石器系	側面敲打。(打製石未製品か)
第 59 図 664	174J	礫石	砂岩	109.7	47.7	25.6	177.2	礫石器系	側面敲打。(部分)
第 59 図 665	174J	礫石	砂岩	110.8	54.6	24.3	167.0	礫石器系	側面敲打。(端面)
第 59 図 666	174J	礫石	砂岩	54.9	52.1	21.1	65.5	礫石器系	側面敲打
第 59 図 667	174J	礫石	砂岩	84.0	44.6	23.2	149.6	礫石器系	側面敲打。(端)
第 59 図 668	174J	礫石	砂岩	70.3	41.5	23.7	102.4	礫石器系	側面敲打
第 59 図 669	174J	礫石	砂岩	70.2	48.8	26.3	171.7	礫石器系	側面敲打。(特徴)
第 59 図 670	174J	礫石	チャート	49.8	64.0	36.9	145.1	礫石器系	側面敲打。端面部敲打
第 59 図 671	174J	礫石	砂岩	100.6	89.2	38.2	447.7	礫石器系	側面敲打。(特徴) + 横敲打(折れ)
第 59 図 672	174J	礫石	砂岩	30.4	49.2	19.3	24.5	礫石器系	側面敲打
第 59 図 673	174J	礫石	凝灰岩	53.8	36.1	17.3	44.6	礫石器系	側面敲打。(端に削離を伴う)
第 59 図 674	174J	礫石	砂岩	49.1	48.5	28.9	107.0	礫石器系	側面敲打。(特異磨耗石)
第 59 図 675	174J	礫石	砂岩	37.7	38.9	22.8	55.4	礫石器系	側面敲打。(特異磨耗石状)
第 59 図 676	174J	礫石	チャート	107.8	46.5	46.6	323.0	礫石器系	側面敲打。スタンプ状
第 59 図 677	174J	礫石	砂岩	99.7	40.9	35.6	223.6	礫石器系	側面敲打(SM) + 端面部敲打(スタンプ状) + 横敲打(折れ)
第 59 図 678	174J	礫石	砂岩	58.4	25.1	21.9	41.9	礫石器系	端面部敲打(柱)
第 59 国 679	174J	礫石	砂岩	78.8	38.8	41.9	163.5	礫石器系	側面敲打(折れ) + スタンプ状
第 59 国 680	174J	礫石	凝灰岩	72.0	42.8	32.7	170.8	礫石器系	側面敲打。(特徴)
第 59 国 681	174J	礫石	砂岩	71.2	44.9	26.9	110.4	礫石器系	側面敲打
第 59 国 682	174J	礫石	砂岩	101.4	32.4	27.0	110.5	礫石器系	側面敲打。(細かい)
第 59 国 683	174J	礫石	砂岩	96.4	31.1	27.5	92.9	礫石器系	側面敲打。端面部敲打
第 59 国 684	174J	礫石	砂岩	89.6	55.8	22.6	149.8	礫石器系	側面純敲打
第 59 国 685	174J	礫石	砂岩	66.4	42.8	30.1	122.4	礫石器系	側面敲打。(特異状)
第 59 国 686	174J	礫石	砂岩	69.4	44.1	31.1	139.0	礫石器系	側面敲打
第 59 国 687	174J	礫石	砂岩	82.0	43.4	26.7	98.8	礫石器系	側面敲打(部分)
第 59 国 688	174J	礫石	砂岩	104.6	31.0	31.3	119.4	礫石器系	側面純敲打(細)
第 59 国 689	174J	礫石	砂岩	100.4	42.0	35.5	184.6	礫石器系	側面敲打: 新(面)
第 59 国 690	174J	礫石	砂岩	79.9	39.7	31.2	125.5	礫石器系	側面破打
第 59 国 691	174J	礫石	砂岩	74.6	34.4	24.9	65.8	礫石器系	側面敲打。端面部敲打(折れ)
第 59 国 692	174J	礫石	砂岩	71.0	46.9	36.4	132.9	礫石器系	端面部敲打(薄)
第 59 国 693	174J	礫石	砂岩	44.7	36.1	28.0	47.7	礫石器系	横敲打
第 59 国 694	174J	礫石	砂岩	53.6	34.4	33.2	93.3	礫石器系	側面純敲打
第 59 国 695	174J	礫石	砂岩	53.2	25.7	21.8	41.6	礫石器系	側面純敲打
第 59 国 696	174J	礫石	チャート	59.7	42.0	38.4	102.4	礫石器系	端面部敲打
第 59 国 697	174J	礫石	砂岩	61.0	26.2	29.0	54.9	礫石器系	端面部敲打
第 59 国 698	174J	礫石	砂岩	72.0	46.8	36.5	136.7	礫石器系	側面敲打。横敲打(端面)
第 59 国 699	174J	礫石	砂岩	68.3	39.0	41.6	86.1	礫石器系	端面部敲打
第 59 国 700	174J	礫石	砂岩	50.0	63.6	23.9	102.9	礫石器系	端面部敲打。横敲打(折れ面)
第 59 国 701	174J	礫石	ホルンフェルス	85.7	68.6	31.3	298.5	礫石器系	端面部敲打: タンブラー状
第 59 国 702	174J	礫石	砂岩	100.2	56.2	24.1	188.0	礫石器系	側面敲打。横敲打
第 59 国 703	174J	礫石	砂岩	72.2	49.9	30.3	124.5	礫石器系	側面敲打。(特異磨耗石状)
第 59 国 704	174J	礫石	砂岩	79.4	51.6	28.6	149.1	礫石器系	側面敲打
第 59 国 705	174J	礫石	砂岩	62.9	36.6	15.2	33.6	礫石器系	側面敲打。(細かい)
第 59 国 706	174J	礫石	安山岩	67.7	60.8	44.9	219.2	礫石器系	横敲打(折れ面)
第 59 国 707	174J	礫石	チャート	92.2	51.3	30.4	184.5	礫石器系	横敲打: 斧形(折れ)
第 59 国 708	174J	礫石	砂岩	94.9	52.1	32.3	197.1	礫石器系	侧面敲打
第 60 国 709	174J	礫石	砂岩	82.3	57.8	24.2	84.6	礫石器系	側面純敲打
第 60 国 710	174J	礫石	砂岩	63.7	54.5	44.5	195.7	礫石器系	側面純敲打。横敲打(折れ)
第 60 国 711	174J	礫石	砂岩	118.2	86.9	31.5	351.4	礫石器系	側面純敲打。端面部敲打
第 60 国 712	174J	礫石	砂岩	141.3	86.5	43.6	587.2	礫石器系	横敲打(端面)
第 60 国 713	174J	礫石	砂岩	106.9	83.3	75.6	710.8	礫石器系	横敲打
第 60 国 714	174J	礫石	砂岩	101.1	48.4	33.4	228.9	礫石器系	端面部敲打 / 横敲打
第 60 国 715	174J	礫石	砂岩	54.3	27.9	26.5	41.5	礫石器系	横敲打(折れ: 側面)
第 60 国 716	174J	礫石	砂岩	57.3	54.8	19.1	94.9	礫石器系	端面部敲打(折れ)。磨削石軸用
第 60 国 717	174J	礫石	緑色岩	60.6	38.1	30.2	106.0	礫石器系	端面部敲打(折れ面)。磨削石軸用
第 60 国 718	174J	礫石	砂岩	48.9	48.8	33.2	129.7	礫石器系	端面部敲打(折れ面)。磨削石軸用
第 60 国 719	174J	礫石	凝灰岩	69.9	45.7	33.4	127.4	礫石器系	端面部敲打。磨削石軸用
第 60 国 720	174J	礫石	砂岩	96.6	37.4	27.0	158.1	礫石器系	孔様状磨削石軸用: 側面
第 60 国 721	174J	礫石	凝灰岩	127.4	53.0	22.7	199.7	礫石器系	表面(広い凹状)

第 47 表 出土石器一覧 (4)

地図番号	遺物名	高さ	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第 60 図 722	1741 磨石	砂岩		41.1	42.2	24.3	51.6	磨石器系	片面
第 60 図 723	1741 石皿	閃開石		234.1	199.3	51.2	3843.3	磨石器系	圓形石皿 / 表面に凹み(多孔)
第 60 図 724	1741 石皿	安山岩		54.2	49.5	50.2	94.4	磨石器系	圓形(多孔質)
第 60 図 725	1741 石皿	安山岩		51.1	47.6	40.7	77.0	磨石器系	碗狀(多孔質)
第 60 図 726	1741 鋸石	安山岩質火山灰		82.6	58.3	65.0	49.4	磨石器系	中央や尖端
第 60 図 727	1741 磨石	軽石(流紋岩系?)		48.9	37.5	51.8	13.4	磨石器系	
第 60 図 728	1741 砕石	砂岩		62.1	53.5	24.7	101.7	磨石器系	表面(平面面に広く浅い凹
第 60 図 729	1741 磨削磚	砂岩		76.8	53.7	19.0	94.3	磨石器系	瓦品質か
第 60 図 730	1741 砕石	結晶片岩		54.2	56.4	17.6	65.2	片岩製石器系	片岩製石器
第 60 図 731	1741 片岩製石器	綠泥片岩		98.3	41.8	17.0	104.0	片岩製石器系	打削石片状: 側縁の一部に
第 60 図 732	1741 片岩製石器	結晶片岩		64.3	39.0	12.5	36.7	片岩製石器系	側縁とも狭い
第 60 図 733	1741 片岩製石器	結晶片岩		67.1	38.7	13.9	57.2	片岩製石器系	側縁: 幅狭く側刃部に似
第 60 図 734	1741 片岩製石器	結晶片岩		242.9	95.5	26.9	737.6	片岩製石器系	側刃
第 60 図 735	1741 片岩製石器	綠泥片岩		183.4	99.5	23.9	695.2	片岩製石器系	綠泥石質弱
第 60 図 736	1741 石皿	綠泥片岩		82.1	104.9	27.4	362.3	片岩製石器系	表: 圓、裏: 風
第 60 図 737	1741 片岩製石器	結晶片岩		91.2	37.4	9.1	42.7	片岩製石器系	打削石斧状
第 60 図 738	1741 片岩製石器	綠泥片岩		95.2	54.9	15.2	116.0	片岩製石器系	打削石斧状
第 60 図 739	1741 片岩製石器	綠泥片岩		113.3	36.4	15.8	65.1	片岩製石器系	側刃打状: 槌状
第 69 図 23	1761 橢円石器	黒曜石		11.5	14.8	4.5	0.8	側刃石器系	
第 69 図 24	1761 不規則剖面の ある鋸刀	チャート		48.0	32.2	10.0	12.3	側刃石器系	
第 69 図 25	1761 打削石斧	ホルンフェルス		97.0	45.1	22.7	105.8	打削石斧系	
第 69 図 26	1761 打削石斧	砂岩		87.0	33.4	14.7	55.7	打削石斧系	側面
第 69 図 27	1761 打削石斧	砂岩		93.7	69.4	15.8	111.5	打削石斧系	側面
第 69 図 28	1761 打削石斧	砂岩		60.2	38.2	14.0	33.7	打削石斧系	
第 69 図 29	1761 打削石斧	ホルンフェルス		34.2	30.8	10.9	12.2	打削石斧系	形態不明(製作)
第 69 図 30	1761 打削石斧	ホルンフェルス		43.1	50.4	25.0	42.1	打削石斧系	形態不明(製作)
第 69 図 31	1761 橢円形石器	砂岩		80.0	103.8	24.7	201.4	打削石斧系	
第 69 図 32	1761 磨削石器	黒曜石		68.3	38.5	32.1	74.1	磨削石器系	底部面削打 + 若干の槌敲打(端部削)
第 69 図 33	1761 砕石	砂岩		154.2	80.2	33.9	644.1	磨石器系	側面敲打 + 節部部分削打
第 69 図 34	1761 砕石	砂岩		124.4	55.0	25.5	156.6	磨石器系	側面敲打 + 端部敲打 (斧刃製品?)
第 69 図 35	1761 砕石	砂質片岩		109.1	54.8	28.4	191.0	磨石器系	側面敲打 + 端部敲打
第 69 図 36	1761 砕石	砂岩		87.7	68.1	15.9	147.7	磨石器系	側面敲打 + 端部側敲打
第 69 図 37	1761 砕石	砂岩		71.9	53.1	29.5	153.5	磨石器系	底部敲打
第 69 図 38	1761 砕石	砂岩		53.8	42.7	32.3	78.4	磨石器系	破片
第 69 図 39	1761 片岩製石器	綠泥片岩		72.0	34.6	14.6	50.5	片岩製石器系	打削石斧状
第 69 図 40	1761 砕石	綠泥片岩		124.5	97.8	29.1	418.9	片岩製石器系	打削石器凹口回転系
第 78 図 44	1771 橢円石器	チャート		29.0	21.2	8.5	6.9	側刃石器系	右端未製作か
第 78 図 45	1771 打削石斧	ホルンフェルス		108.2	42.2	10.9	54.4	打削石斧系	
第 78 図 46	1771 打削石斧	砂岩		95.2	53.9	15.2	75.6	打削石斧系	
第 78 図 47	1771 打削石斧	ホルンフェルス		91.9	48.3	12.9	69.0	打削石斧系	側面
第 78 図 48	1771 打削石斧	砂岩		83.0	54.4	18.3	96.2	打削石斧系	
第 78 図 49	1771 打削石斧	綠泥片岩		81.4	35.4	7.4	32.9	打削石斧系	側面
第 78 図 50	1771 打削石斧	ホルンフェルス		73.7	22.7	8.2	20.5	打削石斧系	小型
第 78 図 51	1771 打削石斧	砂岩		50.4	41.5	21.5	51.7	打削石斧系	形態不明
第 78 図 52	1771 打削石斧	ホルンフェルス		28.4	50.9	16.1	27.2	打削石斧系	形態不明
第 78 図 53	1771 打削石斧調整 削片	砂岩		19.0	44.4	6.2	4.9	打削石斧系	
第 78 図 54	1771 打削石斧調整 削片	砂岩		29.1	25.5	7.7	4.9	打削石斧系	
第 78 図 55	1771 打削石斧調整 削片	砂岩		62.7	38.1	10.2	26.6	打削石斧系	
第 78 図 56	1771 砕石	砂岩		100.8	47.6	23.7	138.8	磨石器系	側面敲打
第 78 図 57	1771 磨削石器	黒曜石		113.0	44.0	39.4	233.9	磨削石器系	
第 78 図 58	1771 砕石	砂岩		109.3	30.6	45.3	187.1	磨石器系	棘刺打
第 78 図 59	1771 砕石	砂岩		82.3	39.9	31.2	131.6	磨石器系	側面敲打 / 楔敲打
第 78 図 60	1771 砕石	砂岩		79.3	36.1	36.9	124.3	磨石器系	側面敲打 / 節部敲打
第 78 図 61	1771 砕石	砂岩		63.7	46.4	36.0	186.3	磨石器系	側面敲打
第 78 図 62	1771 石皿	砂岩		109.4	110.5	81.9	738.0	磨石器系	
第 78 図 63	1771 石皿	砂岩		53.4	40.2	55.5	157.9	磨石器系	
第 90 図 28	1781 橢円石器	黒曜石		11.0	9.0	2.7	0.2	側刃石器系	
第 90 図 29	1781 打削石斧	ホルンフェルス		82.5	36.9	14.2	54.5	打削石斧系	側面
第 90 図 30	1781 打削石斧	ホルンフェルス		86.7	37.7	20.8	70.6	打削石斧系	側面
第 90 図 31	1781 打削石斧	ホルンフェルス		79.5	48.5	21.9	77.9	打削石斧系	
第 90 図 32	1781 打削石斧	ホルンフェルス		37.9	37.3	12.4	20.9	打削石斧系	
第 90 図 33	1781 打削石斧	黒曜石		61.2	49.6	24.6	80.1	打削石斧系	刀部片
第 90 図 34	1781 砕石	砂岩		158.6	47.0	30.4	210.4	磨石器系	側面敲打(棘刺, 楔敲打)
第 90 図 35	1781 砕石	砂岩		103.7	39.6	26.3	123.8	磨石器系	側面敲打(棘刺, 楔敲打)
第 90 図 36	1781 砕石	砂岩		60.0	45.3	27.9	92.8	磨石器系	側面敲打 / 楔敲打
第 90 図 37	1781 砕石	砂岩							

第 48 表 出土石器一覧 (5)

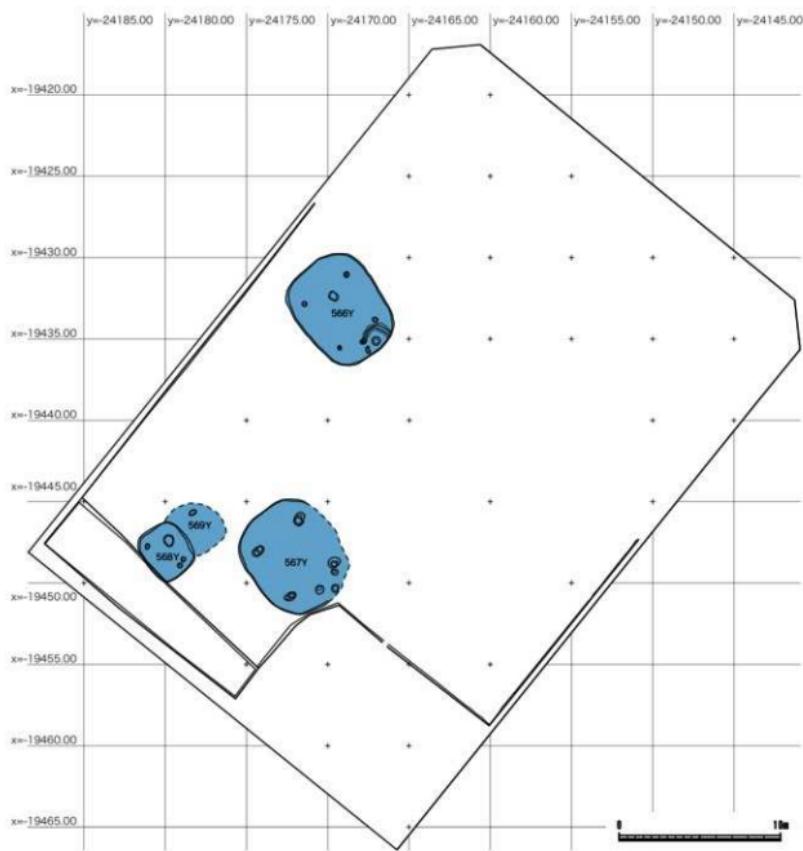
辨認番号	遺物名	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第 90 図 38	1781	片岩製石器	綠泥片岩	111.3	38.6	15.2	111.0	片岩製石器系	打製石斧状
第 90 図 39	1781	片岩製石器	綠泥片岩	115.4	58.3	11.1	84.5	片岩製石器系	較長
第 90 図 40	1781	片岩製石器	砂質片岩	60.2	49.0	17.4	65.0	片岩製石器系	打製石斧状
第 98 図 26	1791	石器	黑曜石	21.8	15.5	5.7	1.3	刮削石器系	
第 98 図 27	1791	禮形石器	黑曜石	11.0	7.5	3.2	0.3	刮削石器系	
第 98 図 28	1791	刮削片	黑曜石	14.5	7.7	4.7	0.4	刮削石器系	
第 98 図 29	1791	刮片	黑曜石	16.5	22.3	5.5	1.3	刮削石器系	
第 98 図 30	1791	打製石斧	ホルンフェルス	138.2	55.3	18.6	165.9	打製石斧系	證明?
第 98 図 31	1791	打製石斧	闊底斧	99.7	40.2	16.9	96.1	打製石斧系	表面はほぼ全面敲打 (酒製石斧等の製品の組合せ)
第 98 図 32	1791	打製石斧	片狀砂岩	57.7	55.5	21.7	89.7	打製石斧系	形態不明
第 98 図 33	1791	打製石斧	砂岩	57.9	37.0	17.9	35.8	打製石斧系	
第 98 図 34	1791	打製石斧	ホルンフェルス	49.8	48.8	13.1	48.6	打製石斧系	形態不明
第 98 図 35	1791	打製石斧	砂岩	58.4	41.1	24.3	78.5	打製石斧系	
第 98 図 36	1791	禮形石器	閃緑岩	34.9	51.4	40.7	72.0	禮形石器系	石礫状
第 98 図 37	1791	禮形石器	ホルンフェルス	75.3	49.1	27.0	128.9	禮形石器系	特急禮形石状
第 98 図 38	1791	禮石	砂岩	96.4	46.6	42.1	213.4	禮形石器系	側面敲打 / 端部敲打
第 98 図 39	1791	禮石	砂岩	93.6	38.4	25.6	124.9	禮形石器系	側面敲打 / 端部敲打 + 極端打 (破壊形)
第 98 図 40	1791	禮石	砂岩	59.2	42.1	22.0	71.2	禮形石器系	側面敲打 (側)
第 98 図 41	1791	禮石	砂岩	33.5	51.8	36.2	70.9	禮形石器系	表面面敲打 + 端部敲打
第 98 図 42	1791	片岩製石器	綠泥片岩	66.1	15.7	7.8	8.0	片岩製石器系	極端打
第 105 図 28	1801	磨石	砂岩	60.3	52.7	39.8	163.7	禮形石器系	石礫状
第 105 図 29	1801	石皿	安山岩	65.2	122.6	45.2	575.6	禮形石器系	圓平石皿 / 鏽邊敲打 (候相部)
第 112 図 18	1811	石器	黑曜石	21.4	15.6	3.3	0.8	刮削石器系	無茎凹基
第 112 図 19	1811	刮片	黑曜石	14.9	28.0	5.9	2.1	刮削石器系	
第 112 図 20	1811	刮片	黑曜石	32.4	30.8	5.3	3.5	刮削石器系	
第 112 図 21	1811	刮片	黑曜石	13.8	11.3	5.9	1.0	刮削石器系	
第 112 図 22	1811	打製石斧	ホルンフェルス	59.4	44.4	7.0	23.9	打製石斧系	
第 112 図 23	1811	打製石斧	ホルンフェルス	22.6	86.3	13.9	332	打製石斧系	
第 112 図 24	1811	調整刮片	砂岩	19.5	34.1	9.1	4.9	打製石斧系	
第 112 図 25	1811	禮石	砂岩	137.7	47.1	35.6	365.9	禮形石器系	端部敲打 + 極端打 (側)
第 116 図 8	1821	打製石斧	ホルンフェルス	97.0	44.3	25.4	147.6	打製石斧系	刃側面 / 肩側面(腹から)敲打
第 116 図 9	1821	禮石	ホルンフェルス	74.2	45.3	30.8	111.8	禮形石器系	枝敲打 (側頭、底頭面)
第 118 図 7	6500	打製石斧	ホルンフェルス	85.2	50.8	13.0	60.5	打製石斧系	
第 132 図 4	6500	禮形石器	黑曜石	27.1	19.7	10.5	4.8	刮削石器系	エッジ × エッジ
第 135 図 5	6600	石皿	閃緑岩	63.1	43.6	54.8	176.2	禮形石器系	
第 163 図 10	6820	打製石斧	闊底斧	56.3	43.6	20.4	71.4	打製石斧系	
第 171 図 1	6900	打製石斧	ホルンフェルス	67.2	42.8	12.9	39.3	打製石斧系	
第 152 図 6	693D	禮石	砂岩	105.7	53.6	21.5	188.3	禮形石器系	側面敲打 (煮沸)
第 152 図 7	693D	打製石斧	ホルンフェルス	105.5	36.6	11.3	55.4	打製石斧系	
第 152 図 8	693D	禮石	砂岩	87.9	48.7	16.0	87.2	禮形石器系	側面敲打 (煮沸)
第 187 図 1	87P	石器	黑曜石	15.9	12.7	2.6	0.4	刮削石器系	無茎凹基
第 200 図 1	106P	打製石斧	ホルンフェルス	61.6	48.7	16.8	59.1	打製石斧系	

第 49 表 出土石器一覧 (6)

## 第2節 弥生時代後期から古墳時代前期

### (1) 概要

弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は住居跡4軒が検出された。住居跡は縄文集落の西側に分布している。出土遺物から、いずれも弥生時代後期から古墳時代前期に帰属すると思われる。最も遺存の良い566号住居跡は、床面の一部から被熱痕、また床面直上からは炭化材が検出されていることから焼失住居と思われる。出土位置が判明している土器は72点であり、壺26点、甕41点、高环4点、広口壺1点である。



第203図 弥生時代後期から古墳時代前期遺構分布図（1／300）

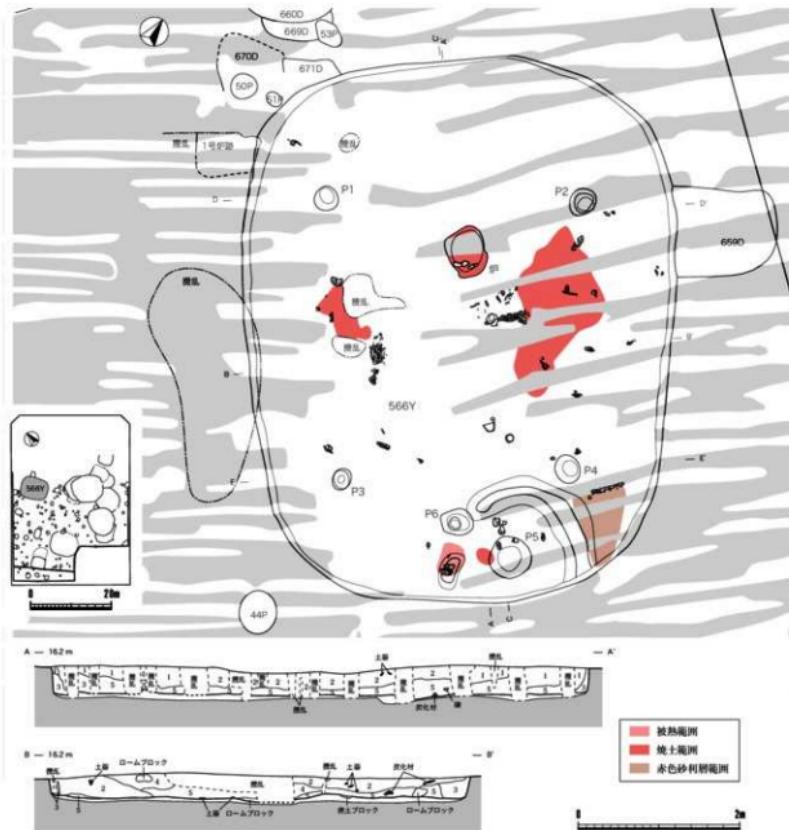
## (2) 住居跡

## 566号住居跡

遺構(第204~207図)

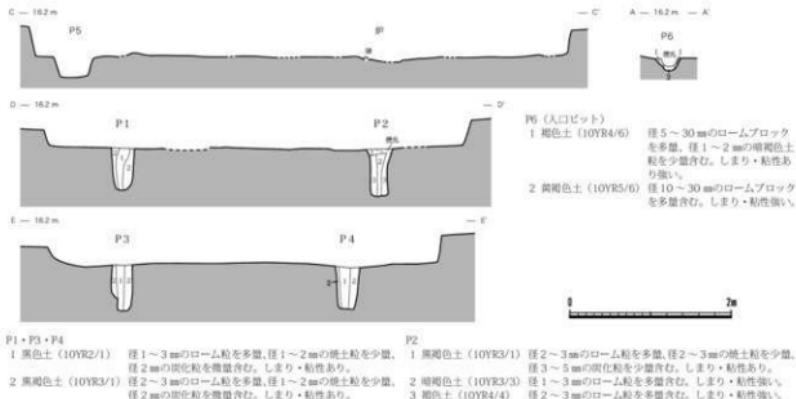
[位置] X=19433,Y=-24169。

[構造] 659D・671D・1号炉跡を切る。住居床面に焼土範囲が確認され、炭化材が多く出土していることから、焼失住居の可能性が高い。平面形：隅丸長方形。規模：6.71×5.31m。主軸方位：N-

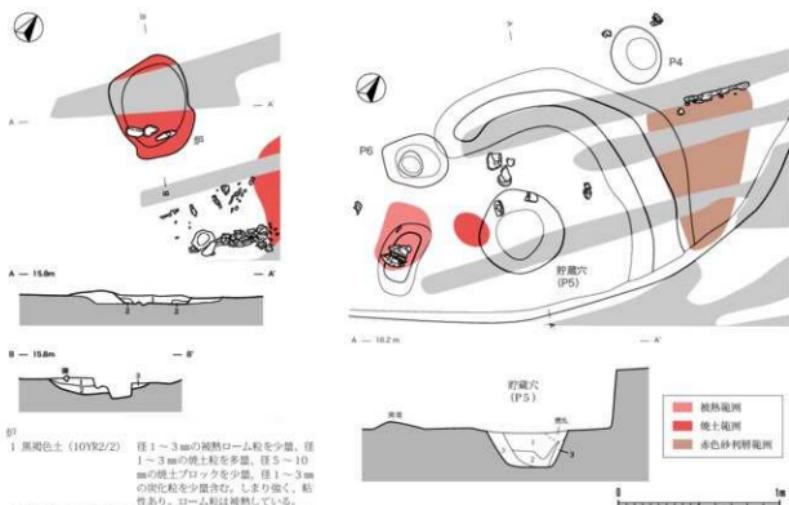


- 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~2mmのローム粒を多量、径1~2mmの燒土粒を微量含む。しまりあり、粘性弱い。
- 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を多量、径2~3mmの燒土粒を少額含む。しまりあり、粘性弱い。
- 暗褐色土 (10YR3/4) 径2~3mmのローム粒を多量、径30mmのロームブロックを少量含む。しまりあり、粘性弱い。
- 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を少量、径10~15mmのロームブロックを微量含む。しまりあり、粘性弱い。
- 黒色土 (10YR2/1) 径2~3mmのローム粒を多量、径3~4mmの燒土粒を少額含む。しまりあり、粘性弱い。

第204図 566号住居跡1 (1/60)



第205図 566号住居跡2 (1/60)



- 貯蔵穴 (P5)
- 黒褐色土 (10YR2/2). 层厚 1~3mm のローム粒を少量、層厚 5~10mm のロームブロックを微量、層厚 1~2mm の焼土粒を少量、層厚 1~3mm の炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 暗褐色土 (10YR3/2). 层厚 1~3mm のローム粒を多量、層厚 1~2mm の焼土粒を少量含む。しまり・粘性あり。
  - 暗褐色土 (10YR3/3). 层厚 1~3mm のローム粒を少量、層厚 5~10mm のロームブロックを少量、層厚 1mm の焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

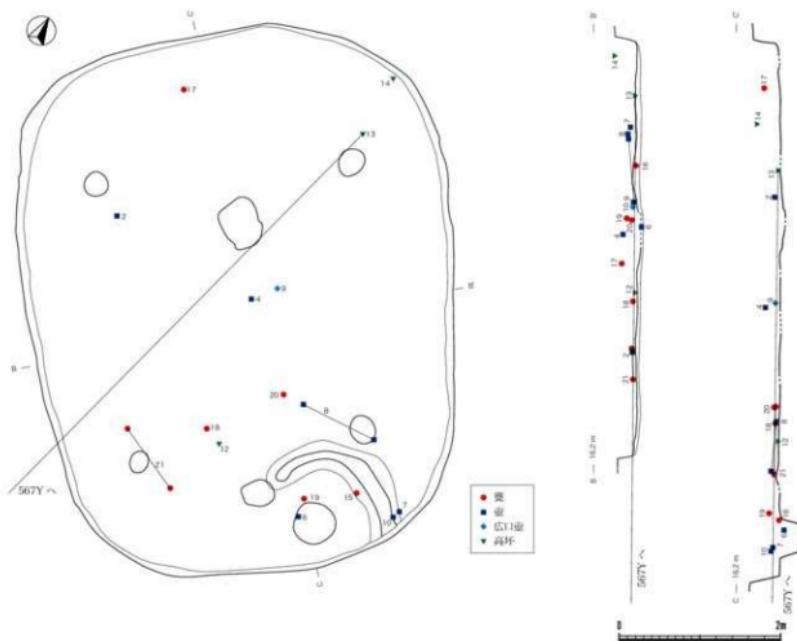
第206図 566号住居跡炉・貯蔵穴 (1/30)

30°-W。壁高:21.0～34.4 cmを測り、90°前後の角度で立ち上がる。壁溝:検出されなかった。床面:攪乱が著しいが、住居中央部を中心に硬化面が認められ、東寄り、西寄りにそれぞれ 213.5×112.2 cm、不明 × 43.4 cm の不整形の焼土範囲、また、住居南東側に不明 × 59.9 cm の赤色砂利層がある。住居掘り方は 22.0～37.4 cm、貼床の厚さは 1.4～8.4 cm を測る。炉:住居中央よりやや北寄りに位置する。不明 × 40.1 cm の被熱範囲が確認できる。62.7×45.4 cm、深さ 5.1～10.0 cm の不整円形の掘り込みを持つ地床炉である。柱穴:P1～4 が主柱穴と思われる。貯蔵穴:住居南側の壁際に位置する、P5 が



566号住居跡全景（東より）

566号住居跡全景（南より）



第207図 566号住居跡遺物出土状態（1／60）



566号住居跡Aセクション東側（南より）



566号住居跡Aセクション西側（南より）



566号住居跡Bセクション（東より）



566号住居跡炉検出状況（南より）



566号住居跡炉全景（西より）



566号住居跡炉Aセクション（北より）



566号住居跡炉Bセクション（南より）



566号住居跡炉掘り方全景（西より）



566号住居跡掘り方Aセクション（南より）



566号住居跡掘り方Bセクション（南より）



566号住居跡遺物出土状態（東より）



566号住居跡掘り方全景（東より）



566号住居跡掘り方Aセクション西側（南より）



566号住居跡掘り方Aセクション東側（南より）



566号住居跡掘り方Bセクション南側（東より）



566号住居跡掘り方Bセクション北側（東より）



566号住居跡赤色砂利層



566号住居跡赤色砂利層



566号住居跡焼土範囲1（南より）



566号住居跡焼土範囲2（南より）



566号住居跡焼土範囲3（南より）



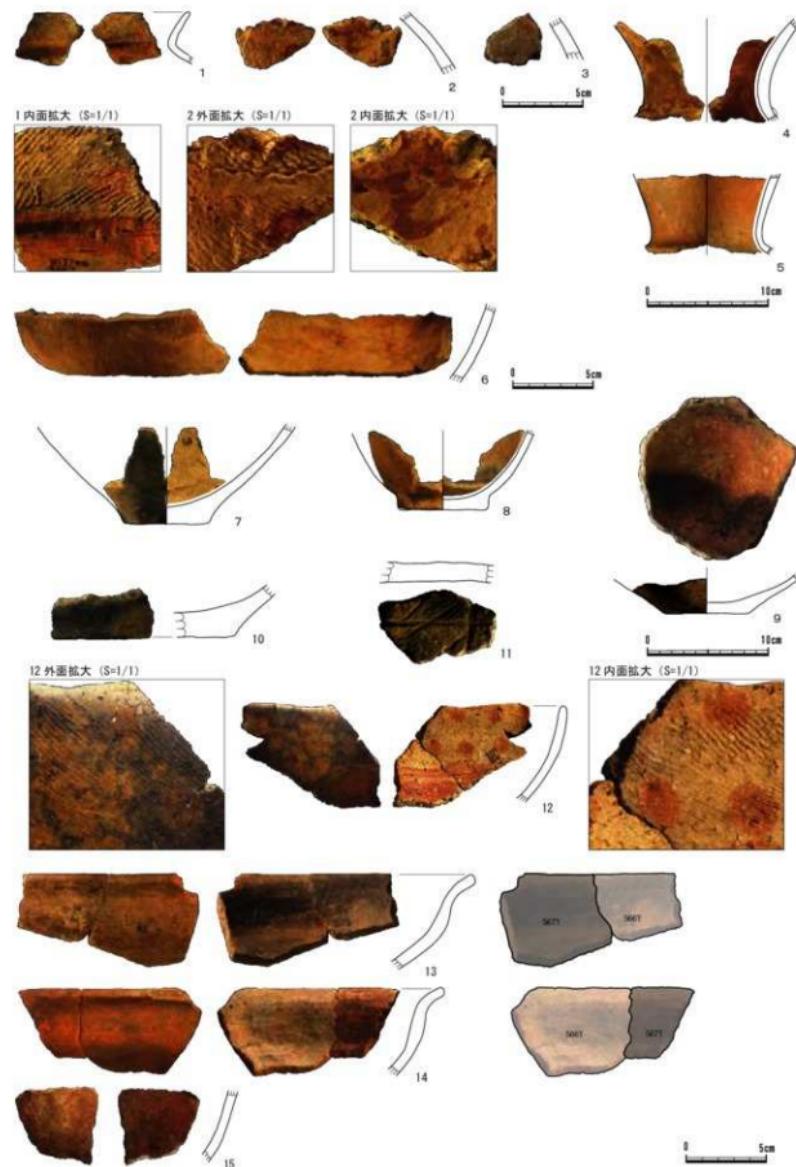
566号住居跡焼土範囲3（南より）



566号住居跡貯蔵穴（P5）セクション（南より）



566号住居跡貯蔵穴（P5）遺物出土状態（北より）



第208図 566号住居跡出土土器1 (1/4・1/3)

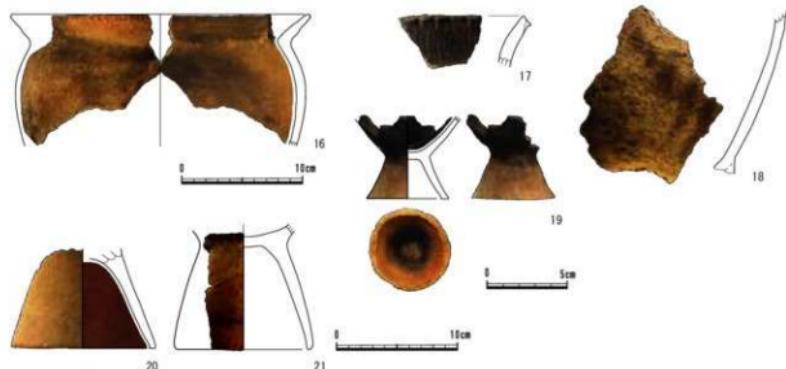
第1章

第2章

第3章

第4章

附編



第209図 566号住居跡出土土器2 (1/4・1/3)

それにあたる。52.2×50.7 cm、深さ 25.3 cmの掘り込みを持ち、不整円形を呈する。一部途切れるものの、壁際から P5 を囲む様に上幅 23.8 ~ 51.6 cm 高さ 0.9 cm ~ 7.0 cm の弧状の凸堤が確認される。また、周堤の一部に 42.1×30.0 cm の被熱範囲が確認された。

【覆 土】 5層。

【遺 物】 覆土中から多量出土した。

【時 期】 弥生時代後期から古墳時代前期。

【備 考】 P6 は入口ピットにあたる。

**遺 物** (第208・209図・第50表)

1 ~ 11 が壺形土器、12 ~ 15 が高杯形土器、16 ~ 21 が甕形土器で、18 ~ 21 は台付甕形土器である。  
13、14 は 567 号住居跡と遺構間接合している。

### 567号住居跡

**遺 構** (第210~212図)

【位 置】 X=19448,Y=24172。

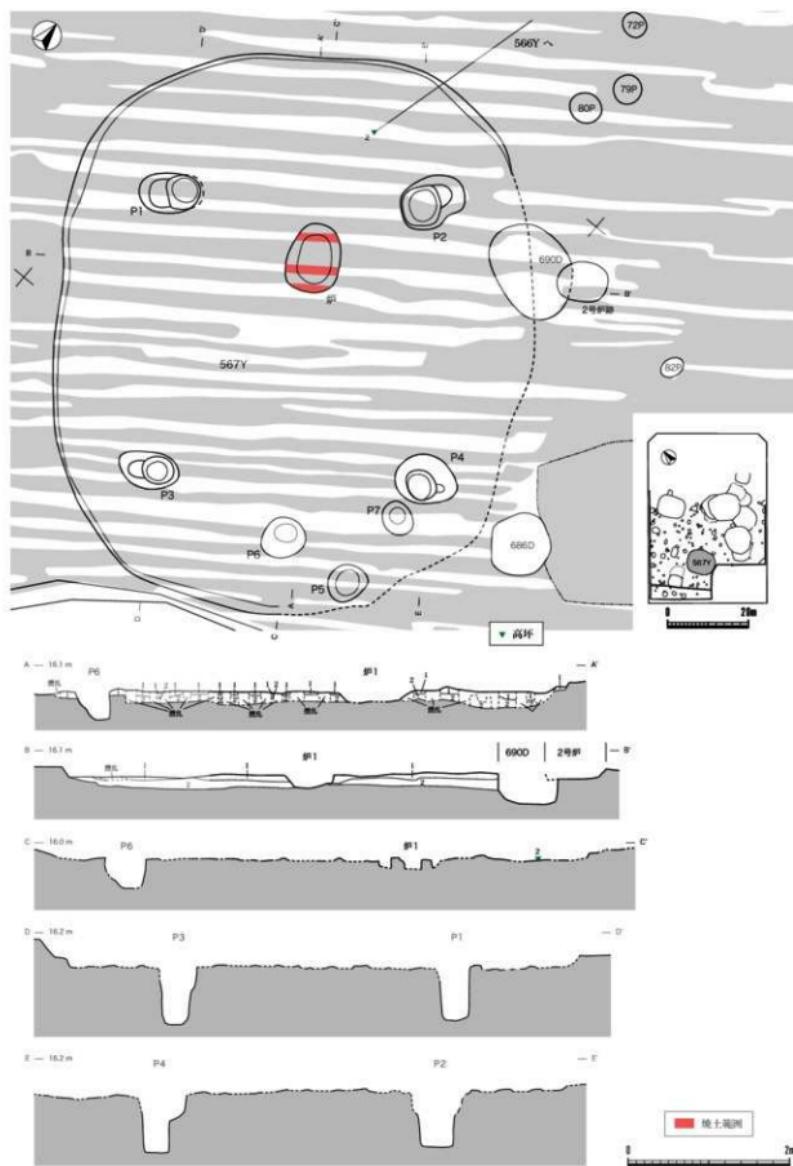
【構 造】 住居東側を欠き、690D に切られる。

平面形：不整円形。

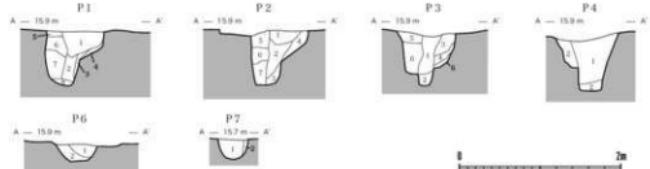
規模：6.86×5.63m。主軸方位：N-40°-W。壁高：0.1 ~ 12.8 cmを測り、30°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：擾乱が著しいが、住居南側のピット付近以外に広く硬化面が確認できる。炉：住居中央よりやや北寄りに位置し、62.8×42.5 cm の被熱範囲が確認できる。粘土板炉の下には、84.9×65.0 cm、深さ 13.6 cm の不整円形の掘り込みを持つ地床炉が認められるが、明確な焼土は検出できなかった。柱穴：P1 ~ 4 が主柱穴と思われる。貯蔵穴：住居南側の壁際に位置する、P5 がそれにある。50.0×43.2 cm、深さ 11.5 cm の掘り込みを持ち、不整円形を呈する。

【覆 土】 掘り方 2 層。

【遺 物】 覆土中から少量出土した。



第210図 567号住居跡1・遺物出土状態（1／60）



- 1 黒褐色土 (10YR3/3) 路面。径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量。径1~3mmの他土粒を少量。径5~20mmの暗褐色土ブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。割れ方。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~40mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。割れ方。

**P1**

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) P2の1層と同等。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) P3の1層と同等。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~30mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 未確認。
- 6 墓地土 (10YR3/4) P3の1層と同等。
- 7 褐色土 (10YR4/4) P2の6層と同等。
- 8 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック。しまり・粘性あり強。

**P2**

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) P3の1層に似るが径10~50mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 黑褐色土 (10YR3/2) P3の1層と同等。しまり・粘性あり。
- 3 墓地土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
- 4 墓地土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 墓地土 (10YR3/4) P3の5層と同等。しまり強く、粘性あり。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径10~40mmのロームブロックを少量含む。しまりあり、粘性弱。
- 7 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

**P3**

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 墓地土 (10YR3/3) 径1~30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強。
- 3 黑褐色土 (10YR2/3) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 墓地土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 5 墓地土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり弱く、粘性あり。

**P4**

- 1 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~50mmのロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックが多量混入。しまり・粘性強。

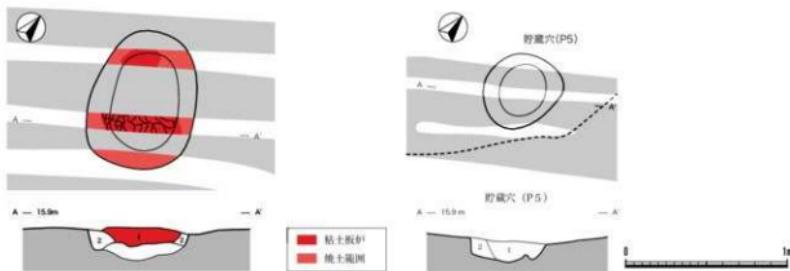
**P6 (人口ピット)**

- 1 墓地土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量含む。径5~30mmのロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量含む。径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。

**P7**

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を多量、径2~3mmの堆積物を微量、径2~3mmの炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 墓地土 (10YR3/3) 径1~2mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。

第211図 567号住居跡2 (1/60)

**炉**

- 1 褐色土 (2.5YR6/8) 径1~2mmの他土粒を多量含む。しまり・粘性強。灰白色粘土(粘土板岩)を含む。上部は被熱している。
- 2 墓地土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量。径5~10mmのロームブロックを微量、径1~2mmの他土粒を微量含む。しまり弱く、粘性弱。
- 3 黑褐色土 (10YR2/3) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~50mmのロームブロックを多量、径1~2mmの他土粒を少量含む。しまり弱く、粘性弱。ロームは被熱している。割れ方。

**貯蔵穴 (P5)**

- 1 墓地土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量。径5~10mmのロームブロックを微量、径1~3mmの炭化物を微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり弱く、粘性あり。

第212図 567号住居跡炉・貯蔵穴 (1/30)



567号住居跡全景（東より）



567号住居跡全景（南より）



567号住居跡炉セクション（東より）



567号住居跡炉掘り方全景（東より）



567号住居跡掘り方Aセクション西側（南より）



567号住居跡掘り方Aセクション東側（南より）



567号住居跡掘り方Bセクション南側（東より）



567号住居跡掘り方Bセクション北側（東より）



第213図 567号住居跡出土土器（1／3）

[時 期] 弥生時代後期から古墳時代前期。

[備 考] P6は入り口ピットにあたる。P7は床面下のピットである。

#### 遺 物 (第213図・第51表)

1が壺形土器、2が甕形土器、3（566号住居跡13）、4（566号住居跡14）は、566号住居跡と遺構間接合している高杯形土器である。

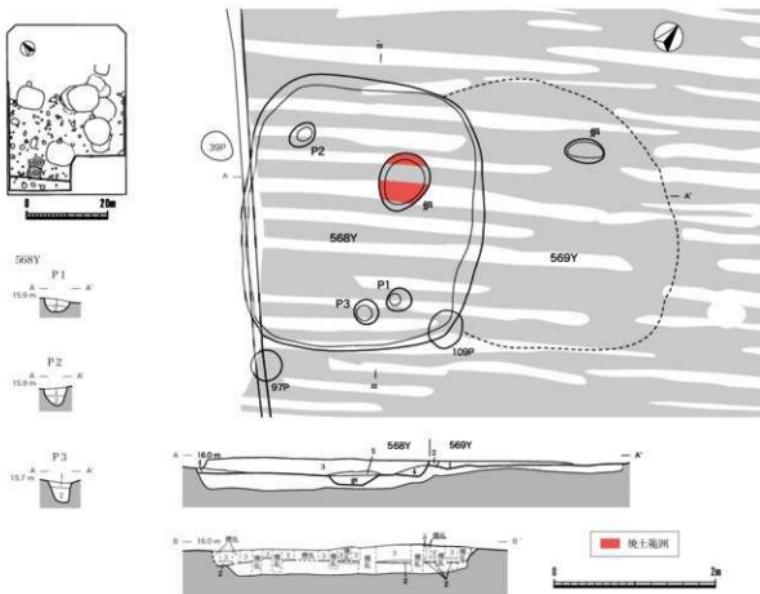
## 568号住居跡

遺構 (第214・215図)

[位 置] X=19448,Y=-24180。

[構 造] 569Dを切る。平面形：隅丸長方形。規模：3.34×2.99m。主軸方位：N-40°-W。壁高：14.7～22.7cmを測り、60°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：攪乱が著しいが、住居中央部を中心に硬化面が確認できる。炉：住居中央よりやや北西により位置する。73.6×61.4cm、深さ11.6cmの不整円形の掘り込みを持つ地床炉である。柱穴：不規則な配列で主柱穴は確認できなかつた。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆 土] 5層。



- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 径1～2mmのローム粒を多量。径5～7mmのロームブロックを少量。径1～3mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 径2～3mmのローム粒を多量。径5～7mmのロームブロックを少量。径2～3mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 3 黒褐色土 (10YR3/1) 径1～3mmのローム粒を多量。径1～3mmの焼土粒を少量。径2～3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。569Yの掘り方と同様。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を多量。径5～10mmのロームブロックを微量。径1～2mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。569Yの掘り方と同様。
- 5 黑褐色土 (10YR3/1) 径1～2mmのローム粒を少量。径1～3mmの焼土粒を多量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまりあり。粘性弱い。何か?

568Y

P1・P2

1 黒褐色土 (10YR3/1) 径1～2mmのローム粒を多量。径2～3mmの焼土粒を微量。径3～5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

2 黑褐色土 (10YR3/1) 径1～2mmのローム粒を多量。径10～30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。

P3

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径2～5mmのローム粒を多量。径10mmのロームブロックを少量。径2～3mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。

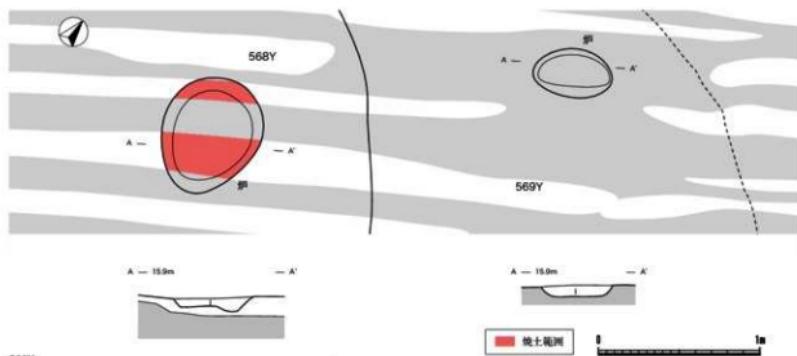
2 黑褐色土 (10YR3/2) 径2～5mmのローム粒を多量。径2～3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第214図 568・569号住居跡 (1/60)

**[遺物]** 覆土中から少量出土した。  
**[時期]** 弥生時代後期から古墳時代前期。

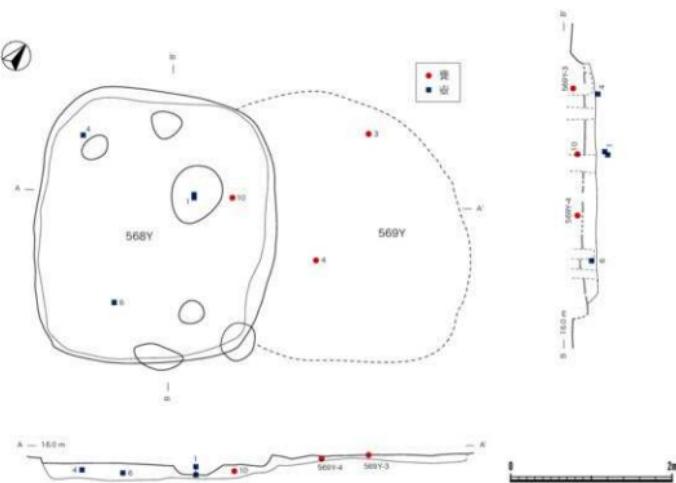
**遺物** (第216図・第52表)

1～6が壺形土器、7～10が甕形土器で、9、10は台付甕形土器である。



568  
炉  
1 黒褐色土 (10YR3/1) 径1～2mmのローム粒を多量、径3～5mmの埴土粒を多量、径20～30mmの埴土ブロックを多量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・活性弱い。

569  
炉  
1 赤褐色土 (5YR4/8) 径2～3mmのローム粒を多量、径2～3mmの埴土粒を多量、径10mmの埴土ブロックを少量、径2～3mmの炭化粒を少量含む。しまり・活性弱い。



第215図 568・569号住居跡炉・遺物出土状態 (1/60)



568号住居跡全景（東より）



568・569号住居跡掘り方全景（東より）



568号住居跡Aセクション（東より）



568号住居跡Bセクション（北より）



568号住居跡炉全景（東より）



568号住居跡炉検出状況（東より）



568号住居跡炉Aセクション（東より）



568号住居跡炉掘り方Aセクション（東より）



568号住居跡炉掘り方全景（東より）



568号住居跡掘り方Aセクション（東より）



568号住居跡掘り方Bセクション（北より）



569号住居跡Aセクション（東より）



569号住居跡掘り方Aセクション（東より）



569号住居跡Aセクション（西より）



569号住居跡炉掘り方全景（西より）



569号住居跡炉検出状況（南より）

## 569号住居跡

## 遺構(第214・215図)

[位 置] X=19446,Y=-24179。

[構 造] 568号住居跡に切られる。平面形:不明。破線は掘り方痕跡の範囲であるが、遺存状況が非常に悪く、本来の住居形状を示すものではない。規模:不明×3.33m。主軸方位:不明。壁溝:検出されなかった。床面:一部貼床は認められるが、攪乱のため明確な硬化面は確認できない。炉:掘り方のみしか確認できなかったが、住居中央より北寄りに位置すると思われる。48.7×29.9cm、深さ5.2cmの楕円形の掘り込みを持つ地床炉である。柱穴:柱穴は確認できなかった。貯蔵穴:検出されなかった。

[覆 土] 4層。

[遺 物] 覆土中から少量出土した。

[時 期] 弥生時代後期から古墳時代前期。

[備 考] 住居、ピット共に掘り方のみの検出で、上端、下端は確認できなかった。

## 遺物(第217図・第53表)

1が壺形土器、2~5が彫形土器である。



第216図 568号住居跡出土土器(1/4・1/3)



第217図 569号住居跡出土土器(1/3)

辨認番号	種類	部位	基高	口径	複合部 径	脚台部 径	底径	残存率	胎土	焼成	色調	文様等	備考	
第 208 団 1	直	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	「く」字形に外傾する口縁部内面と口縁端 に横脚部文様が模倣焼成された上。 直径 1.4 倍の幅の羽状文様が強され、脚 部文様部以外は内外面共に赤褐色が施さ れれる		
第 208 団 2	直	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	内外面とも一部に赤褐色が見ら れ、内面脚部文様が 2 段と 5 字斜筋焼成文の S 字形段焼成文がみられる		
第 208 団 3	直	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子を含む	良好	に赤い黃褐色	内外面とも脚部の背腹面に横脚部文 様が見られ、内面に脚部文様が強され る		
第 208 団 4	直	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	内外面とも脚部の背腹面に横脚部文 様が見られ、上位部分は底盤がなされる。向 き面に内面脚部文様が強められ、その下位 に横脚部文様が脚部に施される		
第 208 団 5	直	胴部	-	-	-	-	-	-	少黄褐色粒子。砂礫 を含む	良好	に赤い褐色	内外面とも底盤焼きがなされる		
第 208 団 6	直	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い褐色	内外面は羅ナデのち横脚部 文様がみられる		
第 208 团 7	脚部～ 底部	(8.2)	-	-	-	(7.0)	底部 1/6	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	内外面は横ナデ。内面は羅ハケ目 のち横脚部文様がなされる		
第 208 团 8	直	底部 (m)	(6.6)	-	-	6.8	底部 1/1	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	内外面は羅焼き、内面は横ナデされる		
第 208 团 9	広口 直	底部 (2.8) (m)	-	-	-	6.9 cm	底部 1/1	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	底面付近 を中心に焼成 による折損 が見られる		
第 208 团 10	直	底部 (3.2) (m)	-	-	-	(10.0)	底部 1/4	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	内面は羅ハケ目の中横脚部 文様がみられる		
第 208 团 11	直	底部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	赤黄褐色／に 赤い黃褐色	底面に横脚部文 様が見あり		
第 208 团 12	直	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	黒褐色／に赤い 黄褐色	内外面とも脚部には横脚部文 様が 2 段の斜筋焼成文で施されれた上 に、2 回の内面朱彩文が施され、体部外 面は横脚部文様、体部内面は横ナデで赤彩 文が施される		
第 208 团 13	直	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い褐色	内面しながら大き く開く内外面とも横 ナデのち横脚部文 様が強められる	567Y と道 横脚接合	
第 208 团 14	直	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い褐色	内面ながら大き く開く内外面とも横 ナデのち横脚部文 様が強められる	567Y と道 横脚接合	
第 208 团 15	直	口縁部	-	-	-	-	-	-	少黄褐色粒子。砂礫 を含む	良好	に赤い黃褐色	内外面共にナデのち横脚部文 様が強められる		
第 208 团 16	直	口縁部 (10.9) (cm)	-	-	-	(23.7) cm	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	「く」字形に外傾する口縁部の丸みを用 いた脚部にハケ目による弱めが強め られ、外表面はハケ目の中横脚部文 様がみられる。内面は横ナデ。内面は横 ナデのち横脚部文様が強められる		
第 209 团 17	直	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	黒褐色／に赤い 黄褐色	「く」字形に外傾する口縁部の丸みを用 いた脚部にハケ目による弱めが強め られ、外表面はハケ目の中横脚部文 様がみられる。内面は横ナデ。内面は横 ナデのち横脚部文様が強められる	567Y と道 横脚接合	
第 209 团 18	直	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い褐色	「く」字形に外傾する口縁部の丸みを用 いた脚部にハケ目による弱めが強め られ、外表面はハケ目の中横脚部文 様がみられる。内面は横ナデ。内面は横 ナデのち横脚部文様が強められる	567Y と道 横脚接合	
第 209 团 19	直	脚部 (6.2) (cm)	-	-	-	3.2	6.8 cm	-	接觸部 脚部 1/1	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	「横脚部、内面は横、外表面は羅ハケ目、 内面は横ナデ。内面は横ナデ。内面は横 ナデのち横脚部文様が強められる	
第 209 团 20	直	脚部 (8.1) (cm)	-	-	-	(12.0) cm	-	-	脚部 1/2	白色粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	内外面とも横ナデされる 内面に工具 跡か？	
第 209 团 21	直	脚部 (10.3) (cm)	-	3.1 cm	(10.8) cm	-	表面部 1/1, 脚部 1/8	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い黃褐色	内面は羅のち横ナデ。内面は横ナデされ る		

第 50 表 566 号住居跡出土遺物一覧

辨認番号	種類	部位	基高	口径	複合部 径	脚台部 径	底径	残存率	胎土	焼成	色調	文様等	備考
第 213 団 1	直	口縁部	-	-	-	-	-	-	少黄褐色粒子。砂礫 を含む	良好	に赤い黃褐色	外表面は横ハケ目のち筋筋焼成文と R. L. を脚部に施した羽状焼成文で、口縁部下 面にはハケ目による弱めと赤褐色の痕跡が認 められ、内面は横脚部文様が強められる	
第 213 团 2	直	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子を含む	良好	赤褐色	内面は横ハケ目。内面は横ナデされる	
第 213 团 3	直	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い褐色	口縁部は「く」の字形に外傾し、体部は 内面しながら大きく開く内外面とも横 ナデのち横脚部文様が強められる	566Y と道 横脚接合
第 213 团 4	直	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子。赤黄褐色 粒子。砂礫を含む	良好	に赤い赤褐色	口縁部は「く」の字形に外傾し、体部は 内面しながら大きく開く内外面とも横 ナデのち横脚部文様が強められる	566Y と道 横脚接合

第 51 表 567 号住居跡出土遺物一覧

辨認番号	種類	部位	肩高	口径	接合部 径	脚部 径	底径	残存率	胎土	焼成	色調	文様等	備考
第216回 1	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、砂礫を含む	良好	に高い黄褐色 に低い黄褐色	單面焼成LRが1段と端末粘土の5字状 輪郭文のEが1段と端末粘土の5字状 輪郭文のZが1段横白に施文され。脚部 には施墨まで赤彩。内面は焼ナデされる。	
第216回 2	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	砂礫を含む	良好	灰褐色/明赤褐色		
第216回 3	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤褐色 粒子、砂礫を含む	良好	に高い黄褐色 に低い黄褐色	内面は焼ナデされ る。	
第216回 4	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤褐色 粒子、砂礫を含む	良好	に高い黄褐色 に低い黄褐色	内面は右下からハケ目のち延焼きで赤 彩され、内面は焼ナデされる。	
第216回 5	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤褐色 粒子、砂礫を含む	良好	に高い黄褐色 に高い黄褐色	内面は赤彩され、ハケ目のち磨き、内面 には焼墨まで赤彩。内面は焼ナデされる。	
第216回 6	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤褐色 粒子、砂礫を含む	良好	に高い赤褐色 に高い黄褐色	内面は脚部、底面とともに着色され、赤彩され。 内面は横ナデされる。	
第216回 7	旗	口縁部	—	—	—	—	—	—	小黄褐色粒子、砂礫 を含む	良好	赤褐色	内面とも横ナデされる	
第216回 8	旗	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤褐色 粒子、砂礫を含む	良好	黒色	外側は横ハケ目。内面は横ナデされる	
第216回 9	付旗	脚部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、砂礫を含む	良好	に高い黄褐色	内面は焼ナデ。内面は横ハケ目がなされ る。	
第216回 10	付旗	脚部	(9.0) cm	—	4.7 cm	(9.0) cm	—	接続部 1/1. 脚 部 1/3	白色粒子、赤褐色 粒子、砂礫を含む	良好	に高い黄褐色	外側は焼ナデ。内面は横ナデされる	

第52表 568号住居跡出土遺物一覧

辨認番号	種類	部位	肩高	口径	接合部 径	脚部 径	底径	残存率	胎土	焼成	色調	文様等	備考
第217回 1	壺	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤褐色 粒子を含む	良好	に高い黄褐色 に低い黄褐色	外側は底着き。内面は横ナデされ、外側 には焼ナデされる。	
第217回 2	旗	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤褐色 粒子、砂礫を含む	良好	に高い黄褐色	内面は横ハケ目のち焼墨、内面は横ナ デされる。	
第217回 3	旗	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤褐色 粒子、砂礫を含む	良好	黒色/に高い 黄褐色	内面は底ハケ目。内面は横ナデされる	
第217回 4	旗	胴部	—	—	—	—	—	—	小黄褐色粒子。砂礫 を含む	良好	褐色	外側は底ハケ目。内面は横ナデされる	
第217回 5	旗	胴部	—	—	—	—	—	—	白色粒子、赤褐色 粒子を含む	良好	灰褐色	内外面とも横ナデされる	

第53表 569号住居跡出土遺物一覧

### 第3節 遺構外出土遺物

#### (1) 繩文時代遺物 (第218～222図、第54～56・58・59表)

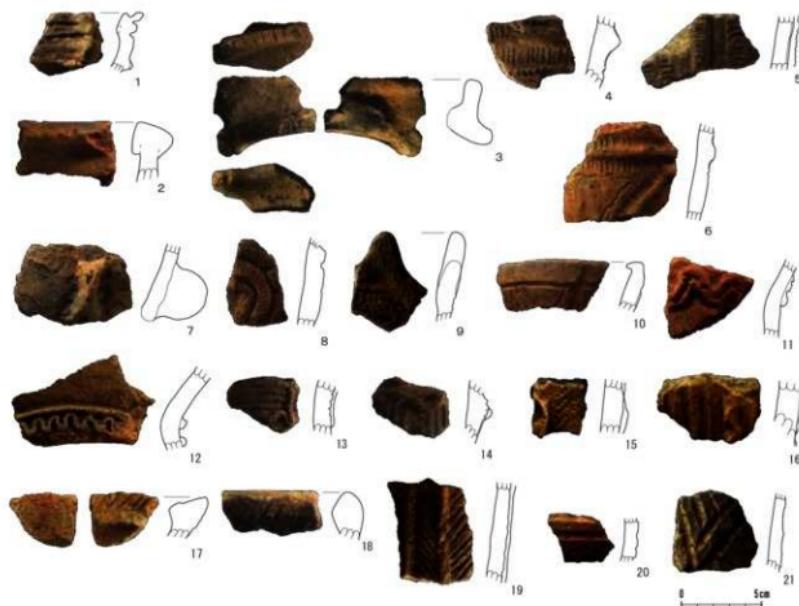
阿玉台式(1～3)、勝坂式(4～11)、曾利式(12～21)、加曾利E式(22～61)、連弧文(62～64)、称名寺式(65～66)、堀之内式(67～70)、土器片錐(71～73)、土製円盤(74～82)、ナイフ形石器(90)、石鏃(91・92)、楔形石器(93・94)、二次的剥離のある剥片(95)、不規則剥離のある剥片(96～98)、剥片(99～108)、打製石斧(109～134・170)、二次的剥離のある剥片(135)、磨製石斧(136・137)、磨石類(138～140)、敲石(141～158)、石皿(159～161)、碎片(162)、凹石(163)、片岩製石器(164～169・171～174)を図示した。

#### (2) 弥生時代後期から古墳時代前期遺物 (第220図、第57表)

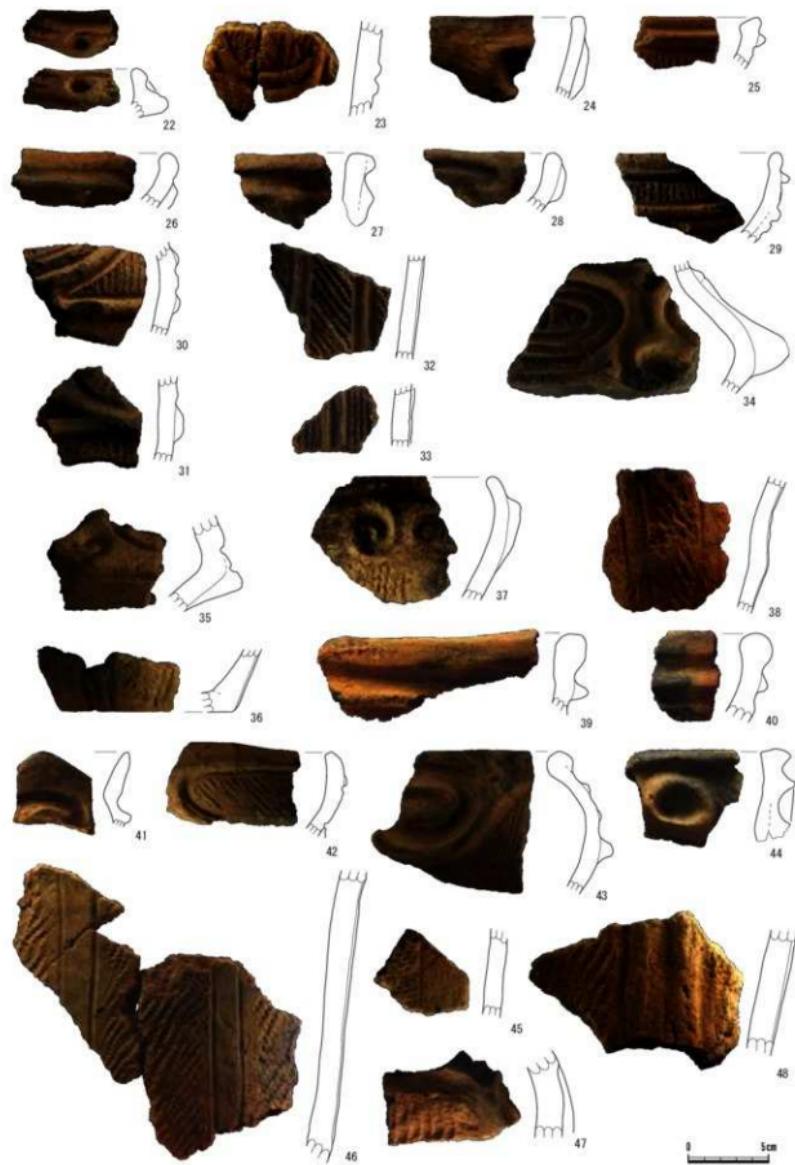
壺形土器(83～88)、鉄滓(89)を図示した。

#### (3) 時期不明遺物 (第222図、第60表)

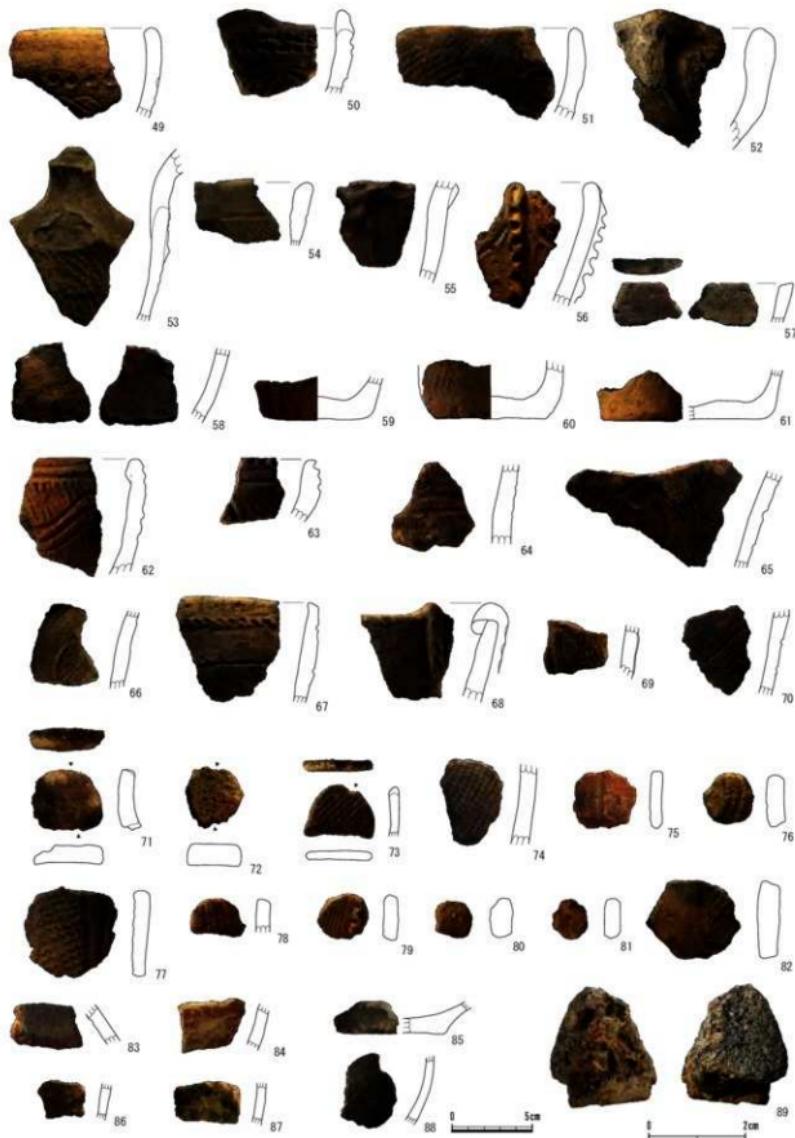
不明金属製品(175)を図示した。



第218図 遺構外出土遺物 I (1/3)



第219図 遺構外出土遺物2 (1/3)



第220図 遺構外出土遺物3 (1/1・1/3)



第221図 遺構外出土遺物4 (1/2・1/3)



第222図 遺構外出土遺物5 (1/1・1/3)

辨別番号	型式	階級	部位	口縫部・側縫部・肩縫部地文	口縫部・側縫部・肩縫部・突起・脚部・底座・側面特徴	脚部・底座	脚部・底部・側面特徴	外表面色	内表面色	備考	
第218図1	阿玉台I	深鉢	口縫部	-	粘土帶を二角形に貼付し、突起文が加えられる。	-	-	に赤い黄褐色	-	-	
第218図2	阿玉台II	深鉢	口縫部	-	口縫部に粘土帶をかぶせる様に貼付される。	-	-	に赤い褐色	-	-	
第218図3	阿玉台III	深鉢	把手か	-	粘土帶を斜めに貼付し、1.2cm程度の孔が開けられる。	-	-	灰黃褐色	-	-	
第218図4	勝坂2	深鉢	側縫	-	-	-	隆帯を貼付し、両側に押引文と二角押引文が加えられる。隆帯を斜めに貼付して突起文が作られる。	に赤い黄褐色	灰褐色	-	
第218図5	勝坂2	深鉢	側縫	-	-	-	-	黒褐色	-	-	
第218図6	勝坂2	深鉢	側縫	-	-	-	隆帶を垂下させ、透焼した形文を加える。隆帯に沿って比較的引きき、その間に透焼形文が作られる。	に赤い赤褐色	-	-	
第218図7	勝坂2	深鉢	把手	-	半円形の粘土帶が表裏合わせる形で貼付される。突起の粗元に押引文が施される。	-	-	灰黃褐色	-	-	
第218図8	勝坂2~3	深鉢	側縫	-	-	-	透焼によって斜状の文織を描き、一部に突起文が加えられる。透焼の間に斜らかの角押文状の突起文を充填する。	に赤い褐色	黑褐色	-	
第218図9	勝坂3	深鉢	口縫部	單脚斜縫文LR	輪郭角縫文で区画が作られる。区画内は繩文が充填され、波状の沈縫が認められる。	-	-	黒褐色	-	-	
第218図10	勝坂3	深鉢	口縫部	-	上面に無文帶を認める。比較で「U」字状の文織を描き、沈縫の間に筋みが充填される。	-	-	褐色	-	-	
第218図11	勝坂か?	深鉢	側縫	-	-	透焼文	隆帯を貼付し、隆帯上に二角押引文が加えられる。	赤褐色	-	-	
第218図12	曾利II	深鉢	側縫	-	-	-	隆帯を造らせ、それに沿って透焼の隆帯が貼付される。	に赤い黄褐色	-	-	
第218図13	曾利II	深鉢	側縫	-	-	-	透焼角縫か	平行透焼を引き、その間に透焼の隆帯が貼付される。また、窓位には直線的に貼付する。	に赤い黄褐色	-	-
第218図14	曾利II	深鉢	側縫	-	-	-	平行透焼を施し、その間に透焼の隆帯が貼付される。	灰黃褐色	-	-	
第218図15	曾利II	深鉢	側縫	-	複節斜縫文	透焼の隆帯を横位に貼付する。	に赤い黄褐色	灰褐色	-	-	
第218図16	曾利II	深鉢	側縫	-	-	-	透焼が盛り下し、それと平行に透焼する。	に赤い褐色	に赤い黄褐色	-	
第218図17	曾利II	深鉢	口縫部	-	口縫部の内部に平行透焼が引かれる。外側には斜行文、もしくは重復文が施されよう。	-	-	褐色	-	-	
第218図18	曾利III	深鉢	口縫部	-	斜行する透焼が引かれる。	-	-	灰黃褐色	-	-	
第218図19	曾利III	深鉢	側縫	-	-	1本の隆帯を垂下させ、隆帯に向かって横位で「V」字状の文織を窓位に通続して描かれる。	に赤い褐色	-	-	-	
第218図20	曾利III~Ⅳ	深鉢	側縫	-	-	-	隆帯に沿って斜位の透焼が施される。	に赤い赤褐色	-	-	
第218図21	曾利IV	深鉢	側縫	-	-	-	透焼で「V」字状の文織を窓位に通続して描かれる。	灰黃褐色	-	-	
第218図22	加曾利E1	深鉢	口縫部	-	口縫部の上面に沈縫で透焼文を施し、沈縫が認る。	-	-	に赤い褐色	-	-	
第218図23	加曾利E1	深鉢	側縫	-	透焼文	2本一对の隆帯を垂下させ、また、弧形に貼付する。	褐色	-	-	-	
第218図24	加曾利E2	深鉢	口縫部	-	透焼によって区画が作られる。	-	-	に赤い黄褐色	-	-	
第218図25	加曾利E2	深鉢	口縫部	-	1本の隆帯を横位に造る。	-	-	に赤い褐色	-	-	
第218図26	加曾利E2	深鉢	口縫部	-	透焼によって区画が作られる。区画の端部に消済文が貼付されよう。	-	-	に赤い黄褐色	-	-	
第218図27	加曾利E2	深鉢	口縫部	-	透焼によって区画が作られる。	-	-	に赤い褐色	-	-	
第218図28	加曾利E2	深鉢	口縫部	單脚斜縫文か	-	-	-	灰黃褐色	-	-	
第218図29	加曾利E2	深鉢	口縫部	透焼文	透焼によって区画を作り。区画内は透焼文が充填される。	-	-	灰黃褐色	-	-	
第218図30	加曾利E2	深鉢	側縫	-	-	透焼文	透焼によって区画を作り、区画内に2本一对の隆帯が弧状に貼付される。	に赤い黄褐色	-	-	
第218図31	加曾利E2	深鉢	側縫	-	-	單脚斜縫文	透焼によって横位の透焼と窓位を認める。窓位は2本一对の隆帯を垂下させ、中央には透焼文が加えられる。	灰黃褐色	-	-	
第218図32	加曾利E2	深鉢	側縫	-	-	複節斜縫文	2本一对の透焼を垂下する。	灰黃褐色	-	-	
第218図33	加曾利E2	深鉢	側縫	-	-	透焼文	2本一对の透焼を垂下させる。	黒褐色	-	-	
第218図34	加曾利E2	浅鉢	側縫	-	-	-	透焼によって横位の透焼と窓位を認める。窓位は2本一对の隆帯を垂下させ、中央には透焼文が加えられる。	に赤い黄褐色	-	-	
第219図35	加曾利E2	浅鉢	側縫	-	-	-	透焼を貼付し、区画と窓位が充填される。	に赤い黄褐色	-	-	

第54表 遺構外出土縄文土器一覧（1）

辨認番号	型式	階層	部位	口縫部・底部・側面部地文	口縫部・側面部・肩部・突起・把手付箇	胸部・底面部地文	側面部地文	外表面色	内面色	備考
第219回36 加賀利E2 深鉢 底部	—	—	—	単節斜縫文LR	2条一対の比縫を垂下させる。	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回37 加賀利E2 深鉢 口縫部 繩文文R	—3	—	—	繩系文R	2本の隆起を垂下させ、隆起の間の繩文を垂り出す。	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回38 加賀利E2 深鉢 胸部	—3	—	—	単節斜縫文LR	2条一対の比縫を垂下し、比縫の間の繩文を垂り出す。	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回39 加賀利E3 深鉢 口縫部	—	—	横位に隆起が盛る。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回40 加賀利E3 深鉢 口縫部 単節斜縫文RL	か	—	横位を記せば、その下部には縫文が充填される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回41 加賀利E3 深鉢 口縫部	—	—	上面に無文帯を設け、その上面に隆起で縫文が充填される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回42 加賀利E3 深鉢 口縫部 単節斜縫文RL	LLR	—	横位によって横円形の伝統が作られる。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回43 加賀利E3 深鉢 口縫部 単節斜縫文RL	LLR	—	横位によって横円形の伝統が作られる。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回44 加賀利E3 深鉢 胸部	—	—	横位の隆起を垂し、下部に隆起が充填される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回45 加賀利E3 深鉢 胸部	—	—	単節斜縫文RL	2条一対の比縫を垂下させ、その間の縫文を垂り出す。	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回46 加賀利E3 深鉢 胸部	—	—	単節斜縫文RL	2条一対の比縫を垂下させ、比縫の間の縫文を垂り出す。	—	に赤い黄褐色	に赤い水褐色	—	—	—
第219回47 加賀利E3 深鉢 胸部	—	—	単節斜縫文RL	横位によって横円形の伝統が作られる。	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回48 加賀利E3 深鉢 胸部	—	—	単節斜縫文RL	2本の隆起を垂下させる。	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回49 加賀利E4 深鉢 口縫部 単節斜縫文LR	—	—	口縫部に無文帯を設け、その下部に円形側突文が盛る。また、縫文による文様の内部に縫文が充填される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第219回50 加賀利E4 深鉢 口縫部 単節斜縫文RL	—	—	口縫部上部に2列の円形側突を施し、その下部に比縫で横円形の伝統が作られる。	—	—	黒褐色	—	—	—	—
第219回51 加賀利E4 深鉢 口縫部 底部前段	LBR 前段	—	1条の比縫で横円形の文様が描かれる。	—	—	灰黒褐色	—	—	—	—
第220回52 加賀利E4 深鉢 口縫部 単節斜縫文LR	—	—	横位によって伝統が作られる。縫文が充填される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第220回53 加賀利E4 深鉢 口縫部 単節斜縫文LR	—	—	横位の把手付箇付されようか。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第220回54 加賀利E4 深鉢 口縫部 単節斜縫文LR	—	—	横位に無文帯が設けられ、縫文との間に比縫で隔離される。	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—	—
第220回55 加賀利E4 深鉢 口縫部 繩縫条縫	—	—	横位に2本の隆起を2本合わせ垂下し、横筋に貼付されようか。	—	—	黒褐色	—	—	—	—
第220回56 加賀利E4 深鉢 口縫部 —	か	—	口縫部から横筋を垂下させ、円形側突文が加えられる。口縫部付近に1条の沈縫で半円形と思われる文様が描かれる。	—	—	に赤い褐色	—	—	—	—
第220回57 加賀利E4 深鉢 口縫部 —	か	—	赤彩が施される。	—	—	灰黒褐色	—	—	—	—
第220回58 加賀利E4 浅鉢 胸部 —	か	—	—	—	—	に赤い黄褐色	黒褐色	—	—	—
第220回59 加賀利E4 深鉢 底部 —	か	—	—	—	—	褐色	—	—	—	—
第220回60 加賀利E4 深鉢 底部 —	か	—	—	—	—	に赤い褐色	—	—	—	—
第220回61 加賀利E4 深鉢 底部 —	か	—	—	—	—	に赤い褐色	—	—	—	—
第220回62 遺伝文2 口縫部 単節斜縫文L	—	—	口縫部付近に沈縫を追させ、3列の横筋で遺伝文が描かれる。	—	—	—	に赤い褐色	—	—	—
第220回63 遺伝文2 口縫部 单節斜縫文LR	—	—	口縫部付近に1列の円形側突文を施し、沈縫を追せる。その下部に沈縫で遺伝文が描かれる。	—	—	—	黒褐色	—	—	—
第220回64 遺伝文2 深鉢 胸部	—	—	横筋名跡	比縫で遺伝文を描き、その下部に沈縫が追ふ。	—	暗褐色	—	—	—	—
第220回65 称名寺1 深鉢 胸部	—	—	单節斜縫文RL	比縫によって又横を描き、部 分的に縫文が充填される。	—	暗褐色	に赤い褐色	—	—	—
第220回66 称名寺1 深鉢 胸部	—	—	单節斜縫文RL	比縫によって横円形状の伝統を作り、縫文が充填される。	—	に赤い黄褐色	灰褐色	—	—	—
第220回67 缶之内1 口縫部	—	—	—	—	—	灰黒褐色	—	—	—	—
第220回68 缶之内1 口縫部	—	—	—	—	—	灰黒褐色	—	—	—	—
第220回69 缶之内1 口縫部	—	—	—	—	—	平行沈縫を弧状に引かれる。	に赤い黄褐色	—	—	—
第220回70 缶之内2 深鉢 胸部	—	—	单節斜縫文LR	比縫で三角形状の文様を描き、比縫によって裏された内部に縫文が充填される。	—	黒褐色	—	—	—	—

第55表 遺構出土縄文土器一覧（2）

測定番号	器種	形状	長さ	幅	重さ	外側色調	内側色調	備考
第220区71	土器の縄	不整円形	4.7cm	3.7cm	19.2g	灰黄褐色	—	—
第220区72	土器の縄	不整円形	3.6cm	3.5cm	18.4g	に赤い黄褐色	—	—
第220区73	土器の縄	椭円形	(3.2)cm	4.1cm	10.4g	灰黄褐色	—	—
第220区74	土器の縄	円形	3.2cm	3.2cm	12.0g	に赤い黄褐色	—	—
第220区75	土器の縄	円形	5.7cm	5.5cm	39.7g	に赤い黄褐色	—	—
第220区76	土器の縄	—	3.4cm	(2.3)cm	7.9g	に赤い褐色	—	—
第220区77	土器の縄	椭円形	3.2cm	2.9cm	9.0g	に赤い褐色	—	—
第220区78	土器の縄	円形	2.5cm	2.2cm	7.5g	に赤い黄褐色	—	—
第220区79	土器の縄	不整円形	2.5cm	2.2cm	5.4g	灰黄褐色	—	—
第220区80	土器の縄	不整円形	5.3cm	4.9cm	40.9g	に赤い黄褐色	—	—
第220区81	土器の縄	不整円形	5.3cm	2.9cm	26.9g	灰黄褐色	褐色	—
第220区82	土器の縄	不整円形	3.8cm	3.5cm	12.1g	に赤い水褐色	灰黄褐色	—

第56表 遺構外出土土製品一覧

測定番号	器種	部位	出土	発現	色調	文様等	備考
第220区83	漆	脚部	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒褐色／に赤い褐色	外側は範野。内面は横ナメ、單形純文LRの下に端末枯れのS字状模様が施される	赤彩
第220区84	漆	脚部	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	灰褐色／に赤い褐色	内外面とも横模様され、外側に赤印が施される	赤彩
第220区85	漆	脚部	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	漆褐色／に赤い褐色	近面に木葉痕あり	赤彩
第220区86	漆	脚部	赤黄褐色粒子を含む	良好	漆褐色／明黄褐色	内外面とも横模様される	赤彩
第220区87	漆	脚部	赤黄褐色粒子を含む	良好	漆褐色／明黄褐色	外側はハケ目。内面は横ナメされる	赤彩
第220区88	漆	脚部	白色粒子、赤黄褐色粒子を含む	良好	黒褐色／灰黄褐色	内外面とも横模様される	赤彩
第220区89	鉢	—	長さ2.1cm、幅1.2cm、厚さ1.1cm、重さ7.2gで、僅かにガラス状の付着物がみえる。	—	—	—	—

第57表 遺構外出土弥生時代後期から古墳時代前期遺物一覧

測定番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	大分類	備考
第221区90	ナイフ石器	黒曜石	21.8	13.8	4.7	1.3	剣先石器系	注記欄：混入
第221区91	石器	チート	20.0	16.4	4.4	1.1	剣先石器系	有刃石器
第221区92	石器	黒曜石	13.8	10.2	2.0	0.2	剣先石器系	脚形・再生
第221区93	櫛形石器	黒曜石	11.7	8.2	5.2	0.4	剣先石器系	—
第221区94	櫛形石器	黒曜石	15.7	14.4	2.7	0.5	剣先石器系	—
第221区95	一次的剝離のある剝片	チート	25.0	29.5	9.5	7.4	剣先石器系	—
第221区96	不規則剝離のある剝片	黒曜石	30.0	14.6	5.1	1.5	剣先石器系	上に櫛形石器の剝離
第221区97	不規則剝離のある剝片	黒曜石	18.3	17.2	3.7	0.8	剣先石器系	—
第221区98	不規則剝離のある剝片	黒曜石	18.9	11.7	2.6	0.4	剣先石器系	—
第221区99	剝片	チート	40.3	19.1	9.3	5.1	剣先石器系	—
第221区100	剝片	黒曜石	17.8	13.9	4.8	0.9	剣先石器系	—
第221区101	剝片	黒曜石	17.6	20.5	5.2	1.3	剣先石器系	—
第221区102	剝片	黒曜石	13.1	8.2	6.4	0.7	剣先石器系	—
第221区103	剝片	黒曜石	13.8	19.1	4.4	1.1	剣先石器系	—
第221区104	剝片	黒曜石	8.2	10.3	3.9	0.3	剣先石器系	—
第221区105	剝片	黒曜石	13.2	16.0	3.0	0.7	剣先石器系	—
第221区106	剝片	黒曜石	16.1	14.3	4.4	0.7	剣先石器系	—
第221区107	剝片	チート	32.1	11.3	7.6	2.5	剣先石器系	—
第221区108	片岩	チート	19.7	21.3	12.0	7.6	剣先石器系	—
第221区109	打製石斧	ホルンフェルス	99.9	47.0	16.4	113.3	打製石斧系	端面敲打
第221区110	打製石斧	砂岩	101.5	37.8	23.5	127.7	打製石斧系	短冊形
第221区111	打製石斧	砂岩	102.0	38.0	18.6	87.1	打製石斧系	—
第221区112	打製石斧	ホルンフェルス	93.3	38.1	13.3	53.7	打製石斧系	短冊形
第221区113	打製石斧	砂岩	77.8	58.4	26.4	109.8	打製石斧系	打製石斧系
第221区114	打製石斧	ホルンフェルス	78.4	47.8	22.7	113.0	打製石斧系	短冊形
第221区115	打製石斧	安山岩	79.1	43.8	17.8	61.9	打製石斧系	短冊形
第221区116	打製石斧	砂岩	118.6	55.6	13.9	121.1	打製石斧系	短冊形
第221区117	打製石斧	砂岩	69.7	44.5	14.9	56.4	打製石斧系	短冊形
第221区118	打製石斧	砂岩	66.9	49.4	24.2	85.0	打製石斧系	形態不明
第221区119	打製石斧	ホルンフェルス	75.8	55.4	23.9	120.2	打製石斧系	—
第221区120	打製石斧	砂岩	79.9	69.4	17.7	103.0	打製石斧系	短冊形
第221区121	打製石斧	砂岩	64.4	56.6	12.3	51.8	打製石斧系	短冊形
第221区122	打製石斧	砂岩	48.1	53.7	16.5	51.1	打製石斧系	短冊形
第221区123	打製石斧	砂岩	49.8	46.8	10.4	31.2	打製石斧系	短冊形
第221区124	打製石斧	砂岩	64.0	57.5	24.3	79.4	打製石斧系	短片
第221区125	打製石斧	砂岩	50.2	31.7	13.3	22.5	打製石斧系	形態不明
第221区126	打製石斧	ホルンフェルス	49.0	31.8	16.6	30.4	打製石斧系	—
第221区127	打製石斧	砂岩	54.0	35.6	14.3	36.6	打製石斧系	形態不明／短片
第221区128	打製石斧	砂岩	28.2	26.0	11.3	6.7	打製石斧系	形態不明／短片
第221区129	打製石斧	片状岩	49.3	37.5	19.1	47.3	打製石斧系	短片
第221区130	打製石斧	砂岩	33.2	46.7	14.1	25.1	打製石斧系	短片
第221区131	打製石斧	砂岩	58.7	51.6	19.3	46.9	打製石斧系	—

第58表 遺構外出土石器一覧（1）

検査番号	断面	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第 221 図 132	打製石斧	砂岩	50.6	27.2	17.6	26.6	打製石斧系	形態不明 / 製片・被熱
第 221 図 133	打製石斧	砂岩	32.2	32.4	17.6	19.6	打製石斧系	形態不明 / 製片
第 221 図 134	打製石斧	砂岩	31.8	50.0	10.6	12.3	打製石斧系	形態不明
第 221 図 135	二次的削離のある剥片	頁岩	56.2	64.4	14.2	61.1	剥製石斧系	
第 221 図 136	剥製石斧	凝灰岩	54.2	24.2	20.3	47.1	剥製石斧系	側面敲打
第 221 図 137	剥製石斧	凝灰岩	51.0	32.5	23.8	45.0	剥製石斧系	端面敲打 (右) + 斜面敲打 (縦)
第 221 図 138	剥石	砂岩	57.6	77.5	36.2	182.9	剥石系	側面敲打・面取り状敲打
第 221 図 139	剥石	閃緑岩	48.7	60.9	37.8	162.9	剥石系	石面の可能性あり
第 221 図 140	剥石類	閃緑岩	47.7	23.3	28.4	32.3	剥石系	
第 221 図 141	敲石	砂岩	129.7	38.5	31.6	217.9	剥石系	側面敲打 + 端面敲打
第 221 図 142	敲石	砂岩	128.6	45.4	29.8	236.6	剥石系	側面敲打・端面敲打
第 221 図 143	敲石	砂岩	88.3	51.3	31.3	154.2	剥石系	側面敲打・端面敲打
第 221 図 144	敲石	砂岩	83.8	49.8	37.7	220.7	剥石系	側面敲打 + 横面打 (端面)
第 221 図 145	敲石	ホルンフェルス	99.3	85.2	43.7	495.8	剥石系	側面敲打
第 221 図 146	敲石	チート	114.4	58.2	46.9	340.9	剥石系	被破打 (破損面) + 端面由歯打
第 221 図 147	敲石	チート	115.4	49.1	25.5	151.0	剥石系	側面敲打
第 221 図 148	敲石	凝灰岩	64.2	49.3	31.4	153.8	剥石系	側面敲打 (右) + 特異磨耗石・端面敲打
第 221 図 149	敲石	ホルンフェルス	92.7	58.3	30.4	201.7	剥石系	端面由歯打 + 側面敲打
第 221 図 150	敲石	凝灰岩	70.1	44.0	23.8	114.9	剥石系	端面由歯打 + 側面敲打 (スタンプ)
第 221 図 151	敲石	砂岩	92.7	45.0	30.9	162.8	剥石系	端面由歯打 + 側面敲打
第 222 図 152	敲石	凝灰岩	82.6	52.8	31.1	154.1	剥石系	特殊磨石
第 222 図 153	敲石	砂岩	139.4	51.2	32.4	319.3	剥石系	側面敲打
第 222 図 154	敲石	砂岩	89.9	49.7	23.3	187.9	剥石系	側面敲打 + 横面打 (端面)
第 222 図 155	敲石	砂岩	89.5	47.9	36.3	202.5	剥石系	側面敲打 / 断面三角形 / 特殊磨石系、被破面
第 222 図 156	敲石	砂岩	79.5	46.6	30.7	178.0	剥石系	側面敲打 + 破損由歯打 (スタンプ)
第 222 図 157	敲石	ホルンフェルス	73.7	51.8	27.6	116.5	剥石系	側鍛錬行
第 222 図 158	敲石	砂岩	62.2	49.0	36.6	125.3	剥石系	側面敲打 (部分)
第 222 図 159	石頭	閃緑岩	243.0	249.5	62.6	5994.4	剥石系	研平石 + 小さな極致凹
第 222 図 160	石頭	砂岩 (縫合)	131.2	112.9	67.1	772.9	剥石系	四石 (參孔 : 縫合)
第 222 図 161	石頭	閃緑岩	73.1	84.8	67.1	465.9	剥石系	形態不明
第 222 図 162	砂粒	閃緑岩	60.2	89.1	16.6	67.3	剥石系	石粉製片
第 222 図 163	四石	燧石片岩	121.6	57.6	21.8	227.1	剥石系	内凹製石熟、表 : 條状凹凸 × 2、裏 : 極致凹 (浅) × 1、側面敲打 + 端面敲打
第 222 図 164	片岩製石頭	燧石片岩	121.4	51.5	16.4	135.1	片岩製石頭系	
第 222 図 165	片岩製石頭	燧石片岩	83.6	57.1	29.6	147.6	片岩製石頭系	石塊状
第 222 図 166	片岩製石頭	燧石片岩	58.3	27.0	11.0	17.6	片岩製石頭系	
第 222 図 167	片岩製石頭	砂岩片岩	53.1	34.1	11.2	27.3	片岩製石頭系	
第 222 図 168	片岩製石頭	燧石片岩	72.9	63.6	16.2	83.0	片岩製石頭系	
第 222 図 169	片岩製石頭	燧石片岩	59.2	50.8	9.0	39.6	片岩製石頭系	
第 222 図 170	打製石斧	燧石片岩	60.4	46.0	12.7	39.9	打製石斧系	鉄曲形
第 221 図 171	片岩製石頭	燧石片岩	65.7	45.3	13.1	41.2	片岩製石頭系	
第 221 図 172	片岩製石頭	結晶片岩	39.9	39.5	15.6	27.9	片岩製石頭系	
第 222 図 173	片岩製石頭	燧石片岩	60.7	36.2	8.2	18.0	片岩製石頭系	
第 222 図 174	片岩製石頭	燧石片岩	85.5	41.8	14.6	64.4	片岩製石頭系	

第 59 表 遺構出土土石器一覧 (2)

検査番号	断面	長さ	口径	厚さ	重さ	備考
第 222 図 175	不明金属製品	2.5 cm	2.1 cm	1.7 mm	3.8g	画面は幅 0.3 cm 程間が開いている。下から 0.6 cm の部分に段が設けられ断面の文様が、その文様の上部には側面に斜行する文様がある。また、内側は円滑面を呈し、上部へいくに従って内部は繊くつながる。直径 2 mm 程の輪孔を保ちながら先へ続くと思われる。56.6 内の複雑から出土した。井筒鑿の虫食 X 線分析の結果、検出された元素は Fe (鉄), Cu (銅), Sn (亜鉛), Sb (アンチモン), Pb (鉛) の 5 種である。鉛的には鉛が約 60 %、アンチモンが約 35 %、銀が約 3 %、銅が約 0.14 % であった。Pb-Sb-Sn 系の合金と思われる。

第 60 表 遺構出土不明金属製品一覧

## 第4章 調査のまとめ

### 第1節 繩文時代中期の住居跡について

本調査では、縄文時代中期の住居跡が10軒検出された。ここでは、それら住居跡の層位的関係を整理するとともに、出土遺物について検討を加え、既存の土器型式編年（黒尾 1995、黒尾・小林・中山 2004）における時間的位置付けを行う。検出された住居跡の層位的な関係を第223図に、時期ごとの住居跡と遺物を第224図に示した。

#### 1期：阿玉台Ⅰ b～Ⅱ式（181J）

181Jは出土遺物が乏しいが、阿玉台Ⅰ b～Ⅱ式期の土器片が出土していること、住居の掘り込みが浅く、中央に地床炉を想われる被熱痕跡が確認されていることを考慮し、当該期に比定した。

#### 2期：勝坂2式（180J）

1は炉体土器で、単列もしくは複列の各押文列が沿う断面カマボコ状の隆帯によって、口縁部重三角文や胴部抽象文が描かれている。主文様間の空白部が目立つことや、変形した口縁部重三角文、隆帯脇に沿う角押文の押引手法など、阿玉台式的な要素を看取できる。

#### 3期：加曾利E 1b式期（90J、178J、179J）

90Jは、頸部に無文帶を持ち、口縁部のS字状文の端部が中空の把手を形成する第11図4をはじめ、第11図3、そして既調査分からの出土資料（埼玉県志木市遺跡調査会 2009）から当該期とした。

178Jは、床面に近い覆土から、2や3が出土している。2は、頸部に無文帶を持ち、口縁部には撫糸L地文、幅広の隆帯に沈線を施す描出方法、変形したS字状文、やや立体的な把手を持つ。3は、撫糸L地文に二本一对の直状隆帯や一本の波状隆帯が垂下する。

179Jからは、同心円状文を持つ土器（第97図5）、中空の把手を持つ土器（第97図7・9）、胴部の垂下隆帯が連結するH字状文を持つ土器（第97図10・11）が出土している。

#### 4期：加曾利E 1c期（174J旧）

174Jは5段階の建替が想定されるが、土器型式編年に照らした場合、炉2に埋設された炉体土器（4）や埋甕I（5）、P27出土土器（6）などの床下から出土した土器と、次期で述べる埋甕2や覆土出土土器との時期差を見いだすことから、174J（旧）と（新）を設定した。4は曾利系の土器で、口縁部に無文帶を持ち、胴部には撫糸Lを地文に、頸部の波状隆帯から二本一对の直状隆帯と一本の波状隆帯が交互に垂下する。隆帯は背が低く抑えが甘い。5・6は、加曾利E式土器で、頸部に無文帶を持ち、胴部には直状隆帯と波状隆帯が交互に垂下する。6の口縁部には、隆帯による楕円区画文や突起化した上向きの渦巻文が描かれる。

#### 5期：加曾利E 2c式期（174J新）

174Jの埋甕2（7）や覆土出土の8・9・10などを根拠に当該期を設定した。8は、口縁部に渦巻文を持ち、頸部無文帶は消失、胴部は縄文地文に三本一对の直状沈線や一本の波状沈線が垂下する。その他、7・9・10は連弧文系の土器で、時期の特定が難しいが、波状化した連弧文（7・9）、間隙が狭い垂下文（10）が当該期の特徴であると判断した。

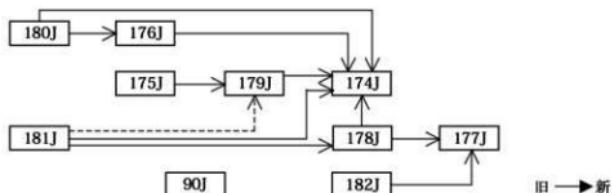
#### 6期：加曾利E 2～3式期（177J）

177Jの炉体土器（11）の類例は管見に触れず、時期設定は難しいが、波状口縁の波頂部に施された

隆帯による渦巻文や、胴部に施された断面三角形の逆U字状の隆帯、そして主文様間を充填する集合沈線などの特徴から、当該期とした。おそらく曾利系の影響を強く受けた土器であろう。

#### その他の時期 (175J、176J、182J)

出土遺物が僅少で時期設定が困難であるが、時期が判明している他住居との層位的関係から、175Jを3期以前、176Jを2～4期、182Jを6期以前と考えることができる。



第223図 住居跡の層位的関係

時 期	住居跡	土 器
1期 (阿玉台I b～II式期)	181J	
2期 (勝坂2式期)	180J	1
3期 (加曾利E 1 b式期)	90J 178J 179J	2  3
4期 (加曾利E 1 c式期)	174J (旧)	4  5  6
5期 (加曾利E 2 c式期)	174J (新)	7  8  9  10
6期 (加曾利E 2～3式期)	177J	11

第224図 時期別住居跡・土器一覧

## 第2節 174号住居跡の遺物出土状態について

今回調査した174①地点は耕作による擾乱が著しく、遺構の遺存状態は良いものではなかった。しかし、174号住居跡は壁高が60cm前後と他の住居より床面が低かったため遺存状態が良好であった。また、調査方法でも親指の第一関節程度の土器片も出土位置を記録したことにより、遺物数は6,202点を数え、一括で取り上げた遺物を含めるとコンテナで30箱分となった。174号住居跡の主な層位は1～5層で、4層はローム粒を多量に含む層である。出土遺物はこの4層と2層の境界部分、あるいは2層から多く出土している。

174号住居跡から出土した土器は多くが加曾利E式の土器であり、勝坂式～加曾利E2式までが中心となる。特に加曾利E2式が大部分を占め、その他に阿玉台式、勝坂式、曾利式、連弧文が含まれる。

阿玉台式は出土量が少ないが、主に4層に確認できる（第21図）。

勝坂式は遺構全体に広く分布している（第21図）。1層には勝坂1・2式が見られ、2・3層では勝坂2～3式が主体となる。4層でも同様に勝坂2～3式が主体となるが、上部に阿玉台1・II式も見られる。床直には勝坂3式が分布する。

曾利式は遺構全体に広く分布している（第22図）。1層には曾利II～III式が少量確認できる。2層は曾利II・II～III式が集中している。3層は曾利II～III式が僅かに確認できる。4層はほぼ曾利II～III式が占め、床直にも曾利II～III式が分布する。

加曾利E式は遺構全体に大量に分布している（第23図）。1層は加曾利E2式が多く出土しているが、加曾利E1式もやや多く出土している。2層には1層と同様に加曾利E1式も出土しているが、主体となるのは加曾利E2式である。2層と4層の境界部分にやや集中しているようである。また、加曾利E2～3式も見られる。3・4層でも加曾利E2式が大部分を占め、4・5層の境界部分には沿う様に分布している。床直には加曾利E2が多く分布し、貼床下の閉塞されたピットの一部からは加曾利E1～2・2式の土器片が出土している。

連弧文は遺構全体に広く分布している（第24図）。1層からは連弧文2式が僅かに確認できる。出土した連弧文の多くは2層からの出土である。連弧文の2・2～3式が主体となるが、連弧文1式もみられる。4層は連弧文2式が僅かに出土している。また、連弧文に関しては床直からの明確な検出は確認できなかった。

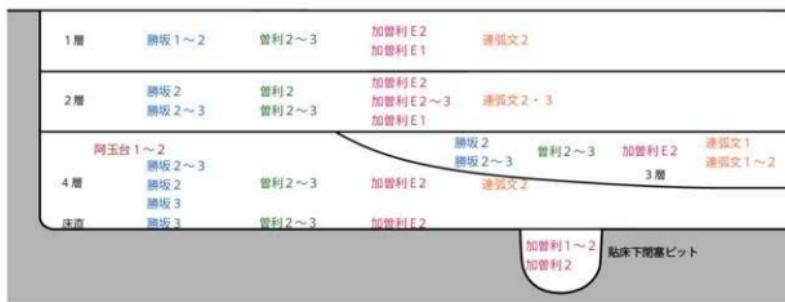
174号住居跡からは曾利II式の炉体土器、加曾利E1・2式、連弧文2～3式の埋甕が出土している。このことから、この住居は主に加曾利E1～2式を中心とした住居である可能性が高いと考えられる。土器は4層と2層の境界部分から上層にかけて集中して出土しているが、加曾利E2式に関しては住居の1層から4層にかけて多量に分布し、更には他型式の出土が少ない4層中及び床直からも比較的多く出土している。1・2層からも加曾利E1・2～3式と共に出土している。また、加曾利E式に他の型式の土器ががそれぞれ伴うが、これらの土器も既存の編年に従って出土しているとは限らない。

床直からは主に勝坂3式と加曾利E2式、曾利II～III式が出土している。4層で勝坂2～3式、曾利II～III式、加曾利E2式、連弧文2式、3層では勝坂2・2～3式、曾利2～3式、加曾利E2式、連弧文1・1～2式、2層では勝坂2～3式、曾利II式、加曾利E2式に加えE1・E3式、連弧文では2・

3式が出土し、1層では勝坂1～2式、曾利II～III式、加曾利E1・2式、連弧文2式が出土している。勝坂式では上層程古い土器が検出される逆転現象を起こし、加曾利E式を含め他の型式でも古い段階の土器と新しい段階の土器が前後して出土している。この加曾利E1式を含め、編年に沿わない土器は174号住居に由来するものではなく、他住居の覆土の混入など人的な行為を伴うものであったのかもしれない。勝坂式に関しても、174号住居跡は176号住居跡・178号住居跡・179号住居跡・181号住居跡を切っているため、それらの住居から混入した場合、あるいは覆土に受けた擾乱の影響も考えられる。

また、174号住居の土屋根と考えらる4層において、174号住居の廃絶時期を考えた場合に4層中の土器と床底の土器に大きな時期差が見られない。このことから、土屋根が崩落するまでにそれほど長い時間が経過していない可能性が考えられる。一方で、Michael Deal, Melissa B.Hagstrumの「Ceramic Reuse Behavior among the Maya and Wanka Implications for Archaeology」によると、民族事例として薦葺き屋根の漏水を防ぐため、割れた土器を屋根の上にのせるという土器の再利用方法が指摘されている<sup>1)</sup>。この様な住居の場合では、住居が廃絶した時に上層の土器が床面の土器と同時期、あるいは古い段階になる可能性がある。

今回の174号住居跡で見られた編年に沿わない土器の出土状態は今後の調査・研究の進展とともに引き続き検討を深めていく必要がある。



第225図 174号住居跡セクション模式図

1) 直接的に民族事例イコール考古学的事実とはならないが、現象面を情報化するための観察視点の補助になり得ると考えられる。

## 参考文献

- 今福理恵 2008「勝坂式土器」『縄文土器』小林達雄
- 神奈川考古同人会 1980「縄文時代中期後半の諸問題 - とくに加曾利E式と曾利式土器との関係について - 土器資料集成図集』神奈川考古 10号 神奈川考古同人会
- 神奈川考古同人会 1980「神奈川県における縄文時代中期後半土器編年試案 第2版」『縄文時代中期後半の諸問題 - とくに加曾利E式と曾利式土器との関係について - 土器資料集成図集』神奈川考古 10号 神奈川考古同人会
- 金子直行 1996「加曾利E式土器」『日本土器事典』大川清・鈴木公雄・工楽善通
- 加納 実 2008「堀之内式土器」『縄文土器』小林達雄
- 黒尾和久 1995「縄文中期集落遺跡の基礎的検討(1)」『論集宇津木台』第1集 宇津木台地区考古学研究会
- 小林達雄 1965「(3) 遺物埋没状態及びそれに派生する問題(土器破棄処分の問題)」『米島貝塚』庄和町文化財調査報告第1集
- 佐々木保俊・閑根正明・上田寛・内野美津江・宮川幸佳 2001「第3章 西原大塚遺跡第43地点の調査」『志木市遺跡群11』志木市の文化財第30集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2000「西原大塚遺跡第45地点発掘調査報告書」志木市遺跡調査会調査報告第6集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 埼玉県志木市遺跡調査会 2009「西原大塚遺跡I 西原特定土地地区画整理事業に伴う発掘調査報告書」志木市遺跡調査会調査報告第13集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 埼玉県志木市遺跡調査会 2009「西原大塚遺跡II 西原特定土地地区画整理事業に伴う発掘調査報告書」志木市遺跡調査会調査報告第13集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 縄文集落研究グループ・セツルメント研究会 2004『縄文集落研究の新地平3・勝坂から曾利へ・発表要旨』縄文集落研究グループ・セツルメント研究会
- 縄文集落研究グループ・セツルメント研究会 2004『縄文集落研究の新地平3・勝坂から曾利へ・資料集』縄文集落研究グループ・セツルメント研究会
- 中島庄一 2008「称名寺式土器」『縄文土器』小林達雄
- 永瀬史人 2008「連弧文土器」『縄文土器』小林達雄
- 中山真治 2005「縄文時代中期の彩色された浅鉢についての覚え書き - 関東地方西南部の中期集落資料を中心に - 」『東京考古』23号 東京考古談話会
- 細田 勝 1996「阿玉台式土器」『日本土器事典』大川清・鈴木公雄・工楽善通
- Michael Deal・Melissa B.Hagstrum 1995「Ceramic Reuse Behavior among Maya and Wanka Implications for Archaeology」『Expanding Archaeology』University of Utah Press
- 山形真理子 1996「曾利式土器の研究 - 内的展開と外的交渉の歴史 - (上)」『東京大学考古学研究室紀要』14
- 山形真理子 1997「曾利式土器の研究 - 内的展開と外的交渉の歴史 - (下)」『東京大学考古学研究室紀要』15



[付 編]

## 自然科学分析



## 付編 西原大塚遺跡 174 ①地点 174 号住居跡出土骨の同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

西原大塚遺跡（埼玉県志木市幸町に所在）は、柳瀬川を北西に臨む台地上に位置し、これまでの調査により旧石器時代～奈良・平安時代にかけての集落跡として知られている。今回の調査地点は西原大塚遺跡のほぼ中央部に位置し、173 次に及ぶ調査で明らかになってきた環状集落の範囲とされている。今回、縄文時代中期とされる大型住居内炉から出土した埋甕内に認められた骨片について検討した。

### 1. 試料

試料は、174 号住居 2 号炉の埋甕内 No.1 として一括された微小、微細な骨片数十片であり、土壌中に骨片が混じる状態にあった。174 号住居跡は、平面楕円形を呈し、内部に 2 基の炉（1 号炉・2 号炉）が検出された。この内、2 号炉は、楕円形を呈する埋甕炉で、深鉢形土器の上半部が埋設されている。

### 2. 分析方法

土壤が乾燥している状態であり、骨が極めて脆いため水洗すると消失する可能性があった。そこで、乾燥した状態のままで試料を 2 mm の篩にかけ、篩上に残った中から骨片を抽出した。抽出した骨片を肉眼および実体顕微鏡にて観察し、種類を同定する。

### 3. 結果および考察

分析試料からは、微細な骨片 61 片、および残渣 17.72 g である。微細な破片が多く、関節部など種類を特定するのに特徴的な部位がみられない。ただし、緻密質の厚さなどからみて哺乳類に由来する可能性がある。縄文時代においては、ニホンジカやイノシシなどが狩猟され、遺跡内から出土する事例が多い。本遺跡も同様であった可能性がある。

また、骨片は、白色～灰白色を呈し、表面にひび割れが生じ、海綿質が粉状になる等、焼骨の特徴を示す。このことから、食料残滓などが廃棄され、骨の状態で焼かれたものと思われる。埋甕炉が廃絶された後、周辺に破棄された焼骨が土壤とともに入り込んだか、意図的に入れられたことなどが考えられる。



出土骨【種類不明焼骨（174 号住居跡：2 号炉埋甕内 No. 1）】



## 報 告 書 抄 錄

志木市の文化財 第55集

## 西原大塚遺跡第174①地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発 行 埼玉県志木市教育委員会

埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号

発行日 平成25(2013)年3月31日

印 刷 能登印刷株式会社